

沖ノ羽遺跡発掘調査報告書



2002

新津市教育委員会

例　　言

1. 本書は新潟県新津市大字古田ノ内大野閣字山王浦1108-1他に所在する沖ノ羽(おきのは)遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は湛水防除事業(小規模)新津東部地区に伴う鮎川排水機場建設に伴い、新津市教育委員会が調査主体となり、(株)シン技術コンサル・秋葉建設興業(株)・(株)イシカワ三社による企業共同体(Joint Venture)に委託し、発掘調査を実施した。調査に係る費用は新潟県がこれを負担した。
3. 平成13年度に発掘調査および報告書作成に係る整理作業と報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
4. 出土遺物・調査記録は新津市教育委員会が一括して保管している。
5. 本書の編集は新津市教育委員会監督のもと細野高伯((株)シン技術コンサル)が行った。執筆は第Ⅰ章・第Ⅲ章1を新津市教育委員会事務局、その他を細野が行った。
6. 「第VI章 沖ノ羽遺跡の自然科学分析」については(株)古環境研究所に委託した。
7. 本書で用いた写真は、遺跡写真は細野が、遺物写真は鹿内三義・杉村武明((有)フォトエージェンシー)が撮影した。ただし、写真図版1は国土地理院が、2は(株)オリスが撮影したものを使用した。
8. 本書で示す方位は全て真北であるが、図版2「新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現景園」(新津東土地改良区蔵)のみ正確さを欠いている。
9. 出土遺物については、春日真実氏(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)に発掘調査時から種々の御指導・御教授をいただいた。
10. 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼を申し上げます。(所属・敬称略、五十音順)
陳山えりか・石川智紀・伊藤啓雄・伊藤秀和・小熊博史・春日真実・加藤 学・神谷佳明・川村 尚・小島統一・沢田 敦・高階敏昭・高橋保雄・田村浩司・田海義正・土鶴由理子・廣野耕造・福田仁史・前原 盛・吉井雅勇・新潟県教育庁文化行政課・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・新津農地事務所・新津東土地改良区

凡　　例

1. 本書は本文・別表と巻末図版(図版・写真図版)からなる。
2. 本書の註は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年を〔 〕文中に示し、巻末に一括して掲載した(但し、第VI章は各節の末尾に記した)。
3. 遺構番号は現場で付したものを用いた。番号は遺構の種別毎に付さず、通し番号とした。
4. 土層の土色観察は、「新版 標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修1967) 2001年度版を用いた。
5. 土器実測図は断面の表現は種別で区別した。黒塗りは須恵器で、それ以外は白抜きである。土師器・黒色土器および磁化焰焼成の須恵器はセピア色で示した。
6. 遺物実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、中軸線の両側に空白を作つて区別している。

目 次

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
1 遺跡の位置と地理的環境	2
2 周辺の遺跡	2
3 歴史的環境	9
第Ⅲ章 沖ノ羽遺跡の概要	12
1 確認調査	12
2 発掘調査	13
A 調査方法	13
1) 現況	13
2) グリッドの設定	13
3) 調査方法	13
B 調査経過	14
C 調査体制	14
3 整理作業	15
A 整理方法	15
1) 遺物	15
2) 遺構	15
B 整理経過	15
C 整理体制	15
第Ⅳ章 遺 跡	16
1 概要	16
2 層序	16
3 遺構各説	17
A 溝(S D)	17
B 土坑(S K)	19
C 性格不明遺構(S X)	21
D 井戸(S E)	22
E 掘立柱建物跡(S B)	22
F ピット(P i t)	24

第V章 遺 物	26
1 概要	26
2 平安時代の遺物	26
A 土器の分類と記述	26
1)用語の説明	26
2)分類	27
B 出土土器等各説	32
1)遺構出土土器	32
2)包含層出土土器	36
C 出土土製品	38
D 出土石製品	39
E 出土木製品	39
第VI章 沖ノ羽遺跡の自然科学分析	41
1 沖ノ羽遺跡におけるテフラ分析	41
2 沖ノ羽遺跡における放射性炭素年代測定	44
3 沖ノ羽遺跡におけるプラント・オパール分析	45
4 沖ノ羽遺跡における種実同定	49
5 沖ノ羽遺跡における樹種同定	51
第VII章 まとめ	57
1 遺構	57
2 遺物	60
引用・参考文献	73

報告書抄録

挿図目次

第1図 新津丘陵周辺地形分類図(1/150,000)	3
第2図 新津市周辺の古代遺跡分布図(1/100,000)	5
第3図 新津市周辺の中世遺跡分布図(1/100,000)	7
第4図 沖ノ羽遺跡確認調査位置図(1/2,500)	12
第5図 基本層序	16
第6図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図(1)	28
第7図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図(2)	29
第8図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図(3)	30
第9図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図(4)	31
第10図 握立柱建物跡小群と区画溝	59
第11図 主要造構別の器種組成図(1)	66
第12図 主要造構別の器種組成図(2)	67
第13図 主要造構別の器種組成図(3)	68
第14図 主要造構別の器種組成図(4)	69
第15図 SD4・SK30・SX24・SX27・SB25・SB48出土食膳具の法量分布図(1)	70
第16図 SD4・SK30・SX24・SX27・SB25・SB48出土食膳具の法量分布図(2)	71
第17図 SD4・SK30・SX24・SX27・SB25・SB48出土食膳具の法量分布図(3)	72

表目次

第1表 新津市周辺の古代遺跡一覧表	4
第2表 新津市周辺の中世遺跡一覧表	6
第3表 遺構出土遺物集計表	64

別表目次

別表1 主要造構一覧表	77
別表2 主要造構出土土器器種構成比率	80
別表3 土器観察表	84
別表4 土製品観察表	94
別表5 石製品観察表	94
別表6 木製品観察表	94

図版目次

- 図版1 周辺の旧地形図(1/25,000)
図版2 遺跡周辺の旧地割図(1/10,000)
図版3 沖ノ羽遺跡と周辺の遺跡(1/20,000)
図版4 遺跡周辺の微地形(1/12,500)
図版5 沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図(1)(1/5,000)
図版6 沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図(2)(1/600)
図版7 沖ノ羽遺跡遺構平面図(1/400)
図版8 沖ノ羽遺跡包含層の小グリッド別平安時代土器出土重量分布図(1/400)
図版9 沖ノ羽遺跡遺構平面図(Ⅵ層上面・1/200)
図版10 沖ノ羽遺跡遺構平面図(Ⅵ層下面・1/200)
図版11 沖ノ羽遺跡遺構平面図1(1/100)
図版12 沖ノ羽遺跡遺構平面図2(1/100)
図版13 沖ノ羽遺跡遺構平面図3(1/100)
図版14 沖ノ羽遺跡遺構平面図4(1/100)
図版15 沖ノ羽遺跡遺構平面図5(1/100)
図版16 沖ノ羽遺跡遺構平面図6(1/100)
図版17 沖ノ羽遺跡遺構平面図7(1/100)
図版18 沖ノ羽遺跡遺構平面図8(1/100)
図版19 沖ノ羽遺跡遺構平面図9(1/100)
図版20 沖ノ羽遺跡遺構平面図10(1/100)
図版21 沖ノ羽遺跡遺構平面図11(1/100)
図版22 基本層序実測図(1/40)
図版23 SD1・2実測図(1/40)
図版24 SD4実測図(1/40)
図版25 SD6・7実測図(1/40)
図版26 SD3・8・9・12・15・16・31~33・43実測図(1/40)
図版27 SK5・10・13・21・22・26・30・34実測図(1/40)
図版28 SK28・44・45・46・47実測図(1/40)
図版29 SK49・50・53・54・64・65・67実測図(1/40)
図版30 SX11・14・20・23実測図(1/40)
図版31 SK58・SX19・24・27実測図(1/40)
図版32 SE17実測図(1/40)
図版33 SE18実測図(1/40)
図版34 SB25・48・51周辺実測図(1/80)
図版35 SB25実測図1(1/80)
図版36 SB25実測図2(1/80)

- 図版37 SB48実測図(1/80)
図版38 SB51実測図(1/80)
図版39 Pit29・35～42・52・55・56・60・61・63・68実測図(1/40)
図版40 出土遺物 1 SD1・2・3・4(1)
図版41 出土遺物 2 SD4(2)・6
図版42 出土遺物 3 SD7・9・12
図版43 出土遺物 4 SD16、SK13・21・26
図版44 出土遺物 5 SK28・30
図版45 出土遺物 6 SK45・46・47・53
図版46 出土遺物 7 SX11・14・19・20
図版47 出土遺物 8 SX23・24
図版48 出土遺物 9 SX27
図版49 出土遺物10 SE17・18、SB25(1)
図版50 出土遺物11 SB25(2)
図版51 出土遺物12 SB25(3)
図版52 出土遺物13 SB25(4)
図版53 出土遺物14 SB25(5)・48(1)
図版54 出土遺物15 SB48(2)
図版55 出土遺物16 SB51、Pit36、包含層出土遺物(1)(4E・5D・5E)
図版56 出土遺物17 包含層出土遺物(2)(5F・6D)
図版57 出土遺物18 包含層出土遺物(3)(6E・6F)
図版58 出土遺物19 包含層出土遺物(4)(7D・7E・7F)
図版59 出土遺物20 包含層出土遺物(5)(7G・8D・8E・9D・9E・10F)
図版60 出土遺物21 土製品、石製品
図版61 出土遺物22 木製品(1)
図版62 出土遺物23 木製品(2)
図版63 出土遺物24 木製品(3)

写真図版目次

- 写真図版 1 沖ノ羽遺跡周辺空中写真(国土地理院1963年撮影)
写真図版 2 沖ノ羽遺跡周辺空中写真(株式会社オリス撮影)
写真図版 3 沖ノ羽遺跡周辺空中写真(米軍1923年撮影)
写真図版 4 空中写真
写真図版 5 空中写真
写真図版 6 空中写真 1・2
写真図版 7 空中写真(遺跡全景)
写真図版 8 基本層序
写真図版 9 調査前現況
写真図版 10 北区全景
写真図版 11 調査区東端全景
写真図版 12 基本層序
写真図版 13 基本層序
写真図版 14 基本層序
写真図版 15 基本層序
写真図版 16 基本層序
写真図版 17 基本層序
写真図版 18 基本層序
写真図版 19 SD 1・2
写真図版 20 SD 4・6
写真図版 21 SD 3・12・15
写真図版 22 SD 7・8・9
写真図版 23 SD 3・9・12・15・16・31・32
写真図版 24 SD33・43、SK 5・10
写真図版 25 SK13・21・22
写真図版 26 SK26・28・30・34
写真図版 27 SK44・45・46・47
写真図版 28 SK49・50・52・64
写真図版 29 SX11・14・19
写真図版 30 SX20・23・24・27
写真図版 31 SE17
写真図版 32 SE18
写真図版 33 SB25・48・51周辺
写真図版 34 SB25
写真図版 35 SB25
写真図版 36 SB25

- 写真図版 37 SB25・48・51
- 写真図版 38 Pit29・35・36・37・40・41
- 写真図版 39 Pit42・56・60
- 写真図版 40 冲ノ羽遺跡出土須恵器・土師器
- 写真図版 41 出土遺物SD 2・3・4・6・7、SK21・26・28・30・45・46、SX14
- 写真図版 42 出土遺物SK45、SX14・20・23・24・27、SE18
- 写真図版 43 出土遺物SE17・18、SB25
- 写真図版 44 出土遺物SB25・48・51、包含層
- 写真図版 45 出土遺物Pit36、包含層
- 写真図版 46 出土遺物SK26、SX14、SB25・48、SD 2、包含層
- 写真図版 47 出土遺物SE18、SB25・48、包含層
- 写真図版 48 出土遺物SD 1・2・3・4
- 写真図版 49 出土遺物SD 6・7・9・12
- 写真図版 50 出土遺物SD12・16、SK13・21・26・28
- 写真図版 51 出土遺物SK30・45・46・47・53、SX11・14・19
- 写真図版 52 出土遺物SX20・23・24・27
- 写真図版 53 出土遺物SX27、SE17・18、SB25
- 写真図版 54 出土遺物SB25
- 写真図版 55 出土遺物SB25
- 写真図版 56 出土遺物SB25・48
- 写真図版 57 出土遺物SB48・51、包含層
- 写真図版 58 出土遺物包含層
- 写真図版 59 出土遺物包含層
- 写真図版 60 出土遺物包含層
- 写真図版 61 出土遺物包含層
- 写真図版 62 出土土製品・石製品
- 写真図版 63 出土木製品
- 写真図版 64 出土木製品
- 写真図版 65 出土木製品

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯

平成10年8月に周知の埋蔵文化財包蔵地である沖ノ羽遺跡の範囲内で湛水防除事業（小規模）新津東部地区に伴う鮭川排水機場建設計画が、新潟県新津農地事務所（以下、新津農地事務所）から新津市教育委員会生涯学習課に報告された。事業内容は、排水機場の新設工事を行うという内容であった。市生涯学習課では平成10年度内に満日地区圃場整備事業に伴う遺跡試掘・確認調査を予定しており、その範囲内に遺跡が含まれることから並行して確認調査を実施し、その結果、遺跡と認められた場合再度協議する旨、回答した。

平成10年10月5日付教生第840号で文化財保護法第98条の2第1項の規定による、「埋蔵文化財発掘の報告」を新潟県教育庁文化行政課長あてに提出し、10月8・27日の2日間、確認調査を実施した。確認調査面積は3トレンチ12.6m²である。確認調査結果は平成11年1月14日付教生第859号で新潟県教育庁文化行政課長宛に提出し、1月に再度、新津農地事務所と協議を行った。確認調査の結果、遺物が検出されたので本調査が必要である、事業採択後の平成12年4月以降に文化財保護法第57条の3の通知が必要である、本調査面積は約3,000m²とする、本調査は平成12年度以降とすることなどが両者で合意された。

平成12年9月20日付新農地第524号で新津農地事務所長から新潟県教育委員会教育長宛に提出された。これを受け、平成12年10月4日付教文第667号で工事着手前に発掘調査を実施するよう県教育長から新津農地事務所長宛に通知された。

平成12年12月の協議で調査面積は3,110m²で平成13年度に本調査、平成14年度に出土遺構・遺物の整理作業および報告書刊行を行う案で一旦合意した。但し、市生涯学習課では平成13年度の事業量が多く、単独では調査体制を組めないため、民間発掘調査支援会社に委託することが合意に含まれた。

平成13年1・2月に2回、鮭川排水機場の実施設計図をもとに再度協議を行った結果、本調査面積が縮小し2086m²となった。調査面積の縮小に伴い発掘調査計画を再度練り直した結果、平成13年度中に本調査および出土遺構・遺物の整理作業および報告書刊行を行うことで両者が合意した。

また、平成13年度は調査日程・人的対応の問題から市生涯学習課直営による調査は、組み込むことが不可能であったため、（株）シン技術コンサル・秋葉建設興業（株）・（株）イシカワの三社企業の共同体（JV）に調査を委託し、市生涯学習課は監理を行った。



発掘調査風景

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と地理的環境(第1図、図版1)

新潟県は北東から南西方向に延びる270km近くの海岸線をもって日本海に面しており、信濃川・阿賀野川といった日本有数の河川の流入により、沖積平野と前面の砂丘列を形成している。

沖ノ羽遺跡の所在する新津市は、越後(新潟)平野のほぼ中央部に位置し、東に阿賀野川、西に信濃川の日本1・2の流水量をもつ二大河川に挟まれ、阿賀野川から信濃川に流れる小阿賀野川を北限としている。南東部には平野部へ突出する標高100m前後の「新津丘陵」が位置し、その東側縁を、全長33km程の能代川とその分水路が北流し小阿賀野川に注いでいる。市域の大部分はこれらの河川堆積物によって形成された沖積平野であるが、信濃川流域では粗粒、阿賀野川流域では粗粒という堆積物の構成差があるため、市域の沖積地内でも層相の変化が見られる。

市域の大きさは、東西約11.4km、南北12.1km、面積は78.28kmであり、東は阿賀野川を境に北蒲原郡京ヶ瀬村・水原町・安田町に、西は信濃川を境に白根市に、北は小阿賀野川を境に新潟市・中蒲原郡横越町にそれぞれ接している。また、南には新津丘陵を挟んで五泉市・中蒲原郡小須戸町へと繋がっている。

遺跡は能代川の右岸、小阿賀野川との合流点より約1.5km上流に位置し、現在の標高は4.0~4.5mである。能代川は一名「九十九曲川」と呼ばれるほど屈曲が多く、古くから度重なる洪水災害を繰り返してきた。しかし、低地部の灌漑用水として、また水上輸送として重要な役割を担ってきたため、近世以降数回に亘り治水対策に伴う河川改修が行われてきている。だが、旧河道の自然蛇行跡や氾濫原、自然堤防などは依然として残存しており、沖ノ羽遺跡の主体は能代川によって形成された微高地の自然堤防上および後背湿地に占地している。平野部においては、本遺跡のように自然堤防および砂丘上に立地する遺跡が多い。

遺跡周辺は現在水田地帯であり、地形の起伏はほとんど認められない。この景観は昭和15~25年にかけて行われた耕地整備事業によって形成されたものであり、旧景観については佐藤正知氏によって既にまとめられている〔星野ほか1996〕。それによれば沖ノ羽遺跡周辺の土地には微高地が散在しており、平坦部は水田に、微高地は畑に、微高地周縁は堀田と畑が混在するといった自然地形に即した土地利用がなされていたと推察している。また、河川が形成した自然堤防・微高地上または、微高地の周縁部を遺跡の立地としており、今回の調査成果とも合致している。

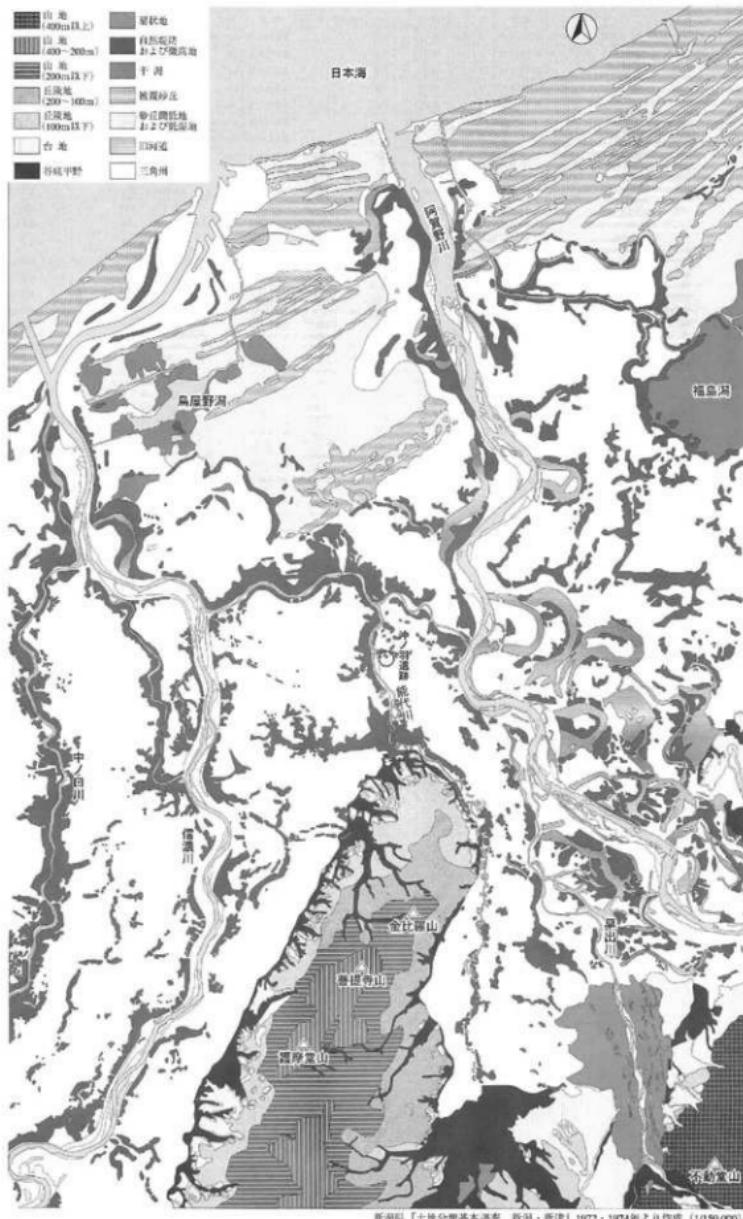
2 周辺の遺跡(第2・3図、第1・2表、図版2・3)

新津市内および周辺地域において、旧石器・縄文・弥生時代の遺跡は新津丘陵や緑辺の段丘上に集中する。古墳時代になると平野部微高地にも遺跡が確認されるようになり、奈良・平安時代になると平野部微高地に立地する遺跡数が増大する。これは、水田を始めとした開発が広く沖積地に及んだ事の表れである。

旧石器時代から古墳時代の遺跡

旧石器時代の遺跡は、現在のところ矢代田層・蒲ヶ沢層など洪積世の風化火山灰(ローム層)によって形成された新津丘陵周辺に分布が限定される。八幡山遺跡・草木町2丁目遺跡でナイフ形石器・石刃など散発的な資料が出土している。

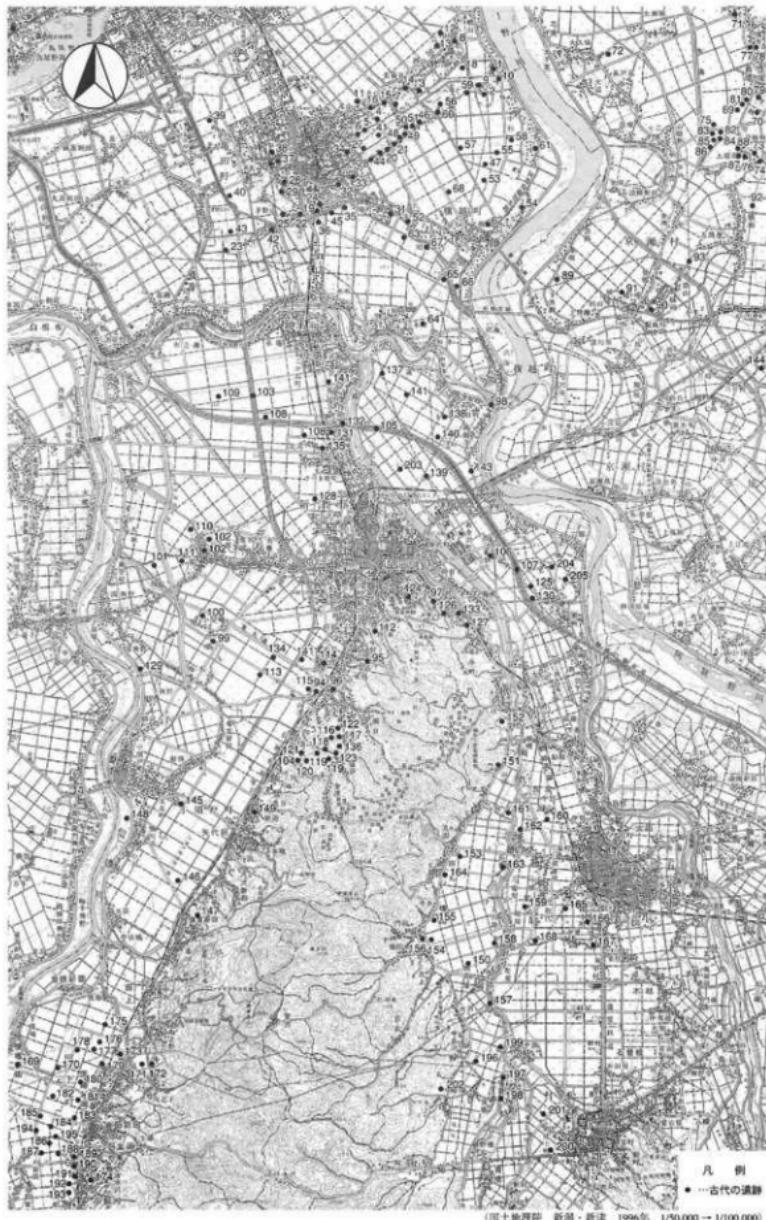
縄文時代の遺跡は、標高10~30mの丘陵上・段丘上に立地する遺跡が多い。時期としては中期~後期が主



第1図 新津丘陵周辺地形分類図

第1表 新津市周辺の古代遺跡一覧表

地名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別
新潟市 中央	興文・後墳・後良・平安	遺物包含地	70	新潟市 成の森	平安	遺物包含地	138	新潟市 大下	平安	遺物包含地
伏木山	興文・後生・後良・平安	遺物包含地	71	法子	平安	遺物包含地	140	加瀬	平安	遺物包含地
若柳谷	後良・平安	遺物包含地	72	内	平安	遺物包含地	141	新七	平安	遺物包含地
摩7山	後良・平安	遺物包含地	73	黒野野	平安	遺物包含地	142	久原	平安	遺物包含地
金城山	興文・後良・平安	遺物包含地	74	兩面田	平安	遺物包含地	143	久延	平安	遺物包含地
佐治	後良・平安	遺物包含地	75	大女折根	平安	遺物包含地	144	木庭原 三若舗	平安	遺物包含地
丸山	平安	遺物包含地	76	上田口	平安	遺物包含地	145	小畠 雪見村	平安	遺物包含地
直ち山A	平安	遺物包含地	77	下	古山～平安	遺物包含地	146	大沢谷	平安	遺物包含地
中野桂原	平安	遺物包含地	78	内沼塚	古山～平安	遺物包含地	147	六舟原	平安	第 附
城山	古山・平安・難波	遺物包含地	79	白山	古山・平安	遺物包含地	148	御前御所跡	興文・平安	遺物包含地
北山	平安	遺物包含地	80	中道	古山～平安	遺物包含地	149	三川口	平安	遺物包含地
佐引山跡	平安	遺物包含地	81	中道(2)	古山～平安	遺物包含地	150	五箇石 住宿	後良	遺物包含地
小丸山	興文・李安・中世	集	82	神網	古山～平安	遺物包含地	151	山崎塚	後良	古 所
若柳谷墓群	平安	遺物包含地	83	神網(2)	古山～平安	遺物包含地	152	小糸山	興文・後良・古代	遺物包含地
佐木が丘	平安	遺物包含地	84	後谷	古山～平安	遺物包含地	153	九里	平安	遺物包含地
大野沢	平安・中若	遺物包含地	85	赤坂	古山～平安	遺物包含地	154	御前A	後良	遺物包含地
佐野屋	平安	遺物包含地	86	中道	古山～平安	遺物包含地	155	御前B	後良	遺物包含地
佐引山内	平安	遺物包含地	87	御前 C	古山～平安	遺物包含地	156	御前D	古代	遺物包含地
龟田町 神山A	興文・後良・古山～平安	遺物包含地	88	御前 E	古山～平安	遺物包含地	157	御前 F	古代・中若	遺物包含地
寺原	後良・後生・平安	遺物包含地	89	E・F・御前 仙原	平安	遺物包含地	158	御前 G	後良	遺物包含地
志高	興文・古山・宝町	遺物包含地	90	本町裏	平安	遺物包含地	159	江中	古代	遺物包含地
白木山	興文・古山・宝町	遺物包含地	91	船原	平安	遺物包含地	160	中野	後良・平安	遺物包含地
西野原	後良・平安	遺物包含地	92	千利	平安	遺物包含地	161	夏下	後良・平安	遺物包含地
青塚山	興文・海抜・後良～平安	遺物包含地	93	春嶺御跡	平安	遺物包含地	162	竹村	後良・平安	遺物包含地
北光山門跡	古山・平安	遺物包含地	94	御前 井戸	古山・古代・中若	遺物包含地	163	佐美	後良・平安	遺物包含地
貝原	後良・後生・平安	遺物包含地	95	御前 井戸	古山・平安	遺物包含地	164	近合	後良・中若	遺物包含地
三ツ岡	後良・平安	遺物包含地	96	草原	古山～平安	遺物包含地	165	福島	後良・平安・中若	遺物包含地
上ノ山	後良・平安	遺物包含地	97	七本鎌	平安	遺物包含地	166	ソブタ	後良・平安	遺物包含地
中ノ山	後良・平安	遺物包含地	98	寺	平安・難波	遺物包含地	167	石ノ子	後良・平安	遺物包含地
私山	後良・平安	遺物包含地	99	台原	平安・難波	遺物包含地	168	我・櫻	後良・平安	遺物包含地
上原	後良・平安	遺物包含地	100	下原	平安・難波・通可	遺物包含地	169	山上 二ダムヨリ	平安	遺物包含地
玉森	後良・平安	遺物包含地	101	山越	平安・難波・通可	遺物包含地	170	二段みヶ	平安	遺物包含地
寺原	後良・平安	遺物包含地	102	小印 了般	平安・難波・通可	遺物包含地	171	中船	平安	遺物包含地
猿山ノ山	後良・平安	遺物包含地	103	前	後良	遺物包含地	172	御前の舟	平安	遺物包含地
御田	後良・平安	遺物包含地	104	村田	平安	遺物包含地	173	下野御跡	平安	遺物包含地
牛尾	平安	遺物包含地	105	寺	平安・難波	遺物包含地	174	西野川河跡	平安	境 附
川原	後良・平安	遺物包含地	106	寺跡	平安・難波	遺物包含地	175	轟	後良・平安	遺物包含地
庄原	平安	遺物包含地	107	寺道	平安	遺物包含地	176	御前	後良・平安	遺物包含地
寺ノ子	平安	遺物包含地	108	上原	平安	遺物包含地	177	土居下	古後・平安	遺物包含地
荒原	平安	遺物包含地	109	原	後良・古山～平安	遺物包含地	178	御前	平安	遺物包含地
猪ノ山	平安	遺物包含地	110	御前 鶴見	平安	遺物包含地	179	御前	後良・平安	遺物包含地
八幡山	平安	遺物包含地	111	桃生ノ門跡	平安	遺物包含地	180	加内	後良・平安	遺物包含地
八幡山	平安	遺物包含地	112	桃生山	桃生(古後・中若±古後)	遺物包含地	181	牛内	後良・平安	遺物包含地
御前	後良・平安	遺物包含地	113	中野	平安	遺物包含地	182	上野内	後良・平安	遺物包含地
堀	平安	遺物包含地	114	萩木	平安	遺物包含地	183	牛ノ木	後良・平安	遺物包含地
篠崎町 小丸山	興文・後良・古山～平安	遺物包含地	115	北野	古山～平安	遺物包含地	184	竹ノ花	後良・平安	遺物包含地
77	興文・後良・平安	遺物包含地	116	八幡山	古山・古山・平安	遺物包含地	185	八尺原	後良・平安	遺物包含地
御前	後良・平安	遺物包含地	117	古津御跡A	古山・平安	遺物包含地	186	御前中野	後良・平安	遺物包含地
山ノ上	後良・古山～平安	遺物包含地	118	大久	平安	遺物包含地	187	内	後良・平安	遺物包含地
星野	後良・古山～平安	遺物包含地	119	村田C	平安(興文・後良・古山を含む)	遺物包含地	188	大野	後良・平安	遺物包含地
物心原跡	後良・平安	遺物包含地	120	新井	平安	遺物包含地	189	保明湖	興文・後良・平安・近江	遺物包含地
用内	後良・平安	遺物包含地	121	神網	古山・中野(古後±古後)	遺物包含地	190	川原	後良・平安	遺物包含地
宮代跡	後良・平安	遺物包含地	122	古津御跡B	古山～平安	遺物包含地	191	小浜水原	後良・平安	遺物包含地
下原	平安	遺物包含地	123	御前	後良・平安	遺物包含地	192	横手下	後良・平安	遺物包含地
山の上	後良・古山～平安	遺物包含地	124	後良ノ下原	桃生(古後・中若±古後)	遺物包含地	193	大野	後良・平安	遺物包含地
御前	平安・難波	遺物包含地	125	新井園	平安	遺物包含地	194	保明湖	興文・後良・平安・近江	遺物包含地
江尻	平安	遺物包含地	126	御前湖	平安	遺物包含地	195	川原	後良・平安	遺物包含地
高瀬人	平安・葉栗	遺物包含地	127	吉田町下目	平安	遺物包含地	196	松代町 中野原	平安	遺物包含地
上原	平安	遺物包含地	128	北野山	古代	遺物包含地	197	御前(ア)	平安	遺物包含地
上の山	後生・平安	遺物包含地	129	御向	古代	遺物包含地	198	笠置町(ミ)	平安	遺物包含地
佐根寺	後良・平安	遺物包含地	130	萩山	平安	遺物包含地	199	牛頭	平安	遺物包含地
佐久原	平安	遺物包含地	131	山口平	平安	遺物包含地	200	一冬移	平安・中若	遺物包含地
河原町山跡	平安・葉栗	遺物包含地	132	紅内	平安・中野・近江	遺物包含地	201	城下	平安	遺物包含地
冥王山	平安	遺物包含地	133	古津御跡D	石原・難波・平安	遺物包含地	202	山ノ入	平安・中若	遺物包含地
上原	後良・平安	遺物包含地	134	古山	平安	遺物包含地	203	御前山	平安	遺物包含地
上原B	古山・平安	遺物包含地	135	山口川	平安	遺物包含地	204	土手外	平安・中若	遺物包含地
上原C	平安	遺物包含地	136	古津御跡E	古山～平安	遺物包含地	205	道上	平安	遺物包含地
新潟市	平安	遺物包含地	137	中野内	平安	遺物包含地				



第2図 新津市周辺の古代遺跡分布図

第2表 新津市周辺の中世遺跡一覧表

No	遺跡名	時代	種別	No	遺跡名	時代	種別
1	新潟市石仏山	中世	遺物・包含地	72	木原町村下	東北	石
2	大連外 平安・中世	遺物・包含地	73	内山王	東北	遺物・包含地	
3	小丸山 岡文・平安・中世	遺物・包含地	74	分田御跡	盛司	城館跡	
4	松山 中世	遺物・包含地	75	新明野	金町	遺物・包含地	
5	城山 古墳・平安・難倉	遺物・包含地	76	新藤寺	金町	石	
6	綿山 塞町	石	77	新藤寺	金町	石	
7	龟田町 平遡	石	78	上江塙	金町	石	
8	市動塚 平安・難倉	遺物・包含地	79	成田屋敷	金町	遺物・包含地	
9	川西 平安・難倉	遺物・包含地	80	白根市牛崎船	中世	城館跡	
10	手代山 難倉	遺物・包含地	81	小橋芦岡	三沢	施設	
11	荒木落 難倉	遺物・包含地	82	了寺跡	中世	寺院	
12	日木塙 岡文・衛良・重町	遺物・包含地	83	西寺山石仏	中世	石造物	
13	城山B 南北朝・室町・江戸	遺物・包含地	84	五本木町	盛司	城館跡	
14	三矢山 重町	遺物・包含地	85	西院庵山跡	金町	城館跡	
15	瀬山 岡文・衛良・重町	遺物・包含地	86	前谷古墳出土その1	中世	遺物・包含地	
16	後越町 山田	平安・難倉	87	前谷古墳出土その2	中世	遺物・包含地	
17	岩舟A 平安・重町	遺物・包含地	88	下金船	中世	城館跡	
18	川根町内墓所 平安・重町	遺物・包含地	89	龜山石仏	中世	石	
19	内浦寺石仏	石	90	丸太石仏群	中世	石	
20	根越館 重町	城館跡	91	高巖石造跡群	南北朝	石	
21	下野縣原 重町	城館跡	92	鏡之内宝印塔	中世	石	
22	金栄市 民家	城館跡	93	安町	遺物・包含地		
23	上郷面A・B・C 中世	石	94	丸太船	金町	城館跡	
24	黒塚跡 中世	石	95	延命寺石仏群	中世	石	
25	京ヶ森下谷地 中世	遺物・包含地	96	大倉山尼跡	中世	寺院	
26	鶴林寺跡 中世	城館跡	97	赤井・平安・中世	遺物・包含地		
27	曾郎村 中世	遺物・包含地	98	久立城	重町	城館跡	
28	湖保 中世	遺物・包含地	99	鶴島	幸良・平安・中世	遺物・包含地	
29	下の横船 重町	城館跡	100	万葉寺跡	中世	城館跡	
30	清水家 中世	石	101	圓融ノ木石仏	中世	石	
31	源助神社 中世	石	102	吉祥寺宝印塔	中世	石	
32	小河原 中世	石	103	延住城	金町	城館跡	
33	高瀬島殿跡社 中世	石	104	金町六条	古代・中世	遺物・包含地	
34	七島館 中世	城館跡	105	中田石仏群	中世	石	
35	新津市下等削出 古代・中世	遺物・包含地	106	駒形御史支場	金町	石	
36	川尻塚 中世	遺物・包含地	107	延政寺跡	金町	城館跡	
37	長庭 平安・難倉	遺物・包含地	108	堀	中世	遺物・包含地	
38	翁 重町	遺物・包含地	109	八反畠	中世	遺物・包含地	
39	江内 中世・江戸	遺物・包含地	110	上田上田上経寺	重町	城館跡	
40	沖ノ羽 古代・中世	遺物・包含地	111	細川	岡文・平安・中世	遺物・包含地	
41	中谷内 平安・中世	遺物・包含地	112	御井	中世	城館跡	
42	新久光の堀 重町	堀	113	山田古墳出土	金町	遺物・包含地(古墳)	
43	内野 平安・中世	遺物・包含地	114	エゾ吸溜跡	中世	城館跡	
44	寺崎 平安・難倉	遺物・包含地	115	應安寺城跡	金町	城館跡	
45	長崎(城跡) 重町	遺物・包含地	116	不動山城跡	中世	城館跡	
46	川根 鎌倉・重町・古代	遺物・包含地	117	經藏寺跡	中世	寺院	
47	小戸下戸 鎌倉・重町	遺物・包含地	118	金町	金町	城館跡	
48	淨宗 重町	遺物・包含地	119	二ノ沢城跡	中世	城館跡	
49	願福 重町・寛土株山	遺物・包含地	120	村松町門坂塔	金町	塔	
50	御註神社 中世	石	121	空照寺五輪塔	金町	石	
51	願福 中世	遺物・包含地	122	堀	重町	石	
52	新津城跡 重町	城館跡	123	宮ノ下五輪塔	金町	石	
53	程島塙 重町	城館跡	124	春明寺被拂	金町	石	
54	本町石仏 中世	石	125	馬場跡	金町	城館跡	
55	尻池の塙 重町	塙	126	御定院五輪塔	金町	石	
56	慈感寺石仏 中世	石	127	山ノ入	平安・中世	遺物・包含地	
57	大御堂 中世	城館跡	128	野野可御跡	中世	城館跡	
58	曾根 平安・難倉	遺物・包含地	129	一本杉	平安・中世	遺物・包含地	
59	下柳ノ木 鎌倉・重町	遺物・包含地	130	勝田氏庭園跡	金町	城館跡	
60	西島塙 中世	城館跡	131	石音根跡瓦五輪塔	金町	石	
61	東島塙 重町	城館跡	132	本堂山城跡	中世	城館跡	
62	寺道上 中世	遺物・包含地	133	源水寺御跡	南北朝	板	
63	金作塙 附北朝	城館跡	134	正円寺被拂跡	金町	城館跡	
64	木原町 羽佐野	遺物・包含地	135	萬松院跡	金町	石	
65	土居内 中世	遺物・包含地	136	光明石山荘瓦五輪塔	金町	石	
66	赤松寺 中世	石	137	光明石山荘瓦五輪塔	金町	石	
67	藤の木 重町	遺物・包含地	138	矢津川御跡	金町	板	
68	火神社 重町	石	139	天寶寺	平安	遺物・包含地	
69	中尚御宿 重町	石	140	銀糸司・玉砂	金町・南北朝	遺物・包含地	
70	中尚の御宿 重町	石	141	吉ヶ瀬村	利根上	施設	
71	玉泉寺石仏 中世	石	142	金舎	金町	施設	
72	五重寺 重町	石	143	新井市土手外	金町	施設	



第3図 新津市周辺の中世遺跡分布図

体であり、特に後期前葉の遺物が出土する遺跡が多く見受けられる。代表的な遺跡として、本格的な発掘調査は実施されていないものの明治時代から多くの研究家により大量の遺物が採集されている原遺跡〔川上ほか1989〕、市内における最初の発掘調査例である平遺跡〔川上1982〕や秋葉遺跡が挙げられる。また、標高15m前後の低丘陵に位置する草水町2丁目窯跡遺跡の確認調査において、縄文時代草創期前半の局部磨製石斧8点(6個体)、石核1点などが狭い範囲より集中して出土しており興味深い。

弥生時代の遺跡は、市内で5遺跡が周知されている。代表的な遺跡として後期の高地性環濠集落である八幡山遺跡〔川上1994、渡邊1994a〕と、その周辺に位置する埋葬地遺跡〔川上ほか1989〕、居村C遺跡(D・E地点)〔川上1996、渡邊ほか1997〕が挙げられる。特に八幡山遺跡は方形周溝墓も確認されており、一定期間定住していた拠点集落である。平野部に入る舟戸遺跡〔川上1995〕でも弥生時代の遺物が出土しているが、確実に当該期と言える遺跡は標高25~50mに立地しており、平野部には少ない。

古墳時代の遺跡は、市内で10遺跡が確認されている。八幡山遺跡の北西端に、墳丘約60mで造りだし付きの新潟県下最大の円墳である古墳時代前期の古津八幡山古墳〔甘粕・川村ほか1992〕が営営される。隣接する高矢C遺跡・舟戸遺跡も当該期の遺跡であり、いずれも丘陵縁辺や台地端部の立地である。舟戸遺跡では古墳時代前~中期頃の堅穴住居跡が検出されており、古墳との関係が注目される。また、沖積平野部に立地する沖ノ羽遺跡〔星野ほか1996〕・上浦B遺跡では古墳時代前・中期の土師器が、結遺跡〔川上ほか1989〕では後期の内面黒色処理を施した高杯が出土しており、沖積平野部への遺跡の進出時期が窺える。

古代の遺跡

奈良・平安時代の遺跡は、市内で45遺跡確認されている。集落遺跡は平野部に多く、丘陵裾部には製鉄遺跡・須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中する。

昭和20年代に行われた水田の土地改良工事等により遺物が採集されたことにより、平野部での遺跡の存在が認識され、磐越自動車道建設に伴い平成2年から4年にかけて新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した上浦遺跡〔新潟県埋蔵文化財調査事業団1993〕、沖ノ羽遺跡〔石川ほか1994、星野ほか1996〕など5遺跡の調査成果が契機となり、多くの集落遺跡が沖積地上に存在することが明確となった。平成4年度に工業団地造成に伴い新津市教育委員会で発掘調査を実施した上浦遺跡〔渡邊1992、川上1997〕では、大形の掘立柱建物跡の構造や、須恵器円面鏡・奈良三彩小壺・銅鏡丸柄といった遺物が出土しており、沖積地への進出には官的要素を多分に含んでいた事が想定できる。これは、平成8年度に発掘調査された阿賀野川と能代川の合流点近くに位置する中谷内遺跡〔立木ほか1999〕より出土した綠釉陶器や墨書き土器等からも窺える。

沖ノ羽遺跡が営まれた9世紀代の遺跡周辺は、河川と潟湖による広大な湿地が存在し、小丘状に発達した自然堤防上の微高地に遺跡が立地したと考えられる。このような冲積地を好んで選地した理由の一つに、技術力・生产力の向上に伴う未開拓地の新田開発による居住空間の拡大が挙げられよう。

丘陵部の生産遺跡は、新津丘陵北東斜面に分布する七本松窯跡・山崎窯跡・平成5年度の発掘調査で須恵器窯跡・土師器窯跡・粘土探査坑等が検出された草水町2丁目窯跡などの新津丘陵窯跡群、北西側の金津地区に位置し、平成元年から3年にかけての調査で製錬炉と多数の木炭窯等を検出した居村遺跡・大入遺跡などの金津丘陵製鉄遺跡群〔川上1996、渡邊ほか1997・1998〕に代表される。新津丘陵窯跡群は、いわゆる「一郡一窯体制」と呼称される土器生産体制を担っていた古代蒲原郡を代表する遺跡である。新津丘陵での須恵器生産は、長沼遺跡の出土資料から早ければ7世紀後半に操業を開始すると考えられるが、8世紀前半から9世紀中頃が主体であり、蒲原郡内のみならず沼垂郡に属する遺跡からも相当量の出土が確認されている。金津丘陵製鉄遺跡群は9世紀中葉から後半を主操業期とするが、居村遺跡では出土遺物から11~12世紀と考

えられ、古代末から中世への過渡期の製鉄遺跡としても重要である。

中世の遺跡

市内で25遺跡が確認されている。丘陵裾部に生産遺跡・山城、平野部微高地に集落跡といった古代と同様の占地を示す。城館跡は8ヶ所を数え、山城は東島城跡・金津城跡〔横山・竹田ほか1987〕がある。東島城は程島館・新津城とともに、建武三(1336)年11月18日の「羽黒義成軍忠状写」に見られる「金津保新津城」に比定される城跡である。平野部の遺跡は、磐越自動車道建設に伴い発掘調査された江内遺跡〔春日ほか1996〕で自然堤防上に立地する14~15世紀の集落の一部が明らかとなった。沖ノ羽遺跡B地区〔星野・石川ほか1996〕や内野遺跡では、井戸や溝を主体とする遺構や鳥帽子や鉄鍋といった遺物も出土している。また、細池遺跡〔小池ほか1994〕では中世以降の圃場の各単位施設と思われる凹地遺構や多数の溝等が検出されている。しかし、平野部の微高地は現居住域と重なる場所も多く、また水田としての土地利用が大半を占めるため、遺跡の規模や形状については不明である。

近世の遺跡

集落跡は平野部微高地に立地していると考えられ、江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が検出されているが、中世と同様に現居住域と重複するため実態は不明である。

新津市域の現集落の開発は近世初頭(慶長~寛永年間)に遡り、本格的な治水事業の展開により新田開発が盛んに行われ、現景観が形成されたと考えられる。

3 歴史的環境

律令以前、日本海側の地域は広く越国と称されていた。大化三(647)年に浮足橋・翌年に營舟橋が相次いで設置され、漸次北方の整備が図られていたと考えられる。越後国は、当初これら二橋の位置する阿賀野川以北の沼垂郡・岩船郡より北を指していたようである。越後国の領域の確定は、大宝二(702)年に越中国4郡(頬城・古志・魚沼・蒲原)を割いて越後国に編入〔『続日本紀』〕し、和銅五(712)年にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。その後、天平十五(743)年に佐渡国を越後国に合併し、ほぼ現在の新潟県と同一の領域となった。しかし、天平勝宝四(752)年には、渤海朝貢使節の来島により、朝廷による直接把握を目的として佐渡国は復置されている。佐渡国3代国司宍人朝臣和麿の天平宝字五(761)年に造営が始まった佐渡国分寺には、小泊窯で製作された瓦が大量に運ばれており、古代越後国に膨大な須恵器の供給をもたらす小泊窯操業の契機としてとらえられよう。

新津市域は、古代の蒲原郡に属していた。現在の北蒲原郡を除いた三条市から阿賀野川までの範囲に比定される古代の蒲原郡には、承平年間(931~938)に撰進された『和名類聚抄』に桜井・勇札・青海・小伏・日置の5郷が見られる。このうちの日置郷が新津市周辺域に推定されているが、これは他の4郷に新津市域以外の有力な推定地があるのに対し、日置郷のみ推定地がないという消極的な理由によるものである。

古代の蒲原郡には、宝亀十一(780)年の『西大寺資財流記帳』によって、鶴樽莊・槐田莊という莊園が施入されていた事が知られている。これらの西大寺領莊園は、神護景雲三(769)年の『越後國水田并整田地帳』などから、8世紀中葉以降には確実に成立していたと考えられる。いずれの所在地も新津市域に比定されてはいないが、沖ノ羽遺跡や周辺遺跡からの仏教系遺物の出土との関連性も示唆されよう。西大寺領莊園は早くに衰退したと思われるが、その理由として、東大寺領莊園に較べ進出が遅かったため、悪条件地に寺田を設定したためと考察されている。

新津丘陵では、早ければ7世紀後半に「一郡一窯体制」による須恵器生産が開始される。新津丘陵窯跡群

の最盛期は8世紀前半～9世紀中頃で、佐渡小泊麻からの供給量の激増により生産が衰退する。また、新津丘陵の北西側には、大規模な製鉄関連遺跡である金津丘陵製鉄遺跡群があり、主操業期間は9～10世紀・13世紀前後と考えられており、8～9世紀には新津丘陵が蒲原郡の須恵器・製鉄の生産を支えていたと言っても過言ではない。これらの製品は、能代川などの内水面交通を利用し、広く郡内に流通していたと考えられ、国府津である蒲原津などを経由して越後国内の他の郡域にも搬出されていた可能性は高い。能代川は、近代まで水上交通路として金津地区の草木油（石油）などの運搬を担っており、天智七（668年）に越國から燃木・燃土を近江京に獻上した際のルートであった可能性も否定できない。

中世においては、新津市域の大半は国衙領金津保の保城に含まれると考えられている。金津保の成立時期は、明確ではないが、他の公領と同様に11世紀後半～12世紀後半に至る院政期に考察されている。金津保の文献上の初見は、建武三（1336年）11月18日の『羽黒義成軍忠状写』に、足利（北朝）方の義成が9月2日に金津保新津城に引き籠もり、新田（南朝）方の小国政光らと戦った記載にある。しかし、これ以前にも室町期に成立した『義經記』では承安四（1174年）に金津庄の名が見られ、また、寿永年間（1182～1183）には、鎌倉幕府成立後金津保の地頭職となり、承久の乱（1221）に際し鎌倉方の北条朝時に従軍し上洛した、平賀（金津）藏人資義が金津に居館を構えている。この他、「吾妻鏡」の建仁元（1201）年の史料には新津四郎の名が見られ、12世紀末には金津・新津周辺に勢力を持ち、地名を姓としたと考えられる武士たちが存在していたことが理解される。

蒲原郡における国衙領は、田畠などの生産域のみならず、河川流域や潟湖などをも主要要素として成立している。信濃川・阿賀野川の最下流域にあり、蒲原津という越後国を代表する港津の背後という立地や、国衙領の凌駕した頸城郡と、大規模な莊園群が在した阿賀野川以北の中間という地理的環境から、金津保の重要性が高かったことは想像できよう。現に、14世紀前半の南北朝の動乱に際しては、蒲原津を軍事的に占拠し中・下越地方を制圧しようとした南朝軍と、阿賀野川を挟んで対峙した北朝軍との蒲原津から新津丘陵周辺での攻防が前記の『羽黒義成軍忠状写』に記されている。この動乱を経て、越後国は守護上杉氏・守護代長尾氏により室町幕府の統治下によって領国支配が推進されることとなる。

16世紀になると、守護上杉氏と守護代長尾氏の対立が激化し、越後国内での内乱が勃発するようになり、享禄・天文の乱（1530～1551）の天文四（1535年）には、新津市周辺も戦場と化したようである。この時期の金津保の実態については不明な部分が多いが、後世の『上杉家御年譜』や『上杉史料集』の「北越軍談」には、金津伊豆守祐高や新津彦二郎など、金津や新津郷を領有した人物の名が見られる。また、新津堀（能代川一の堀）もこの頃に開設されており、土地開発も着実に進展していた事が窺われる。

天文十九（1550年）には、蒲原郡などの国人たちを帰順させていた長尾景虎（上杉謙信）が越後国主となったが、永禄二（1559年）の「侍衆御太刀之次第」では披露太刀ノ衆に新津殿、天正三（1575年）の「上杉家軍役帳」では、国人衆に出陣の際91人の軍役を負担した新津大膳亮の名が見られ、新津氏が上杉家臣団の一翼を担っていたことが判る。

天正六（1578年）3月、上杉謙信が急逝すると、養子である景勝・景虎の間で後継地位をめぐる「御館の乱」がおこり、国内領主層の分裂をもたらした。この乱において、新津周辺は両者軍勢の境界線として、また、会津芦名氏への防衛線として、重要な位置を担っており、新津勝資は景勝方に、平賀左京亮は景虎方に参戦している。景勝の勝利により、没落した平賀氏に代わり、新津氏が金津保に新たな発展をみせることとなる。新發田の乱平定後の『文禄三（1594年）定納員数目録』によれば、景勝家臣団の最上士層である「侍中」の筆頭中に新津勝資の名が見られ、その功績が窺える。しかし、慶長三（1598年）に豊臣秀吉の命により越後国主上杉景勝が会津へ国替えされることとなり、新津勝資・秀祐父子も景勝に随從し二本松での知行を指定

され、先祖伝來の本領から引き離されることとなった。

景勝の移封に伴い、本庄(村上市)に村上頼勝・新発田に溝口秀勝が入封し、現在の新津市域の大部分は新発田領、東部の一部が村上領となった。関ヶ原の戦いの際に会津国境付近より起きた「越後一揆」が画期となり、新発田藩は徳川方の支配大名としての地位を確立し、兵農分離が推進された。新発田藩は豊田治水に力を注ぎ、新津市域においては慶長九(1604)年に戦乱により荒廃していた新津堰を再興し、寛永四(1627)年には新津郷左近島の堤防修復を図り、本田畠の保護と新田開発を推進した。村上藩も同様に治水を行い、新津市域における堤防のほとんどは17世紀後半代には完成をみたようである。併せて、堰組などの水利組合を組織し、共同して江筋の維持管理・運営が行われた。沖ノ羽遺跡の所在する大野開(古田新田枝郷)は、当初能代川流域の一之堰組に属しており、元和九(1623)年に二之堰が設置されると二之堰組に加わっている。また、大野開は、元禄二(1689)年に悪水や溢水の排除を目的として組織された七日町村橿組にもその名がみられ、当時はまだ低湿地帯であったと推察されよう。遺跡の現景観の基礎はこの時期に固まつたものと推察できるが、治水が推進されても洪水などの水害は繰り返されており、その後の度重なる復旧を経て現景観が形成されたと考察されよう。

また、慶長十三(1608)年に真柄仁兵衛によって発見され元和元(1615)年に採掘を許可された石油(草水油)の開発も、近世における新津市域の特徴の一つに挙げられよう。

近代以降は、明治30(1897)年に新津駅が開業し、その後の鉄道幹線網の整備により、大正時代に入ると岩越線(磐越西線)・村上線(羽越本線)の分岐点として東日本を代表する交通の大拠点となり、重要な役割を果たすようになる。また、石油の採掘は明治以降も続き、採掘技術の進歩と工業化により明治43(1910)年には全国産油量の6割を占め、大正6(1917)年には産油量が日本一となるほどの飛躍的な発展をみせた。

近年は、「鉄道と石油」は残しつつも、県都新潟市のベッドタウンとして、また、磐越自動車道新津インターを基点とした道路交通網の整備により観光などの拠点として、新たな局面を迎えてよう。

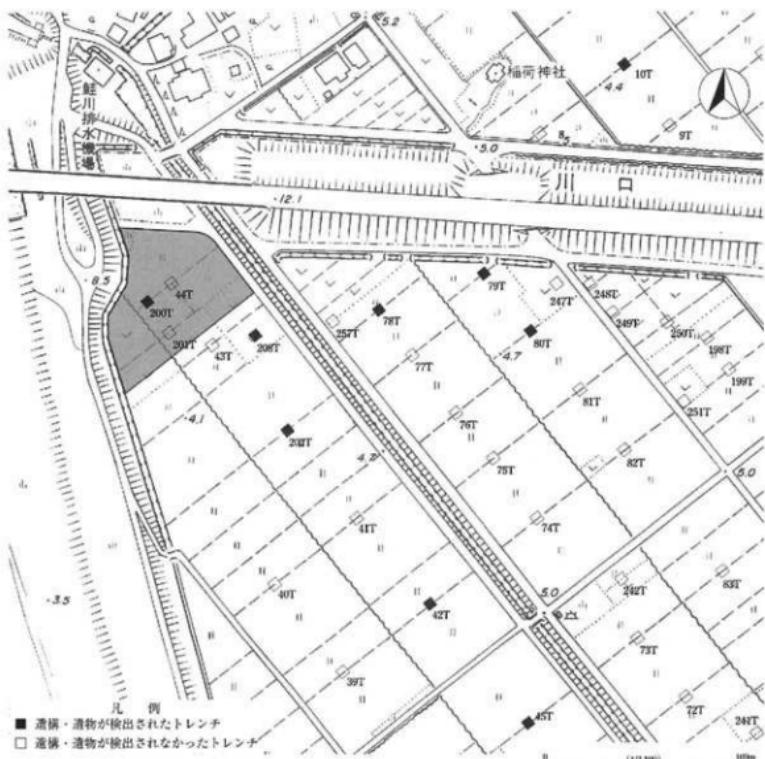
第Ⅲ章 沖ノ羽遺跡の概要

1 確認調査(第4図、図版4)

平成10年10月8日、27日に確認調査を実施した。開発予定面積は3,110m²である。調査は満日地区圃場整備事業に伴う確認調査と同時並行で行い、水田部分に幅1.4m、長さ3m程度のトレンチを3か所設定した。確認調査はバックホウで表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況を記録した。確認調査面積は12.6m²である。

確認調査では200トレンチの田面から深さ95cmの場所から古代の土師器14点が出土した。遺構は湧水の影響で確認できなかった。遺物の出土はなかったが隣接する44・201トレンチからは安定的な包含層相当土土層が確認されており遺路が全体に広がる可能性が高い。また、隣接する磐越自動車道建設に伴う新潟県教育委員会調査部分の状況【石川ほか1994、星野ほか1996】から古代の遺構の広がりが予想される。

以上の結果から、調査対象面積は開発部分全体の約3,110m²が必要であると判断された。その後の協議で2,086m²が本調査対象面積となった(第I章参照)。



第4図 沖ノ羽遺跡確認調査位置図(1/2,500)

満日地区圃場整備に伴う試掘
調査データをもとに作成

2 発掘調査

A 調査方法

1) 現況

現況は荒地および水田であり、発掘調査地点の北側を磐越自動車道が通過している。

2) グリッドの設定(図版5・6)

グリッドを設定するにあたっては、国家座標軸のX軸を基準線として用いた。基準点は北西隅のX座標201,760.000、Y座標55,030.000を1A杭とした。基準線をもとに10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は基準点の1A杭を基点として短軸(南北)方向をアルファベット(大文字)、長軸(東西)方向をアラビア数字とし、この組み合わせにより表示した。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し「5E10」のように呼称した。

発掘調査区の2点の座標は次の通りである。6E(X座標:55,080.000、Y座標:201,720.000)・7F(X座標:55,090.000、Y座標:201,710.000)。座標北は真北に対し23分01秒東偏し、座標南は真北に対し7度20分西偏する。

3) 調査方法

- ①表土剥ぎ 確認調査によって遺物の出土が希薄と予測された事から、遺物包含層(雑層)を残して遺構確認面(Ⅳ層)上面まで、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。排土は調査区内での処理および調査区内を通る農道の通行確保から、先ず本区西半・北区・東区の表土除去を行い、本区東半部分を排土の仮置き場とした。調査終了地点から隨時埋め戻しを行い、仮置きの排土が処理出来た段階で継続して本区東半の表土剥ぎを行った。法面は安全面を考慮して一分の勾配を設けた。また、周囲を水田や用水で囲まれており、掘り下げるとな水没してしまうため、表土剥ぎと並行して調査区周囲に土側溝を掘り、2時の電動ポンプで24時間の強制排水を行った。土側溝は、人力で掘削した幅・深さ共に30cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊しやすいため緩く傾斜をつけV字形をなす。土側溝の掘削により遺構が分断される恐れがあり、事実遺構を縦横断する地点も生じたが、遺構調査のためにはやむを得ない措置と考えた。
- ②遺構検出・発掘 重機で掘削後、ジョレン・ホソ等を用いた人力で精査を行い、遺構の検出にあたった。排土はベルト・コンベアーを用いて搬出した。
- ③実測・写真 実測図は断面図を1/20で作成した。平面図や各種測量点はトータルステーションを用いて作成し、あわせて縮寫真を撮影した。写真撮影は35mm版・6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーボジフィルムを適宜併用した。また、状況に応じ35mmカラーネガフィルム・デジタルカメラを用い、補助的な記録撮影を行った。

- ④遺物取り上げ 包含層出土遺物は原則として小グリッド単位で取り上げたが、一部大きな破片が比較的集中し遺構の存在が予測される遺物に関しては、番号を付してトータルステーションを用いて取り上げた。遺構出土遺物は遺構単位で取り上げ、大きな破片・原位置を留めていると思われる遺物については遺構毎で通し

番号を付し、トータルステーションで取り上げた。

⑤自然科学分析 遺跡・遺構の生態系復原のために、花粉・植物珪酸体(プラント・オパール)分析、樹種同定、地質調査、¹⁴C年代測定などを行った。

B 調査経過

平成13年9月20日から重機により本区西半のⅠ～Ⅳ層を除去した。25日より北区の表土剥ぎを行い、また作業員全員(約30人)を投入し、表土剥ぎと並行して土側溝掘削、法面仕上げ、遺構検出作業を行う。10月18日自然科学分析のため土壤サンプリングを行う。31日にはほぼ完掘し、航空写真撮影のための清掃を行い、11月1日に航空写真撮影を行う。5日より廃土移動を開始し、統けて本区東半の表土除去を行う。12日より土側溝掘削、法面仕上げを行い(作業員7人)、19日より全員による作業を再開したが、天候に恵まれない中での遺構検出作業が続いた。12月27日にはほぼ完掘し、航空写真撮影のための清掃を行う。28日大雪により航空写真撮影中止となる。29日に除草作業および再度遺構清掃を行い、航空写真撮影を行う。平成13年1月7日より遺構の断ち割りを行う。2月5日に機材撤収を行い、現場作業を終了した。

最終的な発掘調査面積は、上端面積2,331.48m²、下端面積2,102.69m²である。

C 調査体制

【平成10年度】

調査主体 新津市教育委員会(教育長 中村 博)

担当 渡邊朋和(生涯学習課主査)

事務局 酒井峰雄(生涯学習課長)・森山則夫(同課長補佐)・中野勇作(同課長補佐)・荒木政幸(同係長)・柏木麻子(同主任)・小林尚紀(同主査)・立木宏明(同主査)・阿達哲二(同技士)

【平成13年度】

調査主体 新津市教育委員会(教育長 松井 弘)

担当 細野高伯((株)シン技術コンサル・日本考古学協会員)

調査員 鈴木久裕((株)シン技術コンサル)

事務局 石崎義郎(生涯学習課長)・目黒 正(同課長補佐)・荒木政幸(同係長)

田中茂夫(同主任)・渡邊朋和(同主査)・立木宏明(同主査)・阿達哲二(同技士)

野水晃子(嘱託)・高野裕子(嘱託)・佐野博子(嘱託)

発掘作業員 石井勇次郎・石川ヨキ・伊藤幸子・梅川春男・大杉洋子・開發裕・柏木廣一・金子千恵子・

神田千代子・杵綱勇三・杵綱ヨノ・古室毅・昆ヒロ子・斎藤カチヨ・斎藤正五・坂爪昭栄・

笠川論吉・佐藤清・佐藤由紀子・砂原智子・高橋直哉・田代幸子・田中君枝・土橋厚作・

内藤隆・西郡洋子・原民枝・堀越登・本多文雄・諸橋秋栄・諸橋よし子・吉川春雄・

吉川要平・吉田ノイ

3 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ(内径54.5×33.6×10.0cm)にして150箱である。時代はすべて平安時代で、須恵器・土師器・黒色土器・石製品・土製品・木製品など各種におよんでいる。

遺物の整理作業は次の手順で行った。
 ①洗浄。②注記。③グリッド別の種別の重量計測。④接合。⑤遺構遺物の器種別の重量・個体数計測。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。観察表作成。⑧トレース図作成。⑨版下作成。トレース図および版下作成はデジタルで行った。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、トータルステーションを用いてデータ取得し、CADにより作成した遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。各図面およびトレース図の作成は、校正図をもとにデジタルで処理を行った。

B 整理経過

発掘調査と併行して出土遺物の水洗・注記・接合・写真・図面整理を行った。発掘調査終了後から本格的な整理を行い、遺物の接合・分類・実測・写真撮影・遺構平面図の校正および遺構実測図の作成、図版のレイアウト、原稿執筆などを行い、報告書の編集作業にあたった。

C 整理体制

【平成13年度】

整理作業の体制は、前記の平成13年度調査体制と同様である。

整理作業員 今井香織・大杉春美・笠原貴子・金子朋子・木沢聰子・五弊亜希子・高橋小百合・仁平千恵美
 秋元絹子・石井幸子・臼井美江子・加川しの・加藤美代子・栗山佐江子・見野恵美子
 斎藤文江・鈴木澄江・高瀬加織・高橋澄江・中里洋子・堀地文子・宮崎昌子・横塚由佳・
 六反田達子・木暮尚樹・坂本勝一・成田典信・引田有美・吉田瑞美子・山際哲章

第Ⅳ章 遺 跡

1 概要

沖ノ羽遺跡では平安時代の遺構・遺物が検出された。平成2年から4年にかけて新潟県教育委員会が行った磐越自動車道建設に伴う発掘調査では、平安時代の他に古墳時代、中世の遺構や遺物も検出されているが、今回の発掘調査では平安時代以外のものは認められていない。

遺物量はコンテナ(内径54.5×33.6×10.0cm)にして150箱であり、すべてが平安時代のものである。遺構は溝(S D)15条、土坑(S K)22基、性格不明遺構(S X)7基、井戸(S E)2基、掘立柱建物跡(S B)3棟、ピット(P i t)19基であり、すべて平安時代の所産と考えられる。

2 層序 (第5図、図版7・22)

基本層序は下記の通り19層に分けることができる。I層は磐越道工事および本調査起因に伴う客土と考えられ、北に向かう程より厚くなる。II~IV層は耕作土であるため、場所によって層厚に差異が生じる。V~VII層は、南壁においては顕著に認められるが北壁では確認されていない。平安時代以後の遺構確認面となる可能性も多い。新潟県教委による磐越道建設に伴う隣接地の調査の成果から中世(鎌倉時代)に相当すると推察されるが、遺構および遺物は検出されなかった。

IX層以下は基本層序作成のための深掘りにより確認された層序である。全体的にシルト質であるが砂状の度合いにばらつきがあり、XIII~XXI層が最も砂状である。XV~XVII層は、相対的に暗色調で粘性も強い。特にXV層は炭化物の含有が多く認められ、平安時代以前の生活面となる可能性が高い。隣接地の調査成果から古墳時代が妥当と思われるが、遺構および遺物は出土しなかった。

<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%;"> <tr><td></td><td>I</td></tr> <tr><td></td><td>II</td></tr> <tr><td></td><td>III</td></tr> <tr><td></td><td>IV</td></tr> <tr><td></td><td>V</td></tr> <tr><td></td><td>VI</td></tr> <tr><td></td><td>VII</td></tr> <tr><td></td><td>VIII</td></tr> <tr><td></td><td>IX</td></tr> <tr><td></td><td>X</td></tr> <tr><td></td><td>XI</td></tr> <tr><td></td><td>XII</td></tr> <tr><td></td><td>XIII</td></tr> <tr><td></td><td>XIV</td></tr> <tr><td></td><td>XV</td></tr> <tr><td></td><td>XVI</td></tr> <tr><td></td><td>XVII</td></tr> <tr><td></td><td>XVIII</td></tr> <tr><td></td><td>XIX</td></tr> <tr><td></td><td>XX</td></tr> <tr><td></td><td>XXI</td></tr> </table>		I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		XII		XIII		XIV		XV		XVI		XVII		XVIII		XIX		XX		XXI	<p>I層：黒褐色土(7.5YR3/1)。層厚15~20cm。埋土</p> <p>II層：褐灰色粘質土(7.5YR6/1)。層厚10~35cm。現在の水田耕作土。</p> <p>III層：暗青灰色粘質土(5BG4/1)。層厚15~30cm。黒色土粒やや多く含む。現在の水田耕作土。</p> <p>IV層：褐灰色粘質土(10YR4/1)。層厚10~40cm。現在の水田の床土。</p> <p>V層：暗青灰色粘質土(10BG4/1)。層厚8~25cm。僅かに炭化物を含む。</p> <p>VI層：青灰色粘質土(5BG5/1)。層厚20~25cm。</p> <p>VII層：暗緑灰色粘質土(10G4/1)。層厚4~8cm。僅かに炭化物を含む。</p> <p>VIII層：黒色粘質土(N2/0)。層厚8~10cm。遺物包含層。</p> <p>IX層：緑灰色シルト質粘土(10GY5/1)。層厚25~30cm。</p> <p>X層：暗オリーブ灰色シルト質粘土(5GY4/1)。層厚25~30cm。</p>
	I																																										
	II																																										
	III																																										
	IV																																										
	V																																										
	VI																																										
	VII																																										
	VIII																																										
	IX																																										
	X																																										
	XI																																										
	XII																																										
	XIII																																										
	XIV																																										
	XV																																										
	XVI																																										
	XVII																																										
	XVIII																																										
	XIX																																										
	XX																																										
	XXI																																										

第5図

基本層序

- XI層：暗オリーブ灰色シルト(2.5GY4/1)。層厚12~15cm。黄褐色粒5%程度含む。
- XII層：暗緑灰色シルト(7.5GY4/1)。層厚7~9cm。若干有機物、黄褐色粒3%程度含む。
- XIII層：暗緑灰色シルト(10GY4/1)。層厚6~10cm。
- XIV層：暗オリーブ灰色シルト(5GY4/1)。層厚15~20cm。僅かに炭化物を含む。
- XV層：灰色シルト(7.5Y4/1)。層厚15~20cm。粘性強く、色調暗い。炭化物15%程度含む。
- XVI層：灰色シルト(10Y4/1)。層厚10~15cm。粘性強い。炭化物5%程度、僅かに白色粒含む。
- XVII層：灰色シルト(10Y4/1)。層厚25~30cm。粘性強い。僅かに炭化物・白色粒含む。
- XVIII層：暗緑灰色シルト(7.5GY4/1)。層厚15~20cm。
- XIX層：暗オリーブ灰色シルト(5GY4/1)。層厚10~20cm。XVII層に炭化物5%程度散在する。

3 遺構各説

溝(S D)・土坑(S K)・性格不明遺構(S X)・井戸跡(S E)・掘立柱建物跡(S B)・ピット(P i t)の類に記す。これらはすべて平安時代の遺構と考えられるが、これは試掘・本調査を通じて平安時代以外の遺物が出土していないことと、出土遺物の無い遺構も遺物を持つ遺構と同一面で確認されたという根拠に基づいている。遺構確認面が3面あり遺構間での重複関係も認められることから、本来ならば最低3時期に区分されると考えられる。しかし、原位置を離脱している遺物もあり、また覆土の違いによる分別は出来なかったため、包含層(X層)を挟んだ上下2時期として捉えておきたい。

A 溝(S D)

S D 1 (図版7・10・13・23・34・38)

5 E 12~14に位置する東西方向(N-89°-E)の溝で、平安時代の遺構である。S D 7とほぼ平行し、S B 51の区画をなす。確認面で全長5.03m・最大幅0.63m・深さ12cmを測る。覆土は7層に分かれ。覆土中から須恵器無台壺、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している(図版40)。

S D 2 (図版7・10・17・23・34・37)

5 F 4・5・9・10、6 F 1・2・6・7に位置する東西方向(N-94°-E)の溝で、平安時代の遺構である。S D 4とほぼ平行し、S B 48の区画をなす。確認面で全長5.15m・最大幅0.88m・深さ19cmを測る。S D 9と切り合い関係にあり、古い。覆土は16層に分かれ。覆土中から須恵器無台壺、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している(図版40)。

S D 3 (図版7・9・14・17・26)

6 D 20・24・25、6 E 3・4・7・11・12・16・17・21・22、6 F 2・7・12・13・17・18・23、7 D 11・16に位置する、覆土上面で確認された平安時代の遺構である。南から北へ延び(N-13°-W)、6 E 6で東方指向に屈曲(N-54°-E)し北壁調査区外へ延びる。確認面で最大幅0.56m・深さ11cmを測る。S D 12・15と切り合い関係を持ち、一番新しい。覆土は3層~7層に分かれ。覆土中から須恵器無台壺・壺蓋・土師器無台碗・長甕・小甕・磁石・磨石が出土している(図版40・60)。

S D 4 (図版7・10・14・24・34・35・37)

5 E 15、6 E 11・12・13・17・18に位置する東西方向(N-93°-E)の溝で、平安時代の遺構である。S D 2・6とほぼ平行し、S B 48・25の区画をなす。確認面で全長6.08m・最大幅0.99m・深さ30cmを測る。東

端はS X19に切られる。覆土は12層に分かれる。覆土中から須恵器の無台壺・大甕、土師器の無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器の無台椀・有台皿、磨石が出土している(図版40・41・60)。

SD 6(図版7・10・14・25・34・35)

5 D20・25、6 D16・17・18・21・22・23に位置する東西方向(N-91°-E)の溝で、平安時代の遺構である。SD4とほぼ平行し、SB25の区画をなす。確認面で全長6.42m・最大幅0.91m・深さ32cmを測る。SX20、SB25、SK64・65、Pit63・66と切り合い関係にあり、SX20、SK64より古く、他の遺構とはほぼ同時期の所産である。覆土は12層に分かれる。覆土中より須恵器無台壺・横瓶、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している(図版41)。

SD 7(図版7・10・13・25・34・38)

5 D22・23・24・25に位置する東西方向(N-93°-E)の溝で、平安時代の遺構である。SD1とほぼ平行しSB51の区画をなす。確認面で全長6.36m・最大幅0.83m・深さ12cmを測る。SK67を切るが、ほぼ同時期の所産である。覆土は11層に分かれる。覆土中から須恵器大甕、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している(図版42)。

SD 8(図版7・9・13・26)

4 E2・3・7・11・12・16・17に位置する平安時代の遺構である。南から北に延び(N-20°-E)、北端を排水溝で切られる。確認面で最大幅0.71m・深さ5cmを測る。覆土は3層に分けられる。遺構周辺に遺物は認められたが、覆土中からは磨石が出土したのみである(図版60)。

SD 9(図版7・9・14・17・26)

5 E25、5 F25、5 G5、6 E21、6 F1・2・6・7・11・16・21に位置するⅣ層上面に帰属する平安時代の遺構である。南西から北東に延び(N-28°-E)、6 F2で北西へ流路を変える(N-36°-W)。確認面で全長18.11m・最大幅0.58m・深さ12cmを測る。SD2・12、SX14、SB48と切り合い関係にあり、一番新しい。覆土は7層に分けられる。覆土中から須恵器無台壺・大甕、土師器の長甕・小甕・鍋、磨石が出土している(図版42・60)。

SD 12(図版7・9・14・17・26)

6 E11・16・21に位置する平安時代の遺構で、確認はⅣ層上面である。北端をSD3、南端をSD9に切られる(N-12°-E)が、ほぼ同時期のものである。SB48を切る。確認面で全長4.70m・最大幅0.22m・深さ9cmを測る。覆土は7層に分かれる。覆土中から須恵器無台壺・坏蓋、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している(図版42)。

SD 15(図版7・9・14・26)

6 D14・18・19・23・6 E3に位置するⅣ層上面で確認された平安時代の遺構である。南端はSD3に合流し、北端は調査区外へ延びる(N-17°-E)。確認面で最大幅0.35m・深さ7cmを測る。覆土は3層に分かれ。覆土中から遺物は出土していない。

SD 16(図版7・9・14・17・26)

6 E3・4・8・9・13・14・18・19・23・24、6 F3・4に位置するⅣ層上面で確認された南北に延びる(N-4°-E)平安時代の遺構である。確認面で全長9.21m・最大幅0.72m・深さ7cmを測る。覆土は単層である。覆土中から須恵器無台壺、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している(図版43)。

SD 31(図版7・10・14・26)

6 D18・19・20に位置する平安時代の遺構で、北端は調査区外へ延びる(N-70°-W)。確認面で最大幅0.61m・深さ14cmを測る。覆土は単層であり、遺物は出土していない。

SD 32(図版7・9・14・26)

8 E 6・11・12に位置する埴層上面で確認された平安時代の遺構である(N-48°-W)。確認面で全長3.19m・最大幅0.35m・深さ7cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD 33(図版7・9・14・18・26)

8 E 17・18・23、8 F 3・4・9・10に位置する埴層上面で確認された平安時代の遺構である(N-37°-W)。確認面で全長8.19m・最大幅0.38m・深さ13cmを測る。主軸方向および形状からSD 32と同一遺構と考えられるが、確認面においては連続しないため、別遺構名を付記した。覆土は単層であり、遺物は出土していない。

SD 43(図版7・9・18・26)

8 F 2・7に位置する埴層上面で確認された平安時代の遺構である(N-28°-W)。確認面で全長3.12m・最大幅0.32m・深さ8cmを測る。覆土は単層で、遺物は出土していない。

B 土坑(SK)

SK 5(図版7・10・13・27)

5 E 3に位置する平安時代の遺構である。確認面で径0.37×0.35m・深さ13cmを測る。覆土は5層に分かれると。遺物は出土していない。

SK 10(図版7・10・16・27)

3 E 25、3 F 5、4 E 21、4 F 1に位置する平安時代の遺構である。確認面で短径1.05m・深さ14cmを測る。平面不整円形を呈し、西端は調査区外へ延びる。覆土は2層に分かれると。遺物は出土していない。

SK 13(図版7・9・17・27)

6 E 17に位置する平安時代の遺構である。確認面は埴層上面である。SK 53、SB 48と新旧関係にあり、一番新しい。平面椭円形を呈し、確認面で長軸1.02×短軸0.81m・深さ19cmを測る。覆土は5層に分かれると。覆土中から土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している(図版43)。

SK 21(図版7・10・14・27)

7 D 14・19に位置する平安時代の遺構である。確認面で長軸1.09×短軸1.04m・深さ14cmを測り、平面隅丸方形を呈す。覆土は4層に分かれると、中間層に炭化物が顕著である。覆土中から須恵器無台坏・坏蓋・土師器無台碗・長甕・小甕が出土している(図版43)。

SK 22(図版7・10・14・27)

7 D 19・24に位置する平安時代の遺構である。SK 30、Pit 59と切り合い関係にあり、Pit 59より古く、SK 30より新しい。椭円形を呈し、確認面で長軸1.91×短軸1.29m・深さ23cmを測る。覆土は7層に分かれると。遺物は出土していない。

SK 26(図版7・10・14・27)

6 D 20に位置する平安時代の遺構である。平面不整円形を呈し、確認面で径0.95×0.83m・深さ15cmを測る。覆土は4層に分かれると。覆土中から須恵器無台坏・有台坏が出土している(図版43)。

SK 28(図版7・10・14・28・32)

6 D 20・25、7 D 16・21に位置する平安時代の遺構である。SE 17に切られるが、ほぼ同時期の遺構である。平面不整椭円形を呈し、確認面で長軸2.36×短軸1.84m・深さ27cmを測る。Pit 29・42・62と併せてSE 17の付帯施設になる可能性が高いと考えられる。覆土は11層に分かれると、坑底部では炭化物の含有が顕著

である。覆土中より須恵器無台壺・有台壺・大甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、土錘、磨石が出土している。土錘は西壁側より6点まとめて出土している(図版44・60)。

S K 30(図版7・10・14・27)

7 D 18・23・24に位置する平安時代の遺構である。S K 22に切られる。平面長方形を呈し、確認面で長軸 $3.37 \times$ 短軸 1.23m ・深さ 15cm を測る。覆土中より須恵器無台壺・有台壺・壺蓋・横瓶、土師器の無台碗・長甕・小甕・鍋、磨石が出土している。また、磨きのある小石が10点まとめて出土している(図版44・60)。

S K 34(図版7・10・15・27)

9 E 1・2・6・7に位置する平安時代の遺構である。平面不整精円形を呈し、確認面で長軸 $1.57 \times$ 短軸 0.93m ・深さ 11cm を測る。覆土は3層に分かれる。覆土中より遺物は出土していない。

S K 44(図版7・10・14・28)

6 E 15に位置する平安時代の遺構である。S X 27と切り合い関係にあり、新しい。平面隅丸長方形を呈し、確認面で径 $0.91 \times 0.78\text{m}$ ・深さ 32cm を測る。覆土は5層に分かれる。覆土中より遺物は出土していない。

S K 45(図版7・10・14・28)

6 E 7・8・12・13に位置する平安時代の遺構である。形態が他の柱穴と異なるためS Kとして扱ったが、S B 25の南東隅の柱穴に当たる位置にあり柱穴の掘り方の可能性が高い。平面隅丸長方形を呈し、確認面で長軸 $1.52 \times$ 短軸 1.27m ・深さ 33cm を測る。覆土は4層に分かれる。覆土中より須恵器無台壺・有台壺・大甕、土師器の無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している(図版45)。

S K 46(図版7・10・14・28)

6 E 2・3に位置する平安時代の遺構である。P i t 60と新旧関係にあり、新しい。平面隅丸方形を呈し、確認面で径 $1.06 \times 1.02\text{m}$ ・深さ 16cm を測る。覆土は2層に分かれ、下層は炭化物が主体となる。覆土中から須恵器無台壺、土師器の長甕・鍋が出土している(図版45)。

S K 47(図版7・10・14・28)

7 E 11・12に位置する平安時代の遺構である。平面不整円形を呈し、確認面で径 $1.11 \times 0.85\text{m}$ ・深さ 27cm を測る。覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台壺・有台壺、土師器長甕が出土している(図版45)。

S K 49(図版7・10・17・29)

7 F 6に位置する平安時代の遺構である。平面精円形を呈し、確認面で径 $1.02 \times 0.78\text{m}$ ・深さ 13cm を測る。覆土は3層に分かれ、下層に炭化物が顕著である。覆土中から遺物は出土していない。

S K 50(図版7・10・14・29)

6 D 23に位置する平安時代の遺構である。S X 20と切り合い、古い。平面不整円形を呈し、確認面で径 $0.41 \times 0.38\text{m}$ ・深さ 29cm を測る。覆土は5層に分かれる。坑底より木柱が出土しており、P i t 60とS B 25の付帯施設もしくは別の柱列を構成していたと考えられる。覆土中より遺物は出土していない(図版63)。

S K 53(図版7・10・17・29)

6 E 17・22に位置する平安時代の遺構である。S D 3、S K 13、S B 48と切り合い関係にあり、S D 3、S K 13より古く、S B 48と同時期の所産と考えられる。精円形を呈し、確認面で長軸 $1.08 \times$ 短軸 0.68m ・深さ 11cm を測る。覆土は2層に分かれる。覆土中より土師器無台碗・長甕が出土している(図版45)。

S K 54(図版7・10・15・29)

8 D 24・25、8 E 4・5に位置する平安時代の遺構である。確認面で径 $1.32 \times 1.18\text{m}$ ・深さ 8cm を測る。覆土は単層で、若干炭化物を含む。覆土中より遺物は出土していない。

S K 57(図版7・10・14・31)

6 E 18・19に位置する平安時代の遺構である。S X19・27と切り合い、一番古い。平面隅丸方形を呈し、確認面で長径1.00×短径0.83m・深さ3cmを測る。遺物は出土していない。

S K58(図版7・10・14・31)

6 E 14・19に位置する平安時代の遺構であり、S X27に切られる。平面隅丸長方形を呈し、S X27底面で長軸0.67×短軸0.48m・深さ6cmを測る。遺物は出土していない。

S K64(図版7・10・14・29)

6 D16・17・21・22に位置する平安時代の遺構である。S D6、S X20、P i t 63、S K65と切り合い関係にあり、S X20より古く、他より新しい。平面不整形を呈し、確認面で長径2.11×短径1.78m・深さ39cmを測る。覆土は大略20層に分かれる。覆土中より遺物は出土していないが、S D6に本遺構の遺物が混在している可能性もある。

S K65(図版7・10・14・29)

6 D17に位置する平安時代の遺構である。S D6、S X20、S K64と切り合い S X20、S K64より古い。S D6より若干新しいと考えられるが、ほぼ同時期の所産であろう。平面隅丸方形を呈し、確認面で長径0.63×短径0.52m・深さ24cmを測る。遺物は出土していない。

S K67(図版7・10・13・29)

5 D24に位置する平安時代の遺構である。S D7と新旧関係にあり、切られるがほぼ同時期の所産であろう。平面梢円形を呈し、確認面で長径0.79×短径0.47m・深さ48cmを測る。覆土中より遺物は出土していないが、S D7に混在している可能性はある。

C 性格不明遺構(S X)

S X11(図版7・10・14・30)

6 E 1・2・6・7に位置する平安時代の遺構である。S B25を切るが、僅かに新しいかほぼ同時期の所産と考えられる。平面梢円形を呈し、確認面で長軸3.12×短軸1.82m・深さ11cmを測る。覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台壺・有台壺、土師器の無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している(図版46)。

S X14(図版7・10・17・30)

6 F 11に位置する平安時代の遺構である。確認面で、径0.5mの範囲に径3cm～拳大の被熱縛を含む20個程の自然縛が固まって確認された。炉跡的な遺構と考えられたが、断ち割りおよび遺物集中部の精査によっても遺構の掘り方等は確認できなかった。縛に混じって土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している(図版46)。

S X19(図版7・10・14・31)

6 E 12・13・14・17・18・19に位置する平安時代の遺構である。S D4、S X27、S K57と切り合い、一番新しい。平面隅丸方形を呈し、確認面で径2.87×2.68m・深さ21cmを測る。覆土は11層に分かれる。覆土中から須恵器無台壺、土師器の無台椀・長甕・小甕が出土している(図版46)。

S X20(図版7・10・14・30)

6 D17・18・22・23に位置する平安時代の遺構で、北端は調査区外へ延びる。S D6、S K50・64・65、P i t 66と新旧関係にあり、一番新しい。平面は隅丸方形を呈し、確認面で径3.31m・深さ24cmを測る。覆土の堆積状況や形態から当初井戸跡と考えたが、断ち割り調査の結果井戸枠・掘り方等が検出されなかつたためS Xとした。覆土は3層に分かれる。覆土中より須恵器無台壺、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土し

ている(図版46)

S X 23(図版7・10・15・30)

8 D 18・19・23・24に位置する平安時代の遺構である。確認面で長径2.58×短径2.14m・深さ17cmを測る。S X 20と同様に確認時には井戸跡と認識したが、断ち割り調査の結果S Xとした。覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台坏・土師器無台椀・長甕・小甕が出土している(図版47)。

S X 24(図版7・10・17・31)

6 E 8・23・24、6 F 3・4に位置する平安時代の遺構である。平面不整形を呈し、確認面で長径3.08×短径2.10m・深さ12cmを測る。覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台坏・有台坏・坏蓋・土師器の無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している(図版47)。

S X 27(図版7・10・14・31)

6 E 13・14・15・18・19・20に位置する平安時代の遺構である。S X 19、S K 44・57・58と新旧関係を持つ、S X 19、S K 44より古く、他より新しい。平面隅丸長方形を呈し、確認面で長径3.62×短径2.75m・深さ19cmを測る。断面浅い皿形を呈し、覆土は9層に分かれる。覆土中から須恵器無台坏・有台坏・坏蓋・長甕壺・淨瓶・土師器の無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している(図版48)。

D 井戸(S E)

S E 17(図版7・10・14・32)

7 D 16・17・21・22に位置する平安時代の遺構である。S K 28と切り合い、新しい。平面円形を呈し、確認面で径1.68×1.63m・深さ1.06mを測る。断面形態は漏斗形である。覆土は22層に分かれる。断ち割りの結果井戸幹等は検出されなかったが、断面形態から素掘りの井戸とは考え難い。覆土中から須恵器無台坏・有台坏・土師器小甕が出土している(図版49)。

S E 18(図版7・10・14・33)

7 D 25、7 E 5、8 D 21・22、8 E 1・2に位置する平安時代の遺構である。平面隅丸長方形を呈し、確認面で長軸3.13×短軸2.51m・深さ1.13mを測る。断面漏斗形を呈するが、平面調査の段階では井戸跡と確定できず、断ち割り調査の結果、木枠等の検出により井戸跡と判明した。井戸幹は、地山崩落土であるXV層由来の灰色シルト質土により中央部に押し寄せられており枠組み形状は不明であるが、おそらく簡単な蒸築型であったと推察される。覆土は擂鉢状の部分で3層に分かれ、その下は灰色シルト質土の堆積となる。井戸本体内から須恵器無台坏・坏蓋・大甕・炭化種子が出土している。また、井戸幹および押え杭、本体の曲物といった木製品も出土している(図版49・61~63)。

E 桿立柱建物跡(S B)

S B 25(図版7・10・14・34~36)

5 D 25、5 E 5・10・15、6 D 21・22、6 E 1・2・6・7・11・12に位置する平安時代の遺構である。梁行2間×桁行3間の南北棟で、柱通りはN-1°-Wを指す。柱間は梁行で2.0~2.8m、桁行で1.7~2.1mを測り、梁行にSD 4・6が付帯し区画をなす。柱穴は確認面で径41~68cm・深さ38~54cmを測り、覆土は4~6層に分層される。P 3より柱材が検出されている。遺物は量・器種ともに豊富で、須恵器無台坏・有台坏・坏蓋・短甕壺・壺蓋・大甕・土師器の無台椀・鍋・小甕・長甕が出土している(図版49~53・63)。

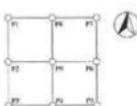
SB25ピット計測値一覧表					
No	直径(cm)	柱間(cm)	覆土	平面形状	備考
P1	46	43	6	円形	
P2	44	35	4	円形	
P3	44	44	5	圓形	柱材
P4	68	47	49	5	圓形
P5	42	41	42	5	円形
P6	49	43	51	4	円形
P7	43	36	51	5	円形
P8	43	35	38	6	圓形
P9	41	36	54	—	円形
SK45	152	127	33	4	圓形



SB 48(図版7・10・17・34・37)

5 E 20・24・25、5 F 4・5、6 E 16・17・21・22、6 F 1・2に位置する平安時代の遺構である。桁行2間×梁行2間の柱穴の東西棟で、柱通りはN-8°-Eを指す。柱間距離は梁行1.5m、桁行2.1~2.5mを測る。柱穴は確認面で径16~34cm・深さ22~39cmを測り、覆土は1~5層に分層される。南北をSD 2・4で区画される。炭化物混じりの面より須恵器無台坏・有台坏・坏蓋・壺蓋・土師器の無台椀・長甕・小甕・鍋、土鍬が出土している(図版53・54・60)。

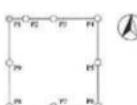
SB49ピット計測値一覧表					
No	直径	柱間	覆土	平面形状	備考
P1	18	17	29	1	圓丸方形
P2	16	15	22	1	圓丸方形
P3	21	22	30	5	圓形
P4	34	32	37	4	円形
P5	22	21	30	1	円形
P6	23	19	36	1	円形
P7	24	22	39	1	円形
P8	22	18	24	1	円形
P9	21	18	24	1	円形



SB 51(図版7・10・13・34・38)

5 E 2・3・4・7・8・9・12・13・14に位置する平安時代の遺構である。桁行2間×梁行2間の東西棟で、柱通りはN-1°-Eを指す。柱間距離は梁行1.8m、桁行2.1mを測る。柱穴は確認面で径18~27cm・深さ26~56cmを測る。覆土は概ね単層で、P 1において柱材が検出されている。南北をSD 1・7で区画されている。炭化物混じりの面より須恵器無台坏・土師器の長甕・小甕・鍋が出土している(図版55・63)。

SB51ピット計測値一覧表					
No	直径(cm)	柱間(cm)	覆土	平面形状	備考
P1	23	22	56	1	円形
P2	19	18	54	1	圓丸方形
P3	23	17	30	1	円形
P4	22	21	26	1	円形
P5	18	18	31	1	圓丸方形
P6	25	19	30	1	円形
P7	19	18	35	1	圓丸方形
P8	27	25	44	1	円形
P9	21	20	14	1	圓丸方形



掘立柱建物跡の遺構確認面(X層)では棟下に炭化物が多く散在し、この面より多くの遺物が出土している。通常新潟県内における掘立柱建物跡の遺物は付帯(雨落ち)溝より一括出土する場合が多く、本遺跡のように平面的な出土状況は包含層遺物としての取り扱いになる。しかし本遺跡においては、包含層遺物の出土層位は埋層下が主体であり、遺構遺物出土レベルまでに10cm程度の間隔を介在する。この間層には遺物はおろか炭化物も含まず、また切り合ひ関係をもつ遺構も無い事から、この炭化物面から出土した遺物は掘立柱建物跡に伴うものと判断して処理した。

F ピット(Pit)

Pit29(図版7・10・14・28・39)

6 D20、7D16に位置する平安時代の遺構である。平面楕円形を呈し、確認面で長軸0.47×短軸0.39m・深さ19cmを測る。SK42、Pit62と共に、SK28の上部構造(覆屋)の柱穴と考察される。覆土は3層に分かれ
る。遺物は出土していない。

Pit35(図版7・10・15・39)

8 D14に位置する平安時代の遺構である。平面円形を呈し、確認面で径0.30×0.28m・深さ15cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit36(図版7・10・15・39)

8 D19に位置する平安時代の遺構である。平面円形を呈し、確認面で径0.38×0.36m・深さ19cmを測る。覆土は単層である。覆土中から須恵器無台坏が出土している(図版55)。

Pit37(図版7・10・15・39)

9 D21に位置する平安時代の遺構である。平面円形を呈し、確認面で径0.24×0.23m・深さ9cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit38(図版7・10・15・39)

8 E8に位置する平安時代の遺構である。平面隅丸方形を呈し、確認面で長軸0.29×短軸0.25m・深さ19cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit39(図版7・10・15・39)

8 E13に位置する平安時代の遺構である。平面楕円形を呈し、確認面で長軸0.34×短軸0.27m・深さ19cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit40(図版7・10・15・39)

8 D14に位置する平安時代の遺構である。平面隅丸方形を呈し、確認面で径0.21m・深さ17cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit41(図版7・10・15・39)

8 D13に位置する平安時代の遺構である。平面隅丸方形を呈し、確認面で径0.16m・深さ19cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit42(図版7・10・14・39)

6 D20・25に位置する平安時代の遺構である。確認面で径0.48×0.44m・深さ18cmを測る。覆土は2層に分かれ
る。Pit29・62と共にSK28の上部施設を構成する要因と考えられ、SK28と併せSE17の付帯施設に
なると考えられる。遺物は出土していない。

Pit52(図版7・10・14・39)

6 D23に位置する平安時代の遺構である。平面円形を呈し、確認面で径0.41×0.37m・深さ29cmを測る。
規模および形態はSK50に類似する。覆土は4層に分かれ。遺物は出土していない。

Pit55(図版7・10・15・39)

8 E4に位置する平安時代の遺構である。平面円形で、確認面で径0.32×0.28m・深さ21cmを測る。覆土
は単層であり、遺物は出土していない。

Pit56(図版7・10・14・39)

6 D23に位置する平安時代の遺構である。平面円形を呈し、確認面で径0.23×0.20m・深さ18cmを測る。覆土は単層である。断ち割りによって検出され、柱痕を伴う。遺物は出土していない。

Pit59(図版7・10・14)

7 D19・24に位置する平安時代の遺構で、SK22に切られる。平面隅丸方形を呈し、確認面で径0.45×0.41m・深さ16cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit60(図版7・10・14・39)

6 E3に位置する平安時代の遺構である。SK46と新旧関係にあり、新しい。平面円形を呈し、確認面で径0.32×0.30m・深さ36cmを測る。覆土は単層であり、柱痕を伴う。遺物は出土していない(図版63)。

Pit61(図版7・10・14・39)

6 E16に位置する平安時代の遺構である。平面隅丸方形を呈し、確認面で径0.20×0.19m・深さ8cmを測る。覆土は単層である。規模・覆土から、近接するSB48の補助柱穴である可能性も高い。遺物は出土していない。

Pit62(図版7・10・14・28・32)

7 D21に位置する平安時代の遺構である。SK28と切り合い関係を持つが、同時期の所産と考えられ、Pit29・42と併せSK28の付帯設備と考えられる。平面は円形で、確認面で径0.33×0.19m・深さ18cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit63(図版7・10・14・39)

6 D21に位置する平安時代の遺構である。SK64と切り合い関係にあり古い。平面梢円形を呈し、確認面で径0.61×0.35m・深さ54cmを測る。規模・形態などから、SB25の補助柱穴である可能性もある。遺物は出土していない。

Pit66(図版7・10・14)

6 D18に位置する平安時代の遺構である。SD6、SX20と切り合い関係にあり、SX20より古く、SD6とはほぼ同時期の構造である。平面円形で、確認面で径0.28×0.25m・深さ26cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit68(図版7・10・17・37・39)

6 E22に位置する平安時代の遺構である。確認面で径0.18×0.16m・深さ24cmを測る。覆土は単層である。SB48と切り合い関係にあるが、同時期の所産であるためSB48の柱穴に含まれる可能性もある。遺物は出土していない。

第V章 遺 物

1 概要

遺物量はコンテナ(内径54.5×33.6×10.0cm)にして150箱である。すべてが平安時代の遺物で、土器の他に若干の土製品・石製品・木製品がある。

平安時代の土器類は土師器・須恵器を中心に、内面に黒色処理をした「内黒」と呼称される黒色土器がある。全体の重量は46,241gで、内訳は土師器34,688g(75.02%)・黒色土器158g(0.34%)・須恵器11,395g(24.64%)である。発掘調査時には須恵器の食膳具が目立っていたが、煮炊具がほぼ土師器に限定される現状から、土師器が主体をなしている。食膳具のみで考えると総重量14,108gに対し、土師器4,730g(33.53%)・黒色土器158g(1.12%)・須恵器9,220g(65.35%)という比率となり、須恵器が主要な構成要素となっていることが判る。また、須恵器には酸化焰焼成と還元焰焼成のものがあるが、前者が415g(4.5%)、後者が8,805g(95.5%)である。酸化焰焼成の須恵器は食膳具しか出土しておらず、同様な出土状況を示す黒色土器とともに、遺跡内では客観的な要素が強い。

土器以外には土錘・砥石等の石製品・木製品などが確認されている。

遺物の出土状況は5~7D・E・Fに集中し、特にSB25周辺に多い。遺構の検出されていない3~7Gなどでは遺物の出土が見られず、遺構に対応した出土状況を示している。言い換えれば、包含層遺物も含めて出土遺物が原位置から大きく逸脱していないと言ふことであろう。

本遺跡で出土した平安時代の土器は、後述するとおり9世紀前半代のものと考えられる。新津市内の同時期の遺跡と比べると、土師器・黒色土器の組成率の少なさが特徴的である。また、新津丘陵産の須恵器が少ないことも特徴の一つに挙げられよう。

2 平安時代の遺物

A 土器の分類と記述

1) 用語の説明

記述は最初に土器分類を行い、次に遺構別・包含層出土の須恵器・土師器・黒色土器の順に記した。形態・手法による分類はアルファベット(A・B...)で、法量による分類はローマ数字(I・II...)で表した。

土器分類および成形・調整技法の表現は、寺道上遺跡(渡邊2001)に準じている。

1. 「ロクロナデ」 - ロクロ・回転台を使用したなで、「ナデ」 - ロクロ・回転台未使用。
 2. 「ロクロケズリ」 - ロクロ・回転台を使用した削り、「ケズリ」 - ロクロ・回転台未使用。
 3. 「カキメ」 - ロクロ・回転台使用、「ハケメ」 - ロクロ・回転台未使用。
 4. 「ミガキ」 - ロクロ・回転台未使用。
 5. 「タタキメ」 - 外面成形痕、「あて真痕」 - 内面成形痕。
 6. 底部の「ヘラ切り」・「糸切り」はいずれもロクロの回転を利用してしたものである。本来ならば「回転ヘラ切り」・「回転糸切り」とすべきものであるが、「回転」を省略した。
- 「無調整」は切り離し後、調整を行わず、「再調整」はロクロナデ・ナデ・ロクロケズリ・ケズリ・ハケ

メなどの調整を行う。

7. 小壺底部の「無調整」は切り離し技法の認められないもの。

8. 須恵器は還元焰焼成・酸化焰焼成の区別をして報告している。須恵器・土師器の区別は、基本的に形態による区分を重視している。新津市周辺では、須恵器無台壺は底部径が大きい「壺形」を呈しヘラ切りで還元焰焼成、土師器無台壺は底部径が小さい「碗形」を呈し糸切りで酸化焰焼成のものが大半を占める。ヘラ切りで酸化焰焼成の土器については須恵器壺とした。

次に本遺跡の遺物の器種分類を行う。器種によって出土量に大きな偏りがあるため、細分類出来ない器種も含まれる。

以下、須恵器・土師器・黒色土器の順に概説する。

2) 分類

須恵器

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台壺・有台壺・壺蓋があり、貯蔵具には淨瓶・長頸壺・短頸壺・横瓶・壺蓋・大甕がある。

無台壺 壺のうち高台を持たないもの。法量により口径11cm前後のI類、12cm前後のII類、13cm以上のIII類に分類される。

有台壺 壺のうち高台を持つもの。法量によりI類・II類・III類・IV類とする。I類は身が深くて大きいもの、II類は身が深くて中形のもの、III類は身が深くて小形のもの、IV類は身が浅いものである。

壺蓋 有台壺に伴う蓋。口径16cm以上で有台壺I類に伴うと考えられるものをI類、口径14~15cmで有台壺II類もしくはIV類に伴うと考えられるものをII類、口径13cm以下で有台壺III類に伴うと考えられるものをIII類とした。

淨瓶 仏教具の水瓶の一種。卵形の胴に短い広口の注口があり、細長い口頭部と非常時の飲用のため鋸先が細長く中空になった蓋形がつく。金属器を模倣して、蓋と口頭部を一体化させたもの。

長頸壺 「く」の字状に外反する口縁部から頸部が長く延び、肩張の体部を持つ壺。高台が付く。

短頸壺 口頭部が短く直立し、球胴形の体部を持つ壺。高台が付く。

横瓶 「く」の字状に外反する口縁部が俵形の体部に付くもの。

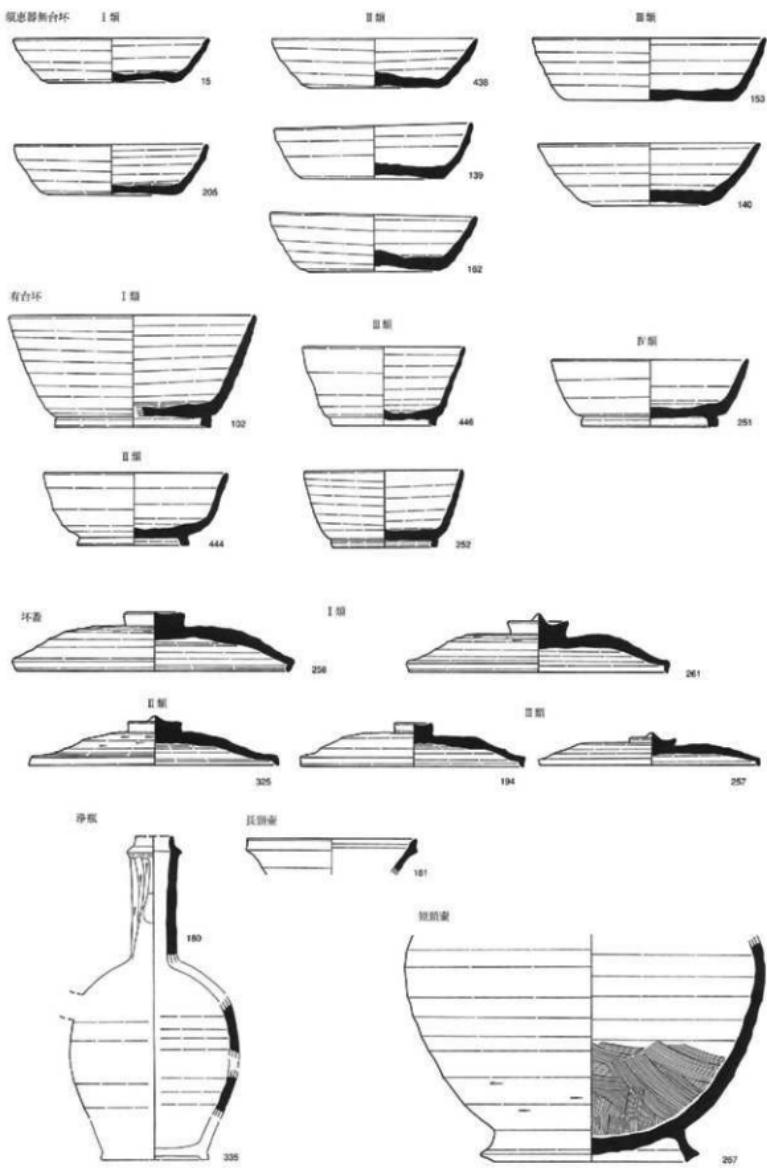
壺蓋 短頸壺に伴う蓋。

大甕 大形の丸底の甕。全体が判るものは出土していない。

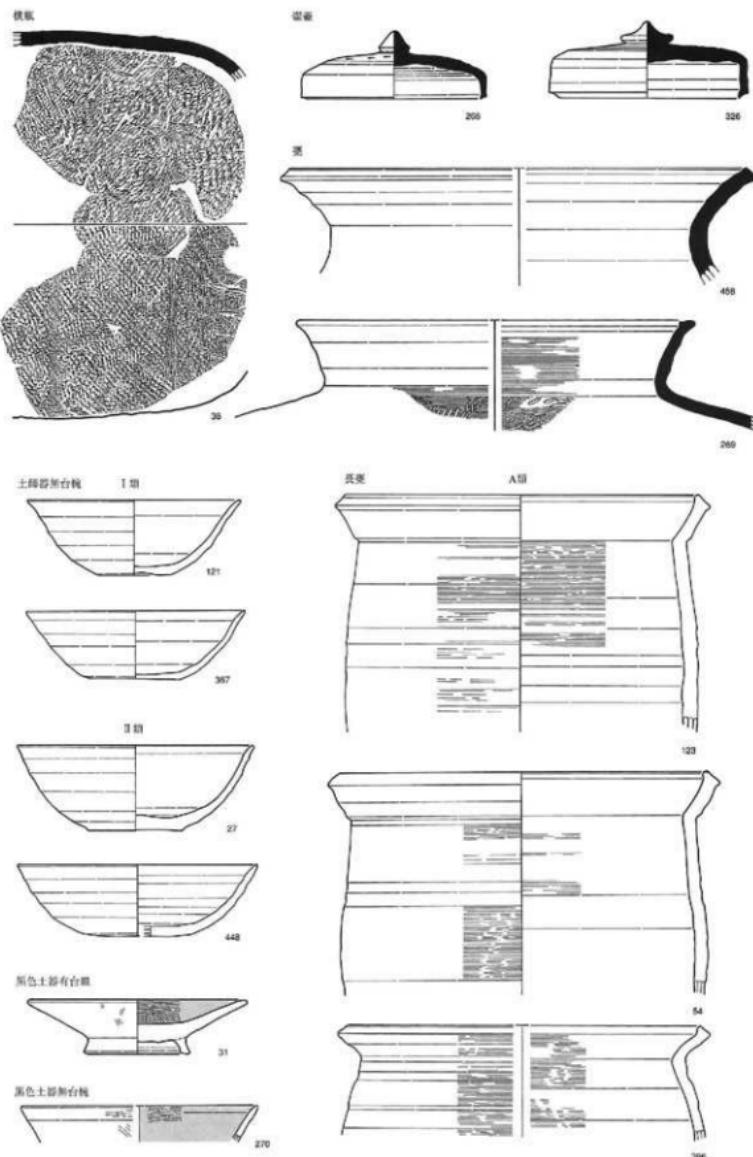
土師器

クロあるいは回転台を用いた調整がなされており、すべて酸化焰焼成である。食膳具と煮炊具に分けられる。食膳具には無台壺・有台壺・煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。

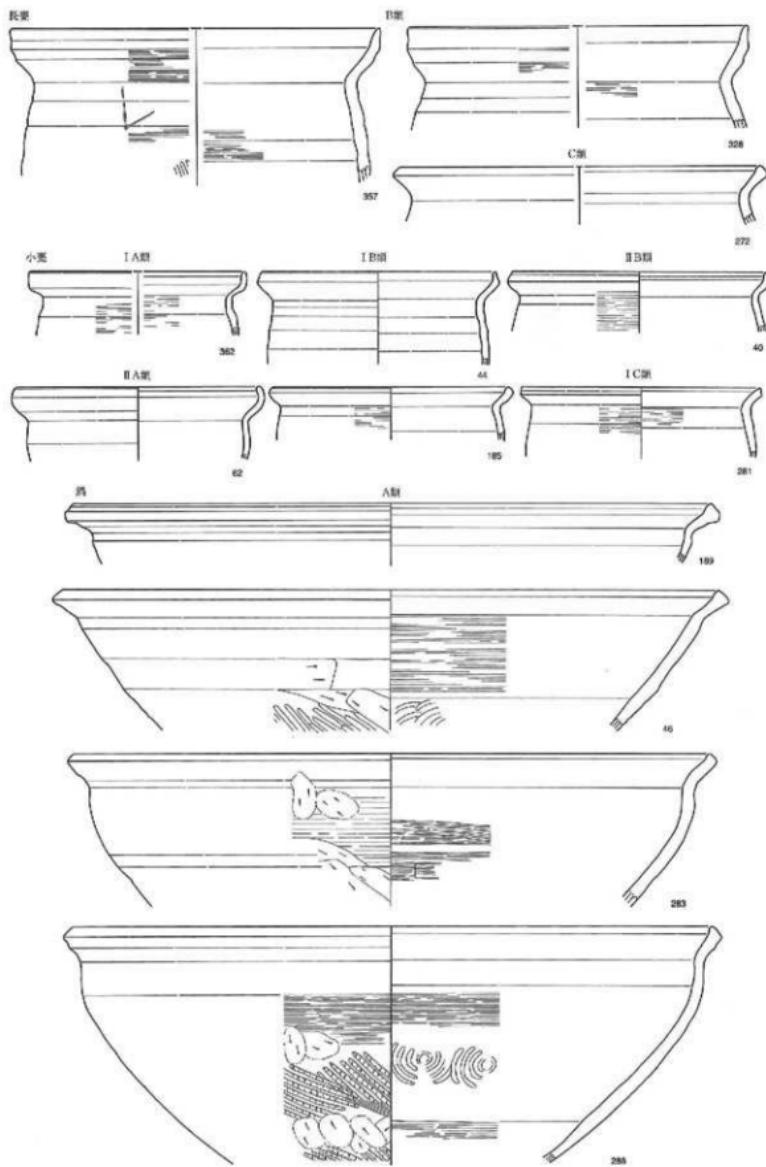
無台壺 内外面クロナデにより成形され、底部は糸切り後無調整を典型とする。法量により2分類され、口径12~14cmのものをI類、口径16~17cmのものをII類とした。I類とII類は相似形ではないので、径高指數(器高/口径×100)や底径指數(底径/口径×100)を用いた細分類が有効と考えられるが、器形復原可能な遺物が少ないため細分類はしていない。



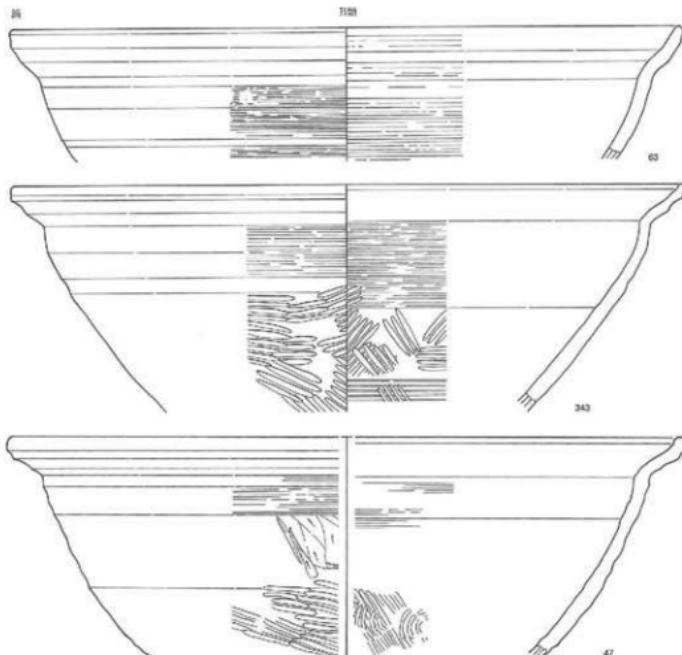
第6図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図(1) (1/3)



第7図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図（2）（1/3）



第8図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図(3)(1/3)



第9図 沖ノ羽遺跡古代土器分類図(4)(1/3)

長甕 体部が長胴で、口縁部ロクロナデ、頸部カキメ、体部タタキメで調整される丸底の甕。口縁端部の形態から、上方に短く屈曲するものをA類、緩く「く」の字状に屈曲するものをB類、肥厚になるものをC類と分類した。また、271は口縁部が内済し受け口状を呈すが類例は認められないため、あえて分類には含めなかった。

小甕 口縁部から体部下までロクロナデで調整される小形で平底の甕。底部は糸切り無調整が主体である。口縁端部の形態から3分類され、受け口状になるものをA類、上方に短く屈曲するものをB類、ほとんど屈曲せず、端部が丸もしくは四角くなるものをC類とした。また法量により口径13~14cmのI類、15cm前後のII類に分類される。

鍋 口縁部ロクロナデ、頸部から体部上半カキメ、体部下半タタキメで調整される。体部をタタキメの後へラケズリ、またタタキメがなくヘラケズリされるものもあり、底部を縦方向のハケメにより調整するものも見受けられる。寺道上遺跡等周辺の遺跡ではナデ・ハケメで調整されるものも複数見られるが、本遺跡では確認されていない。長甕同様に口縁部の形態により細分が可能であり、上方に短く屈曲するものをA類、緩く「く」の字状に屈曲するものをB類とした。

黒色土器

内面のみを黒色処理した「内黒」の無台椀がSD4・SB25から各1点、有台皿がSD4より2個体出土している。

無台椀 外面ロクロナデ・内面ミガキで、内面に黒色処理を施している。

有台皿 高台をもつ皿。体部内外面ミガキで、内面に黒色処理を施している。底部は右回転の糸切り後ミガキにより調整される。

B 出土土器等各説

1) 造構出土土器

SD1 (図版40)

須恵器の無台坏(1)、土師器の無台椀(2)・長甕・小甕が確認されている。

SD2 (図版40)

須恵器の無台坏(3)、土師器の無台椀(4)・長甕・小甕・鍋が確認されている。3は無台坏II類である。

SD3 (図版40)

須恵器の無台坏(5~9)・坏蓋、土師器の無台椀(10)・長甕(11・12)・小甕(13・14)が確認されている。無台坏はすべてII類に分類される。

土器のほかに磁石(481)・磨石(490)が出土している。

SD4 (図版40・41)

須恵器の無台坏(15~23)・大甕(24・25)、土師器の無台椀(26~29)・長甕・小甕(33)・鍋(34・35)、黒色土器の無台椀(30)・有台皿(31・32)が確認されている。無台坏は、17・22がIII類、他はII類である。無台椀は27・29がI類、26・28はII類に分類される。黒色土器は総数4点の内3点が本造構から出土している。30の体部外面がロクロナデである他はすべてミガキによる調整が施されている。有台皿は遺跡を通して31・32の2点が確認されているのみで、31の底部は糸切り後ミガキされる。

土器のほかに磨石(484)が出土している。

SD6 (図版41)

須恵器の無台坏(36・37)・横瓶(38)、土師器無台椀(39)・長甕・小甕(40)が確認されている。36はSK47、7E6・6E20グリット遺物と接合関係にある無台坏II類で、新津産である。38の内面には、小泊産に特徴的な芯持材利用の放射状痕のある同心円上の当具痕が明瞭に観察され、同一個体片がSD4・SB25で確認されている。

SD7 (図版42)

須恵器の大甕(41)、土師器の無台椀(42・43)・長甕・小甕(44)・鍋(45~48)が確認されている。46はA類で、頭部~体部上半をヘラケズリにより調整している。45・47はB類に分類されるが、口縁部の形態から同一個体である可能性が高い。

SD9 (図版42)

須恵器の無台坏(49)・大甕、土師器の長甕・小甕(50)・鍋が確認されている。これらの遺物は切り合う下面造構の遺物である可能性も多い。

土器のほかに磨石(486)が出土している。

S D 12(図版42)

須恵器の無台坏(51・52)・坏蓋(53)、土師器の無台椀・長甕(54)・小甕(55)が確認されている。53は口縁部外面に自然釉の付着が見られる坏蓋I類である。

S D 16(図版43)

須恵器の無台坏(56)、土師器の無台椀(57)・長甕・小甕が確認されている。

S K 13(図版43)

土師器の無台椀(58・59)・長甕(60・61)・小甕(62)・鍋(63・64)が確認されている。60はやや受け口気味のA類である。62は小甕A類、63は鍋B類である。

S K 13には須恵器を組成しないが、遺構確認面(唯層上面)の違いと併せ、時期差として捉えられる可能性も高い。

S K 21(図版43)

須恵器の無台坏(65~68)・坏蓋(69)、土師器の無台椀(70・71)・長甕(72)・小甕(73)が確認されている。須恵器の無台坏はすべてII類に分類される。69は坏蓋I類である。72は長甕A類である。

S K 26(図版43)

須恵器の無台坏(74)・有台坏(75)が確認されている。75の有台坏II類の底部外面に墨書があるが、墨書中央部に剥落があり判読できなかった。

S K 28(図版44)

須恵器の無台坏(76~83)・有台坏(84)・大甕(85)、土師器の無台椀(86)・長甕・小甕・鍋(87~89)が確認されている。76~83は無台坏II類で、79はS X 27・S E 17と接合関係にある。84は有台坏I類の底部であろう。86は無台椀I類、87・88は鍋B類、89は鍋A類で、87はS K 45と接合関係にある。

土器のほかに、土鍤(459~464)、磨石(491)が出土している。

S K 30(図版44)

須恵器の無台坏(90~94)・有台坏(95)・坏蓋(96)・横瓶(97)、土師器の無台椀・長甕・小甕(98・99)・鍋(100)が確認されている。無台坏は92のみIII類で、他はII類である。95は有台坏III類の底部であろう。96は坏蓋I類、98は小甕I B類である。

土器のほかに、磨きのある小石(471~480)・磨石(487)が出土している。

S K 45(図版45)

須恵器の無台坏(101)・有台坏(102)・大甕(103)、土師器の無台椀・長甕・小甕(104)・鍋(105・106)が確認されている。101は無台坏II類、102是有台坏I類である。104はI B類、105は鍋A類、106は体部外面下半をケズリにより調整された鍋B類である。

S K 46(図版45)

須恵器の無台坏(107~109)、土師器の長甕(110)・鍋が確認されている。107~109は無台坏II類に分類される。

S K 47(図版45)

須恵器の無台坏(111)・有台坏(112)、土師器の長甕が確認されている。112是有台坏I類で、外面に自然釉が顯著である。

S K 53(図版45)

土師器の無台椀(113)・長甕・小甕(114)が確認されている。

S X 11 (図版46)

須恵器の無台坏 (115~117)・有台坏 (118)、土師器の無台椀 (119)・長壺・小壺・鍋 (120) が確認されている。118は有台坏 I類、120は鍋 B類である。

S X 14 (図版46)

土師器の無台椀 (121・122)・長壺 (123・124)・小壺 (125) が確認されている。121は無台椀 I類、123は長壺 A類である。これらは疊に混じって出土しており、土師器の煮炊具が主体である。遺構周辺の 5F・6F グリットでは須恵器の無台坏・坏蓋・大壺・長頸壺等の遺物が確認されており、本遺構もしくは付帯する遺構に伴う可能性が高い。

S X 19 (図版46)

須恵器の無台坏 (126~129)、土師器の無台椀・長壺・小壺が確認されている。126は無台坏 I類、他は II類に属す。本遺構は S D 4・S X 27 と切り合い関係にあり、混在の可能性もある。

S X 20 (図版46)

須恵器の無台坏 (130~132)、土師器の無台椀 (133~136)・長壺・小壺 (137)・鍋 (138) が確認されている。130~132の無台坏はいずれも II類であり、133~136の無台椀はいずれも I類である。138は鍋 B類で、外面カキメ調整である。

S X 23 (図版47)

須恵器の無台坏 (139~149)、土師器の無台椀・長壺・小壺 (150) が確認されている。無台坏は141・148が I類、140が III類の他はすべて II類である。142は底部ヘラ切り後ナデが施される。

S X 24 (図版47)

須恵器の無台坏 (151~156)・有台坏 (157)・坏蓋 (158)、土師器の無台椀・長壺・小壺 (159)・鍋 (160) が確認されている。151は無台坏 II類、152・153は III類、157は有台坏 II類、158は坏蓋 I類である。159の小壺は S X 19 と接合関係にあり、底部糸切り後ナデが施されている。160は鍋 B類である。

S X 27 (図版48)

須恵器の無台坏 (161~177)・有台坏 (178)・坏蓋 (179)・淨瓶 (180)・長頸壺 (181)、土師器の長壺 (182・183)・小壺 (184~186)・鍋 (187~189) が確認されている。無台坏は161・170・177が I類、164・171が III類のほかはすべて II類である。178是有台坏 II類、179は坏蓋 I類に属する。180は淨瓶の頸部と考えられる。淨瓶は水瓶の一種で、仏前に供える淨水を容れる器である。笠のような縁を伴う細長い注出口と長い頸部に特徴があり、9世紀には金属性器を模倣して注出口のある蓋形と頸部を一体化させた灰釉陶器が東海(猿投窯)で生産されていたことは知られている。淨瓶の注出口は本来細長いため水瓶とも考えたが、水瓶の場合口縁部から注出口が突出する例は無いようである。注出口の短い淨瓶の類例として、石川県小松市戸津8号窯灰原出土の資料や福島県会津若松市大戸古窯跡群の資料が挙げられる。大戸窯は、阿賀野川(福島県内では「阿賀川」と称される)の右岸に位置し、その築営には猿投窯の影響を多大に受けている。本遺跡の4.3km北に位置する亀田町牛道遺跡【土鏡1999】からも大戸窯産の長頸壺が出土しており、地理的要因などから考察して、この淨瓶も大戸窯産の可能性が高いと考えられる。181は長頸壺の口縁部で内外面に自然釉が付着している。182は長壺 A類、183は口唇が僅かに屈曲するが B類とした。185・186は小壺 I・B類で185は口縁部内外面に煤の付着が見られる。188・189は鍋 A類である。

S E 17 (図版49)

須恵器の無台坏 (190)・有台坏 (191)、土師器の小壺 (192) が確認されている。190は無台坏 II類、191は有台坏 III類である。

S E 18 (図版49)

須恵器の無台坏(193)・坏蓋(194)・大壺(195)が確認されている。いずれも井戸枠周辺からの出土である。193は無台坏II類である。194は坏蓋II類で、摘みが擬宝珠ではなく中央部のやや窪むボタン状を呈する。195は軟質な胎土で焼成もやや酸化焰気味の、口縁部が折縁状を呈する壺である。

土器のほかに井戸枠等の木製品が確認されている。

S B 25 (図版49~53)

須恵器の無台坏(196~250)・有台坏(251~256)・坏蓋(257~266)・短頸壺(267)・壺蓋(268)・大壺(269)・土師器の無台碗(270)・長壺(271~275)・小壺(276~282)・鍋(283~292)が確認されている。これらの遺物は、掘立柱建物跡の柱穴に囲まれた範囲内に位置する炭化物を多く含む面より、全体に西側して出土している。無台坏のうち、I類は248、II類は196・198・200~208・210・212~215・217~228・231・233~239・241~244・246・247・249・250、III類は197・199・209・211・216・229・230・232・240・245であり、他の遺物に比較してIII類が多く含まれている。これらの無台坏は底部へラ切り後無調整を基本としているが、197のみ底部へラ切り後ナデ調整を行っている。203はやや軟質な胎土であり、また214は焼成から有台坏の可能性もある。249・250は酸化焰焼成であり、196・200・203・206などと共に新津丘陵で生産されたものと考えられる。有台坏は251がIV類、252~254はIII類、255・256はI類である。252は内外面に自然釉が付着している。258・265・266は坏蓋I類、257・261・264はII類、259・260・263はIII類であり、263を除き外周縁に自然釉が付着している。257は坏蓋II類で、摘みは擬宝珠型を呈し内面に墨書きがある。258はSD4・SX27・SB48と接合関係にある。摘みは擬宝珠型としての意識は窺えるが、くほんだけ中央部に僅かに突起する程度でボタン状に近似する。259の摘みは上端部を欠損するものの擬宝珠型になるとされるが、他の坏蓋に較べて幅が狭い。260は端部の返りがやや厚く折縁状を呈す。267は今回の調査で唯一の短頸壺であり、30m以上離れた8Gグリッド遺物と接合している。体部内面にハケメが顕著であり、底部はヘラ切り後高台を貼り付ける。胎土から阿賀野川以北五頭山麓の 笹神丘陵窯跡群に比定されよう。後述のSB48出土の壺蓋326も 笹神丘陵窯跡群の製品であるが、本遺跡で確認された 笹神窯とされる遺物はこの2点のみであり、短頸壺と壺蓋がセットで遺跡内に搬入された可能性が高い。268の壺蓋は波佐小泊産であろう。270は口径14cm前後の黒色土器無台碗で、内面に黒色処理を施した後、内面および口縁部外側をミガキ調整する。271は口縁部が内済し受け口状となる長壺である。279・280は小壺II B類、281はII C類である。283~288は鍋A類であるが、285は口縁部の屈曲が少なくB類に近い。289は底部である。

S B 25の口残値にみる機能別組成比率は食膳具が70%を超える。しかし器種別の構成比でみた場合土師器無台碗が1%にも満たない。これは、食膳具は須恵器、煮炊具は土師器という様に使用目的に応じた明確な区分がなされていたと考えられ、後述するSB48・51においても同様の傾向が窺える。

S B 48 (図版53・54)

須恵器の無台坏(293~320)・有台坏(321~324)・坏蓋(325)・壺蓋(326)・土師器の無台碗(327)・長壺(328)・小壺(329~330)・鍋(331~333)が確認されている。293~306・309・311~314・317~320は無台坏II類、他はIII類である。293は新津丘陵産と考えられるが、内外面に火棒が顕著である。有台坏のうち、321・324はI類、322はIII類、323はIV類である。322は酸化焰焼成である。いずれも底部へラ切り後高台を貼付けた。325は坏蓋II類で、ボタン状に貼り付けた摘みの中央部を僅かに突出させ擬宝珠型としている。326の壺蓋は外周に自然釉が顕著であり、SB25と接合関係にある。前述のように 笹神丘陵窯である。327は無台碗II類の底部、328はやや受け口を呈する長壺A類である。330は小壺I B類、331は鍋B類である。

土器のほかに土鍬2点(465・466)が出土している。

S B 51(図版55)

須恵器の無台坏(334)・淨瓶(335)、土師器の長臺・小臺(336)・鍋(337)が確認されている。334は無台坏II類である。335は淨瓶の胴部である。出土遺物で水瓶はS X27の淨瓶腹部(180)のみであり、淨瓶(水瓶)は遺跡内に一般的に組成される器種ではないため淨瓶胴部とした。336は小臺IA類、337は鍋B類である。

Pit 36(図版55)

須恵器の無台坏(338)が確認されている。無台坏III類に分類され、底部はヘラ切り後無調整である。還元焰であるがやや燃焼が弱く、製作技法から考察して新津丘陵産である。

2) 包含層出土遺物

沖ノ羽遺跡における掘立柱建物跡等の主要な遺構は5、6D～Fグリッドに集中しており、包含層遺物の出土状況と合致している。これらの包含層遺物の中には下面遺構の覆土出土遺物と接合するものが多く、本来下面遺構に属していたものが周氷現象等により原位置を離脱したものと考えられる。また、戸井周辺に位置する7、8D・Eグリッドから7F・Gグリッドにかけては後背湿地であった可能性が高く僅かに埋もれたまま、下面遺構からの浮遊以外に他地点からの流入遺物も含まれると推察される。8、9D・Eグリッドにかけては徐々に微高地となっており、別列の自然堤防に掘立柱建物跡等の遺構が存在していた可能性も高く、遺物の出土も頗るよう。

この他、3Fや4Eグリッド、8Fグリッド等からも遺物の出土が認められるが、いずれも少量の破片である。また9、10グリッド南側では新津市教育委員会の試掘調査により遺物の出土が認められている。

4Eグリッド(図版55)

須恵器の無台坏(339)が出土している。底部はヘラ切り後無調整で、口唇部が僅かに外反する大ぶりな無台坏II類である。胎土にやや粗粒の長石を含み、口唇部外面に自然釉が顕著である。

5Dグリッド(図版55)

須恵器の無台坏(340・341)、土師器の小臺(342)・鍋(343)が出土している。340は大ぶりな無台坏III類、341はI類である。343は体部内外面ともにカキメを施した後タタキによる調整を行っている鍋B類である。

土器のはかに石製品(470)が出土している。

5Eグリッド(図版55)

須恵器の無台坏(344～346)、土師器の無台椀(347)・小臺(348)が出土している。無台坏はいずれもII類で、底部はヘラ切り後無調整である。344の底部外面には墨書きが認められる。347は底径から無台椀I類であろう。348の底部は糸切り後ナデ調整を行う。

土器のはかに土鍤(467～469)、磨石(488)が確認されている。

5Fグリッド(図版56)

須恵器の無台坏(349)・横瓶(350)、土師器の無台椀(351～356)・長臺(357～361)・小臺(362・363)が出土している。349は無台坏III類であろう。350は横瓶の胴部である。接合面は有しないが、成形技法や出土位置などから38と同一個体である可能性が高い。351～356はいずれも無台椀I類と考えられ、底部は糸切り後無調整である。355は径高指数36・底径指数39を計る。春日氏によれば、径高指数が35以上のものは9世紀第4四半期から10世紀のごく初頭に存在する可能性が大きいとの指摘がある〔春日1997a〕が、この限りではない。357～359は長臺A類で、357はやや受け口状を呈し頭部外面に「×」がヘラ書きされている。362は小

壺ⅠA類、363はⅡA類であり口縁部外面に大量の煤の付着が見られる。

6 D グリッド(図版56)

須恵器の無台壺(364~366)、土師器の無台椀(367)・鍋(368)が出土している。365は無台壺Ⅱ類、364・366はⅢ類である。367は無台椀Ⅰ類で、径高指数32・底径指数42である。368は僅かに口縁部が内湾する鍋B類である。

土器のほかに砥石(482)が出土している。

6 E グリッド(図版57)

須恵器の無台壺(369~377)・壺蓋(378・379)・大甕(380)、土師器の鍋(381)が出土している。369・374は無台壺Ⅲ類、他はⅡ類である。378・379はいずれも壺蓋Ⅱ類、380は大甕の頸部~胴部にかけての破片で外面タクキの後ハケメにより成形する。381は鍋A類である。

土器のほかに砥石(483)が確認されている。

6 F グリッド(図版57)

須恵器の無台壺(382~384)・有台壺(385・386)、土師器の無台椀(387~395)・長甕(396)・小甕(397)・鍋(398)が出土している。法量の判る遺物は少ないが、底径から382は大ぶりのⅡ類もしくはⅢ類、383・384はⅡ類であろう。384はやや砂状の軟質な胎土で、新津丘陵産の可能性もある。385は有台壺ⅡもしくはⅣ類、386はⅢ類であろう。無台椀は底径5~6cmを測り、底部は糸切り後無調整である。いずれもⅠ類であろう。396は長甕A類、397はS D 2の覆土遺物と接合している。398は段状になる口縁部が特徴的な鍋A類である。

土器のほかに石製品(492)が出土している。

7 D グリッド(図版58)

須恵器の無台壺(399・400)・有台壺(401)・壺蓋(402・403)が出土している。400の底部は右回転のヘラ切りで、やや酸化焰気味の焼成である。新津丘陵産の無台壺Ⅱ類である。402は壺蓋Ⅱ類、403はⅢ類である。

7 E グリッド(図版58)

須恵器の無台壺(404~418)・壺蓋(419)・土師器の小甕(420・421)が出土している。無台壺は416・417がⅠ類、他はⅡ類である。404はやや砂状の軟質な胎土である。409は口縁部外面に自然軸の付着が顕著である。419は壺蓋Ⅰ類である。

7 F グリッド(図版58)

須恵器の無台壺(422~432)・有台壺(433)が出土している。無台壺は426・429・431・439がⅠ類、427がⅢ類、他はⅡ類で、432は酸化焰焼成の須恵器である。433は有台壺Ⅰ類であろう。

7 G グリッド(図版59)

須恵器の無台壺(434)が出土している。底部ヘラ切り後無調整の無台壺Ⅱ類である。

8 D グリッド(図版59)

須恵器の無台壺(435~443)・有台壺(444~446)・壺蓋(447)、土師器の無台椀(448)が出土している。無台壺の内435・436・439はⅠ類、他はⅡ類である。435はやや軟質な胎土を呈し、439は緻密な胎土である。443は酸化焰焼成の須恵器である。445は有台壺Ⅱ類、444・446はⅢ類である。444は、緻密な胎土で底部右回転ヘラ切り後高台を貼り付けている。445はやや軟質な緻密な胎土で、高台が剥離している。446は酸化焰焼成の須恵器である。447は壺蓋Ⅱ類と考えられる酸化焰焼成の須恵器である。摘みはボタン状を呈し、やや丸みをもった鐘部からやや凹み、中央部が内湾気味に僅かに盛り上がり擬宝珠型の意識が窺える。摘みの最大径は4cmを測る。448は無台椀Ⅰ類で、径高指数31・底径指数36である。

本グリッドは、酸化焰焼成の須恵器が遺跡内で一番多く出土している。無台壺の435・439・443、444~

446の有台坏、447の坏蓋はいずれも新津丘陵産と考えられる。8 Dグリッドは調査区の北東隅に位置する。包含層下の調査ではピットが多く検出されたが、掘立柱建物跡となるような柱穴列は確認できなかった。調査区外に関連する遺構が延びる可能性が高いと考えられよう。

8 E グリッド(図版59)

須恵器の無台坏(449~453)が出土している。449~452は無台坏II類、453は酸化焰焼成の須恵器で無台坏I類であろう。

9 D グリッド(図版59)

須恵器の有台坏(454)が出土している。有台坏I類である。

9 E グリッド(図版59)

土師器の無台椀(455)が出土している。底部は糸切り後ナデが行われる。無台椀I類である。

10 F グリッド(図版59)

須恵器の無台坏(456・457)・大甕(458)が出土している。456は無台坏II類、457はI類で底部外面に墨書きが記されているが判読できなかった。458は外面および口縁部内面に自然釉が残る大甕の口縁部片である。

C 出土土製品

S K 28(図版60)

土錘6点(459~464)が出土している。土錘は西壁際の炭化物を多量に含む層よりまとまって出土している。459~461は完形で長さ3.90~3.95cm・径1cm弱の小形のものである。462~464はいずれも欠損品であるが、径や孔径から同規格のものである。

S B 48(図版60)

土錘2点(465・466)が出土している。465は完形で、長さ4.1cm・径0.92cmを測る。466は欠損品であるが、形状から同規格の土錘である。

5 E グリッド(図版60)

土錘3点(467~469)が出土している。468は完形で長さ4.4cm・径1.0cmを測る。467・469は欠損品である。

今回出土した11点の土錘は、いずれも長さ3.9~4.1cm・径0.9~1.0cm・孔径0.3~0.4cmに収まる同規格の小形の製品である。これらは重さが3g程度しかなく、孔径等から考えても投網などの錘とは考え難く、釣り糸の錘などとして内水漁労に使用されたものであろう。

D 出土石製品

盤状石製品(図版60)

S D21グリッドから石製品(470)が出土している。口縁部状に切り出された端部を持ち、研磨された面には漆状の付着物が認められる。盤や石鍋などの口縁部と考察されるが、全体の形状は不明である。

小研磨石(図版60)

S K30より10点の小石(471~480)が出土している。いずれも幅1.5~2.5cm程を測る小石で、全体に研磨されている。石材は砂岩やチャートの転石を用いたと考えられるが統一性は無く用途は不明である。

砥石(図版60)

砥石は3点(481~483)確認されている。481はS D 3より出土した珪質凝灰岩製の砥石で、6面全面を砥面として使用している。482は6 D19グリッド、483は6 E16グリッド出土の珪質凝灰岩製の砥石である。いずれも4面を砥面としている。

磨石(図版60)

S D 4(484)、S D 8(485)、S D 9(486)、S K30(487)、5 E15グリッド(488)より自然石もしくは軽石の転石を用いた磨石が出土している。遺跡層序内に砾石層は存在せず搬入石であるため、形状から磨石とした。いずれも表面は顕著ではない。

その他(図版60)

遺構外出土の489は安山岩製の敲石で、側縁部に僅かに敲打痕が認められる。490はS D 3、491はS K 2 8、492は6 F11グリッド出土である。491は断面不整円形でポンチ状・492は斧状の形態を有するが、器種および用途は不明である。

E 出土木製品

S E 18(図版61~63)

炭化種子(493)・曲物(494・495)・板状製品(496~497)・井戸枠(498~503)・樹皮製品(504)・井戸枠杭(505~510)が確認されている。これらの木製品は、井戸本体内中央部よりもまとめて出土している。493はモモの果核である。494は径10cm程の円形を呈する曲物の底板で、スギ材である。495は一辺20cm程の隅丸方形もしくは隅丸長方形の曲物底板である。閉船跡と思われる2孔一対の穿孔が認められるため、当初側板とも考えたが、両端が止まっているため底板と判断した。ヒノキ材の製品である。496・497はスギ材の板状製品で、496は径目に沿って、497は目にやや斜行した加工を施している。498~503は井戸枠側部材の板材である。腐敗などによる欠損が激しく、本来の長さは不明である。現存長は27~96cm、幅9~15cm、厚さ1.4~6cmを測り、かなりばらつきが認められる。また樹種同定の結果から材にも統一性は認められていない。500は出土状況を示すため敢えて接着したまま図示したが、本来は2本になり、釘やホゾによる接合は認められない。504は樹皮で現存長40.6cm・幅6.8cm・厚さ0.7cmを測る。495と一緒に出土しており、曲物の側として使用されていた可能性もある。505~510は枠杭であるが、側部材同様腐敗が激しい。現存で長さ11~70cmとばらつくが、径は6.3~7.8cmとややまとまりを持つ。樹種同定の結果、材はニレ属・ツブラジイ・ヤブツバキなど多種である。

S K 50 (図版63)

坑底より柱材(513)が出土している。現存で長さ22.2cm・幅5.7cmを測るが、腐敗が激しく原形は不明である。

S K 55 (図版63)

坑底より柱材(514)が出土している。現存で長さ34.4cm・径10cmを測る。腐敗が激しく原形は不明である。

S B 25 (図版63)

P 3 坑底より柱材(515)が出土している。現存で長さ33.1cm・径8cmを測る。腐敗が激しいものの、端部は杭状に尖っている。材はトネリコ属である。

S B 51 (図版63)

P 1 坑底より柱材(516)が出土している。現存で長さ16.2cm・径10cmを測る。腐敗が激しく原形は不明である。

Pit 60 (図版63)

柱材(511・512)が出土している。腐敗が激しく、511は現存長22cm・径12cm、512は現存長20cm・径10cm程度を測る。同一部材であろう。

井戸枠は、出土状況から板材を井形に置き井戸枠としていたと思われる。縦板とした場合横桟組とも思われるが、検出時には横板であったため、本来組隅柱どめであったものが魔絶時に押し倒されたと考察されよう。また、曲物は本体内で水溜に使用されていたものであろう。

杭材を概観すると、井戸枠に使用された杭が径8cm程度であるのに対し、掘立柱建物の柱材は径10cm程度を測りひと回り大きい。これはかかる重力の違いによるのは明らかであり、掘立柱建物には本来より太い材も使用されていたと想像される。また、515のような杭材を掘立柱建物の柱材として使用するのは、シルト質である地山土の性質を熟知した上での選択である。

第VI章 沖ノ羽遺跡の自然科学分析

1 沖ノ羽遺跡におけるテフラ分析

早田 勉 ((株)古環境研究所)

A はじめに

新潟県域には、御岳、妙高、黒姫、焼山など信越地方の火山のほか、北関東地方や中国地方さらに九州地方に分布する火山などから噴出したテフラ(tephra, 火山碎屑物、いわゆる火山灰)が多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、それらとの関係を求めるこにより、地層の堆積年代や土壤の形成年代だけでなく、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。

そこで新津市沖ノ羽遺跡においても、地質調査を行って土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析を行って、示標テフラの検出同定を試みることになった。地質調査の対象となった地点は、調査区南壁第1地点(注1)と調査区南壁第2地点(注2)である。

B 土層層序

1) 調査区南壁第1地点

調査区南壁第1地点では、下位より青灰色粘土質シルト層(層厚5cm以上)、暗灰色泥層(層厚12cm)、若干色調が暗い青灰色粘土質シルト層(層厚4cm)、青灰色粘土質シルト層(層厚20cm)、若干色調が暗い青灰色泥土質シルト層(層厚16cm)、灰色粘土層(層厚36cm)、灰色土(層厚19cm)が認められる(図1)。

2) 調査区南壁第2地点

調査区南壁第2地点では、下位より青みがかった灰色粘土質シルト層(層厚15cm以上)、若干色調が明るい青灰色粘土質シルト層(層厚17cm)、青灰色粘土質シルト層(層厚21cm)、黒灰色泥層(層厚9cm)、青灰色粘土質シルト層(層厚13cm)、青みがかった灰色粘土質シルト層(層厚22cm)、青灰色粘土質シルト層(層厚14cm)、灰色土(層厚31cm)、暗灰褐色土(層厚25cm)、灰褐色土(層厚12cm)、暗灰褐色土(層厚13cm)が認められる(図2)。

C テフラ検出分析

1) 分析試料と分析方法

土層の層位や年代に関する資料を得るために、調査区南壁第1地点において基本的に5cmごとに設定・採取された試料のうち11点について、テフラ検出分析を行った。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

1. 試料10gを秤量。
2. 超音波洗浄装置により泥分を除去。
3. 恒温乾燥器により80°Cで乾燥。

4. 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。調査区南壁第1地点では、試料7と試料1にごく少量ずつスポンジ状に発泡した白色軽石型ガラスを検出できた。これらの火山ガラスについては、とくに顯著な濃集層準が認められないことから、テフラの降灰層準と考えることは難しい。なお、これらの試料には、重鉱物として角閃石や斜方輝石が比較的多く含まれていることから、約5,000年前(*1)に沼沢火山から噴出した沼沢1テフラ(Nm-1, 只見川第四紀研究グループ, 1966a, 1966b, 町田・新井, 1992)に由来する可能性が考えられる。

D 小結

新津市沖ノ羽遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、沼沢1テフラ(Nm-1, 約5,000年前(*1))に由来する可能性のある火山ガラスなどを検出することができた。しかしながら、降灰層準を示すようなテフラ粒子の濃集層準は検出されなかった。

(*1) 放射性炭素(¹⁴C)年代。

文献

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2—研究対象別分析法」, p.138-149.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 只見川第四紀研究グループ(1966a)福島県野沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の¹⁴C年代—日本の第四紀研究層の¹⁴C年代XXVI—。地質科学, 82, p.8-9.
- 只見川第四紀研究グループ(1966b)只見川・阿賀野川流域の第四系の編年—とくに沼沢浮石層の層位学的諸問題について。第四紀, 8, p.76-79.

(注1) 6G22グリッド南壁

(注2) 8G14グリッド南壁(SG~SG')

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
調査区	1	—	—	—	+	pm(sp)	白
南壁	2	—	—	—	—	—	—
	3	—	—	—	—	—	—
	4	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	+	pm(fb)	白
	8	—	—	—	—	—	—
	9	—	—	—	—	—	—
	10	—	—	—	—	—	—
	11	—	—	—	—	—	—

++++: とくに多い。+++: 多い。++: 中程度。+: 少ない。-: 認められない。最大径の単位は、mm。bw: バブル型。pm: 軽石型。sp: スポンジ状発泡。fb: 純粋束状発泡。

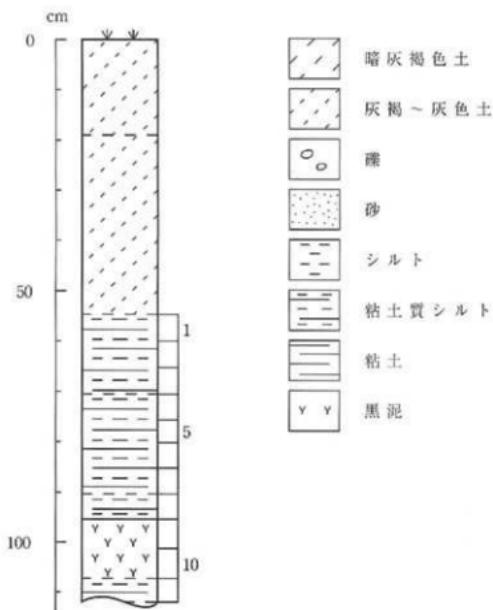
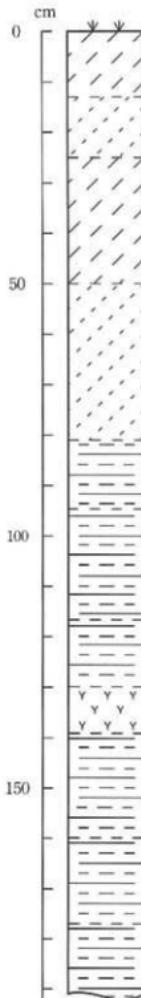


図1 調査区南壁第1地点の土層柱状図（数字はテフラ分析の試料番号）

図2 調査区南壁
第2地点の土層柱状図

2 沖ノ羽遺跡における放射性炭素年代測定

早田 勉 ((株)古環境研究所)

A 試料と方法

地点	試料	種類	前処理・調整	測定法
SD6覆土	¹⁴ C-1	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄・石墨調整	加速器質量分析(AMS)法

B 測定結果

試料	¹⁴ C年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ¹⁴ C年代 (年BP)	暦年代(西暦)	測定No (Beta-)
"C-1	1220±40	-25.1	1220±40	交点: AD 790 1 σ : AD 770 ~ 880 2 σ : AD 690 ~ 900	161093

1) ¹⁴C年代測定値

試料の¹⁴C/¹²C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前かを計算した値。¹⁴Cの半減期は、国際慣例に従って5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定¹³C/¹²C比を補正するための炭素安定同位体比(¹³C/¹²C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正¹⁴C年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、¹⁴C/¹²Cの測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベース("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40 (3))により、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、較正¹⁴C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 1σ (68%確率)・ 2σ (95%確率)は、較正¹⁴C年代値の偏差の幅を較正曲線上に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1σ ・ 2σ 値が表記される場合もある。

3 沖ノ羽遺跡におけるプラント・オパール分析

杉山 真二 ((株)古環境研究所)

A はじめに

植物珪藻体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である（杉山、2000）。

B 試 料

試料は、調査区南壁の第1地点と第2地点から採取された計12点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

C 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直徑約40μmのガラスピーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 檢鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪藻体1個あたりの植物体乾重、単位：10–5g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、タケア科は0.48である。

D 分析結果

水田跡（稻作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケア科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

E 考 察

1) 水田跡の検討

水田跡(稻作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプランツ・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1. 調査区南壁第1地点

試料1から試料5までの層準について分析を行った。その結果、試料1(暗青灰色泥土質シルト層)と試料4(暗灰色泥層)からイネが検出された。このうち、試料1では密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。

試料4では密度が700個/gと低い値である。ただし、直上の試料3ではイネがまったく検出されないことから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稻作が行われていた可能性が考えられる。

イネの密度が低い原因としては、稻作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2. 調査区南壁第2地点

試料1から試料7までの層準について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、暗(黒)灰色泥層ではヨシ属が卓越しており、その上位層でもヨシ属が優勢となっていることが分かる。また、暗(黒)灰色泥層よりも下位層ではタケ亜科(おもにクマザサ属)が優勢となっている。

以上のことから、暗(黒)灰色泥層の堆積当時は、ヨシ属などが繁茂する湿地の環境であったと考えられ、そこを利用して調査区の一部で水田稻作が行われていたと推定される。また、その後もヨシ属などが生育する湿地的な環境が継続されていたと考えられる。暗(黒)灰色泥層よりも下位層の堆積当時は、笹類(クマザサ属など)が生育するような比較的乾燥した環境であったと推定される。

F まとめ

プランツ・オパール分析の結果、調査区南壁第1地点の試料1(暗青灰色泥土質シルト層)では、イネが多量に検出され、稻作が行われていた可能性が高いと判断された。また、同地点の試料4(暗灰色泥層)でも、稻作が行われていた可能性が認められた。

暗(黒)灰色泥層の堆積当時は、ヨシ属などが繁茂する湿地の環境であったと考えられ、そこを利用して調査区の一部で水田稻作が行われていたと推定される。また、その後もヨシ属などが生育する湿地的な環境が継続されていたと考えられる。

文献

- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール),考古学と植物学,同成社,p.189-213.
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-,考古学と自然科学,9,p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-,考古学と自然科学,17,p.73-85.

表1 沖ノ羽遺跡におけるプラントオパール分析結果

分類群	学名	調査区南壁第1地点					調査区南壁第2地点						
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
イネ	Oryza sativa(domestic rice)	30			7								
ヨシ属	Phragmites(reed)	53	8	53	75		53	83	60	225	30		
ススキ属型	Miscanthus type	8		8	7								
タケ亜科	Bambusoideae(Bamboo)	68	8	30	52	314	90	68	15	22	205	114	38

推定生産量(単位:kg/m ² ·cm)	
イネ	Oryza sativa(domestic rice)
ヨシ属	Phragmites(reed)
ススキ属型	Miscanthus type
タケ亜科	Bambusoideae(Bamboo)

※試料の吸水率を1.0と仮定して算出。

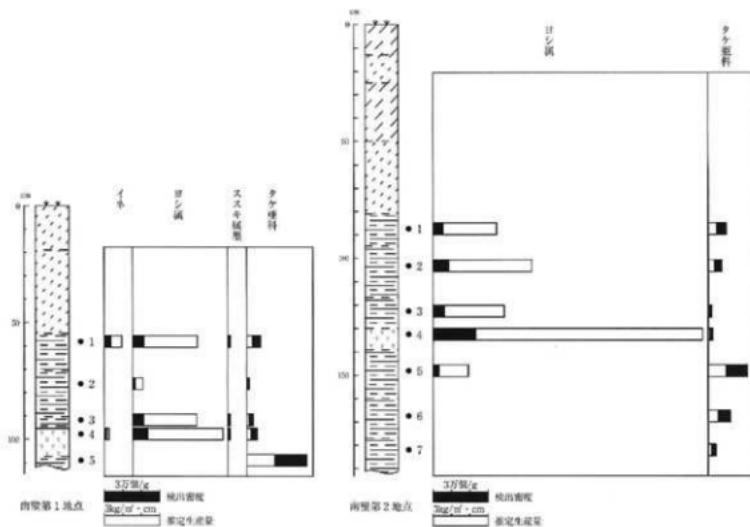
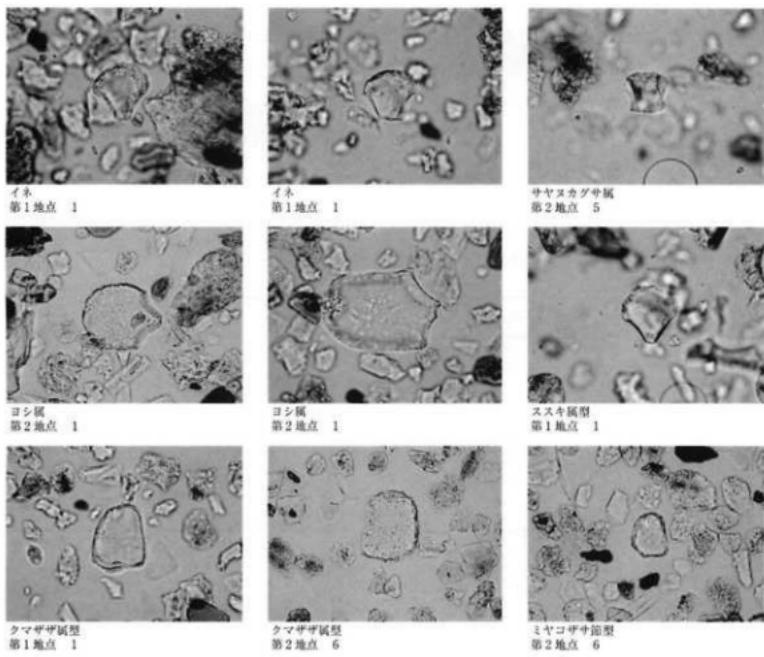


図1 沖ノ羽遺跡におけるプラントオパール結果



植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 ————— 50 μm

4 沖ノ羽遺跡における種実同定

金原 正子 ((株)古環境研究所)

A はじめに

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

B 試料

試料は、SE18(平安時代の井戸)から採取された植物遺体1点である。

C 方法

肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

D 結果

1) 分類群

分析の結果、樹木1が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

[樹木]

モモ *Prunus persica* Batsch 桜 パラ科

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

計測値：総24.83×幅18.82×厚さ14.75(mm)

E 考察

分析の結果、SE18から採取された植物遺体はモモ(桜)と同定された。モモは中国原産の栽培植物である。

文献

南木睦彦(1992)低湿地遺跡の種実.月刊考古学ジャーナルNo.355, ニューサイエンス社, p.18-22.

南木睦彦(1993)葉・果実・種子.日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276-283.

金原正明(1996)古代モモの形態と品種.月刊考古学ジャーナルNo.409, ニューサイエンス社, p.15-19.

表1 沖ノ羽遺跡における樹種同定結果

試料	分類群 (和名/学名)	部位	個数	縦 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
SE18	モモ <i>Prunus persica</i> Batsch	核	1	24.83	18.82	14.75



1 モモ核



2 同左

沖ノ羽遺跡の種実

- 1.0mm

5 沖ノ羽遺跡における樹種同定

金原 明 ((株)古環境研究所)

A はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴からおおむね属レベルの同定が可能である。また、木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

B 試料

試料は、平安時代の井戸 (SE18) から出土した木製品 9 点、および掘立柱痕 (SB25-P3) から出土した柱材 1 点の計 10 点である。

C 方法

カミソリを用いて、新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、生物顕微鏡によって 60~600 倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

D 結果

結果を表 1 に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科 図版 1

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10 細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ 40m、径 2m に達する。材は軽軟であるが強韌で、広く用いられる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で 1 分野に 2 個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15 細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ 40m、径 1.5m に達する。材は木理通直、肌目緻密で強韌、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版 2

横断面：小型で丸い、放射方向にややのびた道管が、単独あるいは2～3個放射方向に複合し、散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、単列の異性放射組織型である。

以上の形質よりヤナギ属に同定される。ヤナギ属は落葉の高木または低木で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科 図版3

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疊に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射組織は、単列のものと集合放射組織が存在する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性、保存性低く、建築材などに用いられる。

ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図版4

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が1～3列配列する環孔材である。孔圈部外の小道管は多数複合して花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1～6細胞幅ぐらいである。

以上の形質よりニレ属に同定される。ニレ属にはハルニレ、オヒヨウなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する落葉の高木である。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

ヤブツバキ *Camellia japonica* Linn. ツバキ科 図版5

横断面：小型でやや角張った道管が、単独ないし2～3個複合して散在する散孔材である。道管の径はゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は8～30本ぐらいである。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる異性で、直立細胞には、大きく彫れているものが存在する。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1～3細胞幅である。直立細胞には大きく彫れているものが存在する。

以上の形質よりヤブツバキに同定される。ヤブツバキは本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、通常高さ5～10m、径20～30cmである。材は強靭で、耐朽性強く、建築、器具、楽器、船、彫刻などに用いられる。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版6

横断面：年輪のはじめに、大型で厚壁の丸い道管が、ほぼ単独で1～2列配列する環孔材である。孔圈部外では、小型で丸い厚壁の道管が、単独あるいは放射方向に2～3個複合して散在する。早材から晩材に

かけて遺管の径は急激に減少する。

放射断面：遺管の穿孔は單穿孔である。内部にはチローシスが見られる。木部柔組織は早材部で周囲状、晚材部では翼状から連合翼状である。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1～3細胞幅である。

以上の形質よりトネリコ属に同定される。トネリコ属にはヤチダモ、トネリコ、アオダモなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉または常緑の高木である。材は建築、家具、運具、器具、旋作、薪炭など広く用いられる。

樹皮？ Bark?

顕微鏡下での観察では、木材の形質を呈していない。なお、肉眼観察で縦裂状の組織が見られることから、樹皮と思われる。

E 所見

分析の結果、井戸(SE18)から出土した木製品は、スギ3点、ヒノキ1点、ヤナギ属1点、ツブラジイ1点、ニレ属1点、ヤブツバキ1点、樹皮？1点、掘立柱痕(SB25-P3)から出土した柱材はトネリコ属と同定された。

スギ、ヒノキは温帯に広く分布し、特にスギは中間域の積雪地帯で純林を形成する針葉樹である。スギヒノキは日本産材のなかでは木理直通で長材として利用することができ、良材である。ツブラジイやヤブツバキは温帯下部の暖温帯に分布する照葉樹林の主要高木である。ニレ属、ヤナギ属は山地の湿润地に多い落葉高木である。いずれも、本遺跡の周辺地域に普遍に分布し、利用されていたと考えられる。

文献

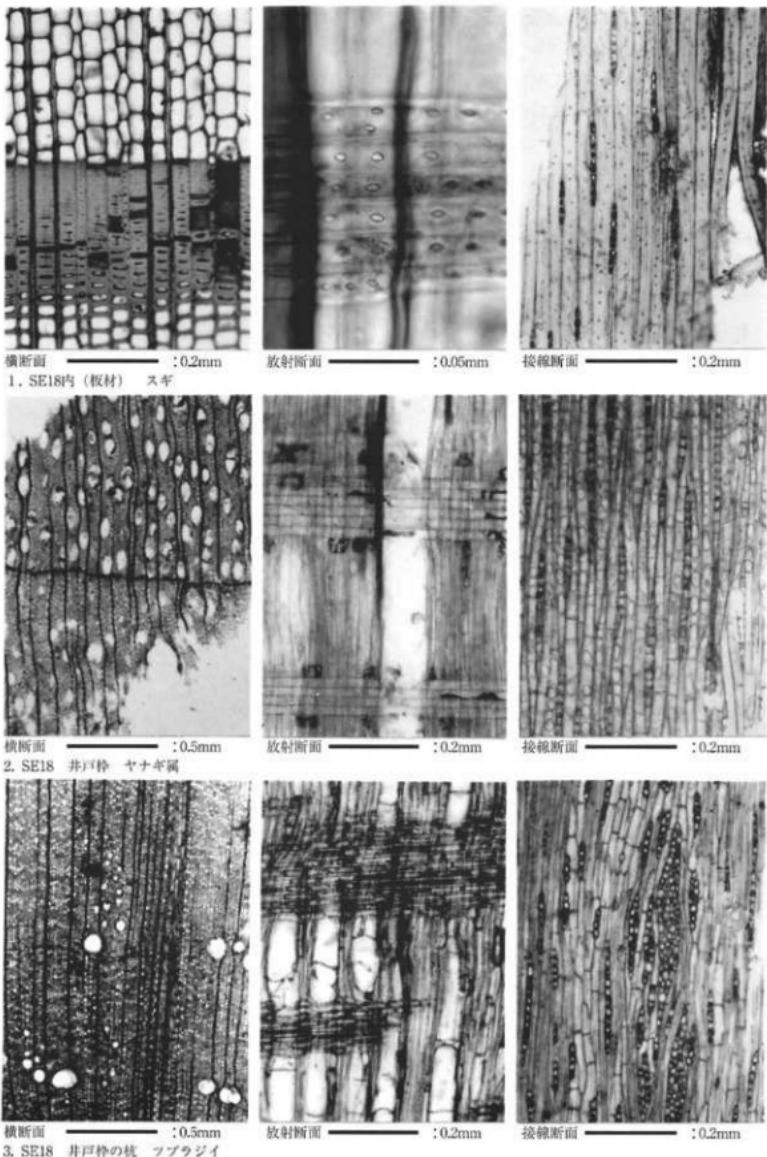
佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48.

佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100.

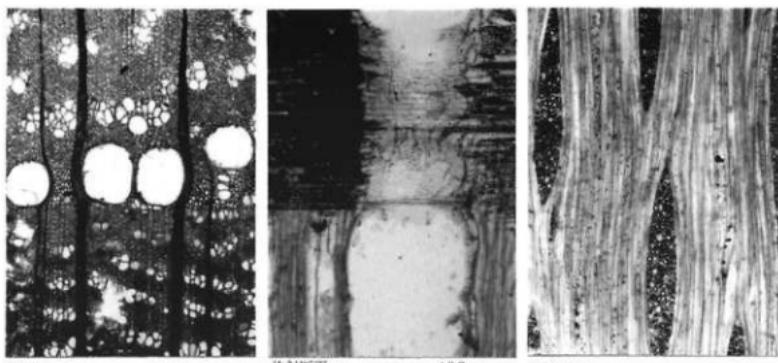
島地謙・伊東隆夫(1968)日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、296p.

表1 沖ノ羽遺跡における樹種同定結果

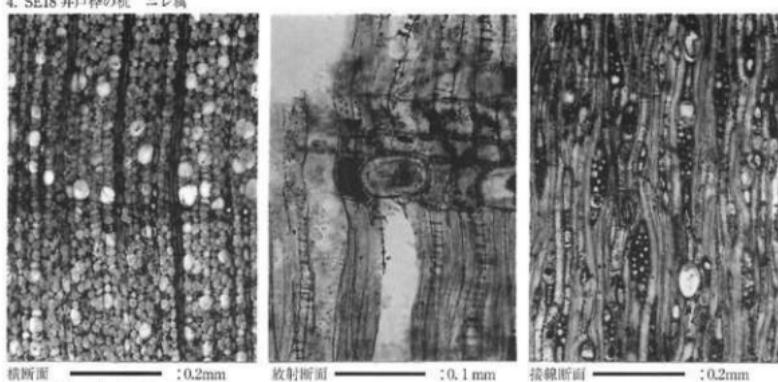
試料		分類群(和名/学名)
SE18内	曲物(小)	スギ Cryptomeria japonica D.Don
SE18内	曲物(大)	ヒノキ Chamaecyparis obtusa Endl.
SE18内	(板状)	スギ Cryptomeria japonica D.Don
SE18内	曲物の底	スギ Cryptomeria japonica D.Don
SE18	曲物の側	樹皮？ bark?
SE18	井戸枠の杭	ニレ属 Ulmus
SE18	井戸枠の杭	ツブラジイ Castanopsis cuspidata Schottky
SE18	井戸枠	ヤナギ属 Salix
SE18内	杭	ヤブツバキ Camellia japonica Linn.
SP25-P3	柱材	トネリコ属 Fraxinus



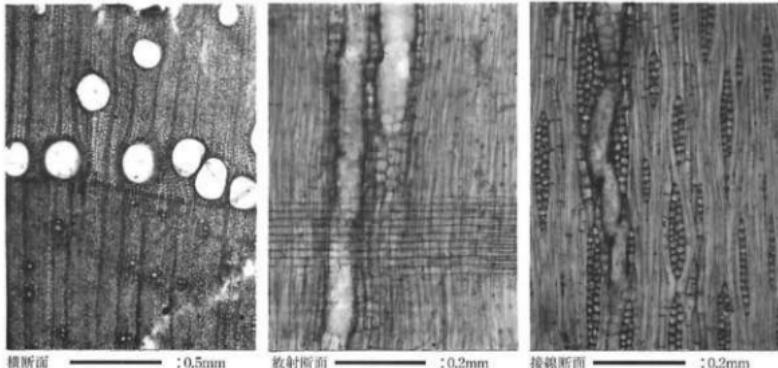
沖ノ羽遺跡の木材 I



4. SE18井戸内杭 ニレ属



5. SE18内杭 ヤブツバキ



6. SP25-P3 柱材 トネリコ属

沖ノ羽遺跡の木材 II

第VII章 まとめ

1 遺構

A S D (溝)について

沖ノ羽遺跡で検出された遺構は、溝(S D)15条・土坑(S K)22基・性格不明遺構(S X)8基・井戸(S E)2基・掘立柱建物跡(S B)3棟・ピット(P i t)18基であり、すべて平安時代の所産である。

溝のうち、S D 3・9・12・15・16・32・33・43は、包含層である基本土層とⅡ層上面で確認された遺構であり、S D 8も同時期のものと考えられる。これらの溝は、南北に流路をとる以外は基本的に規則性はない。新津市内の発掘調査において、しばしば直線的な溝が連結する「凹地遺構(掘込田)」が検出されているが、直交する溝もなく、プラント・オバールの分析結果からも水田の区画等を目的とした溝とは考えられない。また覆土の堆積状況から灌漑施設としても考え難く、南から北へ地形なりの傾斜を持つことから雨水などの一時的な排水に使用されたものと考察される。

一方、包含層(Ⅲ層)下面で確認されたS D 1・2・4・6・7は、掘立柱建物の区画溝として、明確な機能を有している。すなわち、S D 4・6はS B 25、S D 2・4はS B 48、S D 1・7はS B 51を区画している訳である。ここで区画溝と呼称するのは、まず先に溝が区割りされた後、掘立柱建物が構築されたと考察されるからである。通常付帯溝と呼称される遺構の場合は、基本的には掘立柱建物の行間に付帯しており、雨落ちなどの機能が推察されている。この場合、その主軸方向は掘立柱建物の棟方向により異なり、また建物単位に付帯するため、それぞれの溝に共通性は少ない。しかし、本遺跡の場合掘立柱建物よりも溝の主軸方向に統一性が強く認められる。S D 4が2棟の掘立柱建物の区画に共通して用いられている点や、渠行に溝が位置する事などからも、区画としての付設された溝である可能性が高いと考えられる。このような区割りを示す溝は、政庁域や曹司群等の公的施設などに見られるのが一般的であり、主軸方向が真北に対しほば直行することも、これらが計画性をもって構築された遺構であるとの裏付けとなろう。

B 沖ノ羽遺跡の集落について

前述のように、沖ノ羽遺跡では5 E・6 Eより区画溝で区割りされた規格的な3棟の掘立柱建物跡が検出された。これらは区割りという遺構の性格から同時期の所産と考察されよう。井戸や土坑などの遺構も掘立柱建物跡に隣接して構築されており、また遺物の遺構間接合も多く見受けられる事から、包含層(Ⅲ層)下面の遺構はほぼ同時期に存続していたものと推察できる。

新潟県内における古代集落の構造研究は、坂井秀弥氏【坂井1989】、春日真実氏【春日1995】らにより詳細に論じられている。

このうち坂井氏は、北蒲原郡聖崎町山三賀Ⅱ遺跡などの堅穴住居を主体とする大規模な集落を「律令型村落」として位置付けた。この律令型村落の大半は10世紀までには廃絶し、9世紀中葉以降には新潟市小丸山遺跡などのような数棟の掘立柱建物に井戸や土坑などの周辺施設を併設する建物小群がいくつかの単位で併存し、自立した農業経営と一定の区画からなる宅地を保有する「住耕一体型」の「王朝国家型村落」または「一之口型集落」へ変化するとしている。

春日氏は、6~13世紀の古代集落遺跡をA~F類の6類に分類し、変遷と集落景観の復原から基本構造と

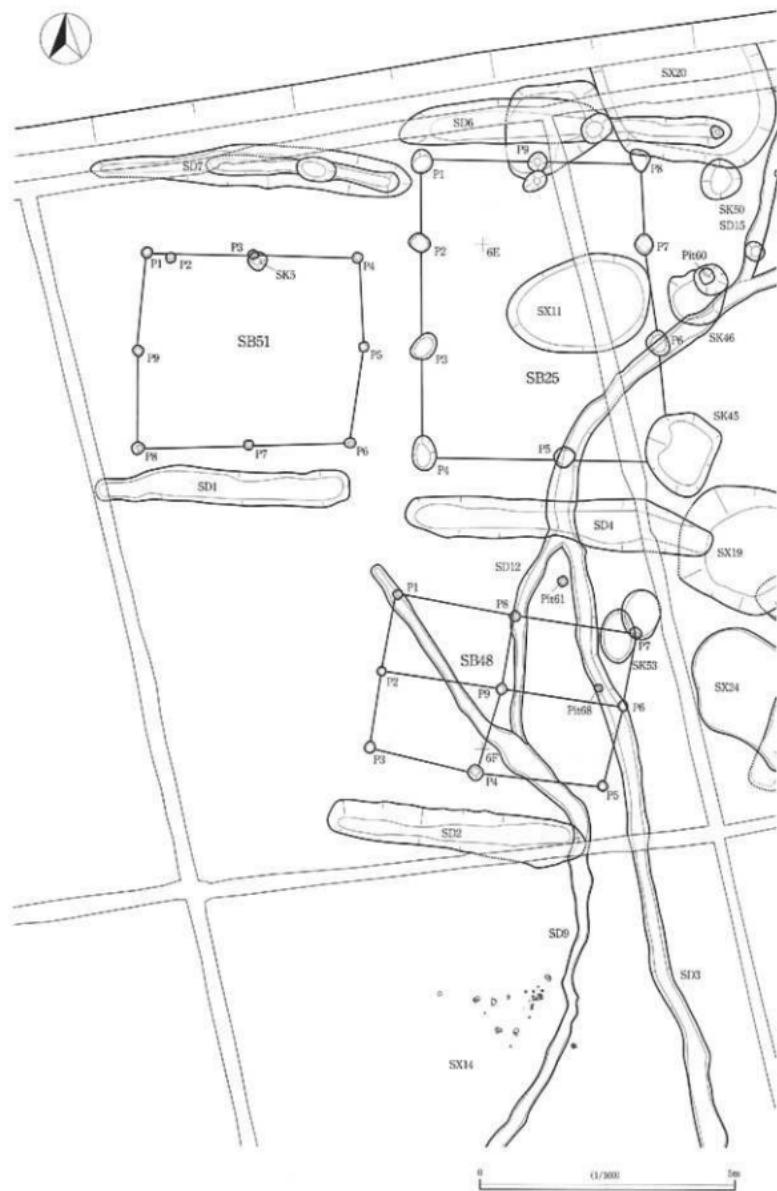
画期を考察している。春日氏の分類によれば、沖ノ羽遺跡のように沖積平野の自然堤防や微高地上に立地する類型としてD～F類が挙げられる。8世紀後半に出現するD類は、1～3棟程度の掘立柱建物ないしは竪穴住居によって構成される建物小群が散在する集落で、土坑を伴うはあるものの基本的に井戸・倉庫を持たない。9世紀前半に出現するE類は、個々の建物小群に土坑・井戸・畑地が伴い、明確な階層差が存在する場合が多い。F類は建物小群が井戸を伴って散在する12世紀以降の形態である。D類の出現をもって集落の散村化の画期とし、板井氏の言う王朝国家型集落への変期と位置付けている。

沖ノ羽遺跡では3棟の掘立柱建物と土坑・井戸などは出土しているが、プラント・オバール分析によっても確実な畑地の存在は認められていない。上記の分類によるD類からE類への過渡期にあたる、王朝国家型集落の出現段階の遺跡と考察できよう。過渡期としたのは、階層差と畑地が明確ではないが井戸をもつことなどに起因するが、今回検出された遺構群は建物小群の一単位であり周辺に階層差をもつ他の建物小群が位置する可能性もあるため、本来はE類に分類されるとも考えられる。個々の掘立柱建物を柱の位置と規模の大きさから推察すると、S B25は主屋、S B48は倉庫、S B51は小屋的な機能を有していたと考えられ、世帯共同体〔宇野1991〕というよりは一単位集落の居住空間としての様相が強い。上記の機能に出土遺物および他の遺構を当てはめた場合、主屋に食膳具はもとより煮炊具が建物群内でより集中しており、また井戸などが主屋に接する場所に位置することとなり違和感はない。

春日氏はこれらの集落形態を一般集落の一つのタイプとして捉えているが、はたして全てがそうであるか疑問が残る。沖ノ羽遺跡では、鎌など農具の出土は認められず単純に農業生産のみを基盤としていた居住域とは言い切れない。また、前述のように掘立柱建物の棟方向が真北に対し僅か1度ないし8度東偏するのみであり、淨瓶といった一般集落では必要としない仏教系遺物も出土している。能代川対岸に位置する同時期の上浦遺跡においても銅鏡丸範や奈良三彩といった一般的ではない遺物が出土しており、沖ノ羽遺跡と類似した様相を呈している。これらの遺跡が属するE類においては遺跡内に階層差を生じるという状況から考えても、沖積地へ進出する初期の遺跡には有力者層の強い意図が窺える。官的要因の場合、単純に租税の安定を図るために未墾地の開発とも捉えられ、中世において沖ノ羽遺跡のある新津市が「金津保」となることへの理解に繋がる。しかし、佐渡小泊窯の操業と製品の広域流通に中央権力ではなく佐渡・越後両国の国衙勢力の関与・ネットワークが指摘される〔春日1991〕ように、9世紀には既に律令体制の崩壊が越後周辺地域に波及し始めていたと推測でき、国衙も含めた有力者層主導の新田開発による初期莊園と捉えたほうが妥当であろう。仏教系遺物が認められることから社寺等による自墾地系莊園とも考えられるが、いずれにせよ墾田地系莊園や田堵制の初期の様相を示す遺跡ではないかと推察される。

遺跡の存続がいずれも短期間であることは、すべての遺跡が洪水などの自然災害により移転を余儀なくされたと考えるよりは、用水路の確保などを行なながら未墾地への移動・開墾を繰り返し、積極的に新田開発を行った結果として捉えることができる遺跡という観点からの検討も加味する必要があろう。これは、本調査区の東側約200mに位置し磐越道関連により(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した沖ノ羽遺跡が9世紀第3四半期および中世の遺跡であるのに対し、今回の調査検出された遺構が9世紀前半代に限定されるということからも推察される。

このように、沖ノ羽遺跡は沖積平野への進出を積極的に開始した初期の段階に構築された一単位の集落遺跡と考えられる。その形成には有力者による耕地拡大という要素が深く関与していると推察され、莊園、ないしは国衙領の出現段階の様相を示しているといえよう。遺構の構築年代は、前述の春日氏による分類のD類からE類への過渡期もしくはE類の初期段階の様相を呈していると考えられるため、9世紀前半代でも比較的早い段階の所産と考えられる。



第10図 掘立柱建物跡小群と区画溝

2 遺物

A 焼成・成形技法

本書では須恵器を焼成の違いから、還元焰焼成の須恵器・酸化焰焼成の須恵器と区分して報告した。これは、新津市周辺では須恵器無台坏は底部ヘラ切りで還元焰焼成、土師器無台椀は底部糸切りで酸化焰焼成となるのが一般的であり、酸化焰焼成の須恵器も一定量出土することから、これらを区別する必要があるという考え方〔渡邊2001〕に基づくものである。しかし、沖ノ羽遺跡では酸化焰焼成の須恵器は食膳具しか出土しておらず、須恵器全体に占める割合も4.5%と極端に少ない。口縁部や体部の破片には土師器に間違えて含めているものもあると思われるが、それにしても一割にも満たないことは確かである。また、土師器無台椀は食膳具に占める重量の割合が33.53%と3分の1あるものの、ほとんどが破片であるため法量や調整が不明なものも多い。

沖ノ羽遺跡で出土した須恵器無台坏のうち、還元焰焼成の須恵器無台坏には左回転のヘラ切りが多数を占めるものの左・右両回転のあるのに対し、酸化焰焼成の無台坏は右回転のヘラ切りにほぼ限定される。右回転はヘラギリ・糸切りにかかわらず、軟質の須恵器無台坏や土師器無台椀にも摘要される。これは既に新津丘陵に位置する新津市七本松窯跡・滝谷窯跡・草水町2丁目窯跡などから出土している須恵器は右回転が主体で左回転は殆んどなく、佐渡小泊産の須恵器は左回転が主体であるという指摘〔渡邊ほか2001〕がなされており、生産地の違いによる製作技法の差異が認められている。今回出土した酸化焰焼成の須恵器無台坏はいずれも右回転であることから新津丘陵産と推察され、酸化焰焼成の須恵器有台坏・坏蓋も同様に新津丘陵産と考えられる。また、土師器無台椀や黒色土器の有台皿も右回転の糸切りで切り離されており、周辺遺跡の状況や調査事例などから新津丘陵産の土師器と考えるのが妥当であろう。

黒色土器の有台皿は、外面に黒色のはみ出しが認められないため、南加賀地域に類在化する合わせ口法による覆い焼き〔北野ほか1996、望月1997a・b〕、もしくはそれに類した焼成方法によるものと考えられる。

B 還元焰焼成と酸化焰焼成

沖ノ羽遺跡では還元焰焼成の須恵器と、僅かではあるが酸化焰焼成の須恵器が認められている。還元焰と酸化焰の違いは焼成温度にある事は周知の事実であり、高温を要する還元焰は丘陵などの斜面地を利用した地下式もしくは半地下式の登り窯を使用し、酸化焰は絶えず酸素の供給が受けられるような窯の構造を備えている。窯内部でも温度差を生じるため、特に8世紀後半以降主流となる半地下式の窯では煙道近くに置かれた坏など小型品の中には酸化焰になる須恵器も少なくない。しかし律令下における須恵器は猿投窯などからの施釉陶器の供給不足を補う製品として主に富裕階層に流通していたと考えられ、酸化焰焼成の須恵器の商品価値は低かったと推察される。

9世紀後半になると、関東地方などでは酸化焰焼成の須恵器が商品として広く流通するようになる。この背景には、律令体制の崩壊や光ケ丘1号窯などの生産性の向上から生じた灰釉陶器の供給増加などが挙げられる。この時期には品部の再編が行われ専業集団の一体化が図られたと考えられ、土師器・須恵器の両製作技術が融合した土器が認められるようになる。また燃料料の枯渇化に伴って、酸化焰焼成を目的としたと思われる須恵器窯が作られたようである。しかし北陸や新潟地方など古代越国内外においては、同一地内の急傾斜部に須恵器窯が、緩傾斜もしくは平坦部に土師器焼成窯が占地を変えて併存して検出される事例も多い。

早い段階から一体化が図られていたと考えられ、還元焰焼成に対するこだわりも大きいと思われ、他地域とは状況が大きく異なる。

沖ノ羽遺跡や周辺の遺跡では、9世紀前半から酸化焰焼成の須恵器の出土が確認されている。ここで消費する酸化焰焼成の須恵器は、前述のように成形技法から新津丘陵窯と考えられ、生産地と消費地が近接していたことが要因の一つに挙げられよう。また、新津丘陵北西斜面には大規模な製鉄遺跡群があり、周辺地域よりいち早く鉄器が流通したことでも一因と考察される。こうした様々な背景が介在して、酸化焰焼成の一部の須恵器が早期に流通するという結果を生じたと推察できよう。

酸化焰焼成の須恵器は、土師質土器・須恵系土師器・赤焼き土器など様々に呼称されてきており、焼成の違いから土師器にも分類される須恵器の成形技法による土器である。渡邊氏は「器の形態(器形)を決めるのは製作者の意図的なものであるが、焼きあがりは製作者の意図しない場合が十分にある」という技術形態論を根拠に須恵器として〔渡邊2001ほか〕おり、前記の窯内部の温度差による焼成の違いなどはまさにこれに当たろう。しかし、技術形態論は食器具にのみ当てはまるものでないことは言うまでもない。土師器に分類される無台碗はもとより鍋・壺類などの煮炊具も、酸化焰焼成窯が検出されている事から製作段階から酸化焰による焼成を意識して素材成形を行ったと考えられるが、ロクロナデ・タタキメなど須恵器の製作技法によるものであり、上記の分類からすれば酸化焰焼成の須恵器として取り扱うことも可能であろう。このような場合、還元焰焼成土器と酸化焰焼成土器という焼成方法を基準とした土器分類も、矛盾を生じさせないための一策とも考えられる。そうした分類基準により、前述のような混在する酸化焰焼成の無台壺と土師器の無台碗の所属は明確となり、それぞれ還元焰焼成土器は須恵器系、酸化焰焼成土器は壺器系へと、古代終末から中世へかけての窯、および土器の変遷が捉え易い利点がある。特に八尾窯や越前窯など壺器系の窯と珠洲窯など須恵器系の窯が混在する北陸地方や、北沢古窯址群など須恵器系と赤坂山古窯址群など壺器系の窯が共存する五頭山麓古窯址群を擁する磐船・沼垂郡および周辺地域においては有効な手段となりえる可能性も高いと感じられる。もちろん弊害も多く、特に早くから須恵器製作技術の発展が卓越していたと考えられる越地域においては、一概に受用しがたい面も多い点はご容認願いたい。しかし、技術や形態、機能など様々な観点から土器を考察する場合、土師器・須恵器といった従来の大別・呼称に拘らず、地域性を踏まえた定義・分類が必要ではないかと考える。

C 挖立柱建物遺物の検討

掘立柱建物は通常柱穴以外掘り込みを持たないため、本来遺構に伴う遺物であっても包含層遺物として看過される事が多く、僅かに付帯溝などの遺物から遺構の年代や性格を推察してきたに過ぎない。しかし、沖ノ羽遺跡においては掘立柱建物と切り合う遺構が少なく、また切り合いを持つ遺構についても確認面の違いが明確であることから、掘立柱建物の確認面に認められた炭化物を多く含む層より出土した遺物を遺構の遺物として積極的に評価し、遺構の持つ性格を考察してみたい。なお、掘立柱建物に伴う遺物の二次堆積と思われる区画溝の遺物や切り合いがなく遺構に伴うと考えられる遺物であっても、掘立柱建物の確認面(X層)より上位で出土した遺物については正確を期すために包含層遺物として取り扱っており、検討の対象とはしていない。

S B 25からは総点数795点、総重量8,593gの遺物が出土している。これは、全遺構出土点数2,818点の28.2%、重量では29.4%にあたり、点数・重量共に遺構出土遺物の3割に相当する数量であり、総出土遺物の2割弱を占める。遺物の個体数は口残値からでは14.78個体・底残値では17.72個体となるが、実測点数は96点

を数え、実際の組成は口残値・底残値で示された個体数より多くなる。器種別に見ると、須恵器76.0%・土師器23.5%・黒色土器0.5%という構成率となる。内訳は、須恵器無台坏47.0%・有台坏6.6%・坏蓋18.6%・大甕0.4%・壺蓋3.4%、土師器長甕8.1%・小甕10.9%・第4.2%、黒色土器無台碗0.5%となる。一瞥して、食膳具には須恵器を多用し、土師器は煮炊具にほぼ限定される状況が判断できる。食膳具のみで考えると、須恵器無台坏64.62%・有台坏9.03%・坏蓋25.61%、黒色土器無台碗0.74%となり食膳具を須恵器が占めるという状況が追認されよう。

口縁部の残存する食膳具の法量を検討してみると、須恵器無台坏は実測43点中Ⅰ類1点(2.3%)・Ⅱ類32点(74.4%)・Ⅲ類10点(23.3%)となり、Ⅱ類に僅かに醸化焼成のものが認められる。口径11.2~13.8cm、径高指数はⅡ類で21~31を測り25と30前後にまとまりを持ち、Ⅲ類は20および25を示す。また底径指数ではⅡ類は47~72であるが65~69にまとまりがあり、Ⅲ類は55~70を示す。このように、ある程度のまとまりは理解できるものの定格に沿った物とは断定できない。須恵器有台坏は6点と少なく、Ⅰ類2点・Ⅲ類3点・Ⅳ類1点を数えるがⅡ類は認められない。径高指数・底径指数の計測可能な遺物はⅢ・Ⅳ類各1点のみで、Ⅲ類で34・69、Ⅳ類で48・66を測る。須恵器坏蓋は、10点中Ⅰ類3点・Ⅱ類4点・Ⅲ類3点を数え、各類とも組成する。

S B48からは267点(9.47%)・2,988g(10.24%)の遺物が出土している。器種別では須恵器86.0%、土師器14.0%で、口残値の構成比は食膳具71.1%・煮炊具14.0%・貯藏具14.9%であり、食膳具は須恵器のみ、貯藏具は須恵器の壺蓋のみである。底残値から食膳具を検討した場合でも土師器無台碗は4.13%に過ぎない。法量は、須恵器の無台坏では実測点数23点中Ⅱ類18点・Ⅲ類5点を数え、口径11.7~13.0cm、径高指数24~31・底径指数51~71を示す。径高指数は25前後と30前後の2種に分別でき、底径指数は50・60・65・70前後を示し、S B25と同様の分布を表す。須恵器有台坏はⅠ類2点・Ⅲ類1点・Ⅳ類1点で、S B25と同様にⅡ類が欠落しており、Ⅲ類には醸化焼成の須恵器が認められる。

S B51は22点・371gの遺物が出土している。口残値の構成比は須恵器無台坏24.0%・土師器小甕44.0%・鍋32.0%であり、重量比でも須恵器16.98%・土師器83.02%となり、唯一土師器の比率が多くなる。須恵器無台坏は、口径11.5cm、径高指数28・底径指数70のⅡ類に分類される。

このように掘立柱建物の遺物を概観すると、須恵器無台坏ではⅡ類に分類されるものが76.12%を占め、Ⅲ類22.39%、僅か1.49%に過ぎないⅠ類を凌駕する。径高指数では25前後と30前後にまとまりをもち、底径指数のまとまりにも類似性が認められる。また、須恵器有台坏も法量やⅡ類を組成しない点など類似性が高い。遺物の年代観などについては後述するが、3棟の掘立柱建物は遺物の類似性からも同時期に構築・機能していた遺構と考察される。しかし、前述のように遺物の組成や出土量には差異が生じており、その理由に遺構のもつ用途(機能)の違いを想定することは容易である。

S B25は、遺物量が豊富であり、食膳具の器種構成も無台坏が主体ではあるが、有台坏や坏蓋を定量含む。また、貯藏具である大甕や短頸甕、甕などの付着した使用痕のある土師器の煮炊具も1/4程度保有しており、居住空間としての要素が高い。一方、S B48では食膳具では須恵器無台坏が卓越し、貯藏具では壺蓋以外認められないなど、器種構成にやや偏りがみられる。また、煮炊具もS B25に較べて組成割合が低く、生活空間とは考えられるものの相対的な様相を異にする。S B51は他の2棟に較べ土器の出土量が極端に少なく、居住空間とは考え難い。このような状況から、S B25を直接の生活の場である主屋、S B48を副屋と捉える事ができる。しかし、S B48は絶柱の建物であるため高床倉庫や納屋などの非住居と考えられ、貯藏具は廃棄時に撤出したと仮定すれば理解できよう。S B51は遺物量から木小屋や下小屋・家畜舎など主屋に付帯する非住居であったと推察される。

沖ノ羽遺跡は一集落単位の居住域として捉えられるという前提に立脚して、今回出土遺物から掘立柱建物の機能を考察してみたが、想定の範囲に含まれる部分も少なからずあり必ずしも正確とは限らない。しかし、このような分析を通して建物の用途や集落の構成を窺い知ることはできることは事実であり、密接な関係にある遺構と遺物を切り離さず両側面から遺跡の詳細な検討を行う必要性が高いことは言うまでもない。

D 器種組成

沖ノ羽遺跡では25の遺構から土器が出土している。遺物組成を口残渣から検討〔宇野1992〕すると、埴層上面で確認されたSD16・SK13は土師器が100%を示すが、いずれも個体数は少ない。同じく土師器のみの組成となる遺構にSD1・SD7・SK53・SX14といった埴層下面の遺構がある。この内、SD1・SD7は須恵器片が含まれてはいるものの比率上表れておらず、SK53はSK13と切り合うため本来SK13に帰属する遺物が流入している可能性もある。また、SX14は炉跡的な遺構であるため煮炊具が多く、遺構の性格によって組成比率の偏りも多々みられる。事実SX14周辺のグリッドやSD1・SD7が区画するSB51からは須恵器が出土しており、調査時の所見でも土師器の縋まりは認められていない。

逆に須恵器が100%となる遺構としてSK47・SX23・SE17・SE18・Pit36が挙げられる。Pit36を除いたすべての遺構で土師器を組成するが、煮炊具が主体でSX23・SE17で認められた土師器無台碗も体～底部であるため口残渣には反映されていない。

遺物が確認されているにも係わらず、口縁部がないためにSD9・SK26のように数字上では遺物の組成が認められない遺構も出てくる。口残渣法による個体数の把握には誤差が生じるのは当然であり、出土遺物が多い遺構においては、特に他の個体識別との併用が必要であろう〔水澤1997〕。

沖ノ羽遺跡で出土した食膳具の比率を見てみると、SD12・SK45・SK46・SK47・SX11・SX19・SX23・SE17・SE18・SB48・SB51では須恵器が食膳具の全てを占めている。また、主屋と考えられるSB25においても黒色土器が0.7%入る他は須恵器で構成されている。総体的に見ても、食膳具に占める須恵器の割合は圧倒的に多い。

掘立柱建物の土器については、前項で記したように須恵器の組成が大半を占め、食膳具には須恵器、煮炊具に土師器という器種用途による使い分けや、また、食膳具に占める土師器無台碗の割合は概ね1割以下という理解が得られた。さらに、須恵器無台碗は径高指数が25前後と30前後に、底径指数では60・65・70前後にまとまりを持ち、有台碗に関してはII類を組成しないという傾向も観えた。遺跡全体の傾向を把握するために、本来であれば全遺構を対象とすべきであろうが、出土遺物量が1,000g以上となるSD4・SK30・45・SX27を組上に載せ検討を加えていきたい。

SD4の構成比は、口残渣から土師器49.7%・黒色土器9.5%・須恵器40.8%、重量では61.9%・7.8%・30.3%となる。食膳具では、土師器45.9%・黒色土器10.2%・須恵器43.9%となり、土師器の占有比が高いことが判る。土師器無台碗は、口径16cm前後と13～14cmの2種が認められ、径高指数・底径指数はそれぞれ35・35、37・41である。底径は5.6cmを測り、土師器無台碗の分類に詳しい寺道上遺跡〔渡邊ほか2001〕のI C類、II C類に対比される。黒色土器は無台碗と有台皿が認められ、無台碗は底径7cm、有台皿は口径12～13cmで、径高指数25・底径指数47を測る。黒色土器は本遺構以外ではSB25に認められるのみであり、区画溝である本遺構との関連が示唆されよう。須恵器の食膳具は無台碗に限定され、II類とIII類が認められる。径高指数・底径指数は25前後・65および70前後である。

SK30の構成比は、口残渣から土師器31.6%・須恵器68.4%、重量比は76.8%・23.2%であり、重量の73%

第3表 遺構出土遺物集計表

全体の種類別構成比(口残値)				遺物別構成比(口残値)				食器類の種類別構成比(口残値)			
遺構名	土師器	黒色土器	須恵器	遺構名	食器類	炊煮具	貯藏具	遺構名	土師器	黒色土器	須恵器
SD1	100%	0%	0%	SD1	64.1%	35.9%	0%	SD1	100%	0%	0%
SD2	78.1%	0%	21.9%	SD2	100%	0%	0%	SD2	78.1%	0%	21.9%
SD3	59.6%	0%	40.4%	SD3	63.8%	36.2%	0%	SD3	59.7%	0%	43.3%
SD4	48.6%	9.5%	40.9%	SD4	92.7%	7.3%	0%	SD4	48.7%	10.2%	41.1%
SD5	25.6%	0%	74.4%	SD5	53.1%	17.9%	0%	SD5	24.9%	0%	75.0%
SD7	100%	0%	0%	SD7	16.2%	84.0%	0%	SD7	100%	0%	0%
SD9	0%	0%	0%	SD9	0%	0%	0%	SD9	0%	0%	0%
SD12	62.2%	0%	37.8%	SD12	37.7%	62.3%	0%	SD12	0%	0%	100%
SD16	100%	0%	0%	SD16	27.3%	72.7%	0%	SD16	100%	0%	0%
SK13	100%	0%	0%	SK13	42.3%	57.7%	0%	SK13	100%	0%	0%
SK21	38.9%	0%	61.1%	SK21	83.2%	16.8%	0%	SK21	26.6%	0%	73.4%
SK26	0%	0%	0%	SK26	0%	0%	0%	SK26	0%	0%	0%
SK28	35.4%	0%	64.6%	SK28	68.4%	31.6%	0%	SK28	5.6%	0%	94.4%
SK30	31.6%	0%	68.4%	SK30	71.7%	26.4%	1%	SK30	7.3%	0%	92.7%
SK45	74.6%	0%	25.4%	SK45	25.4%	74.6%	0%	SK45	0%	0%	100%
SK46	20.0%	0%	80%	SK46	80.0%	20.0%	0%	SK46	0%	0%	100%
SK47	0%	0%	100%	SK47	100%	0%	0%	SK47	0%	0%	100%
SK53	100%	0%	0%	SK53	100%	0%	0%	SK53	100%	0%	0%
SK11	52.4%	0%	47.6%	SK11	47.6%	52.4%	0%	SK11	0%	0%	100%
SK14	100%	0%	0%	SK14	43.6%	56.4%	0%	SK14	100%	0%	0%
SK19	26.4%	0%	73.6%	SK19	73.6%	26.4%	0%	SK19	0%	0%	100%
SK20	79.6%	0%	20.4%	SK20	70.4%	23.6%	0%	SK20	73.3%	0%	26.7%
SK23	0%	0%	100%	SK23	100%	0%	0%	SK23	4.9%	0%	95.1%
SK24	16.6%	0%	83.3%	SK24	83.3%	16.6%	0%	SK24	8.2%	0%	91.8%
SK27	35.4%	0%	64.6%	SK27	55.2%	30.8%	14.0%	SK27	0%	0%	100%
SE17	0%	0%	100%	SE17	100%	0%	0%	SE17	0%	0%	100%
SE18	0%	0%	100%	SE18	92.1%	0%	7.9%	SE18	0%	0%	100%
SB25	23.5%	0%	76.5%	SB25	72.7%	23.3%	3.8%	SB25	0%	0.7%	99.3%
SB48	14.0%	0%	86.0%	SB48	71.1%	14.0%	14.9%	SB48	0%	0%	100%
SB51	76.0%	0%	24.0%	SB51	24.0%	76.0%	0%	SB51	0%	0%	100%
Pt36	0%	0%	100%	Pt36	100%	0%	0%	Pt36	0%	0%	100%
合計	48.4%	0.3%	51.3%	合計	68.8%	29.7%	1.5%	合計	30.9%	0.4%	68.7%

を土師器の煮炊具が占める。食器類のみの構成比は、土師器無台輪13.78%・須恵器無台輪59.73%・有台輪11.35%・坏蓋15.14%であり、大半を須恵器が占める。無台輪はII類が主体であり、径高指数・底径指数はII類で27・68、III類で21・71となる。坏蓋は口径16cmを測るI類である。

S K45の重量による構成比は、土師器94.3%・須恵器5.7%である。これは土師器の煮炊具が91.2%も占め、中でも鍋が73.5%を占め明らかに他の遺構とは様相が異なる。食器類では、土師器無台輪35.5%・須恵器無台輪2.3%・有台輪62.2%となるが、破片資料が多く、口残値から得られる食器類の個体数は僅か0.42個体に過ぎない。須恵器の無台輪はII類、有台輪はI類で径高指数46・底径指数62である。

S X27の構成比は、口残値から土師器35.4%・須恵器64.6%であるが、重量比では75.9%・24.1%と逆転する。これは土師器の煮炊具が73.2%を占めるためであるが、長甕が46.6%を占めS K45とは若干様相が異なる。食器類の構成比は、口残値で土師器無台輪8.2%・須恵器無台輪82.1%・有台輪5.6%・坏蓋4.1%となる。その重量比は11.3%・81.7%・2.5%・4.5%で、須恵器無台輪が主体である事に変わりはない。須恵器無台輪は実測点数17点のうち、I類2点・II類13点・III類2点を数える。計測可能なII類7点の、径高指数は23~28、底径指数は62~72で70前後にまとまりを持つ。有台輪は口径10.5cmのIII類で径高指数42・底径指数67を示す。また、坏蓋は口径16cmのI類である。

以上、主要遺構の土器組成を概観してみた。土師器煮炊具の数量の多少により当然構成比の差異は認められるが、食器類に関しては類似した様相が確認できた。つまり、土師器無台輪に比して須恵器無台輪の組成が多く、無台輪の大半は口径12cm前後のII類が占める。口径については無台輪も12cm程度のものが多く、径高指数は無台輪・無台輪とともに25前後を示すものが多い。底径指数については無台輪に関しては65・70前後となるものが多い一方、無台輪には数量の少なさも相まって統一性が認められない。また、黒色土器の定量組成は認められず、須恵器坏蓋は口径16cm程度のものが多い。これらの様相は前述の掘立柱建物の出土土器と同様であり、沖ノ羽遺跡は3面調査を行っているため全ての遺構とは言い切れないが、少なくとも埋層下で検出された遺構では共通した傾向が認められる。このように、土器組成および法量からは年代差を認めら

れず、遺構間での切り合い関係も確認されるものの、沖ノ羽遺跡の埴層下面の遺構はほぼ同時期の所産になるものと考えることができよう。

E 沖ノ羽遺跡出土土器の編年的位置

最後に量的にまとまる沖ノ羽遺跡埴層下面の出土土器(以下、沖ノ羽遺跡の出土土器)について編年的位置を検討する。沖ノ羽遺跡出土の須恵器は、9世紀以降に越後国内に供給を開始する佐渡小泊産の須恵器が9割方を占める。9世紀後半になると、越後国内の須恵器の大半を小泊産の須恵器が占める程に供給圏の拡大が図られる。よって、当該時期の越後国内の土器編年は小泊産須恵器が標式的資料であると言っても過言ではない。そこで、沖ノ羽遺跡出土土器の編年位置を決めるために、まず小泊産須恵器の編年を確認しておきたい。

小泊産の須恵器が越後国内に流通するようになるのは、下口沢窯段階からである。その後、カメ烟窯、江ノ下窯という順列となり、大木戸窯はカメ烟窯と併行〔坂井ほか1991〕、もしくは下口沢窯とカメ烟窯の中間に位置付けられている〔春日1999〕。春日氏が下口沢段階とする新潟市小丸山遺跡S E7や緒立C遺跡S X 440では、食膳具は全て須恵器である。カメ烟段階とされる山三賀Ⅱ遺跡IV 2期〔坂井1989〕や小丸山遺跡S D2では、須恵器が7割、土師器が3割で、黒色土器は図示されていない。続く江ノ下段階に位置付けられるSD 4においても、須恵器が7割、土師器が3割で、黒色土器は1点のみである。しかし、同じく江ノ下段階である横越町上郷遺跡や新津市中谷内遺跡では土師器が7割以上を占めており、食膳具に占める須恵器の比率のみでは編年位置付けは出来ないことが判る。

器種の特徴を見てみると、カメ烟窯以降には有台坏IV類が不明瞭になり、徐々に有台坏の法量差がなくなり、江ノ下段階では有台坏は1法量になる〔渡邊ほか2001〕ようである。土器の成形では、下口沢段階では左右両回転のヘラ切りが見られるが、カメ烟段階では左回転が大半を占め、右回転はほとんど認められなくなる。また、坏蓋の摘みが下口沢段階では擬宝珠型が大半を占めるのに対し、カメ烟段階以降はボタン状となり、法量もカメ烟段階以降では坏蓋の口径が15cmよりも小振りのものが主体になる。

沖ノ羽遺跡の遺物を見てみると、食膳具に占める須恵器の割合が高く、9割を超える遺構も散見される。また、黒色土器は基本的には組成に含まれないものと考えられる。器種別に見てみると、無台坏は口径12cm前後のII類が大半を占め、底部切り離し技法では左回転が多いものの、左右両回転のヘラ切りが見られる。有台坏は、II類が絶じて少ないものの、他類は各遺構で安定して確認されている。さらに、坏蓋は口径16cm程度のI類が圧倒的に多く、摘みも擬宝珠型を呈すものが大半を占める。前述の佐渡小泊窯跡群各窯の特徴と照合してみると、カメ烟段階以前、下口沢段階と認識するのが妥当と考えられる。

春日氏によれば、下口沢段階は9世紀前半代に位置し、春日編年・田嶋編年のV1・V2期に対応している。この期別は組成する土師器の食膳具に基づいており、V1期では僅かに組成される程度の土師器の食膳具が、V2期には組成量が増えるということである。しかし、土師器の生産地に近い新津市寺道上遺跡においてはV2期に比定されるにもかかわらず土師器無台碗が食膳具の主体を占めている。遺跡の立地や性格により組成が変化する事は、前述の江ノ下段階に限定された事象でないことは明白であり、小泊産須恵器の位置付けと共に編年の基軸を見直す必要もあるろう。

前述のように、沖ノ羽遺跡の出土土器は器種の特徴から佐渡小泊窯跡群の下口沢段階と考えられる。さらに、食膳具に占める須恵器の比率の多さから見て現段階ではV期の古様相を呈していると言えよう。これらを総合して判断すると、田嶋編年V1期・山三賀IV 1期および春日編年V1期に対比されると考えられ、9

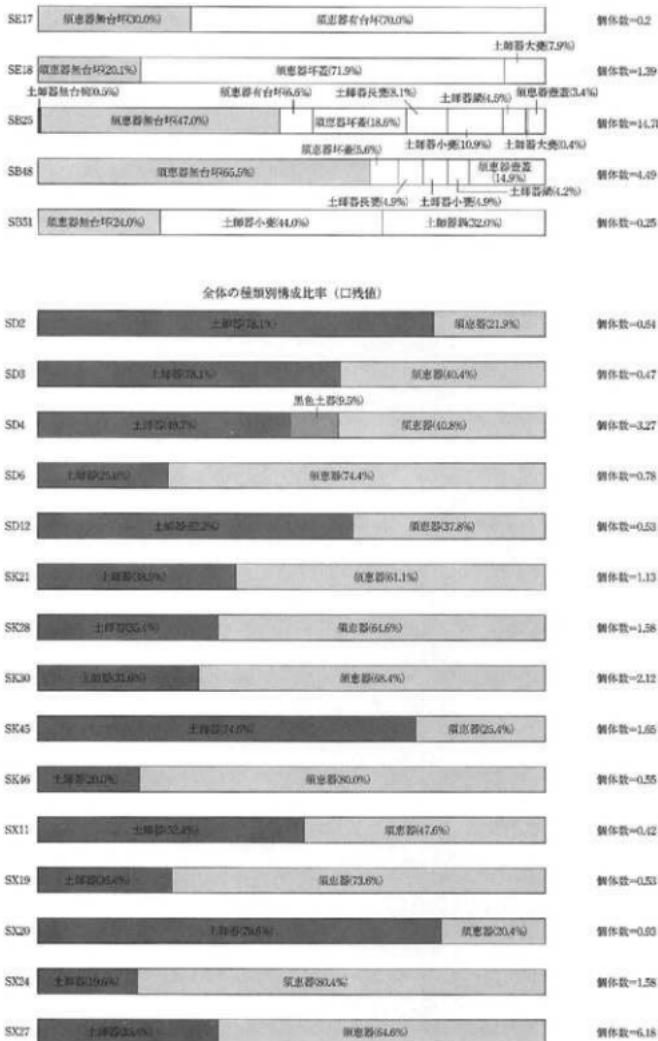
世紀前半代(第1四半期)の実年代が与えられる。これは、前述の遺構の年代観とも整合性をもつ。

また、包含層(埴層)上面で確認されたS K13などの遺物は、前述(本章2-D)の様に土師器が主体を占め、掘立柱建物などの遺物とは明らかに様相が異なる。しかし、僅かながら組成される須恵器の形状を見る限りでは下口沢段階の産物として捉えられる。土師器にもVI期のものは認められないため、食膳具に占める土師器の組成率から春日編年V 2期(9世紀第2四半期)に比定されると考えられよう。

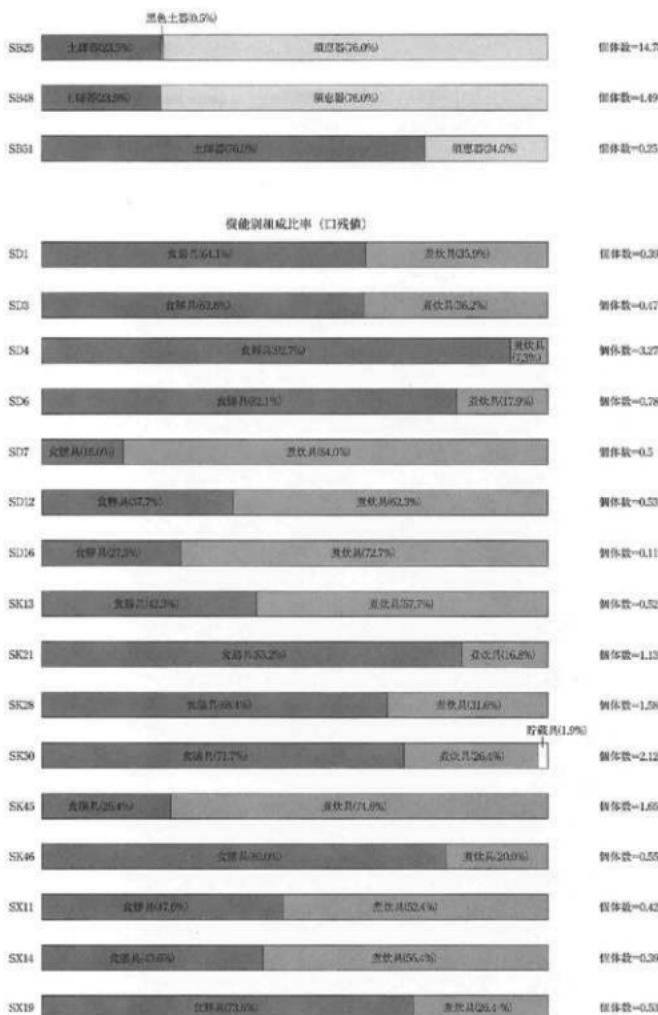
器種別構成比率(□残存)



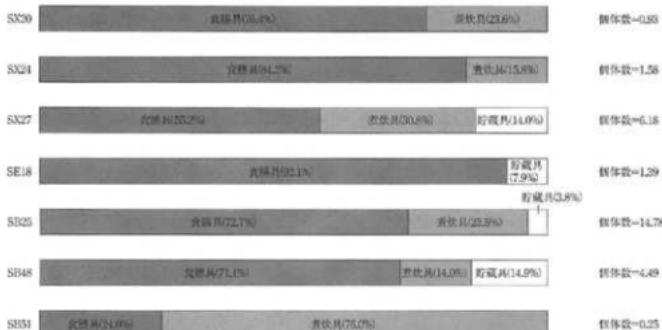
第11図 主要遺構別の器種組成図（1）



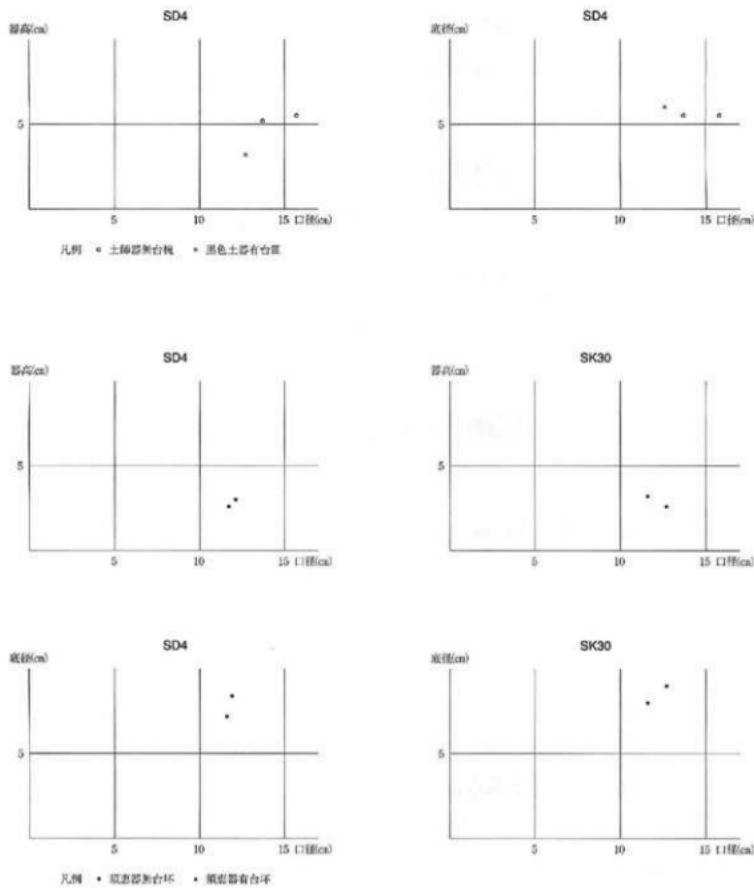
第12図 主要造構別の器種組成図（2）



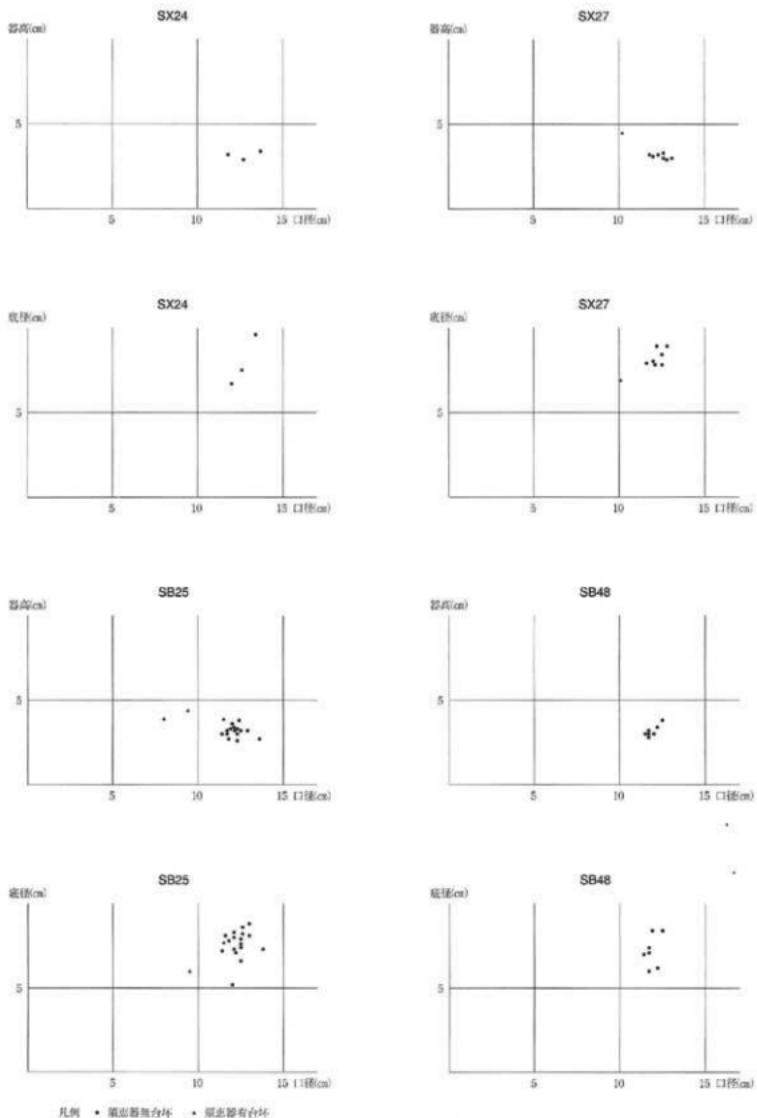
第13図 主要遺構別の器種組成図（3）



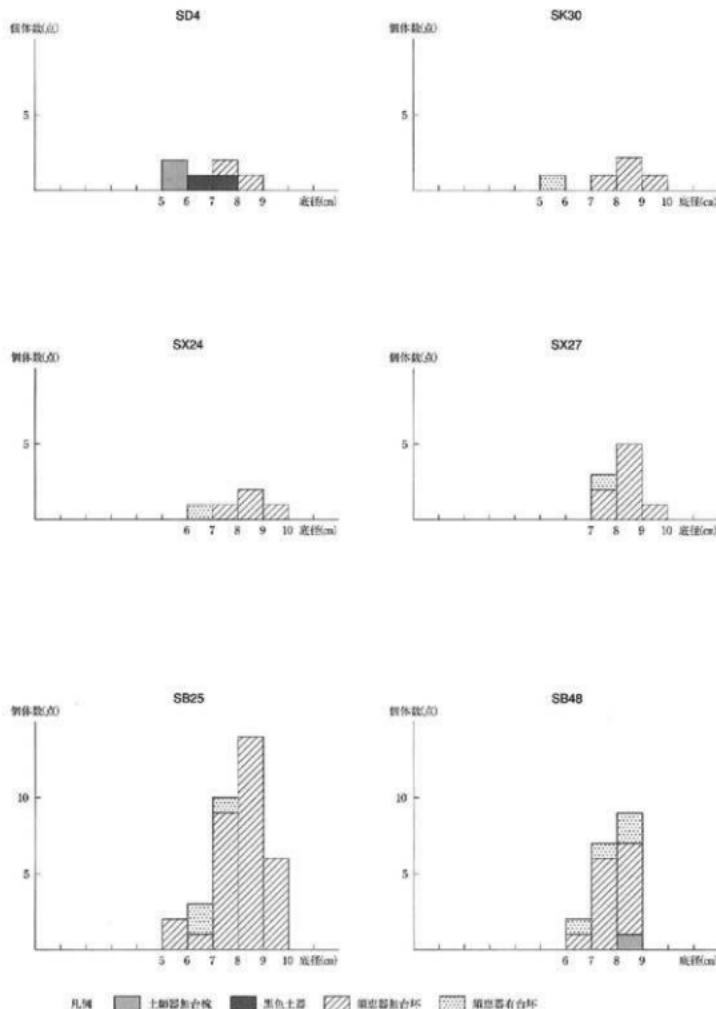
第14図 主要遺構別の器種組成図（4）



第15図 SD4・SK30・SX24・SX27・SB25・SB48出土食膳具の法量分布図(1)



第16図 SD4・SK30・SX24・SX27・SB25・SB48出土食膳具の法量分布図(2)



第17図 SD4・SK30・SX24・SX27・SB25・SB48出土食膳具の法量分布図(3)

引用・参考文献

- 阿部義平 1971 「ロクロ技術の復元」『考古学研究』第18巻-第2号 考古学研究会
- 甘粕 健・川村浩司ほか 1992 「古津八幡山古墳I」 新潟市教育委員会
- 家田順一郎 1986 「小丸山遺跡」 横越村教育委員会
- 石川智紀ほか 1994 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡I(A地区)」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀ほか 2001 「国営郷場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石田明夫ほか 2000 「会津若松市史14 会津のやきもの」 会津若松市
- 伊藤 崇 1998 「松山窯跡 新潟県北蒲原郡黒川村大字塙沢地内における古代窯跡の発掘調査報告書」 黒川村教育委員会
- 伊藤秀和 2001 「鬼倉遺跡一国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 加茂市教育委員会
- 上野一久・春日真実 1997 「横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡II」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』第65巻第5号 史学研究会
- 宇野隆夫 1989 「考古資料にみる古代と中世の歴史と社会」 真陽社
- 宇野隆夫 1991 「律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として」 桂書房
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民族博物館研究報告』第40集 国立歴史民族博物館
- 江口友子ほか 2000 「北陸自動車道黒崎バーミングエリア改良工事関係発掘調査報告書 秋迎堂遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1992 「越後・佐渡における須恵器生産終末期の様相」『北陸古代土器研究』第2号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1993 a 「王朝国家期の越後一上越市一之口遺跡(西地区)・新潟市小丸山遺跡を事例として」『新潟考古』第4号 新潟県考古学会
- 春日真実 1993 b 「王朝国家期の越後一上越市一之口遺跡(西地区)・新潟市小丸山遺跡を事例としてー」『新潟考古学談話会会報』第11号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1994 a 「第V章まとめ 2 古墳時代後期の土器」『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書 IVー一之口遺跡東地区 (本文編)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1994 b 「越後における8世紀中頃の画期について」『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997 a 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997 b 「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997 c 「第VI章まとめ B 平安時代」『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡II』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 a 「第4章古代 第2節土器編と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院
- 春日真実 1999 b 「考古編 第5章まとめ」『吉田町史資料編 I 考古・古代・中世』 吉田町
- 春日真実 2001 「北陸の様相」 「第6回シンポジウム 古代の土器研究 律令的土器様式の西・東6 須恵器の製作技法とその転換」 古代の土器研究会
- 春日真実ほか 1996 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2001 「一般国道116号出雲崎バイパス関係発掘調査報告書 梶子谷窯跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 川上貞雄 1981 「山峰須恵窯跡」 五泉市教育委員会
- 川上貞雄 1982 a 「平造跡緊急発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1982 b 「中の山遺跡発掘調査報告書」 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1992 「川口甲遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1993 「山ん家遺跡緊急発掘調査報告書」 横越村教育委員会

- 川上貞雄 1994 「八幡山遺跡Ⅰ遺構編」 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 「舟戸遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 「金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区」 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997 「上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 川上貞雄ほか 1983 「馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書」 白根市教育委員会
- 川上貞雄ほか 1991 「発久遺跡発掘調査報告書」 笠神村教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 「新津市史」資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市史編纂委員会
- 川村浩司 1989 「越後の古代集落基盤—遺跡の類型とその展開—」『新潟考古学談話会会報』第3号 新潟考古学談話会
- 北野博司 2000 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究第8号』須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとかめ 北陸古代土器研究会
- 北野博司 2001 「須恵器の風船技法」『北陸古代土器研究第9号』須恵器貯蔵具を考えるⅡ つぼとかめのつくり方 北陸古代土器研究会
- 北野博司・久世健二・小林正史・橋場和彦 1996 「内面黒色土器の焼成技法」『日本考古学協会第62回総会研究発表要旨』 日本考古学協会
- 木村宗文 1989 「資料解説—古代越後国と蒲原郡」「新津市史」資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市史編纂委員会
- 木村宗文 1993 「城と館」「新津市史」通史編上巻 新津市史編纂委員会
- 小池邦明 1999 「山木戸遺跡第2次発掘調査概要」 新潟市教育委員会
- 小池義人ほか 1994 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡・寺道上遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人ほか 1998 「上信越自動車道関係発掘調査報告書IV 間川谷内遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 酒井和男 1980 「三王山遺跡」 亀田町教育委員会
- 坂井秀弥 1988 「越後・佐渡における古代土器の生産と流通—8~10世紀を中心として—」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題 報告帳』 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1989 a 「北陸型土器師長妻の制作技法」『新潟考古学談話会会報』第3号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1989 b 「第Ⅷ章まとめ 2奈良・平安時代の土器」「新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡」 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥 1994 「序と館、集落と屋敷—東国古代遺跡における館の形成—」「城と館を掘る・読む—古代から中世へ—」 山川出版社
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衙遺跡—越後平野の内水面・舟運・漁業—」「越と古代の北陸」 古代王権と交流 3 名著出版
- 坂井秀弥 1999 「第Ⅳ章古代 第Ⅰ節総論」「新潟県の考古学」 高志書院
- 坂井秀弥ほか 1984 「上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書 I 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡」 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1986 「北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書 II 一之口遺跡西地区」 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1987 「国道116号線埋蔵文化財調査報告書 三島郡出雲崎町馬場遺跡」 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989 「新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡」 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間昭正・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」「新潟考古」第2号 新潟県考古学会
- 後澤正史 1998 「面・付堀 高田平野における平安時代前半期の食膳具について」「保坂遺跡発掘調査報告書」 上越市教育委員会
- 後澤正史 1999 「第4章第4節第2項 宿業」「新潟県の考古学」 高志書院
- 後澤正史ほか 1997 「保坂遺跡発掘調査報告書」 上越市教育委員会

- 品田高志・伊藤啓雄 1997 「前掛り遺跡」 柏崎教育委員会
- 鈴木俊成 1994 「第VI章まとめ I 平安時代の土器」「北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書IV一之口
遺跡東地区(本文編)」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木俊成・遠藤学司 1988 「北陸自動車道 糸魚川地区発掘調査報告書V 小出越遺跡」 新潟県教育委員会
- 鈴木俊成ほか 1998 「県営ほ場整備事業(神林村)関連埋蔵文化財発掘調査報告書 天王前遺跡・有明の場遺跡・石川
遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 岡 雅之 1998 「昭和20年代の新潟県考古学界の動向」「新潟考古」9 新潟県考古学会
- 高橋 勉 1999 「第4章古代 第3節集落と寺院・官衙 第1項集落」「新潟県の考古学」 高志書院
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年輪の設定」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」報告編 石川考古学研究
会・北陸古代土器研究会
- 田中 靖 1993 「八幡林遺跡」 和島村教育委員会
- 田中 靖 1995 「門新遺跡 外割田地区」 和島村教育委員会
- 田中 靖ほか 1995 「門新遺跡」 和島村教育委員会
- 立木宏明ほか 1998 「細池遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 1999 「中谷内遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 2000 「川根遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 土橋由理子ほか 1999 「国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書III 牛道遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県
埋蔵文化財調査事業団
- 長岡市 1992 「長岡市史」資料編I 考古
- 中村 浩 1977 「須恵器生産に関する一考察」「考古学雑誌」63-1 日本考古学会
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 「新潟市史」資料編I 原始・古代・中世 新潟市
- 新津市史編さん委員会 1993 「新津市史」通史編・上巻 新津市
- 菱田哲郎 1996 「歴史発掘 須恵器の系譜」 講談社
- 布施智也・平岡和夫・高階敏昭 2000 「江添C遺跡・吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報
告書ー」 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- 藤塚 明・小池邦明・渡邊朋和 1987 「新潟市小丸山遺跡発掘調査概報」 新潟市教育委員会
- 星野信明・石川智紀ほか 1996 「磐越自転車道開発関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡II(B地区)」 新潟県教育委員会・
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 本間信昭ほか 1973 「南蒲原郡栄村半ノ木遺跡調査報告」「北陸高速自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書」 新潟県教
育委員会
- 前田清彦 1997 「土器祭祀類型試論」「北陸古代土器研究」第7号 北陸古代土器研究会
- 水澤幸一 1997 「中世越後の土器・陶磁器組成」「中・近世の北陸—考古学が語る社会史」 桂書房
- 宮下幸雄・望月精司 1992 「戸津古窯跡群II」 小松市教育委員会
- 宮本長二郎 1996 「日本原始古代の住居建築」 中央公論美術出版
- 望月精司 1997 a 「北陸における古代土器生産体制の変質と展開」「北陸古代土器研究」第6号 北陸古代土器研究会
- 望月精司 1997 b 「古代末期における土器生産形態の変質」「北陸古代土器研究」第7号 北陸古代土器研究会
- 森田 伸 1980 『研究史 王朝国家』 吉川弘文館
- 山崎 天 1999 a 「横田B遺跡」 五泉市教育委員会
- 山崎 天 1999 b 「小実山遺跡」 五泉市教育委員会
- 山中雄志 1998 「福島県会津地方の越後・出羽日本海系クロ長朝堺—そのアウトライントリニティについての研究ノートー
ー」「東国史論」第13号 群馬考古学研究会
- 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 「新潟県中世城館跡等分布調査報告書」 新潟県教育委員会
- 吉井雅勇 1994 「古谷地B遺跡・寺田遺跡・赤井遺跡 県営農場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書I」 荒川町
教育委員会
- 吉井雅勇ほか 1999 「元山窯跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書」 荒川町教育委員会
- 吉岡康輔 1994 「中世須恵器の研究」 吉川弘文館

- 吉田町 2000 「吉田町史 資料編 考古・古代・中世」 吉田町社会教育課
- 渡邊朋和 1991 「長沼遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1992 「上浦遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1993 「上浦B遺跡」「墨文にいがた』No.2 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 渡邊朋和 1994 a 「八幡山遺跡発掘調査報告書—平成5年度範囲確認調査」 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994 b 「平成5年度 新津市内遺跡確認調査報告書」 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1997 「金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書II 居村遺跡B・A・C地点、大入道路A地点」 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1998 「金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書III(分析・考察編)」 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1999 「第4章第4節第3項製鉄」「新潟県の考古学」 新潟県考古学会
- 渡邊朋和ほか 2001 「寺道上遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 渡邊ますみ 1993 「荒木前遺跡」 龟田町教育委員会
- 渡邊ますみ 1994 「諸立C遺跡発掘調査報告書」 黒崎町教育委員会
- 渡邊ますみほか 1998 「第2章原始・古代—縦立遺跡—第3節出土遺物第3項 奈良・平安時代の遺物1」「黒崎町史」 資料編1 原始・古代・中世 黒崎町

別表1 主要造構一覧表

造構名	グリッド	確認番	形態		造構規模(m)			覆土	主軸方向	造構 鉄版 No.	S P No.	造物 の 有無	造物 鉄版 頁	備考	
			平面	断面	長さ	最大幅 長軸	短軸								
SD1	SE12・13・14	■下	—	圓形	5.03	0.63	—	0.12	N・89°・E	20	1	有り	40	S B51区面構	
SD2	5F4・5・9・10, 6F1・2・6・7	■下	—	圓形	5.15	0.68	—	0.19	16番	N・94°・E	20	3・4	有り	40	S B48区面構
SD3	6D20・24・25, 6E3・4・7・11・12・16・17・21・22, 6F2・7・12・13・17・18・23, 7D11・16	■上	—	圓形	—	0.56	—	0.11	3～ 7番	N・54°・E N・13°・W	23 11	9・10	有り	40	
SD4	5E15, 6E11・12・13・17・18	■下	—	圓形	6.08	0.99	—	0.30	12番	N・93°・E	21	5	有り	40・41	S B25・48区面構
SK5	5E3	■上	椭丸方形	圓形	—	0.37	0.35	0.13	5番	—	24	25	無し		
SD6	5D20・25, 6D16・17・18・21・22・23	■下	—	圓形	6.42	0.96	—	0.32	12番	N・91°・E	22	6	有り	41	S B25区面構
SD7	5D22・23・24・25	■下	—	圓形	6.36	0.83	—	0.12	11番	N・93°・E	22	7・8	有り	42	S B51区面構
SD8	4E2・3・7・11・12・16・17	■下	—	圓形	—	0.71	—	0.05	3番	N・20°・E	23	12	有り	42	
SD9	5E25, 5F25, 5C5, 6E21, 6F1・2・6・7・11・16・21	■上	—	圓形	18.11	0.58	—	0.12	7番	N・28°・E	23	14・15	有り	42	
SK10	3E28, 3F5, 4E21, 4F1	■下	椭円形	圓形	—	1.05	0.14	2番	—	24	26	無し			
SX11	6E1・2・6・7	■下	椭円形	圓形	—	3.12	1.82	0.11	3番	—	27	—	有り	46	
SD12	6E11・16・21	■上	—	圓形	4.70	0.22	—	0.09	7番	N・12°・E	23	16・17	有り	42	
SK13	6E17	■上	椭円形	圓形	—	1.02	0.81	0.19	5番	—	24	27	有り	43	
SX14	6F11	■下	—	—	0.50	0.43	—	—	—	—	27	—	有り	46	難辨
SD15	6D14・18・19・23, 6E3	■上	—	圓形	—	0.35	—	0.07	3番	N・17°・E	23	18	無し		
SD16	6E3・4・8・9・13・14・18・19・23・24, 6F3・4	■上	—	圓形	—	9.21	0.72	0.07	1番	N・4°・E	23	19	有り	43	
SE17	7D16・17・21・22	■下	円形	漏斗形	—	1.68	1.63	1.06	22番	—	29	57	有り	49	
SE18	7D25, 7E5, 8D21・22, 8E1・2	■下	椭丸長方形	漏斗形	—	3.13	2.51	1.13	4番	—	30	59	有り	49	
SX19	6E12・13・14・17・18・19	■下	椭丸方形	圓形	—	2.87	2.68	0.21	11番	—	28	53	有り	46	
SX20	6D17・18・22・23	■下	椭丸方形	圓形	—	3.31	—	0.24	3番	—	27	50	有り	46	
SK21	7D14・19	■下	椭丸方形	圓形	—	1.09	1.04	0.14	4番	—	24	28	有り	43	
SK22	7D19・24	■下	椭円形	圓形	—	1.91	1.29	0.23	7番	—	24	29	無し		
SX23	8D18・19・23・24	■下	椭円形	圓形	—	2.58	2.14	0.17	3番	—	27	51	有り	47	
SX24	6E8・23・24, 6F3・4	■下	不整形	圓形	—	3.06	2.10	0.12	2番	—	28	55・56	有り	47	
SB25	5D25, 5E5・10・15, 6D21・22, 6E1・2・6・7・11・12	X	2間×3間	—	5.82	4.80	—	—	N・1°・W	32	—	有り	46・53	南北軸	
P1	5D25	X	円形	圓形	—	0.48	0.43	0.45	6番	—	32	65			
P2	5D25, 5E5	X	円形	圓形	—	0.44	0.35	0.48	4番	—	32	66			
P3	5E5・10	X	椭円形	圓形	—	0.61	0.44	0.52	5番	—	32	67		柱財出土	
P4	5E10・15	X	椭円形	圓形	—	0.68	0.47	0.49	5番	—	32	68			
P5	6E11	X	円形	圓形	—	0.42	0.41	0.42	5番	—	32	69			
P6	6E2・7	X	円形	圓形	—	0.49	0.43	0.51	4番	—	32	70			

造橋名	グリッド	橋面	形態		造橋規模 (m)			断土	主軸方向	造橋 回数 No.	S P No.	造物 の 有無	造物 回数 頁	備考		
			平面	断面	長さ	最大幅 大船	幅									
						短軸	深さ									
P 7	6E22, 6E2	X	円形	楕形	0.43	0.36	0.51	5番		32	71					
P 8	6E22	X	椭円形	楕形	0.43	0.35	0.38	6番		32	72					
P 9	6D1	X	円形	楕形	0.41	0.36	0.54	—		32	—					
SK 2 6	6D20	下下	不整円形	楕形	0.95	0.83	0.15	4番		24	30	有り	43			
SK 2 7	6E13・14・15・18・19・20	下下	椭円形	楕形	3.62	2.75	0.19	9番		28	54	有り	48			
SK 2 8	6D20・25, 7D15・21	下下	不整円形	楕形	2.36	1.84	0.27	11番		25	34	有り	44			
P i t 2 9	6D20, 7D16	下下	椭円形	半円形	0.47	0.39	0.19	3番		36	87	無し				
SK 3 0	7D18・23・24	下下	長方形	楕形	3.37	1.23	0.15	—		34	—	有り	44			
S D 3 1	6D18・19・20	下下	—	楕形	0.61	—	0.14	1番	N - 70° - W	23	20	無し				
S D 3 2	6E6・11・12	上上	—	楕形	3.19	0.35	—	0.07	1番	N - 48° - W	23	21	無し			
S D 3 3	6E17・18・23, 8F3・4・9・10	上上	—	楕形	8.19	0.38	—	0.13	1番	N - 37° - W	23	22・23	無し			
SK 3 4	6E1 - 2 - 6 - 7	下下	不整椭円形	楕形	1.57	0.95	0.11	3番		24	32・33	無し				
P i t 3 5	6D14	下下	円形	楕形	0.30	0.28	0.15	1番		36	88	無し				
P i t 3 6	6D19	下下	円形	楕形	0.38	0.36	0.19	1番		36	89	有り	55			
P i t 3 7	9D21	下下	円形	楕形	0.24	0.23	0.09	1番		36	90	無し				
P i t 3 8	6E8	下下	椭円形	楕形	0.29	0.25	0.19	1番		36	91	無し				
P i t 3 9	6E13	下下	椭円形	楕形	0.34	0.27	0.19	1番		36	92	無し				
P i t 4 0	6D14	下下	椭円形	楕形	0.21	0.21	0.17	1番		36	93	無し				
P i t 4 1	6D13	下下	椭円形	楕形	0.16	0.14	0.19	1番		36	94	無し				
P i t 4 2	6D20・25	下下	円形	楕形	0.48	0.44	0.18	2番		36	95	無し				
S D 4 3	6F2・7	上上	—	楕形	3.12	0.32	—	0.08	1番	N - 25° - W	23	24	無し			
SK 4 4	6E15	下下	椭円形	楕形	0.91	0.78	0.32	5番		25	39	無し				
SK 4 5	6E7・8・12・13	下下	椭円形	楕形	1.52	1.27	0.33	4番		25	36	有り	45			
SK 4 6	6E2・3	下下	椭円形	楕形	1.06	1.02	0.16	2番		25	37	有り	45			
SK 4 7	7E11・12	下下	不整円形	楕形	1.11	0.85	0.27	3番		25	38	有り	45			
S B 4 8	5E20・24・25, 5F4・5, 6E16・17・21・22, 6F1・2	X	2箇×2箇	楕形	4.70	3.10	—	—	N - 8° - E	34	—	有り	53・54	東西棟(総柱)		
P 1	6E20	X	椭円形	楕形	0.18	0.17	0.29	1番		34	—					
P 2	5E24・2・5	X	椭円形	楕形	0.16	0.15	0.22	1番		34	—					
P 3	5E24, 5F4	X	椭円形	楕形	0.24	0.22	0.30	5番		34	80					
P 4	5F5	X	円形	楕形	0.34	0.32	0.37	4番		34	81					
P 5	6F2	X	円形	楕形	0.22	0.21	0.30	1番		34	—					
P 6	6E22	X	円形	楕形	0.23	0.19	0.36	1番		34	—					

遺構名	グリッド	確認面	形態		遺構規模 (m)			覆土	主軸方向	遺構 図版 No.	S P No.	遺物 の 有無	遺物 図版 頁	考
			平面	断面	長さ	最大幅 長軸	短軸							
P 7 6E17		X	円形	圆形	0.24	0.22	0.39	1等		34	—			
P 8 6E16		X	円形	圆形	0.22	0.18	0.34	1等		34	—			
P 9 6E21		X	円形	圆形	0.21	0.18	0.34	1等		34	—			
S K 4 9 7F6		壁下	格円形	圆形	1.02	0.78	0.13	3等		26	40	無し		
S K 5 0 6D23		壁下	不整円形	圆形	0.41	0.38	0.29	5等		26	41	無し		柱材
S B 5 1 5E2 - 3 - 4 - 7 - 8 - 9 - 12 - 13 - 14		X	2間×2間		4.20	3.60	—	—	N - 1° - E	35	—	有り	55	東西推
P 1 5E2		X	円形	圆形	0.23	0.22	0.56	1等		35	—			柱材
P 2 5E2		X	隅丸方形	圆形	0.19	0.18	0.54	1等		35	—			
P 3 5E3		X	円形	圆形	0.23	0.17	0.30	1等		35	—			
P 4 5E4		X	円形	圆形	0.22	0.21	0.26	1等		35	—			
P 5 5E9		X	隅丸方形	圆形	0.18	0.18	0.31	1等		35	—			
P 6 5E9 - 14		X	円形	圆形	0.25	0.19	0.30	1等		35	—			
P 7 5E9 - 13		X	隅丸方形	圆形	0.19	0.18	0.35	1等		35	—			
P 8 5E7 - 12		X	円形	圆形	0.27	0.25	0.44	1等		35	—			
P 9 5E7		X	隅丸方形	圆形	0.21	0.20	0.34	1等		35	—			
Pit 5 2 6D23		壁下	円形	半円形	0.41	0.37	0.29	4等		36	96	無し		
S K 5 3 6E17 - 22		壁下	格円形	圆形	1.08	0.68	0.11	2等		26	43	有り	45	
S K 5 4 6D94 - 25, 8E4 - 5		壁下	円形	圆形	1.32	1.18	0.08	—		26	—	無し		
Pit 5 5 8E4		壁下	円形	圆形	0.32	0.28	0.21	—		36	—	無し		
Pit 5 6 6D23		壁下	円形	圆形	0.23	0.20	0.18	1等		36	—	無し		柱材
S K 5 7 6E18 - 19		壁下	隅丸方形	圆形	1.00	0.83	0.03	—		28	—	無し		
S K 5 8 6E18 - 19		壁下	隅丸長方形	圆形	0.67	0.45	0.06	—		25	—	無し		
Pit 5 9 7D19 - 24		壁下	隅丸方形	圆形	0.45	0.41	0.16	1等		24	—	無し		
Pit 6 0 6E3		壁下	円形	圆形	0.32	0.30	0.36	—		36	—	無し		柱材
Pit 6 1 6E16		壁下	隅丸方形	圆形	0.20	0.19	0.06	1等		36	100	無し		
Pit 6 2 7D21		壁下	円形	半円形	0.33	0.19	0.18	—		25	—	無し		
Pit 6 3 6D21		壁下	格円形	圆形	0.61	0.35	0.54	—		36	—	無し		
S K 6 4 6D16 - 17 - 21 - 22		壁下	不整形	圆形	2.11	1.78	0.39	20等		26	45 - 46	無し		
S K 6 5 6D17		壁下	隅丸方形	圆形	0.63	0.52	0.24	—		26	—	無し		
Pit 6 6 6D18		壁下	円形	圆形	0.28	0.25	0.26	—		27	—	無し		
S K 6 7 5D24		壁下	格円形	圆形	0.79	0.47	0.48	—		22	—	無し		
Pit 6 8 6E22		壁下	隅丸方形	圆形	0.18	0.16	0.34	1等		36	102	無し		

造番名	属種	魚類目								底生目				浮游目				合計		
		底魚上目				底生目				底生目		浮游目		浮游目		浮游目				
		上目別	科別	属別	種別	上目別	科別	属別	種別	年令別	性別	年令別	性別	年令別	性別	年令別	性別			
SK13	底魚目	0.22	<1.5%							0.13	21.2%	0.13	21.2%	0.09	16.5%			0.32	100%	
	底魚科	0.15	87.1%							11	14.9%	11	14.9%	11	14.9%			71	100%	
	底魚屬	0.15	85.3%											0.01	7.7%			0.38	100%	
	底魚種	0.15	85.3%												1	33.3%			2	100%
	底魚個	0.15	85.3%												11	36.7%			31	100%
SK21	底魚目	0.21	<1.5%							0.13	26.7%	0.13	26.7%	0.09	16.5%			0.32	100%	
	底魚科	0.15	86.9%							11	17.3%	11	17.3%	11	17.3%			71	100%	
	底魚屬	0.15	85.2%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	85.2%												1	3.3%			49	100%
	底魚個	0.15	85.2%											2	2.7%	1	1.5%	69	100%	
SK26	底魚目	0.21	<1.5%							0.14	22.6%	0.15	16.8%	0.09	16.8%			1.13	100%	
	底魚科	0.15	86.6%							11	17.3%	11	17.3%	11	17.3%			71	100%	
	底魚屬	0.15	85.2%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	85.2%												1	3.3%			49	100%
	底魚個	0.15	85.2%											2	2.7%	1	1.5%	69	100%	
SK28	底魚目	0.21	<1.5%							0.13	20.9%	0.13	20.9%	0.09	16.5%			1.15	100%	
	底魚科	0.15	84.8%							11	16.2%	11	16.2%	11	16.2%			61	100%	
	底魚屬	0.15	83.5%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	83.5%											1	3.3%			81	100%	
	底魚個	0.15	83.5%											2	2.7%	1	1.5%	89	100%	
SK30	底魚目	0.21	<1.5%							0.13	12.6%	0.13	12.6%	0.09	16.5%			1.26	100%	
	底魚科	0.15	83.8%							11	16.2%	11	16.2%	11	16.2%			61	100%	
	底魚屬	0.15	82.5%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	82.5%											1	3.3%			81	100%	
	底魚個	0.15	82.5%											2	2.7%	1	1.5%	89	100%	
SK45	底魚目	0.21	<1.5%							0.13	20.9%	0.13	20.9%	0.09	16.5%			1.15	100%	
	底魚科	0.15	83.5%							11	16.2%	11	16.2%	11	16.2%			61	100%	
	底魚屬	0.15	82.2%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	82.2%											1	3.3%			81	100%	
	底魚個	0.15	82.2%											2	2.7%	1	1.5%	89	100%	
SK46	底魚目	0.21	<1.5%							0.13	20.9%	0.13	20.9%	0.09	16.5%			1.15	100%	
	底魚科	0.15	83.5%							11	16.2%	11	16.2%	11	16.2%			61	100%	
	底魚屬	0.15	82.2%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	82.2%											1	3.3%			81	100%	
	底魚個	0.15	82.2%											2	2.7%	1	1.5%	89	100%	
SK47	底魚目	0.21	<1.5%							0.13	20.9%	0.13	20.9%	0.09	16.5%			1.15	100%	
	底魚科	0.15	83.5%							11	16.2%	11	16.2%	11	16.2%			61	100%	
	底魚屬	0.15	82.2%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	82.2%											1	3.3%			81	100%	
	底魚個	0.15	82.2%											2	2.7%	1	1.5%	89	100%	
SK53	底魚目	0.21	<1.5%							0.13	20.9%	0.13	20.9%	0.09	16.5%			1.15	100%	
	底魚科	0.15	83.5%							11	16.2%	11	16.2%	11	16.2%			61	100%	
	底魚屬	0.15	82.2%											0.01	1.7%			0.31	100%	
	底魚種	0.15	82.2%											1	3.3%			81	100%	
	底魚個	0.15	82.2%											2	2.7%	1	1.5%	89	100%	

別表3 土器觀察表

報告番号	実測番号	出土位置	種類	器種	寸法			底高指数	底厚指數	出土	色調	焼成	蓋・春・車			備考		
					口径	底径	高さ						口径	底径	全体			
1	170	S D1	土器部	施台輪	8.0			高	底	灰(N5W7)	還元	15/36	6/36	還元	15/36	6/36	新津丘陵	
2	348	S D1	土器部	施台輪	(34.0)			高	底	灰(10YR7/3)	還元	9/36	5/36	還元	5/36	5/36	新津丘陵	
3	180	S D2	土器部	施台輪	12.4	8.1	3.3	27	65	高・長	灰(7.5YR6/1)	還元	5/36	6/36	還元	5/36	6/36	新津丘陵
4	261	S D2	土器部	施台輪	12.2	5.2	4.1	34	43	高・長	灰(10YR7/2)	還化	18/36	35/36	20/36	還元	18/36	35/36
5	171	S D3	土器部	施台輪	9.9					高・長	オーリーフ(2.5GY5/1)	還元	7/36	2/36	還元	2/36	2/36	新津丘陵
6	172	S D3	土器部	施台輪	8.0					高・長	オーリーフ(7.5Y7/1)	還元	4/36	3/36	還元	4/36	3/36	新津丘陵
7	424	S D3	土器部	施台輪	(12.0)					高・長	灰(N5W7)	還元	2/36		還元	1/36		
8	425	S D3	土器部	施台輪	(12.0)					高・長	灰(N5W7)	還元	3/36		還元	2/36		
9	426	S D3	土器部	施台輪	(12.2)					高・長	灰(10YR7/1)	還元	1/36					
10	289	S D3	土器部	施台輪	5.5					高・手	灰(2.5YR7/2)	還化	20/36	12/36	還元	12/36	20/36	還元
11	350	S D3	土器部	鉢						高・手	灰(10YR7/2)	還化						
12	351	S D3	土器部	小鉢						高・手	灰(10YR7/2)	還化						
13	227	S D3	土器部	小鉢	6.5					高・長	灰(10YR7/3)	還化	22/36	6/36	還元	6/36	22/36	還元
14	349	S D3	土器部	小鉢	(7.0)					高・手	灰(10YR7/2)	還化						
15	75	S D4	頭部部	頭部輪	11.5	7.4	2.6	23	64	高・手	灰(N5W7)	還元	12/36	18/36	12/36	還元	12/36	18/36
16	80	S D4	頭部部	頭部輪	12.0	8.4	3.1	26	70	高・手	灰(N5W7)	還元	12/36	18/36	12/36	還元	12/36	18/36
17	173	S D4	頭部部	頭部輪	13.8					高	オーリーフ(2.5GY5/1)	還元	3/36		還元	2/36		
18	174	S D4	頭部部	頭部輪	12.0					高	オーリーフ(2.5GY5/1)	還元	5/36		還元	5/36		
19	427	S D4	頭部部	頭部輪	(12.7)					高・長	灰(10YR7/1)	還元	2/36		還元	1/36		
20	428	S D4	頭部部	頭部輪	(12.4)					高・長	灰(N5W7)	還元	3/36		還元	2/36		
21	429	S D4	頭部部	頭部輪	(12.2)					高・長	灰(N5W7)	還元	2/36		還元	1/36		
22	430	S D4	頭部部	頭部輪	(13.0)					高・長	灰(N5W7)	還元	3/36		還元	2/36		
23	431	S D4	頭部部	頭部輪	(11.4)					高・長	灰(10YR7/1)	還元	3/36		還元	2/36		
24	74	S D4	頭部部	大鉢						高・長	灰(N5W7)	還元						
25	182	S D4	頭部部	大鉢						高・長	灰(N5W7/1)	還元						
26	242	S D4	土器部	施台輪	16.0					高・長	灰(10YR7/3)	還化	7/36		還化	7/36		
27	274	S D4	土器部	施台輪	13.8	5.6	5.1	37	41	高・長	灰(10YR7/1)	還化	15/36	25/36	18/36	還元	15/36	25/36
28	276	S D4	土器部	施台輪	15.6	5.6	5.6	35	35	高・長	灰(10YR7/1)	還化	15/36	3/36	10/36		15/36	
29	299	S D4	土器部	施台輪	13.0					高・長	灰(2.5YR7/2)	還化	7/36		還化	5/36		
30	353	S D4	泥化土部	施台輪	7.0					手・手	黄褐色(10YR8/3)	還化	4/36	2/36	内面	4/36	2/36	
31	264	S D4	黑色土部	施台輪	12.8	6.6	3.2	25	47	高・長	灰(10YR8/3)	還化	7/36	35/36	25/36	内面	7/36	35/36
32	265	S D4	黑色土部	施台輪	12.0					高・手	灰(2.5YR7/3)	還化	4/36		内面	4/36		
33	354	S D4	土器部	小鉢	(13.0)					高・手	灰(10YR7/2)	還化	1/36		内面	1/36		
34	365	S D4	土器部	鉢	(38.0)					高・手	灰(10YR8/2)	還化	1/36		内面	1/36		
35	366	S D4	土器部	鉢						高・手	灰(10YR8/1)	還化			内面			
36	64	S D6	頭部部	頭部輪	12.8					高	灰(N5W7)	還元	17/36		還元	9/36		
37	157	S D6	頭部部	頭部輪	13.5					高・手	灰(5YR7/1)	還元	4/36		還元	3/36		
38	56	S D6	頭部部	頭部輪						高・長	灰(12.5YR7/1)	還化			内面			
39	357	S D6	土器部	施台輪	(12.0)					高・手・手	灰(10YR7/2)	還化	2/36		内面	1/36		
40	358	S D6	土器部	小鉢	15.0					高・手・手	灰(10YR7/2)	還化	5/36		内面	2/36		
41	78	S D7	頭部部	大鉢						高・長	灰(7.5YR7/1)	還元			内面			
42	281	S D7	土器部	施台輪	12.8	5.4	4.1	32	42	高・長	灰(5YR7/6)	還化	3/36	18/36	9/36	内面	3/36	18/36
43	319	S D7	土器部	施台輪	5.6					高・長	灰(10YR7/4)	還化			内面			
44	243	S D7	土器部	小鉢	14.0					高・手	灰(12.5YR7/1)	還化	4/36		内面	2/36		
45	244	S D7	土器部	鉢	(38.0)					高・手	灰(10YR8/2)	還化	1/36		内面	1/36		
46	316	S D7	土器部	鉢	39.2					高・手	灰(10YR8/3)	還化	8/36		内面	4/36		
47	318	S D7	土器部	鉢	(40.0)					高・手	灰(12.5YR8/2)	還化	2/36		内面	1/36		
48	309	S D7	土器部	鉢						高・手	灰(10YR8/3)	還化			内面			
49	176	S D9	頭部部	施台輪	7.0					高・手	灰(5YR8/1)	還元	11/36	4/36	内面	2/36	11/36	
50	360	S D9	土器部	小鉢	6.8					高・手・手	灰(5YR7/6)	還化	6/36	2/36	内面	外面	6/36	2/36

報告No.	実測No.	出土位置 遺構 名	種別	器種	法 量		鉄高指數	底径指數	胎 土	色 調	焼成	蓋 存 在			手 法	備 考					
					口径	底径	器高					目録			底面	全体					
												底面	全体	内面							
51	175	S D12	須恵器	壺台形	8.0				土	黄	鉄(7.5%)/1	還元	4/36	2/36	底面ヘタ切り		新津丘陵				
52	361	S D12	須恵器	壺台形	(12.0)				土	黄(N6)	鉄(6%)	還元	2/36	1/36							
53	87	S D12	須恵器	壺台形	16.0				土	黄・灰・赤	鉄(9%)	還元	5/36	4/36							
54	272	S D12	土師器	長甕	22.0				土	黄・灰	にぶい黄鐵(10%)R7/4	鉄化	5/36	3/36	体部外・内面カキメ						
55	362	S D12	土師器	小甕	8.0				土	黄・灰・赤	鉄(7.5%)R8/3	鉄化	4/36	1/36	体部外側ケズリ・チヂ、内面ロクロナデ						
56	181	S D12	須恵器	壺台形	8.2				土	黄(N7)	鉄(8%)	還元	11/36	8/36	底面ヘタ切り		新津丘陵				
57	363	S D16	土師器	壺台形	5.0				土	黄・灰・赤	鉄(10%)R8/2	鉄化	10/36	5/36							
58	364	S K13	土師器	壺台形	12.0				土	黄・灰・赤	鉄(10%)R5/2	鉄化	4/36	2/36							
59	365	S K13	土師器	壺台形	5.8				土	黄・灰・赤	鉄(10%)R5/1	鉄化	8/36	2/36	底面小切り						
60	311	S K13	土師器	長甕	22.0				土	黄・灰・赤	鉄(12%)R5/1	鉄化	4/36	1/36	体部外・内面カキメ						
61	366	S K13	土師器	長甕	22.0				土	黄・灰・赤	にぶい黄鐵(10%)R6/3	鉄化	4/36	1/36	体部外カキメ・チヂタキ、内面セカメ						
62	240	S K13	土師器	小甕	14.4				土	黄・灰・赤	にぶい黄鐵(7.5%)R7/3	鉄化	4/36	1/36	体部外・内面ロクロナデ						
63	304	S K13	土師器	壺	26.0				土	黄・灰・赤	にぶい黄鐵(7.5%)R7/3	鉄化	3/36	1/36	体部外・内面カキメ						
64	367	S K13	土師器	壺					土	黄・灰・赤	鉄(12%)V4/1	鉄化			体部外側タキ今						
65	61	S K21	須恵器	壺台形	11.8	7.5	3.3	28	64	土	黄(N6)	還元	9/36	18/36	14/36	底面ヘタ切り無剥継	外南系櫛付省				
66	163	S K21	須恵器	壺台形	(12.0)				土	黄・灰	鉄(10%)V1/1	還元	2/36	1/36			新津丘陵				
67	164	S K21	須恵器	壺台形	12.0				土	黄・灰	鉄(10%)V1/1	還元	4/36	3/36							
68	165	S K21	須恵器	壺台形	12.0				土	黄・灰	鉄(10%)V1/1	還元	3/36	2/36							
69	88	S K21	須恵器	壺	17.0				土	黄・灰	鉄(12%)V1/1	還元	5/36	4/36							
70	368	S K21	土師器	壺台形	(12.5)				土	黄	にぶい黄鐵(7.5%)R7/4	鉄化	2/36	1/36							
71	388	S K21	土師器	壺台形	12.0				土	黄	鉄(10%)R5/4	鉄化	4/36	2/36							
72	369	S K21	土師器	民甕	(22.0)				土	黄・灰	にぶい黄鐵(7.5%)R6/4	鉄化	3/36	1/36	体部外・内面ロクロナデ						
73	370	S K21	土師器	小甕	7.0				土	黄・灰・赤	鉄(10%)R7/3	鉄化	4/36	1/36	体部内ハマテ						
74	340	S K26	須恵器	壺台形	8.0				土	黄・灰	鉄(10%)R7/1	還元	17/36	8/36	底面ヘタ切り						
75	148	S K26	須恵器	有台年	7.2				土	黄・灰	鉄(12%)R7/1	還元	21/36	12/36	底面ヘタ切り無剥継	底部斜面彫刻。新津丘陵					
76	154	S K28	須恵器	壺台形	11.6	6.8	3.2	28	59	土	黄・灰	鉄(10%)N6/1	還元	8/36	36/36	20/36	底面ヘタ切り無剥継	新津丘陵			
77	155	S K28	須恵器	壺台形	12.4	9.0	3.6	29	73	土	黄(N6)	還元	3/36	9/36	7/36	底面ヘタ切り					
78	160	S K28	須恵器	壺台形	12.0				土	黄(7.5%)V1/1	還元	5/36	3/36								
79	168	S K28	須恵器	壺台形	12.0				土	黄(N5)	還元	10/36	5/36								
80	432	S K28	須恵器	壺台形	(11.0)				土	黄(N6)	還元	3/36	1/36								
81	433	S K28	須恵器	壺台形	(12.0)				土	黄(N7)	還元	3/36	1/36								
82	434	S K28	須恵器	壺台形	(11.0)				土	黄(N6)	還元	3/36	1/36								
83	374	S K28	須恵器	壺台形	7.4				土	黄・灰	にぶい黄鐵(10%)R7/4	鉄化	11/36	3/36	底面ヘタ切り						
84	372	S K28	須恵器	有台年	(9.0)				土	黄(7.5%)V1/1	還元	3/36	2/36	底部斜面高台							
85	373	S K25	須恵器	大甕					土	黄(N7)	還元				体部外・内面タキ今						
86	371	S K25	土師器	壺台形	(13.0)				土	黄・灰	にぶい黄鐵(10%)R7/2	鉄化	2/36	1/36							
87	285	S K28	土師器	壺	(40.5)				土	黄(10%)R8/2	鉄化	1/36			体部外・内面カキメ						
88	375	S K28	土師器	壺	(38.0)				土	黄(12.5%)V2/2	鉄化	2/36	1/36		体部外・内面カキメ						
89	376	S K28	土師器	壺	(38.0)				土	黄・灰	にぶい黄鐵(10%)R7/2	鉄化	2/36	1/36	体部外・内面カキメ						
90	17	S K30	須恵器	壺台形	11.8	8.0	3.2	27	68	土	青(9%)BBG/1	還元	11/36	16/36	12/36	底面ヘタ切り無剥継					
91	18	S K30	須恵器	壺台形	7.6				土	黄(N6)	還元	23/36	20/36	底面ヘタ切り無剥継							
92	19	S K30	須恵器	壺台形	12.8	9.1	2.7	21	71	土	黄(N5)	還元	7/36	8/36	8/36	底面ヘタ切り無剥継					
93	20	S K30	須恵器	壺台形	8.5				土	黄(N6)	還元	10/36	4/36	4/36	底面ヘタ切り無剥継						
94	162	S K30	須恵器	壺台形	12.0				土	黄(N5)	還元	9/36	4/36								
95	21	S K30	須恵器	有台年	5.4				土	黄(N5)	還元	11/36	5/36	5/36	底部斜面高台						
96	89	S K30	須恵器	壺	16.0				土	黄・灰	鉄(10%)N7	還元	7/36	5/36							
97	445	S K30	須恵器	壺	(21.6)				土	黄(N7)	鉄(10%)	還元	2/36			体部外・内面ロクロナデ					
98	309	S K30	土師器	小甕	14.0				土	黄・灰	引鉛(12.5%)R7/2	鉄化	5/36	3/36	体部外・内面ロクロナデ						
99	312	S K30	土師器	小甕	7.5				土	黄	鉄(10%)R8/1	鉄化	9/36	3/36	底面小切り無剥継						
100	313	S K30	土師器	壺	38.0				土	黄・灰	鉄(10%)R8/2	鉄化	4/36	1/36	体部外・内面カキメ						

報告No.	実測No.	出土位置	種別	器種	法量	種名指紋	直径厚さ	底径厚さ	底土	色調	焼成	遺存率			手法	備考	
												口桟部	底桟部	全体			
101	435	S X45	須恵器	無台形	11.0				黄・長	灰(NA/)	焼元	2/36	1/36				
102	22	S X45	須恵器	有台形	14.5	9.0	6.7	46	灰	灰(SY5/1)	焼元	13/36	14/36	14/36		底盤貼付高台	
103	161	S X45	須恵器	大盤					黄・長	灰(2.5Y7/1)	焼元					外側外面ハケメ・タキ、内面ハケメ・底で具抜	
104	377	S X45	土師器	小盤	13.2				灰・長・子	帶灰(2.5Y6/6)	焼化	2/36	1/36			外側外腹タキメ	
105	227	S X45	土師器	盤	38.0				灰・長・子	黄灰(2.5Y7/2)	焼化	2/36	1/36			外側外腹タキメ	
106	269	S X45	土師器	盤	38.0				灰・長・子	灰白(2.5Y8/2)	焼化	27/36	5/36			外側外腹タキメケズリ、内面タキメ・ハケメ	
107	62	S X46	須恵器	無台形	12.0	7.6	3.0	25	灰	灰(NV)	焼元	7/36	10/36	9/36		底盤ヘラ切り無調整	
108	158	S X46	須恵器	無台形	12.4	8.6	3.1	25	灰・長	灰(NV)	焼元	6/36	7/36	5/36			
109	436	S X46	須恵器	無台形	11.0				灰・長	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
110	378	S X46	土師器	豆型					灰・長・子	にじ・黄(10YR7/2)	焼化					外側外腹タキメ、内面ナデ・ハケメ	
111	159	S X47	須恵器	無台形		8.0			灰	灰(SY5/1)	焼元		2/36	3/36		底盤ヘラ切り	
112	63	S X47	須恵器	有台形	14.0				灰	灰白(2Y7/1)	焼元	7/36	5/36			外板自然崩	
113	379	S X53	土師器	無台形	12.0				灰・長・子	灰白(10YR8/2)	焼化	2/36	1/36				
114	265	S X53	土師器	小盤	7.8				灰・長・子	青黄(10YR8/4)	焼化	18/36	2/36			外側外・内面クロナダ	
115	347	S X11	須恵器	無台形		8.0			灰	灰(NV)	焼元	9/36	4/36			外側ヘラ切り無調整	
116	437	S X11	土師器	無台形	11.0				灰・長	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
117	438	S X11	須恵器	無台形	13.2				灰・長	灰白(5Y8/1)	焼元	2/36	1/36				
118	380	S X11	須恵器	有台形	13.0				灰	灰白(5Y7/1)	焼元	2/36	1/36				
119	381	S X11	土師器	無台形	5.0				灰・長	灰白(5Y7R8/1)	焼化	3/36	1/36			底盤ヘラ切り	
120	382	S X11	土師器	無台形	38.0				灰・長	灰白(5Y7R8/1)	焼化	2/36				外側外・内面クロナダ	
121	226	S X14	土師器	無台形	12.5	4.4	4.5	36	35	灰・長	灰白(10YR8/2)	焼化	6/36	18/36	12/36		底盤ヘラ切り無ナダ
122	241	S X14	土師器	無台形	5.6				灰・長	灰白(2.5Y7/2)	焼化	36/36	14/36			底盤ヘラ切り	
123	271	S X14	土師器	豆型	21.0				灰・長	灰白(10YR8/2)	焼化	8/36	3/36			内裏口縁部におけ付着	
124	363	S X14	須恵器	豆型					灰	青黄(10YR8/3)	焼化					外側外・内面タキメ	
125	291	S X14	土師器	小盤	5.6				灰・長・子	灰白(10YR8/2)	焼化	13/36	7/36			外側外・内面クロナダ、底盤系切り	
126	346	S X19	須恵器	無台形	11.4				灰・長	灰(7.5Y5/1)	焼元	4/36	3/36				
127	384	S X19	須恵器	無台形	12.4				灰・長	灰白(5Y8/1)	焼元	4/36	2/36				
128	439	S X19	須恵器	無台形	11.8				灰・長	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
129	440	S X19	須恵器	無台形	11.9				灰・長	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
130	366	S X20	須恵器	無台形	12.0				灰・長	灰白(5Y7/1)	焼元	2/36	1/36				
131	441	S X20	須恵器	無台形	12.0				灰・長	灰白(5Y7/1)	焼元	2/36	1/36				
132	442	S X20	須恵器	無台形	12.0				灰・長	灰白(7.5Y7/1)	焼元	3/36	1/36				
133	298	S X20	土師器	無台形	5.0				灰・長	灰白(10YR8/2)	焼化	14/36	7/36			底盤系切り無調整	
134	320	S X20	土師器	無台形	12.5				灰・長	青黄(7.5Y8/4)	焼化	7/36	4/36				
135	322	S X20	土師器	無台形	5.2				灰・長	青黄(7.5Y8/4)	焼化	9/36	5/36			底盤系切り無調整	
136	367	S X20	土師器	無台形	12.0				灰・長	青黄(10YR8/3)	焼化	5/36	3/36				
137	304	S X20	土師器	小盤	5.4				灰・長	青黄(5Y5/2)	焼化	34/36	9/36			外側外・内面クロナダ、底盤系切り無調整	
138	279	S X20	土師器	無台形	38.0				灰・長	灰白(5Y7R8/1)	焼化	3/36	1/36			外側外・内面タキメ	
139	12	S X23	須恵器	無台形	11.8	8.6	3.1	26	73	灰・中	灰白(7Y7/1)	焼元	27/36	36/36	27/36		底盤ヘラ切り無調整
140	13	S X23	須恵器	無台形	13.0	6.7	3.7	28	52	灰・中	灰(NV)	焼元	5/36	30/36	9/36		底盤ヘラ切り無調整
141	14	S X23	須恵器	無台形	10.6	8.0	2.9	27	75	灰・中	灰(NV)	焼元	5/36	18/36	9/36		底盤ヘラ切り無調整
142	145	5 X23	須恵器	無台形	11.9	7.3	3.2	27	60	灰	青灰(10B6G/1)	焼元	8/36	2/36	8/36		底盤ヘラ切り
143	16	S X23	須恵器	無台形	8.4				灰・中	灰(NV)	焼元		18/36	9/36			底盤ヘラ切り無調整
144	446	S X23	須恵器	無台形	9.17				灰・中	青灰(8B5B4/1)	焼元	3/36	2/36				
145	447	S X23	須恵器	無台形	12.9				灰・中	灰(NV)	焼元						
146	448	S X23	須恵器	無台形	12.0				灰・中	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
147	449	S X23	須恵器	無台形	12.2				灰・中	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
148	450	S X23	須恵器	無台形	11.0				灰・中	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
149	451	S X23	須恵器	無台形	12.0				灰・中	灰(NV)	焼元	3/36	1/36				
150	306	S X23	土師器	小盤	9.0				灰・中	深灰(5Y7R8/3)	焼化	6/36	3/36			外側外・内面クロナダ	

報告No.	実測高 標高(m)	出土位置 遺構	剖面 概要	基盤 地盤	法 周		柱高 高さ	柱径 直径	柱頭 頭部	地 土	色 調	被 成	進 存 率	手 法	備 考	
					口径 横幅	深さ 高さ										
151	72	S X24	領忠葬	無台地	12.0	7.6	3.2	27	63	黄・赤	灰(N5v)	発光	4/36	10/36	6/36	底部へ切り無調整
152	94	S X24	領忠葬	無台地	12.7	8.6	3.0	24	68	黄	灰(7.5Y5/1)	発光	14/36	18/36	16/36	底部へ切り無調整
153	95	S X24	領忠葬	無台地	13.6	8.6	3.6	26	71	黄・赤	灰(5Y6/1)	発光	7/36	19/36	15/36	底部へ切り無調整
154	177	S X24	領忠葬	無台地	8.0				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	5/36	4/36	4/36	底部へ切り無調整
155	443	S X24	領忠葬	無台地	12.0				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	3/36		2/36	
156	444	S X24	領忠葬	無台地	(11.0)				71	黄・赤	灰(白)N7(1)	発光	2/36		1/36	
157	178	S X24	領忠葬	有台地			6.8		71	黄	灰(N4v)	発光		7/36	5/36	底部へ切り、断面真合
158	69	S X24	領忠葬	有台地	16.0				71	黄	灰(N5v)	発光	14/36		16/36	
159	390	S X24	土師器	小堀		7.0			71	黄・赤	灰(白)N7(10)Y8(7/4)	被化	12/36		3/36	底部外側ケズリ・ナデ、内面ハケメ、延端み切り無ナデ
160	389	S X24	土師器	麻	(38.0)				71	黄・赤	灰(白)N7(10)Y8(2/3)	被化	5/36		3/36	底部へ切り無調整
161	11	S X27	領忠葬	無台地	11.9	8.0	3.3	28	67	黄・赤	灰(N6v)	発光	20/36	20/36	20/36	底部へ切り無調整
162	34	S X27	領忠葬	無台地	12.2	7.8	3.3	27	64	黄	オリーブ(6.5G5Y5/1)	発光	30/36	36/36	32/36	底部へ切り無調整
163	93	S X27	領忠葬	無台地	12.4	8.9	3.0	24	72	黄・赤	灰(10Y5/1)	発光	7/36	10/36	7/36	底部へ切り無調整
164	96	S X27	領忠葬	無台地	12.9	9.0	3.0	23	70	黄・赤	灰(D1Y6/1)	発光	7/36	15/36	9/36	底部へ切り無調整
165	167	S X27	領忠葬	無台地	8.0				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	5/36		3/36	底部へ切り無調整
166	169	S X27	領忠葬	無台地	11.5				71	黄	灰(D1Y6/1)	発光	3/36		2/36	
167	179	S X27	領忠葬	無台地	12.4	8.5	3.3	27	69	黄	灰(N6v)	発光	4/36	8/36	8/36	底部へ切り無調整
168	341	S X27	領忠葬	無台地	12.0	8.0	3.1	26	67	黄・赤	灰(N6v)	発光	5/36	10/36	8/36	底部へ切り無調整
169	342	S X27	領忠葬	無台地	12.6	7.8	2.9	23	62	黄・赤	灰(7.5Y7/1)	発光	2/36	8/36	6/36	底部へ切り無調整
170	343	S X27	領忠葬	無台地	10.9				71	黄・赤	灰(N6v)	発光	9/36		6/36	
171	452	S X27	領忠葬	無台地	13.0				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	4/36		4/36	
172	453	S X27	領忠葬	無台地	(12.0)				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	2/36		1/36	
173	454	S X27	領忠葬	無台地	(11.6)				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	2/36		1/36	
174	455	S X27	領忠葬	無台地	(11.6)				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	3/36		1/36	
175	456	S X27	領忠葬	無台地	(11.6)				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	3/36		1/36	
176	457	S X27	領忠葬	無台地	(12.2)				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	3/36		1/36	
177	458	S X27	領忠葬	無台地	(10.6)				71	黄・赤	灰(N5v)	発光	3/36		1/36	
178	344	S X27	領忠葬	右合台	10.5	7.0	4.4	42	67	黄・赤	灰(N6v)	発光	7/36	4/36	6/36	底部斜付右合
179	97	S X27	領忠葬	牛糞	16.0				71	黄・赤	灰(N7(1))	発光	5/36		3/36	
180	9	S X27	領忠葬	牛糞	2.2				71	黄	黄灰(2.5Y5/1)	発光	26/36		5/36	
181	345	S X27	領忠葬	其前塗	10.0				71	黄・赤	灰(N4v)	発光	5/36		1/36	体部外・内面ロクロナデ
182	315	S X27	土師器	長堀	19.0				71	黄・赤	灰(白)N7(10)Y8(7/2)	被化	4/36		1/36	体部外カキメ、内面ロクロナデ
183	382	S X27	土師器	長堀	(24.0)				71	黄・赤	灰(白)N7(8/2)	被化	2/36		6/36	体部外カキメ、内面ロクロナデ
184	263	S X27	土師器	小堀	8.0				71	黄・赤	灰(白)N7(8/2/4)	被化	12/36		6/36	体部外ケズリ、底部へタリ
185	254	S X27	土師器	小堀	14.0				71	黄・赤	灰(白)N7(8/2/2)	被化	8/36		4/36	体部外・内面ロクロナデ
186	391	S X27	土師器	小堀	(13.0)				71	黄・赤	灰(N7(2))	被化	2/36		1/36	体部外・内面ロクロナデ
187	393	S X27	土師器	網					71	黄・赤	灰(白)N7(8/2/2)	被化				体部外カキメ・タキメ、内面ナデ
188	255	S X27	土師器	網	38.0				71	黄・赤	灰(白)N7(8/2/3)	被化	5/36		1/36	体部外・内面カキメ
189	297	S X27	土師器	網	38.0				71	黄・赤	灰(白)N7(8/2/3)	被化	15/36		3/36	体部外・内面ロクロナデ
190	66	S E17	領忠葬	無台地	11.6	6.8	3.5	30	59	黄	灰(SV5/1)	発光	2/36	10/36	5/36	底部へタリ無調整
191	459	S E17	領忠葬	右合台	9.4				71	黄・赤	灰(N7(1))	発光	5/36		3/36	
192	317	S E17	土師器	小堀	8.0				71	黄・赤	灰(白)N7(1)	発光				
193	65	S E18	領忠葬	無台地	13.2	9.2	3.2	31	70	黄	オリーブ(6.5G5Y5/1)	発光	10/36	15/36	10/36	底部へタリ無調整
194	23	S E18	領忠葬	人面	13.3		2.6	20	71	黄	灰(7.5Y5/1)	発光	36/36		36/36	外側崩落、読み2.1cm
195	166	S E18	領忠葬	人面	28.2				71	黄・赤	灰(白)N7(1)	発光	4/36		1/36	体部外・内面ロクロナデ
196	7	S B25	領忠葬	無台地	12.1	7.4	3.5	29	61	黄・赤	灰(N5v)	発光	27/36	36/36	27/36	底部へタリ無調整
197	37	S B25	領忠葬	海苔	12.7	8.5	3.2	25	67	黄	灰(N6v)	発光	18/36	16/36	17/36	底部へタリ無調整
198	38	S B25	領忠葬	海苔	12.4	7.0	3.9	31	56	黄・赤	灰(N7(1))	発光	19/36	30/36	29/36	底部へタリ無調整
199	39	S B25	領忠葬	海苔	13.0	8.3	3.2	25	64	黄	灰(N6v)	発光	9/36	9/36	9/36	底部へタリ無調整
200	42	S B25	領忠葬	海苔	12.2	8.4	3.3	27	69	黄	灰(N6v)	発光	10/36	36/36	28/36	底部へタリ無調整

報告No.	実測No.	土 地 類 型 透水性 P ^{1/2}	種 別	器 構	法 量		延高指數	底接指數	地 土	色 質	地 成	灌 有 率			手 法	備 考	
					口径	底径						口徑	底径	全體			
201	50	S B25	礁毛苔	無合环	12.2	8.2	2.6	21	67	黃	褐(10Y5/1)	灌元	10/36	19/36	17/36	底盤へ切り無調整	
202	52	S B25	礁毛苔	無合环	11.8	8.0	2.9	25	66	黃	褐(10Y4/1)	灌元	14/36	17/36	13/36	底盤へ切り無調整	
203	53	S B25	礁毛苔	無合环	12.1	8.7	3.6	30	47	黃・長	褐(10Y5/1)	灌元	6/36	14/36	11/36	底盤へ切り無調整	新津丘陵
204	54	S B25	礁毛苔	無合环	11.8	8.2	3.0	25	69	黃・長	黃(9Z5/6/1)	灌元	15/36	14/36	14/36	底盤へ切り無調整	新津丘陵
205	55	S B25	礁毛苔	無合环	11.4	7.5	3.0	26	66	黃・長	褐(N5/)	灌元	5/36	24/36	18/36	底盤へ切り無調整	新津丘陵
206	56	S B25	礁毛苔	無合环	12.0	7.9	3.2	27	66	黃	褐(SY4/1)	灌元	13/36	15/36	15/36	底盤へ切り無調整	新津丘陵
207	119	S B25	礁出苔	無合环	—	8.2	—	—	—	黃・灰	オリーブグリーン(GG4/1)	灌元	5/36	6/36	6/36	底盤へ切り無調整	
208	120	S B25	礁毛苔	無合环	—	7.8	—	—	—	黃・灰	オリーブグリーン(GG4/1)	灌元	—	—	—	底盤へ切り無調整	
209	121	S B25	礁皮苔	無合环	13.8	7.6	2.7	20	55	黃・長	灰白(SY7/1)	灌元	3/36	6/36	6/36	底盤へ切り	
210	122	S B25	礁毛苔	無合环	12.2	7.5	3.4	28	61	黃	褐(10Y4/1)	灌元	1/36	8/36	9/36	底盤へ切り	
211	123	S B25	礁毛苔	無合环	13.0	8.1	3.2	25	70	黃・長	オリーブグリーン(GG4/1)	灌元	2/36	6/36	5/36	底盤へ切り	
212	124	S B25	礁毛苔	無合环	—	8.7	—	—	—	黃・長	褐(10Y5/1)	灌元	—	—	7/36	6/36	底盤へ切り無調整
213	125	S B25	礁原苔	無合环	12.5	9.0	3.2	26	72	黃	褐(7.5Y5/1)	灌元	3/36	5/36	4/36	底盤へ切り	
214	127	S B25	礁史苔	無合环	—	11.7	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌光	4/36	—	4/36	底盤へ切り	
215	128	S B25	礁毛苔	無合环	—	8.0	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	—	—	5/36	3/36	底盤へ切り
216	130	S B25	礁定苔	無合环	13.4	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	7/36	—	5/36	底盤へ切り	
217	131	S B25	礁毛苔	無合环	12.4	8.0	3.1	25	65	黃・長	褐(N6/)	灌元	1/36	6/35	4/35	底盤へ切り	
218	132	S B25	礁原苔	海苔台	—	8.0	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	9/36	—	9/36	底盤へ切り無調整	
219	133	S B25	礁史苔	無合环	—	8.5	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	6/36	—	6/36	底盤へ切り無調整	
220	134	S B25	礁毛苔	無合环	—	7.4	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	11/36	—	11/36	底盤へ切り無調整	
221	135	S B25	礁原苔	海苔台	—	8.2	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	7/36	—	7/36	底盤へ切り無調整	
222	136	S B25	礁毛苔	無合环	—	9.0	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	9/36	—	9/36	底盤へ切り無調整	
223	151	S B25	礁毛苔	無合环	11.9	8.0	3.1	26	67	黃・長	褐(N6/)	灌元	8/36	10/36	7/36	底盤へ切り無調整	
224	153	S B25	礁毛苔	無合环	12.3	7.6	3.3	27	62	黃	褐(N4/)	灌元	14/36	34/36	30/36	底盤へ切り無調整	
225	399	S B25	礁毛苔	無合环	—	12.0	—	—	—	黃	褐(ナチュラル)	灌元	4/36	—	3/36	底盤へ切り無調整	
226	400	S B25	礁毛苔	無合环	—	12.0	—	—	—	黃	褐(N5/)	灌元	2/36	—	2/36	底盤へ切り	
227	401	S B25	礁原苔	無合环	—	12.0	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	2/36	—	1/36	底盤へ切り	
228	402	S B25	礁史苔	無合环	—	12.0	—	—	—	黃	褐(N5/)	灌元	4/36	—	4/36	底盤へ切り	
229	403	S B25	礁毛苔	無合环	—	12.9	—	—	—	黃	褐(10Y7/1)	灌元	4/36	—	4/36	底盤へ切り	
230	404	S B25	礁毛苔	無合环	—	12.8	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	4/36	—	4/36	底盤へ切り	
231	405	S B25	礁史苔	無合环	—	12.0	—	—	—	黃	褐(ナチュラル)	灌元	2/36	—	1/36	底盤へ切り	
232	406	S B25	礁原苔	無合环	—	12.8	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	3/36	—	3/36	底盤へ切り	
233	408	S B25	礁毛苔	無合环	—	12.0	—	—	—	黃	ナチュラル	灌元	2/36	—	1/36	底盤へ切り	
234	409	S B25	礁原苔	無合环	—	8.0	—	—	—	黃	褐(N7/)	灌元	6/36	—	6/36	礁原へ切り無調整	
235	410	S B25	礁史苔	無合环	—	8.0	—	—	—	黃	褐(N7/)	灌元	7/36	—	2/36	礁原へ切り無調整	
236	409	S B25	礁毛苔	無合环	(12.0)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	2/36	—	1/36	底盤へ切り	
237	401	S B25	礁原苔	無合环	(12.1)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	3/36	—	1/36	底盤へ切り	
238	402	S B25	礁毛苔	無合环	(12.0)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	1/36	—	1/36	底盤へ切り	
239	403	S B25	礁毛苔	無合环	(11.9)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	2/36	—	1/36	底盤へ切り	
240	404	S B25	礁毛苔	無合环	(12.7)	—	—	—	—	黃	褐(7.5Y7/1)	灌元	3/36	—	2/36	底盤へ切り	
241	405	S B25	礁毛苔	無合环	(12.0)	—	—	—	—	黃	褐(SY5/1)	灌元	3/36	—	2/36	底盤へ切り	
242	406	S B25	礁毛苔	無合环	(12.4)	—	—	—	—	黃	褐(SY6/1)	灌元	2/36	—	1/36	底盤へ切り	
243	407	S B25	礁毛苔	無合环	(12.0)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	2/36	—	2/36	底盤へ切り	
244	408	S B25	礁史苔	無合环	(12.0)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	4/36	—	4/36	底盤へ切り	
245	409	S B25	礁毛苔	無合环	(12.8)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	2/36	—	2/36	底盤へ切り	
246	407	S B25	礁史苔	無合环	(12.4)	—	—	—	—	黃	褐(N6/)	灌元	2/36	—	2/36	底盤へ切り	
247	411	S B25	礁原苔	無合环	(12.9)	—	—	—	—	黃	褐(N5/)	灌元	2/36	—	1/36	底盤へ切り	
248	412	S B25	礁毛苔	無合环	(11.2)	—	—	—	—	黃	褐(7.5Y5/1)	灌元	3/36	—	2/36	底盤へ切り	
249	299	S B25	礁史苔	無合环	12.3	6.4	3.6	29	82	黃・从	淡綠(GY3B/3)	變化	4/36	30/36	13/36	礁原へ切り	
250	294	S B25	礁原苔	無合环	—	9.0	—	—	—	黃・長	褐(10Y3B/2)	變化	8/36	—	3/36	底盤へ切り	

報告No	実測No	出土位置	遺構番号	辨別	器種	法 量	徑高指數	底徑指數	施 土	色 質	焼 成	手 法			備 考	
												口径	底部	全体		
251	31	S B25	雨原塚	有台坪	11.5	7.9	3.9	34	69	灰	灰白(SY7/1)	焼元	21/36	28/36	29/36	新井丘陵
252	57	S B25	雨原塚	有台坪	9.4	6.2	4.5	48	66	灰	灰白(OY4/1)	焼元	5/36	29/36	24/36	雨原塚付高台
253	117	S B25	雨原塚	有台坪	5.1					灰	灰(NSY7/1)	焼元	7/36	3/36	3/36	雨原塚付高台
254	126	S B25	雨原塚	有台坪	6.0					灰	灰(N6/1)	焼元	9/36	6/36	6/36	雨原塚付高台付
255	198	S B25	雨原塚	有台坪	14.9					灰	灰(N5/1)	焼元	4/36		3/36	
256	308	S B25	雨原塚	有台坪	14.0					灰	灰(N5/4/1)	焼元	5/36		3/36	
257	25	S B25	雨原塚	坪塚	13.1	1.9	15			灰	灰白(N7/1)	焼元	30/36		30/36	外縁自然地
258	45	S B25	雨原塚	坪塚	16.2	3.6	22			灰	灰白(N7/1)	焼元	14/36		27/36	内縁自然地、埋み深2.4cm
259	66	S B25	雨原塚	坪塚	12.6					灰	灰(N5/1)	焼元	16/36		16/36	鍋A付3.6cm
260	47	S B25	雨原塚	坪塚	12.5					灰	灰白(SY7/1)	焼元	12/36		12/36	
261	48	S B25	雨原塚	坪塚	15.3	3.4	22			灰	灰(N7/1)	焼元	4/36		4/36	
262	82	S B25	雨原塚	坪塚						灰	赤(B2.5/TB6/1)	焼元		9/36		焼付3.5cm
263	83	S B25	雨原塚	坪塚	12.0					灰	赤(B2.5/TB6/1)	焼元	12/36		9/36	焼付2.8cm
264	84	S B25	雨原塚	坪塚	14.3					灰	灰(N5/1)	焼元	6/36		4/36	
265	85	S B25	雨原塚	坪塚	16.0					灰	灰(N7/1)	焼元	5/36		3/36	
266	137	S B25	雨原塚	坪塚						灰	灰(N7/1)	焼元		4/36		
267	27	S B25	雨原塚	短脚壺	11.5					灰	灰白(N7/1)	焼元	9/36	9/36	9/36	底部ヘラ切り後高台断面。内縁ハケメ
268	10	S B25	雨原塚	短脚壺	11.0	4.0	36			灰	灰(N5/6/1)	焼元	18/36		20/36	藍
269	116	S B25	雨原塚	大甌	23.7					灰	灰(H5/7/1)	焼元	2/36		1/36	外縁自然地。焼付2.8cm
270	411	S B25	黒土色	無台坪	14.0					灰	灰(O2.5/SY3/1)	焼化	3/36		1/36	外縁内ロコリナデ
271	260	S B25	土師器	長甌	20.6					灰	灰(OY88/2)	焼化	5/36		1/36	底部外-内ロコリナデ
272	413	S B25	土師器	長甌	21.2					灰	灰(T9/7/6)	焼化	2/36			底部外-内ロコリナデ
273	431	S B25	土師器	長甌						灰	灰(T9/7/2)	焼化				底部外-内ロコリナデ
274	422	S B25	土師器	長甌						灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
275	423	S B25	土師器	長甌						灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
276	232	S B25	土師器	小甌	7.4					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
277	233	S B25	土師器	小甌	8.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
278	322	S B25	土師器	小甌	5.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
279	412	S B25	土師器	小甌	14.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
280	414	S B25	土師器	小甌	14.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
281	415	S B25	土師器	小甌	14.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
282	416	S B25	土師器	小甌	8.9					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
283	278	S B25	土師器	瓶	36.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
284	290	S B25	土師器	瓶	46.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
285	303	S B25	土師器	瓶	35.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
286	307	S B25	土師器	瓶	36.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
287	320	S B25	土師器	瓶	38.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
288	321	S B25	土師器	瓶	38.0					灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
289	417	S B25	土師器	瓶						灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
290	418	S B25	土師器	瓶						灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
291	419	S B25	土師器	瓶						灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
292	420	S B25	土師器	瓶						灰	灰(T9/7/2)	焼化				外縁に焼付帯
293	8	S B45	雨原塚	有台坪	12.4	8.6	3.9	31	69	灰	灰(N5/1)	焼元	18/36	36/36	18/36	底部ヘラ切り無調査
294	40	S B45	雨原塚	有台坪	12.2	7.8	3.2	26	64	灰	灰(N5/1)	焼元	7/36	12/36	10/36	底部ヘラ切り無調査
295	41	S B45	雨原塚	有台坪	12.0	8.5	3.1	26	71	灰	青(KAUS06/1)	焼元	5/36	30/36	17/36	底部ヘラ切り無調査
296	51	S B45	雨原塚	有台坪	11.8	2.2	2.8	24	61	灰	青(SYS5/1)	焼元	13/36	18/36	17/36	底部ヘラ切り無調査
297	56	S B45	雨原塚	有台坪	12.2	6.2	3.6	30	51	灰	灰(N4/1)	焼元	5/36	19/36	13/36	底部ヘラ切り無調査
298	138	S B45	雨原塚	有台坪	11.7	7.2	3.0	26	62	灰	灰(N5/1)	焼元	2/36	14/36	6/36	底部ヘラ切り無調査
299	139	S B45	雨原塚	有台坪		7.6				灰	灰(N5/1)	焼元		6/36	4/36	底部ヘラ切り無調査
300	140	S B45	雨原塚	有台坪		8.0				灰	灰(N5/1)	焼元		16/36	7/36	底部ヘラ切り無調査

報告No.	実測No.	出土位置 通路	種別	器種	法量		径高指数	底住指数	胎土	色調	焼成	生存率			手法	備考	
					口径	底高						口徑部	底部	全体			
301	141	S 46	瓶形器	施合环	7.8				灰-チ	灰白(7N7/1)	焼成	17/36	6/36	底部へラ切り無調査			
302	145	S 46	瓶形器	施合环	8.3				灰-長	灰(7.5Y5/1)	焼成	36/36	12/36	底部へラ切り無調査			
303	146	S 46	瓶形器	施合环	8.0				灰-長		焼成	7/36	2/36				
304	147	S 46	瓶形器	施合环	12.0				灰-チ	灰(6N6/1)	焼成	5/36	4/36				
305	150	S 46	瓶形器	施合环	11.8	7.5	32	27	64	灰-長	灰(6N6/1)	焼成	6/36	33/36	底部へラ切り無調査		
306	339	S 46	瓶形器	施合环	11.8	6.0	30	25	51	灰-長	灰(6N7/1)	焼成	3/36	4/36	底部へラ切り		
307	473	S 46	瓶形器	施合环	(12.0)				灰-長	灰(7.5Y6/1)	焼成	1/36	2/36				
308	474	S 46	瓶形器	施合环	12.0				灰-長	灰(7.5Y5/1)	焼成	5/36	3/36				
309	475	S 46	瓶形器	施合环	12.0				灰	灰(6M6/1)	焼成	3/36	2/36				
310	476	S 46	瓶形器	施合环	(13.0)				灰-長	灰(7Y7/1)	焼成	2/36	2/36				
311	477	S 46	瓶形器	施合环	(12.0)				灰-長	灰(6N5/1)	焼成	2/36	2/36				
312	478	S 46	瓶形器	施合环	12.0				灰-長	灰(6N5/1)	焼成	3/36	2/36				
313	479	S 46	瓶形器	施合环	12.4				灰-長	灰(10Y5/1)	焼成	4/36	2/36				
314	480	S 46	瓶形器	施合环	12.5				灰-長	灰(6N5/1)	焼成	4/36	2/36				
315	481	S 46	瓶形器	施合环	13.0				灰-長	灰(6M6/1)	焼成	4/36	2/36				
316	482	S 46	瓶形器	施合环	13.0				灰-長	灰(10Y6/1)	焼成	3/36	2/36				
317	483	S 46	瓶形器	施合环	(12.0)				灰-長	灰(6M6/1)	焼成	2/36	2/36				
318	484	S 46	瓶形器	施合环	12.5				灰-長	灰(6N5/1)	焼成	4/36	2/36				
319	485	S 46	瓶形器	施合环	12.0				灰-長	灰(6N5/1)	焼成	5/36	2/36				
320	486	S 46	瓶形器	施合环	(12.0)				灰-長	灰(7.5Y6/1)	焼成	2/36	1/36				
321	43	S 46	瓶形器	施合环	8.5				灰-チ	灰(6M4/3)	焼成	32/36	16/36	底部へラ切り後高台跡付			
322	60	S 46	瓶形器	施合环	6.5	2.4			灰	(に)灰(赤褐色)SYR5/4)	焼成	21/36	12/36	底部へラ切り後高台跡付			
323	142	S 46	瓶形器	施合环	7.2				灰-長	灰(6M6/1)	焼成	11/36	6/36	底部へラ切り後高台跡付			
324	143	S 46	瓶形器	施合环	8.5				灰-長	灰(6N2/7)	焼成	7/36	3/36	底部へラ切り後高台跡付			
325	44	S 46	瓶形器	壺環	14.8	2.9	39		灰-チ	灰(6N7/1)	焼成	9/36	12/36				
326	36	S 46	瓶形器	壺環	10.6	4.6	43		灰-チ	灰(6N9/7/1)	焼成	34/36	24/36				
327	385	S 46	土罐形	施合輪	8.8				灰	灰(10Y9/2/2)	焼成	9/36	5/36				
328	231	S 46	土罐形	施合輪	(20.0)				灰-長	灰(6Y5/2/2)SYR6/3)	焼成	3/36	1/36	体外外・内面クロロナデ			
329	222	S 46	土罐形	小壺	6.4				灰-長-チ	灰(6M10Y9/3)	焼成	7/36	2/36				
330	394	S 46	土罐形	小壺	(13.0)				灰-長	明灰(6.5Y10Y7/2)	焼成	2/36	1/36				
331	222	S 46	土罐形	壺	38.0				灰-長-チ	に(灰)黄(6)10Y9/5/3)	焼成	4/36	1/36	体外外・内面カキメ			
332	229	S 46	土罐形	壺					灰-長	に(灰)黄(6)10Y9/7/4)	焼成			体外外・内面カキメ			
333	230	S 46	土罐形	壺					灰-長	に(灰)黄(6)10Y9/7/3)	焼成			体外外表面カキメ・テキ、内面ナダ			
334	49	S 51	圓筒形	施合环	11.5	8.0	3.2	28	70	灰-チ	灰(6N6/1)	焼成	2/36	9/36	6/36		
335	487	S 51	圓筒形	施合环					灰-長	グリーブ(7.5Y3/2)	焼成			底部へラ切り無調査			
336	396	S 51	土罐形	小壺	13.0				灰-長	に(灰)黄(7.5Y9/7/3)	焼成	4/36	1/36	体外外・内面クロロナデ			
337	397	S 51	土罐形	壺	(40.0)				灰-長	浅灰(7.5Y9/8/3)	焼成	2/36		体外外・内面ナダ			
338	24	P 36	圓筒形	施合环	13.1	8.2	3.5	27	63	灰-長	灰(6N7/1)	焼成	8/36	36/36	22/36		
339	67	4E15	圓筒形	施合环	12.8	9.0	3.1	24	70	灰	灰(7.5Y9/8/2)	焼成	1/36	4/36	3/36	底部へラ切り無調査	新洋丘
340	185	S 521	圓筒形	施合环	13.7	10.0	3.4	25	73	灰-長	灰(6N7/1)	焼成	3/36	3/36	2/36		
341	187	S 521	圓筒形	施合环	11.0				灰	灰(6N7/1)	焼成	8/36		4/36			
342	288	S 521	土罐形	小壺	5.0				灰-長-チ	灰(6)10Y9/8/2)	焼成	36/36	5/36	底部へラ切りナダ			
343	273	S 524	土罐形	壺	40.0				灰-長	灰(7.5Y9/8/1)	焼成	6/36	5/36	体外外・内面カキメ・テキ			
344	212	S 521	圓筒形	施合环	12.3	7.0	2.9	24	64	灰-長	灰(6.5Y7/1)	焼成	7/36	12/36	9/36	底部へラ切り無調査	
345	211	S 525	圓筒形	施合环	12.6	8.0	3.5	28	63	灰-長	灰(6.5Y6/1)	焼成	4/36	8/36	5/36	底部へラ切り無調査	
346	214	S 519	圓筒形	施合环	8.0				灰-長	灰(6N6/1)	焼成	4/36	3/36	底部へラ切り無調査			
347	246	S 526	土罐形	施合环	4.8				灰-長	灰(6.5Y5/2/2)	焼成	27/36	9/36	底部へラ切り			
348	245	S 520	土罐形	小壺	6.5				灰-長-チ	灰(6.5Y5/2/2)	焼成	14/36	7/36	体外外・内面クロロナデ、底部糸切り			
349	199	SF16	圓筒形	施合环	6.9				灰-長	灰(6N5/1)	焼成	9/36	4/36	底部へラ切り無調査			
350	79	SF14	圓筒形	壺瓶					灰-長	灰(6.5Y7/1)	焼成			体外外カキメ・テキ、内面糸切り			

報告No	実測面	出土位置 遺物	種別	容積	法 量		往復指数	底径指數	培 土	色 調		地 成	遺 存 容			手 法	備 考
					口径	底径				底面積	寸法		口縫部	底部	全体		
					(mm)	(mm)				(mm)	(mm)		底部	底部	底部		
351	275	SF4	土器部	無台輪	5.4				灰・灰	灰白(7.5YR10/1)		無化	36/36	12/36	底部		
352	246	SF5	土器部	無台輪	5.4				灰・灰	灰白(7.5YR10/2)		無化	36/36	6/36	底部	底部	底部
353	263	SF5	土器部	無台輪	5.2				灰・灰	に灰・黄褐(10YR7/3)		無化	36/36	9/36	底部	底部	底部
354	277	SF4	土器部	無台輪	14.0				灰・灰・少	灰白(7.5YR10/2)		無化	5/36				
355	287	SF15	土器部	無台輪	11.8	4.6	4.3	36	灰・灰	に灰・黄褐(10YR7/3)		無化	6/36	3/36	4/36	底部	底部
356	249	SF20	土器部	無台輪	5.6				灰・灰	灰白(7.5YR10/2)		無化	36/36	9/36	底部	底部	底部
357	250	SF15	土器部	長査	22.0				灰・灰	灰白(7.5YR10/2)		無化	2/36	1/36	底部	外側ロクロナダ・内面ロクロナダ	側面にヘラ盛り
358	290	SF15	土器部	長査	20.5				灰・灰	浅黄褐(10YR8/2)		無化	4/36			底部	外側ロクロナダ
359	288	SF15	土器部	長査	22.0				灰・灰・少	に灰・黄褐(10YR8/4)		無化	4/36			底部	外側ロクロナダ
360	306	SF15	土器部	長査	22.0				灰・灰・少	に灰・黄褐(10YR7/2)		無化	4/36			底部	外側ロクロナダ
361	325	SF15	土器部	長査	22.0				灰・灰・少	に灰・黄褐(10YR7/2)		無化	4/36			底部	外側ロクロナダ
362	257	SF15	土器部	小査	(12.7)				灰・灰	に灰・黄褐(7.5YR10/2)		無化	3/36			底部	外側ロクロナダ
363	258	SF15	土器部	小査	15.5				灰・灰	に灰・黄褐(7.5YR10/3)		無化	4/36			底部	外側ロクロナダ
364	183	6019	埴輪部	無台輪	9.1				灰・灰	オリーブグリーン(5G9/1)		還元	7/36	3/36	底部	底部	底部
365	195	6019	埴輪部	無台輪	12.4				灰・灰	オリーブグリーン(5G9/1)		還元	2/36				
366	184	6023	埴輪部	無台輪	13.0				灰・灰	灰白(7.5YR10/1)		還元	3/36				
367	234	6019	埴輪部	無台輪	12.9	5.4	4.1	32	灰・長	成形(5YR8/4)		無化	19/36	36/36	22/36	底部	底部
368	323	6023	埴輪部	無台輪	18.0				灰・灰	灰白(7.5YR8/2)		無化	2/36			底部	外側ロクロナダ
369	152	6512	埴輪部	無台輪	12.9	8.2	3.1	34	灰・長	灰白(5W1)		還元	4/36	9/36	8/36	底部	底部
370	220	6516	埴輪部	無台輪	8.0				灰・長	灰白(5W7/1)		還元	5/36	4/36	底部	底部	底部
371	302	6520	埴輪部	無台輪	12.0	5.4	4.1	32	灰・長	灰白(5W6/1)		還元	5/36				
372	210	6520	埴輪部	無台輪	12.0	8.0	3.0	25	灰・長	灰白(5W6/1)		還元	4/36	9/36	7/36	底部	底部
373	219	6523	埴輪部	無台輪	8.2				灰・長	灰白(5W6/1)		還元	11/36	5/36	5/36	底部	底部
374	217	6524	埴輪部	無台輪	13.5				灰・長	灰白(5W6/1)		還元	7/36				
375	68	6525	埴輪部	無台輪	12.0	7.8	3.3	28	灰・長	灰白(5W6/1)		還元	4/36	10/36	7/36	底部	底部
376	214	6525	埴輪部	無台輪	11.7	8.0	2.9	25	灰・長	灰白(5W6/1)		還元	3/36	3/36	3/36	底部	底部
377	218	6525	埴輪部	無台輪	7.6				灰・長	灰白(5W6/1)		還元	9/36	5/36	5/36	底部	底部
378	61	6523	埴輪部	無台輪	15.0				灰・長	灰白(5W6/1)		還元	3/36				
379	90	6525	埴輪部	無台輪	15.0				灰・長	灰白(5W6/1)		還元	3/36				
380	221	6511	埴輪部	大査	39.0				灰・長	灰白(5W7/1)		還元				伴存外ハケメ・タキ、内面ハケメ・先端尖鋒	
381	260	6520	土器部	鍋	(39.0)				灰・長	浅黄褐(10YR8/2)		無化	3/36			伴存外・内面カキメ	
382	194	673	埴輪部	無台輪	3.0				灰・長	灰白(5W5/1)		還元	8/36	3/36	底部	底部	底部
383	192	674	埴輪部	無台輪	8.0				灰・長	灰白(5W5/1)		還元	11/36	5/36	5/36	底部	底部
384	199	6714	埴輪部	無台輪	7.6				灰・長	灰白(5W7/1)		還元	7/36	4/36	底部	底部	底部
385	193	6719	埴輪部	有台輪	6.4				灰・長	灰白(5W7/1)		還元	16/36	6/36	底部	底部	新作丘陵
386	197	6717	埴輪部	有台輪	5.6				灰・長	灰白(5W6/1)		還元	7/36	3/36	底部	底部	
387	314	675	土器部	無台輪	5.2				灰・長	に灰・黄(7.5YE7/3)		無化	15/36	5/36	底部	底部	
388	292	676	土器部	無台輪	5.6				灰・長	に灰・黄褐(10YR7/3)		無化	17/36	6/36	底部	底部	
389	296	679	土器部	無台輪	5.8				灰・長	に灰・黄褐(10YR7/3)		無化	10/36	6/36	底部	底部	
390	229	6710	土器部	無台輪	5.2				灰・長	灰黄褐(5YR8/2)		無化	13/36	4/36	底部	底部	
391	268	6711	土器部	無台輪	5.0				灰・長	灰(3Z5Y7/1)		無化	34/36	6/36	底部	底部	
392	262	6712	土器部	無台輪	5.2				灰・長	灰白(5W8/2)		無化	36/36	9/36	底部	底部	
393	293	6714	土器部	無台輪	5.6				灰・長	に灰・黄褐(10YR7/4)		無化	21/36	6/36	底部	底部	
394	256	6717	土器部	無台輪	4.6				灰・長	に灰・黄褐(10YR6/4)		無化	36/36	12/36	底部	底部	
395	224	6718	土器部	無台輪	5.0				灰・長	に灰・黄褐(10YR7/4)		無化	36/36	15/36	底部	底部	
396	295	673	土器部	鉢	(21.0)				灰・長	灰白(5W7/2)		無化	2/36			伴存外カキメ・内面ナダ	
397	267	S02	671	土器部	小査	6.0			灰・長	に灰・黄褐(10YR7/3)		無化	36/36	3/36		伴存外・内面カキメ・底部	
398	310	675	土器部	鍋	(35.0)				灰・長	浅黄褐(10YR6/3)		無化	3/36			伴存外・内面カキメ	
399	101	TD11	埴輪部	無台輪	7.0				灰・長	MUNIG		還元	8/36	5/35	底部	底部	
400	30	TD2	埴輪部	無台輪	7.7				灰・長	に灰・黄(7.5YR3/3)		還元	36/36	12/36	底部	底部	新作丘陵

報告番号	実測地名	出土位置 遺物名	種別	器種	法 量			柱高指数	底径指数	粒 土	色 調	構 成	造 作 在 率			手 法	備 考
					口径	底径	高さ						門限基底部	底部	全体		
401 112	7010	現地踏査	有台坪	4.0						黄	灰(N6/1)	陶土	6/36	4/36	4/36	底面ハラ切り無調査	
402 91	7014	現地踏査	平臺	15.0						黄	灰(N7/1)	陶土	2/36		2/36		
403 86	7025	現地踏査	火葬	16.0						黄	灰(N7/1)	陶土	3/36		3/36		
404 704	702	現地踏査	有台坪	8.1						黄・灰・白	灰(N6/1)	陶土	5/36	3/36	底面ハラ切り無調査		
405 213	7E7	現地踏査	有台坪	8.0						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	4/36	3/36	底面ハラ切り無調査		
406 205	7E11	現地踏査	有台坪	11.9						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	3/36		3/36		
407 206	7E11	現地踏査	有台坪	12.2						黄	灰(N6/1)	陶土	3/36		3/36		
408 70	7E12	現地踏査	有台坪	8.2						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	21/36	15/36	15/36	底面ハラ切り無調査	
409 71	7E16	現地踏査	有台坪	12.0	8.1	3.1	26	68		黄・灰	灰(N6/1)	陶土	7/36	12/36	9/36	底面ハラ切り無調査	
410 200	7E17	現地踏査	有台坪	11.8	7.8	3.4	29	65	黄・灰	灰(N7/1)	陶土	5/36	20/36	14/36	底面ハラ切り無調査		
411 102	7E18	現地踏査	有台坪	11.6	8.0	3.1	27	69	黄	灰(N6/1)	陶土	1/36	6/36	4/36	底面ハラ切り無調査		
412 105	7E18	現地踏査	有台坪	12.0						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	4/36		3/36		
413 208	7E18	現地踏査	有台坪	7.9						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	10/36	3/36	底面ハラ切り無調査		
414 209	7E18	現地踏査	有台坪	12.0	7.6	3.1	26	63	黄・灰	灰(N7/1)	陶土	7/36	4/36	7/36	底面ハラ切り無調査		
415 195	7E21	現地踏査	有台坪	8.4						黄・灰	灰(SV6/1)	陶土	11/36	6/36	底面ハラ切り無調査		
416 207	7E22	現地踏査	有台坪	8.0						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	4/36	3/36	底面ハラ切り無調査		
417 103	7E23	現地踏査	有台坪	11.1						黄	灰(SV5/1)	陶土	6/36		3/36		
418 201	7E24	現地踏査	有台坪	7.9						黄・灰	灰(N5/1)	陶土	8/36	4/36	底面ハラ切り無調査		
419 104	7E25	現地踏査	床下	8.0						黄・灰	灰(N7/1)	陶土			2/36		
420 300	7E17	上層部 小型	小型	6.2						黄・灰	灰(N7/1)	陶化	20/36	10/36	10/36	底面外側ナラケツリ、底面未切り無調査	内側面に擦り跡
421 264	7E17	上層部 小型	小型	5.7						黄・灰・白	灰(N7/1)YR21/1	陶化	16/36	2/36	2/36	底面外・内側ロクロナダ、底面未切りナラ	外側に擦り跡
422 151	7F	現地踏査	有台坪	12.0						黄・灰	灰(SV5/1)	陶土	3/36		3/36		
423 196	7F1	現地踏査	有台坪	8.0						黄・灰	灰(SV5/1)	陶土	6/36	2/36	底面ハラ切り		
424 105	7F2	現地踏査	有台坪	(12.5) 9.9	(3.0)	(26)	(71)		黄・灰	オリーブ灰(2.5G16/1)	陶土	1/36	2/36	2/36	底面ハラ切り無調査		
425 190	7F4	現地踏査	有台坪	8.0						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	12/36	6/36	8/36	底面ハラ切り無調査	
426 38	7F5	現地踏査	有台坪	7.8						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	19/36	6/36	底面ハラ切り無調査		
427 115	7F7	現地踏査	有台坪	13.7	8.6	3.2	23	70	黄・灰	灰(N6/1)	陶土	4/36	1/36	2/36			
428 107	7F8	現地踏査	有台坪	8.0						黄	灰(N7/1)	陶土	4/36	3/36	底面ハラ切り無調査		
429 4	7F13	現地踏査	有台坪	11.1	7.8	3.0	27	70	黄	灰(N7/1)	陶土	16/36	18/36	18/36	底面ハラ切り無調査		
430 5	7F18	現地踏査	有台坪	12.0	9.2	2.9	34	77	黄	灰(N6/1)	陶土	14/36	18/36	18/36	底面ハラ切り無調査		
431 25	7F22	現地踏査	有台坪	10.8	7.7	3.0	28	73	黄・灰	灰(N7.5G14/1)	陶土	2/36	18/36	12/36	底面ハラ切り無調査		
432 238	7F5	現地踏査	有台坪	8.6						黄・灰	灰(N7/1)	陶化	19/36	8/36	底面ハラ切り		
433 99	7F5	現地踏査	有台坪	13.0						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	7/36		5/36		
434 108	7G2	現地踏査	有台坪	8.0						黄・灰	灰(SV5/1)	陶土	6/36	3/36	底面ハラ切り無調査		
435 6	ED14	現地踏査	有台坪	—	7.2					黄	灰(N8/1)	陶土	9/36	5/36	5/36	底面ハラ切り無調査	新庄丘塹
436 2	ED19	現地踏査	有台坪	11.0	8.1	2.9	26	74	黄	灰(N5/1)	陶土	16/36	18/36	18/36	底面ハラ切り無調査		
437 3	ED19	現地踏査	有台坪	12.0	7.4	3.1	26	62	黄	灰(N6/1)	陶土	21/36	36/36	21/36	底面ハラ切り無調査		
438 32	ED19	現地踏査	有台坪	12.3	7.6	2.9	24	62	黄・灰	灰(SV5/1)	陶土	13/36	36/36	28/36	底面ハラ切り無調査		
439 111	ED19	現地踏査	有台坪	11.1	6.9	3.5	32	62	黄	灰(N7/1)	陶土	7/36	2/36	5/36	底面ハラ切り	新津丘塹	
440 188	ED23	現地踏査	有台坪	8.0						黄・灰	灰(N7/2)	陶土	6/36	2/36	2/36	底面ハラ切り	
441 81	ED24	現地踏査	有台坪	11.6	8.0	3.0	25	68	黄・灰	灰(N6/1)	陶土	9/36	9/36	9/36	底面ハラ切り無調査	外曲輪跡	
442 100	ED25	現地踏査	有台坪	8.0						黄・灰	灰(N5/1)	陶土	5/36	2/36	底面ハラ切り無調査		
443 251	ED18	現地踏査	有台坪	7.0						黄・灰	灰(7.5SY7/6)	陶化	7/36	7/36	7/36	底面ハラ切り	
444 1	ED19	現地踏査	有台坪	11.0	6.6	4.3	39	60	黄・灰	青(K6/SB5/1)	陶土	27/36	30/36	27/36	底面ハラ切り後西古台跡付	御津丘塹	
445 114	ED19	現地踏査	有台坪	11.8						黄・灰	灰(7.5SY7/1)	陶土	4/36	9/36	6/36	底面ハラ切り後西古台跡付	御津丘塹
446 73	ED24	現地踏査	有台坪	9.7	6.2	4.7	48	64	黄・灰	青(7.5SY6/1)	陶化	22/36	32/36	32/36	底面ハラ切り後西古台跡付	換手跡3.6cm	
447 266	ED14	現地踏査	平臺	—						黄・灰	青(7.5YR5/4)	陶化			10/36		
448 226	ED19	上層部	有台坪	14.0	5.0	4.3	31	36	黄・灰	青(K7.5SY7/3)	陶化	4/36	14/36	12/36	底面ハラ切り後ナダ		
449 33	ED2	現地踏査	有台坪	12.0	8.5	3.5	29	71	黄	青(K7.5SY5/1)	陶土	9/36	21/36	24/36	底面ハラ切り無調査		
450 29	ED4	現地踏査	有台坪	8.6						黄・灰	灰(N6/1)	陶土	31/36	12/36	底面ハラ切り無調査		

報告No.	実測No.	出土位置 遺物	種別	器種	状 量			焼成度数	胎 土	色 調	焼 成	温存率			手 法	備考
					口径	底径	高さ					口縁部	底部	全体		
451	28	8E5	環形器	無合环	11.4	8.1	3.3	27	71	灰	灰(7.5Y5/1)	温光	16/36	18/36	16/36	底部へラブリ無調査
452	113	8E5	環形器	無合环		8.0				灰-灰	灰白(N7/1)	温光	12/36	7/36	灰暗(N7/1)Y8/3	底部へラブリ無調査
453	247	8E12	環形器	無合环		7.0				灰-灰	灰(米褐色)Y8/3	温化	17/36	6/36	灰暗(N7/1)Y8/3	底部へラブリ無調査
454	189	8D	環形器	有合环	15.4					灰-灰	灰(N5/1)	温光	5/36		2/36	
455	224	8E23	土師器	無合碗	(12.4)	5.5	4.3	36	69	黑-灰	灰合(2.5Y8/2)	温化	2/36	14/36	5/36	底部&切り妻ナマ
456	110	10F15	環形器	無合环		8.0				灰-灰	オリーブ(0.5G15/1)	温光	26/36	12/36	底部へラブリ無調査	
457	149	10F16	環形器	無合环		7.0				灰-灰	灰白(2.5Y7/1)	温光	32/36	12/36	底部へラブリ無調査	底部外周に剥落、新津丘陵
458	36	10F11	環形器	大盤	(27.2)					灰	オリーブ(5.5Y3/2)	温光	3/36	1/36	1/36	外曲と口縁内面に自然剥

*備考に記述のない環形器は、佐渡小泊産。

別表4 土製品観察表

報告No.	実測No.	出土位置 遺構	種別	器種	法 庫 cm			重 量 g	附 土	遺存率	備 考
					長	幅	孔 径				
459	330	SK28	土製品	土瓶	3.90	0.94	0.31	2.8	灰・灰	36/36	
460	331	SK28	土製品	土瓶	3.95	0.94	0.36	3.0	灰・灰	36/36	
461	332	SK28	土製品	土瓶	3.95	0.98	0.30	2.6	灰・灰	36/36	
462	333	SK28	土製品	土瓶	2.60	0.95	0.30	2.2	灰・灰	18/36	
463	334	SK28	土製品	土瓶	2.60	0.90	0.30	1.8	灰・灰	18/36	
464	335	SK28	土製品	土瓶	1.85	0.90	0.30	1.2	灰・灰	12/36	
465	338	SK48	土製品	土瓶	4.10	0.92	0.35	3.0	灰・灰	36/36	
466	339	SB48	土製品	土瓶	2.60	0.96	0.33	2.1	灰・灰	18/36	
467	338	S23	土製品	土瓶	2.60	0.90	0.30	1.8	灰・灰・チ	18/36	
468	336	S24	土製品	土瓶	4.40	1.00	0.30	3.4	灰	32/36	
469	337	S24	土製品	土瓶	2.90	0.92	0.30	2.1	灰	18/36	

別表5 石製品観察表

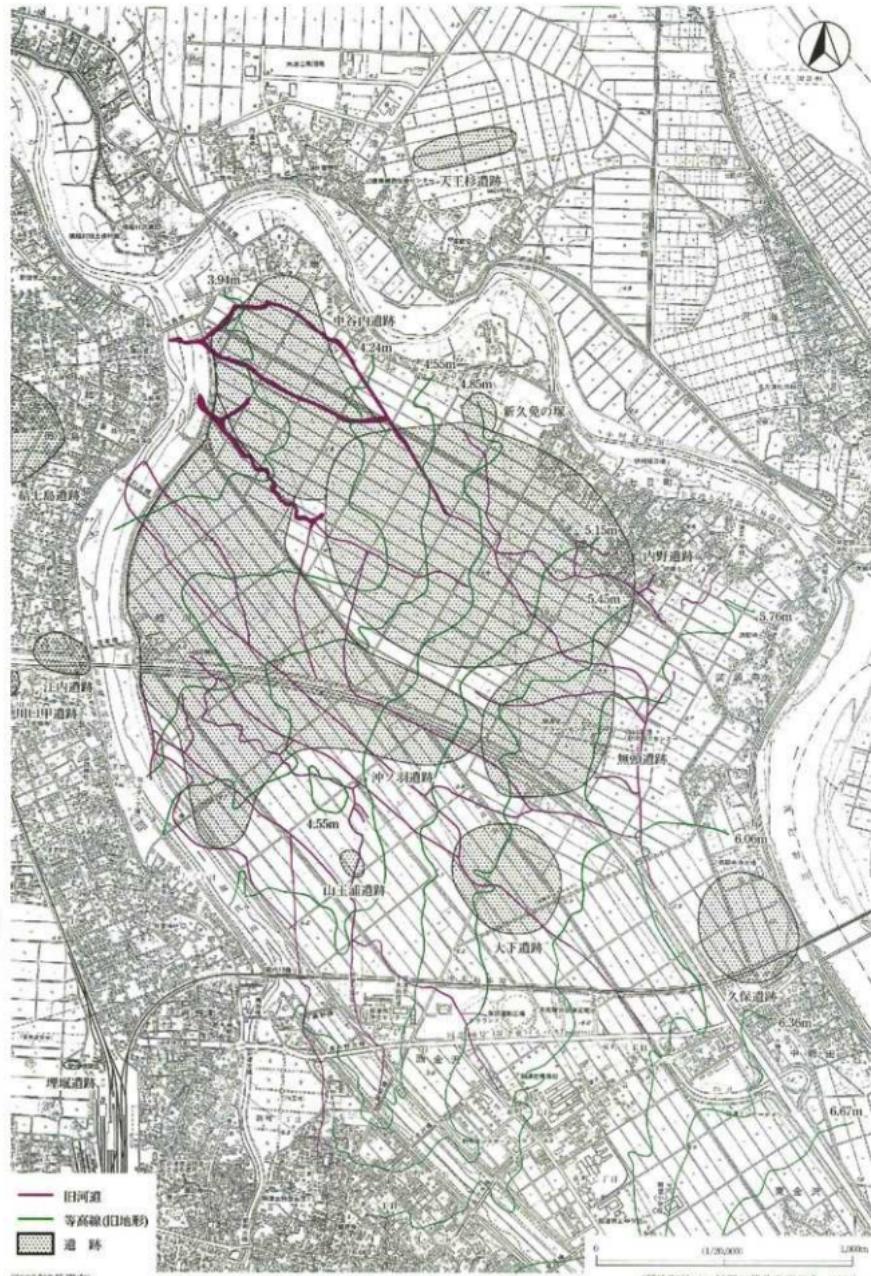
報告No.	実測No.	出土位置 遺構	種別	器種	法 庫 cm			重 量 g	石 材	遺存率	備 考
					長	幅	厚				
470	23	SD21	石製品	盤状	2.6	3.2	0.6	5.5			
471	13	SK30	石製品	小石	1.9	1.5	1.0	4.0	砂岩		
472	14	SK30	石製品	小石	2.3	1.9	1.3	7.3	砂岩質		
473	15	SK30	石製品	小石	1.6	1.9	1.1	4.6	砂岩		
474	16	SK30	石製品	小石	1.8	1.3	1.0	3.3	砂岩		
475	17	SK30	石製品	小石	1.5	1.6	1.1	3.8	砂岩		
476	18	SK30	石製品	小石	1.6	1.5	1.2	4.3	砂岩		
477	19	SK30	石製品	小石	1.9	1.5	1.2	5.8	チャート		
478	20	SK30	石製品	小石	2.0	1.9	1.6	7.4	チャート		
479	21	SK30	石製品	小石	2.5	2.5	2.0	16.1	チャート		
480	22	SK30	石製品	小石	1.9	1.6	1.0	5.0	チャート		
481	2	S24	石製品	砾石	4.2	4.2	2.3	53.3	珪質凝灰岩		
482	3	SD19	石製品	砾石	14.3	11.9	4.5	772.5	珪質凝灰岩		
483	1	6E16	石製品	砾石	8.0	4.7	3.1	181.9	珪質凝灰岩		
484	9	SD4	石製品	磨石	6.5	7.8	5.7	223.9	砂岩質		
485	4	S26	石製品	磨石	5.5	9.8	6.4	230.6	安山岩		
486	7	SD9	石製品	磨石	6.8	5.0	4.3	73.4	珪質凝灰岩		
487	5	SK30	石製品	磨石	4.0	3.0	2.0	11.3	砂岩		
488	6	SE15	石製品	磨石	3.9	3.7	1.6	8.4	砂岩		
489	8	産業外	石製品	磨石	13.6	9.5	4.7	717.3	安山岩		
490	10	SD3	石製品	磨石	5.3	5.5	2.7	56.6	安山岩		
491	11	SK28	石製品	不明	9.8	3.7	3.0	152.2			
492	12	SF11	石製品	不明	7.3	4.5	2.9	137.1			

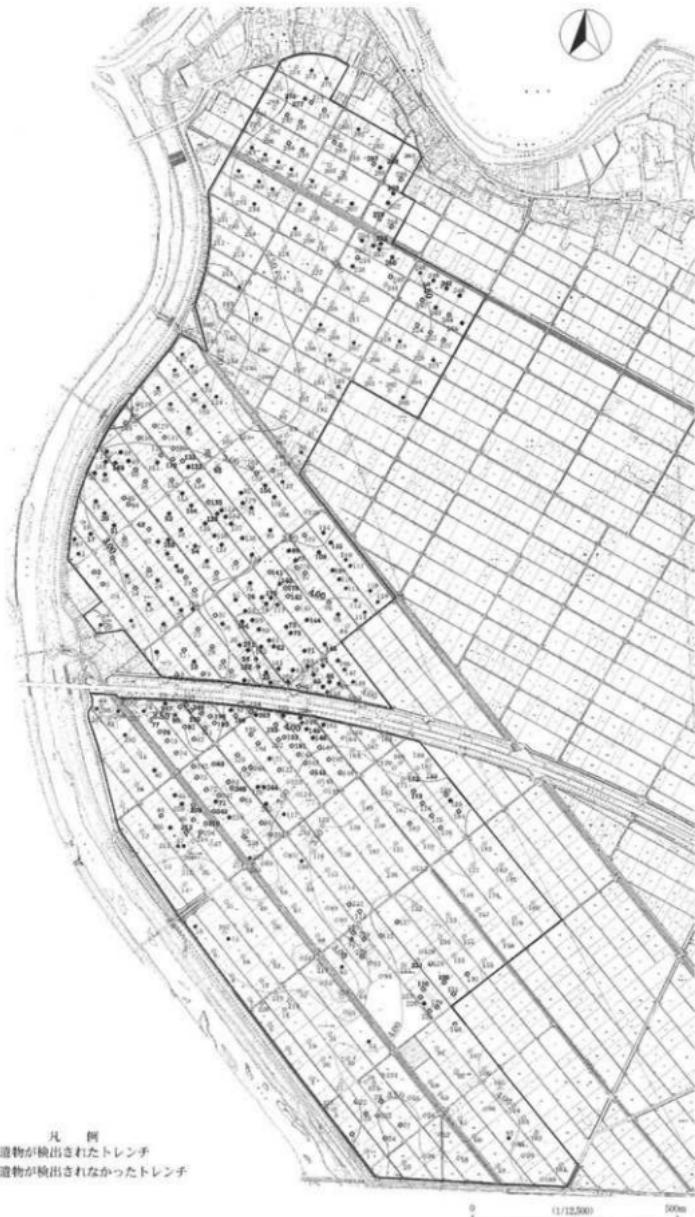
別表6 木製品観察表

報告No.	実測No.	出土位置 遺構	種別	器種	法 庫 cm			備 考		
					長	幅	厚			
493	21	SE18	井戸内	木製品	その種	2.5	1.8	1.5		
494	16	SE18	井戸内	木製品	舟形透板	8.8	3.8	0.8		
495	15	SE18	井戸内	木製品	舟形透板	19.5	6.0	0.4		
496	20	SE18	井戸内	木製品	板状	7.2	0.9	0.4		
497	14	SE18	井戸内	木製品	板状	21.5	3.9	0.7		
498	17	SE18	木製品	舟形透	111.4	19.2	2.8			
499	18	SE18	木製品	舟形透	85.2	26.6	4.2			
500	19-1	SE18	木製品	舟形透	95.8	12.6	10.8			
501	19-2	SE18	木製品	舟形透	73.2	13.8	4.5			
502	9-1	SE18	木製品	舟形透	42.4	14.8	3.2			
503	9-2	SE18	木製品	舟形透	27.2	11.9	2.7			
504	7	SE18	木製品	舟形透板	40.6	6.8	0.7	表皮部分		
505	8	SE18	木製品	舟形透の板	42.0	7.5	5.2			
506	10	SE18	木製品	舟形透の板	69.7	17.7				
507	11-2	SE18	木製品	舟形透の板	23.9	17.5				
508	11-3	SE18	木製品	舟形透の板	70.0	16.6				
509	11-1	SE18	木製品	舟形透の板	18.7	6.3	6.1			
510	13	SE18	木製品	舟形透の板	11.0	17.0				
511	3-1	Pm60	木製品	透板	22.0	11.5	6.9			
512	3-2	Pm60	木製品	透板	20.0	8.3	3.4			
513	5	SK28	木製品	柱樋	22.2	5.7	3.3			
514	2	SK28	木製品	柱樋	34.4	9.5	6.0			
515	1	SB25	P-3	木製品	柱樋	33.1	7.5	6.1		
516	4	SB51	P-1	木製品	16.0	10.2	8.5			

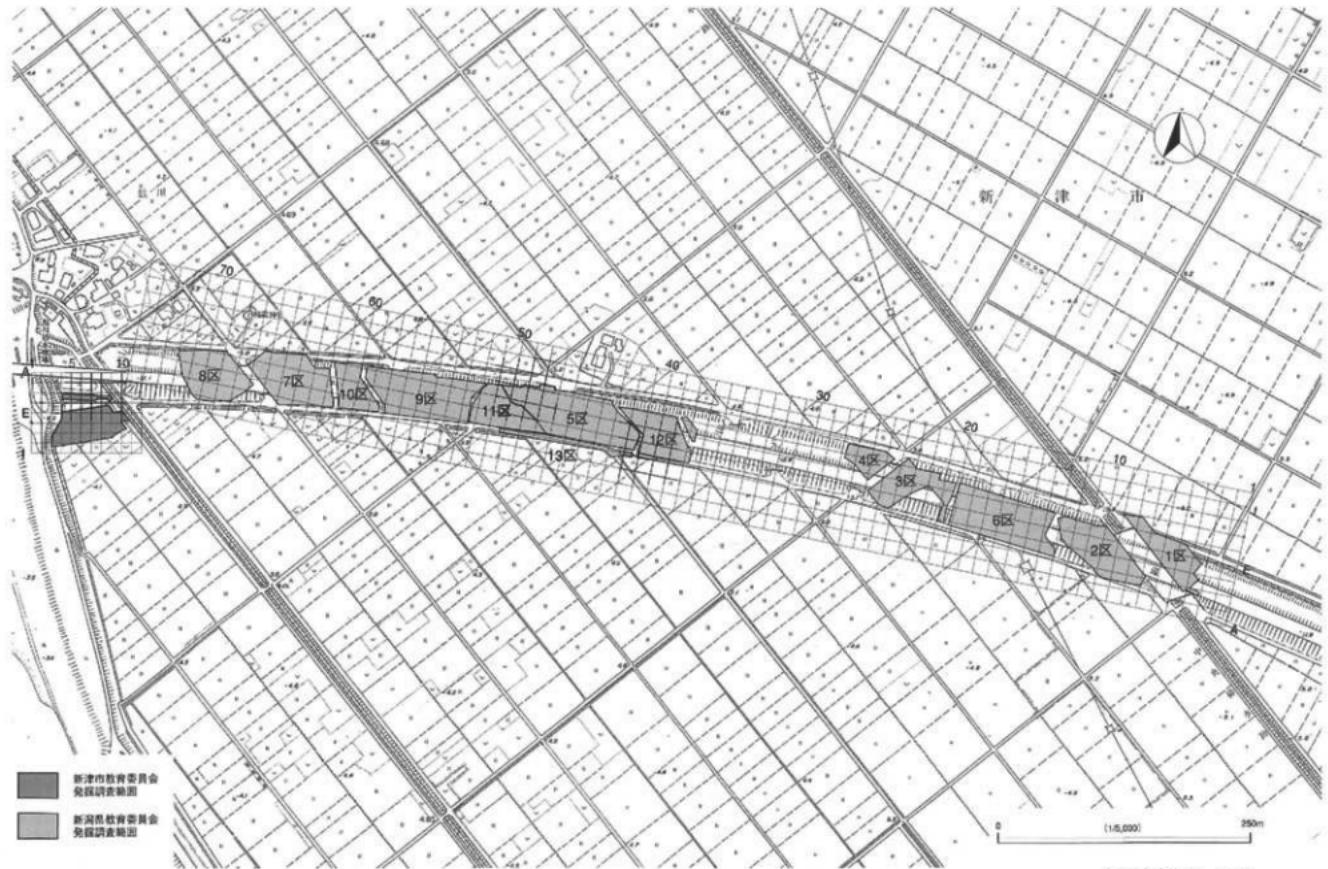




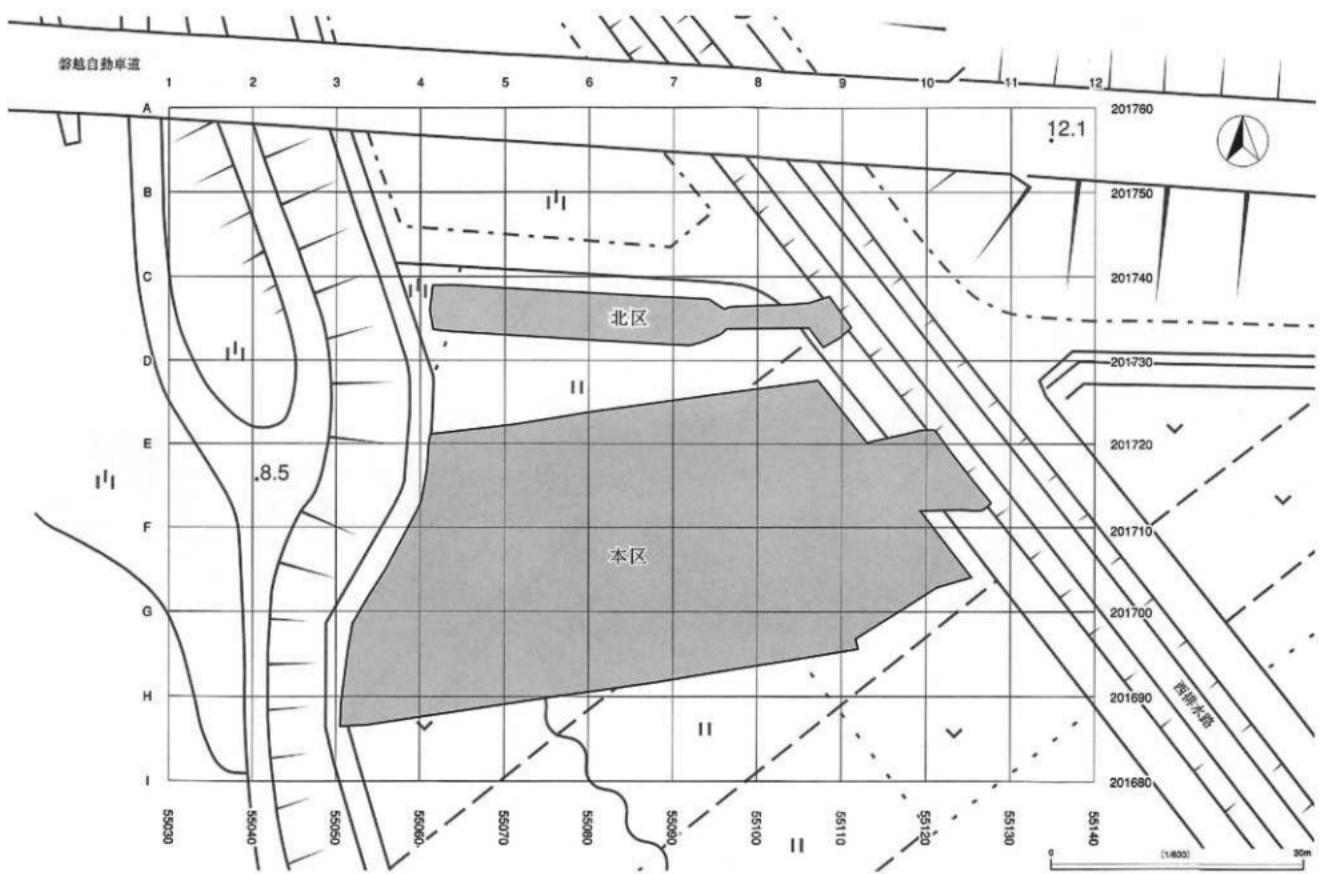


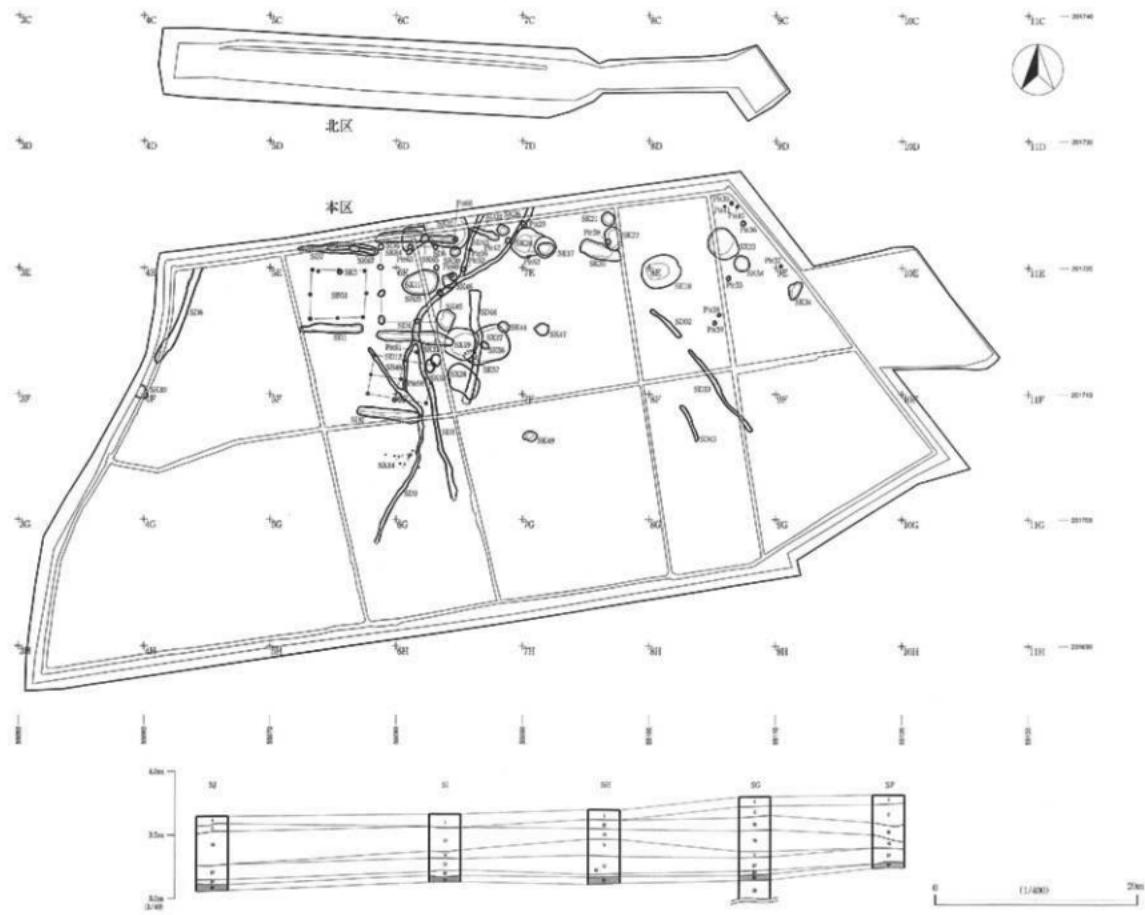


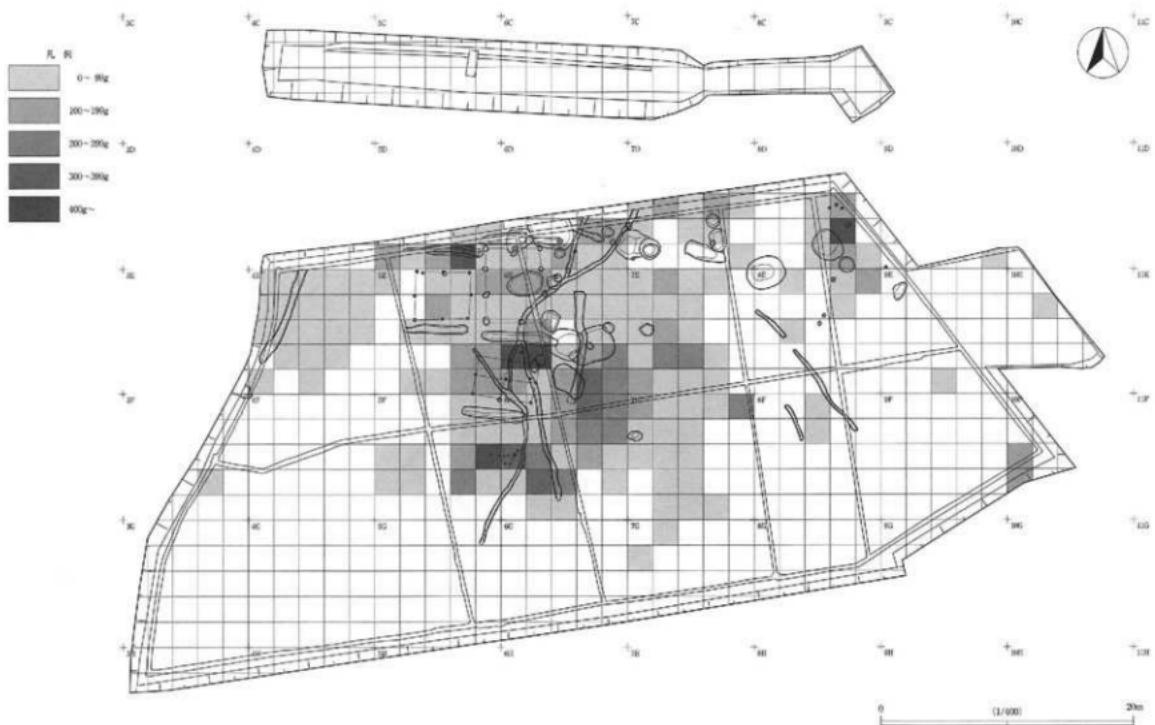
満日地区圃場整備に伴う試掘調査データをもとに作成
(コンタуインは古代確認面より推定作成)



新津市都市計画図 1995年







井ノ羽遺跡包含層の小クリット別平安時代土器出土量分布図

3C

4C

5C

6C

7C

8C

9C

10C

3D

4D

5D

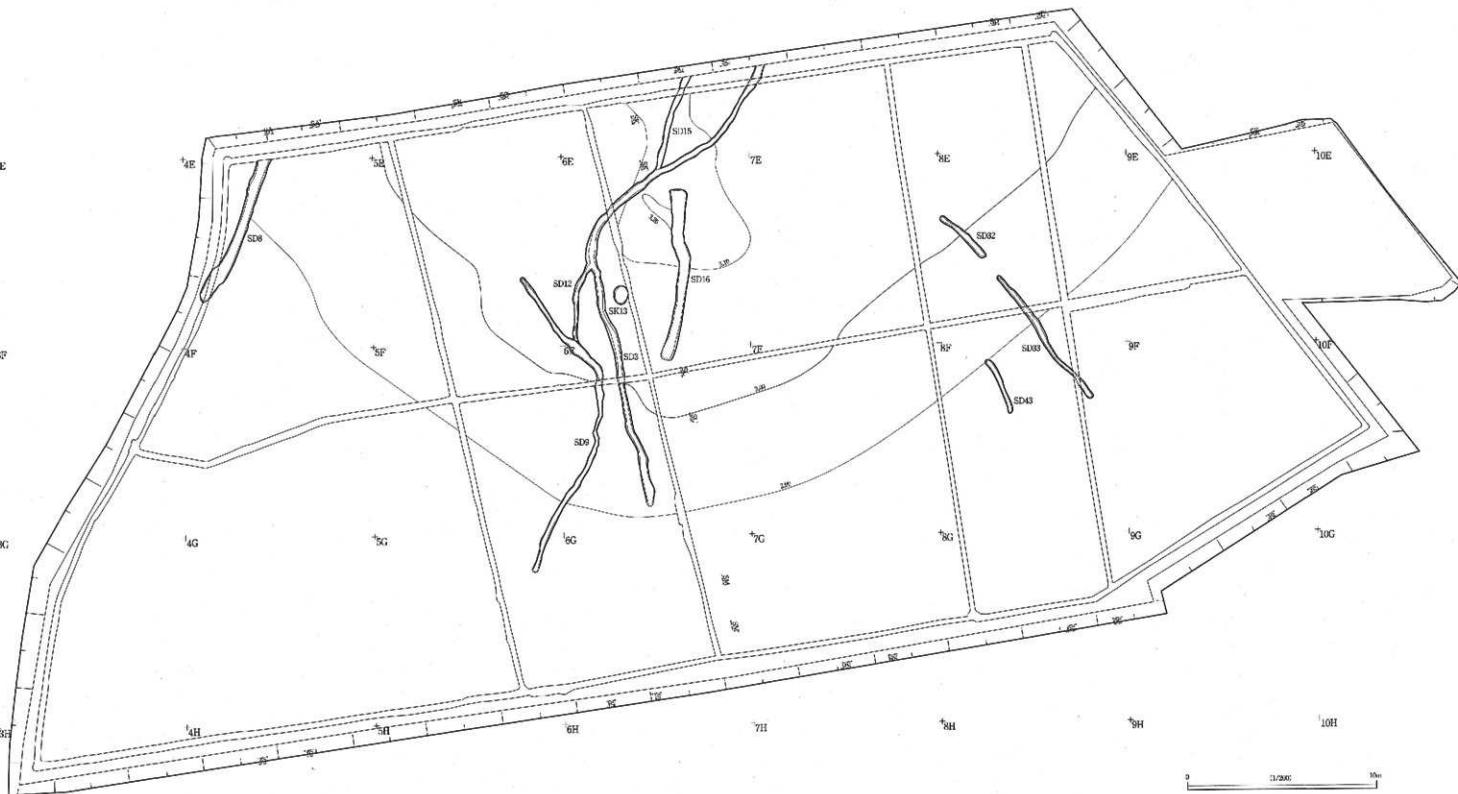
6D

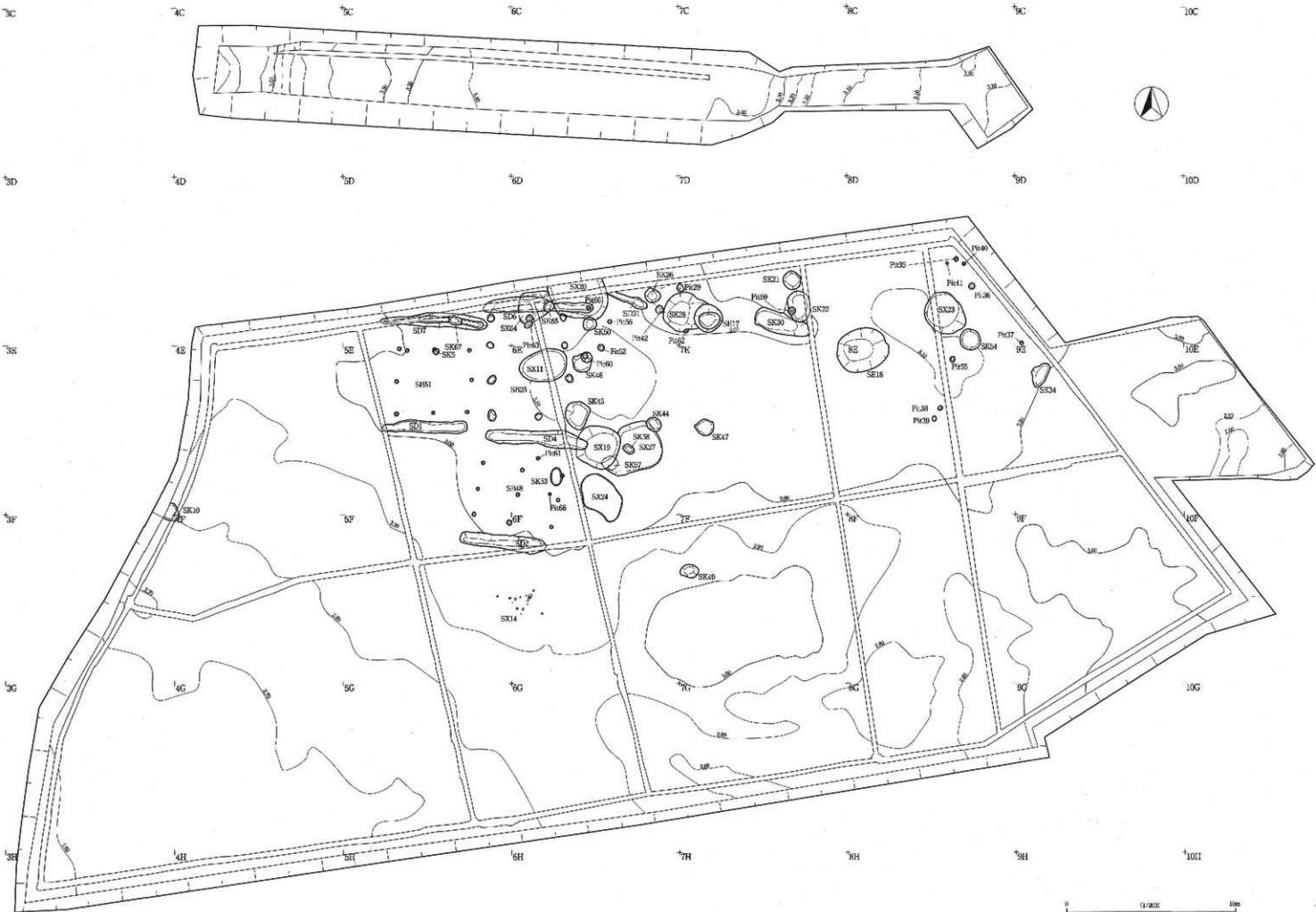
7D

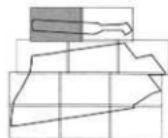
8D

9D

10D







55070

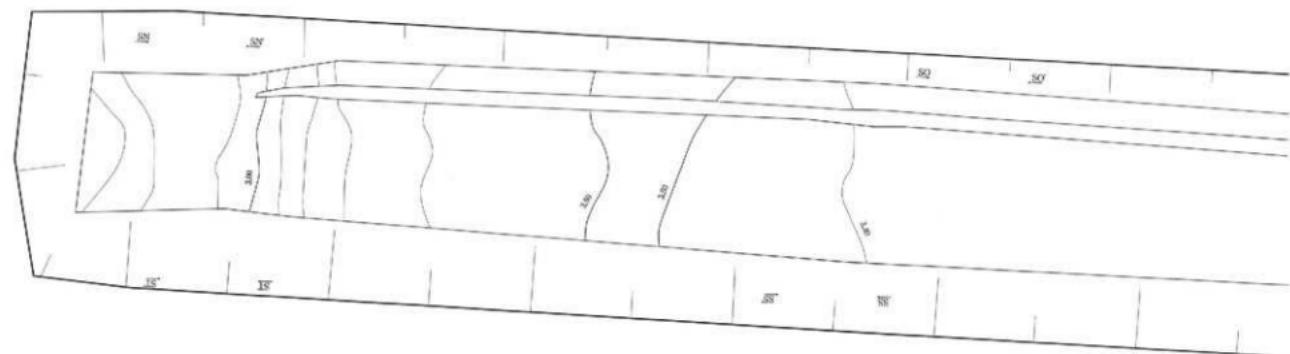
201740

+5C

55080

+6C

201740



201730

+5D

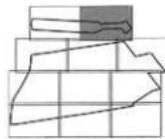
55070

+6D

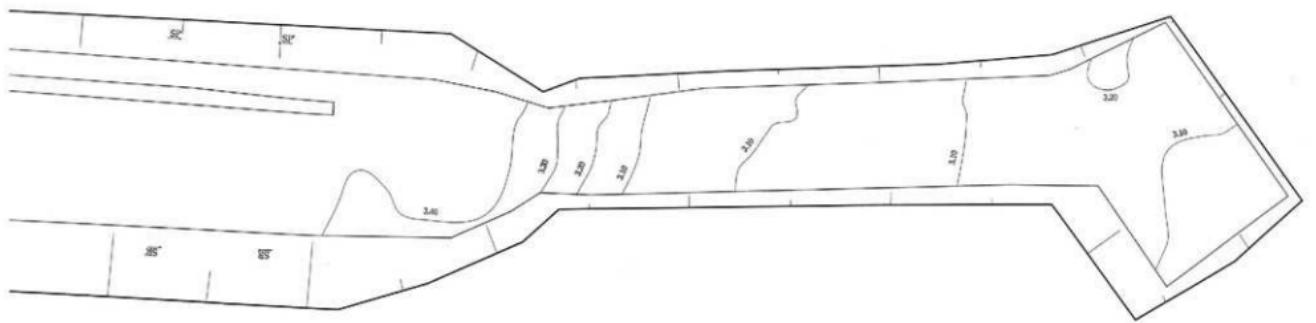
55080

201730

0 (1/100) 5m

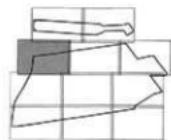


201740 — +70 +8C — 201740



201730 — +7D +8D — 201730

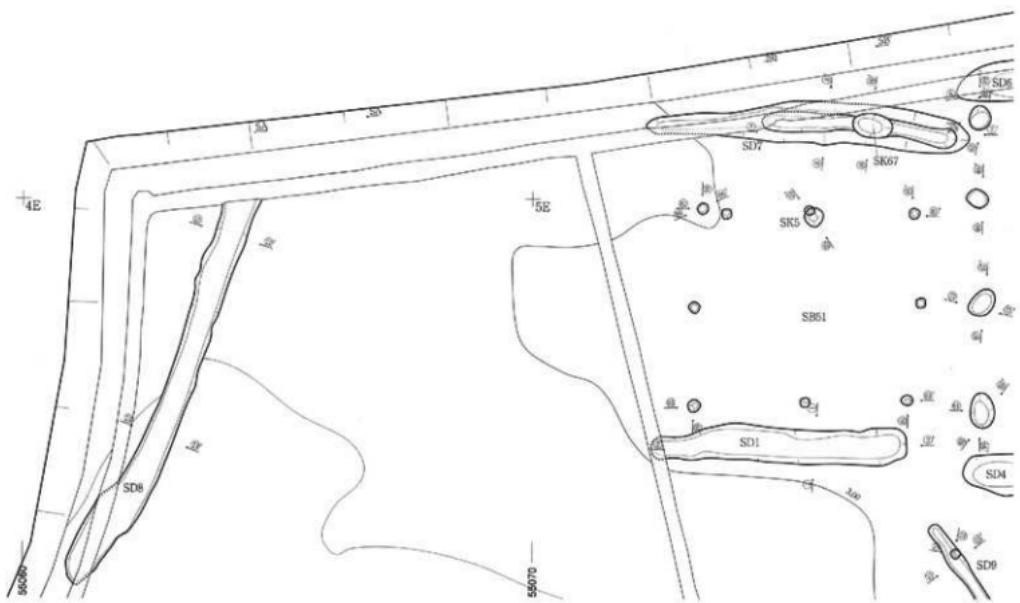
— 00155
 0 (1/100) 100



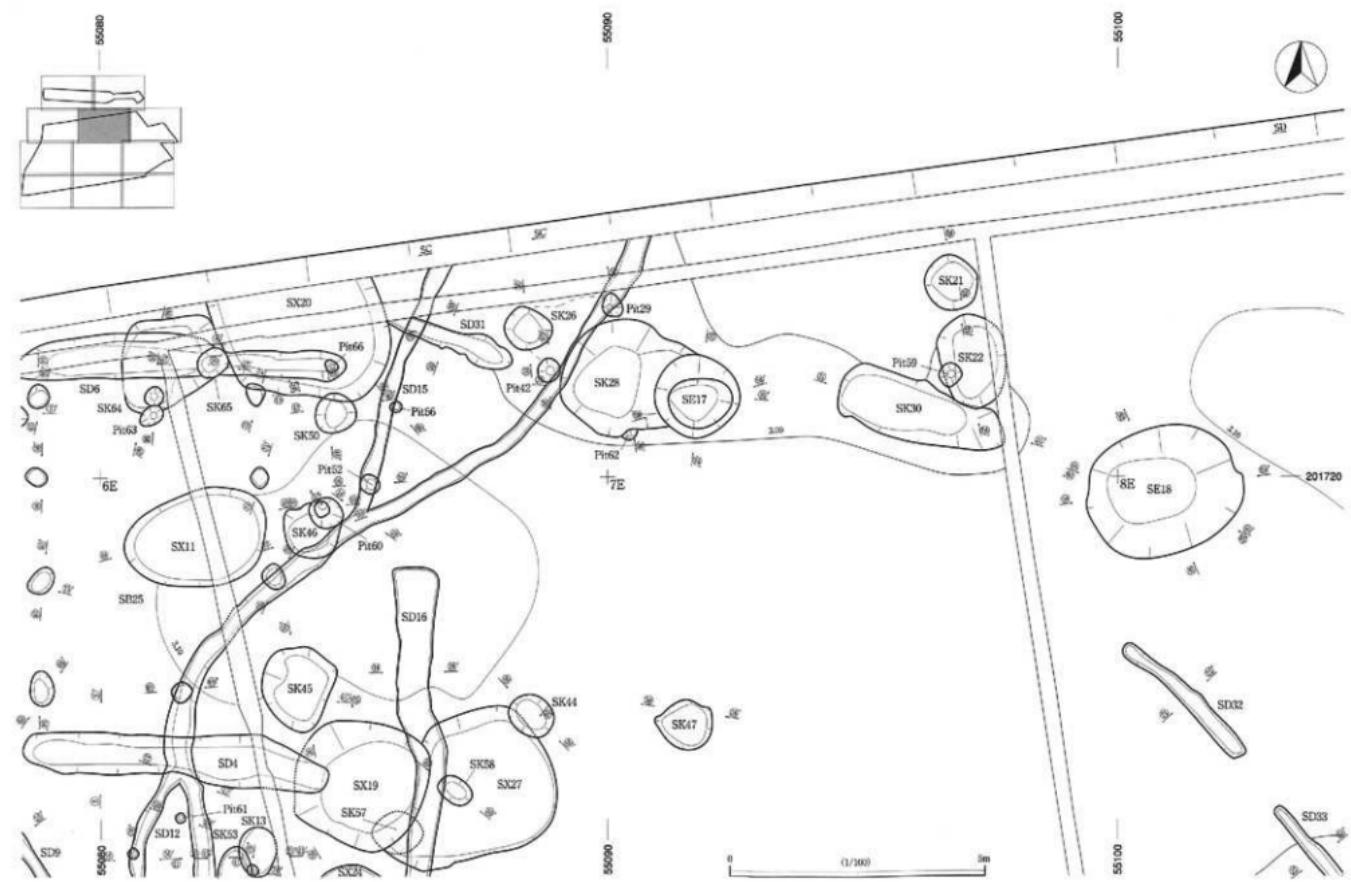
201720 —

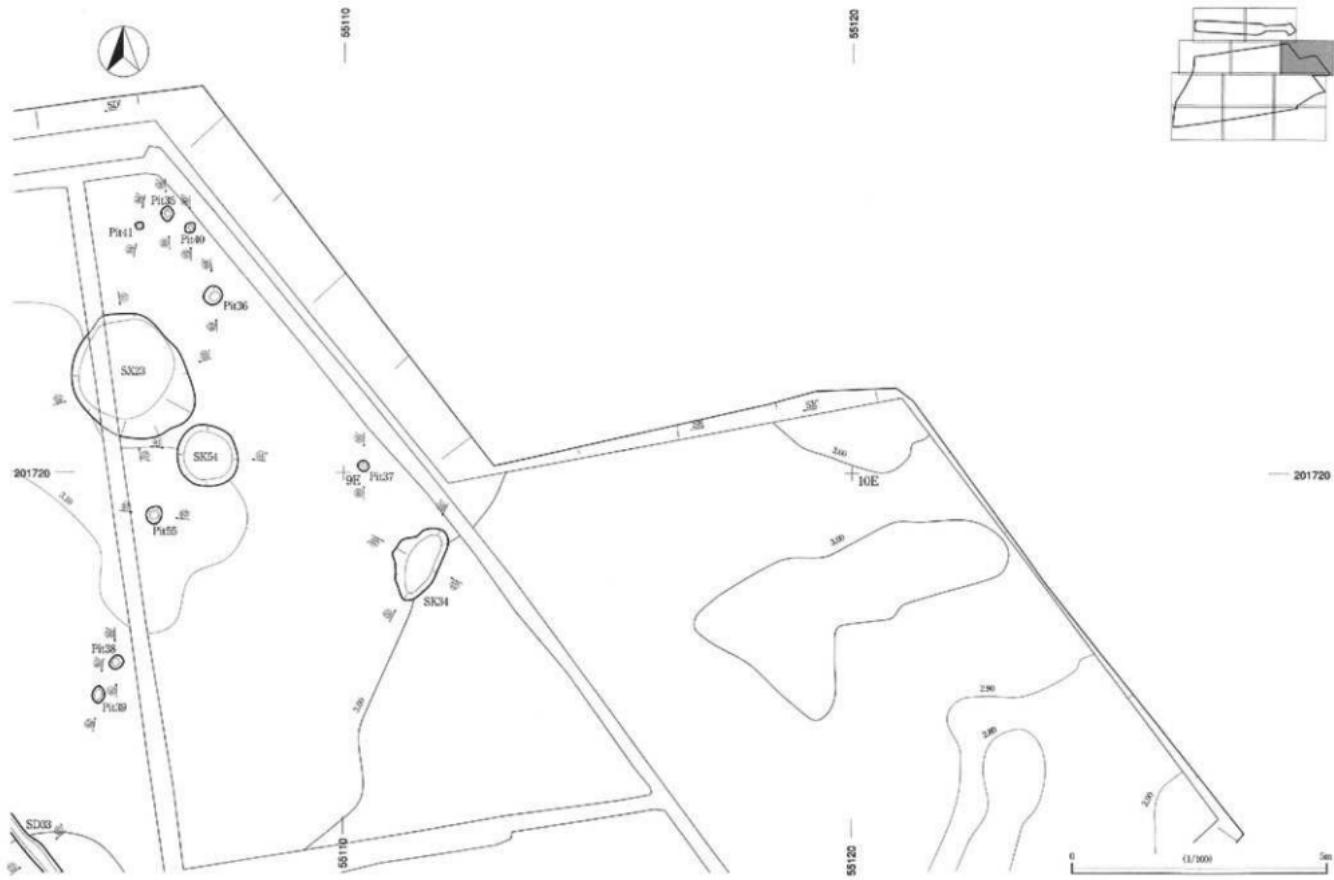
— 500 —

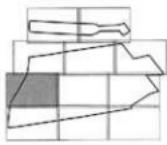
— 0050 —



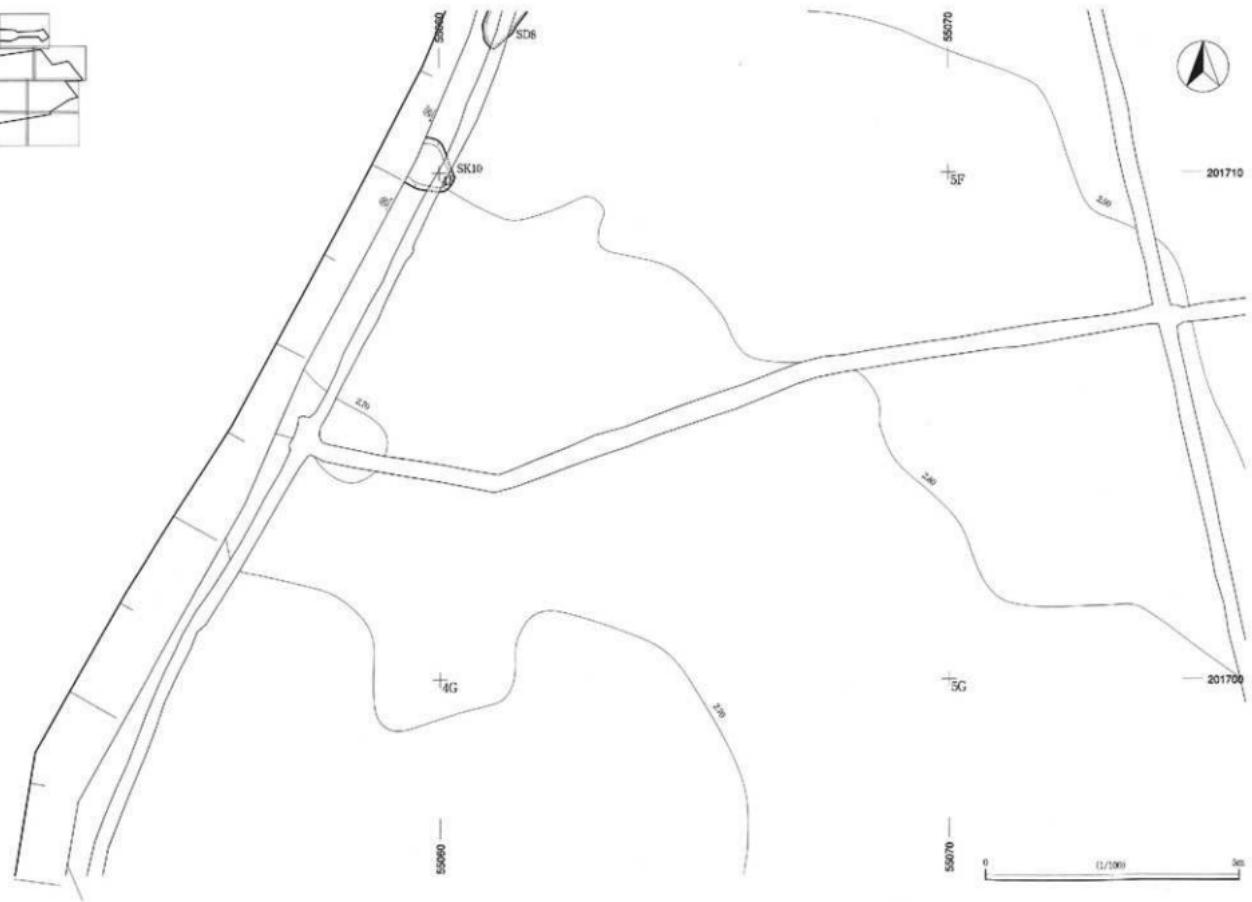
0 500 (1/100) 500







201710 ——

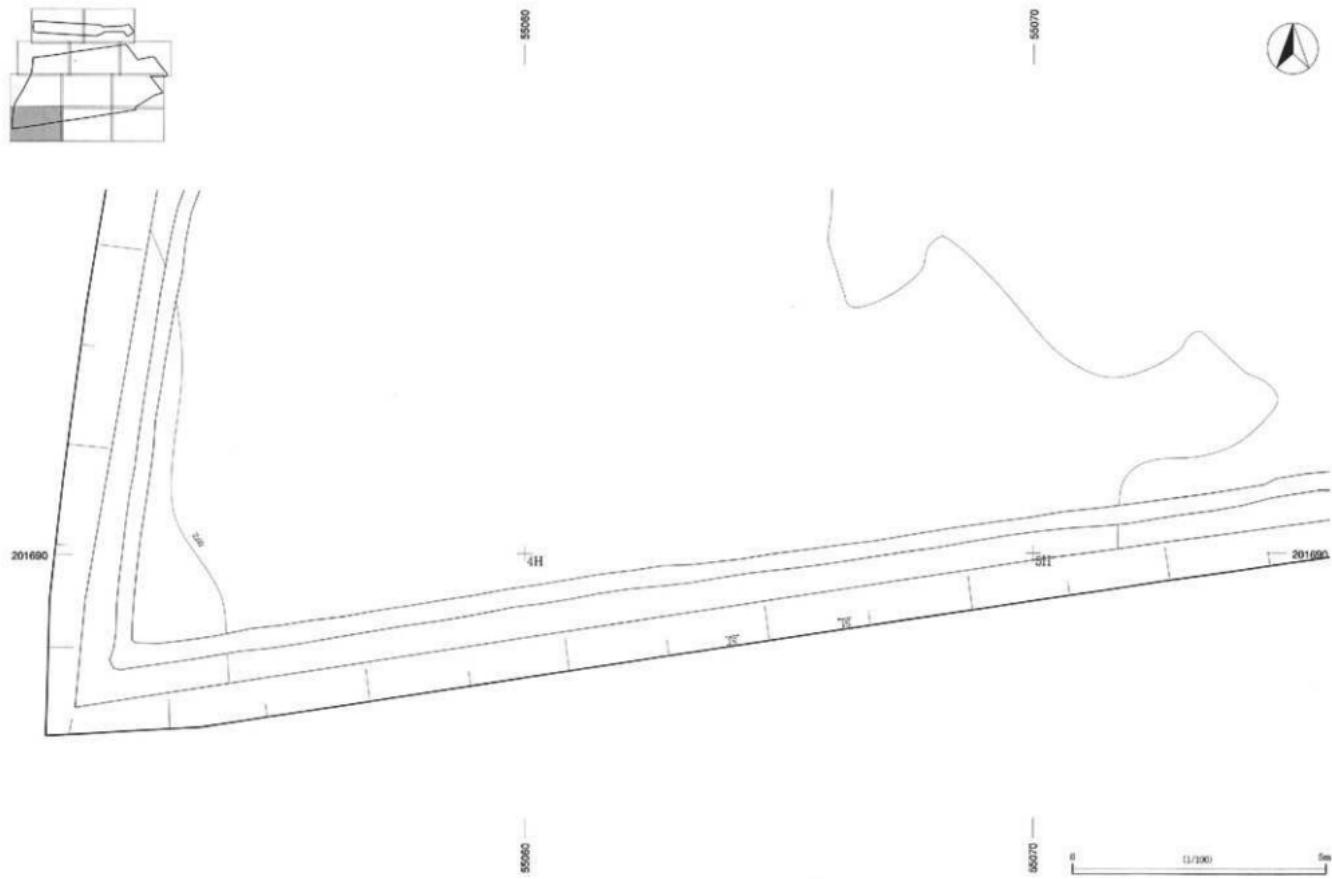


0 (1/100) 50m





洋ノ江島館構造平面図 8 (1/100)





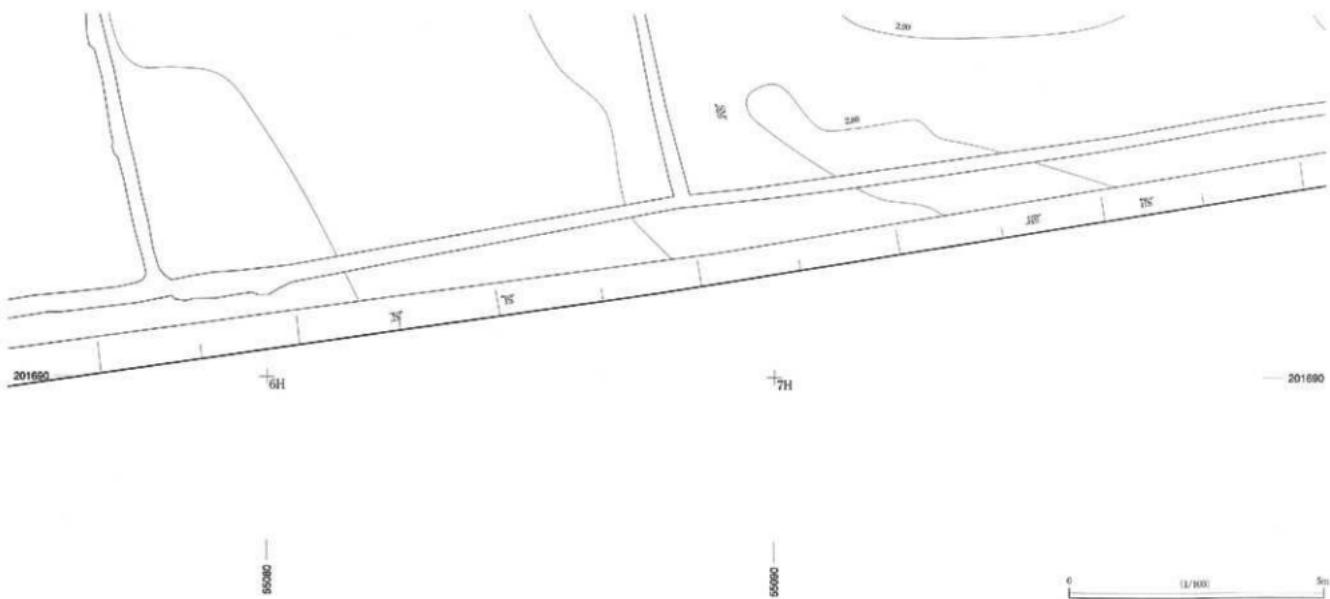
— 55980 —

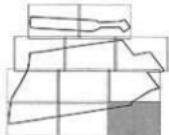
+6G

— 55980 —

+7G

— 201700 —





201700 —

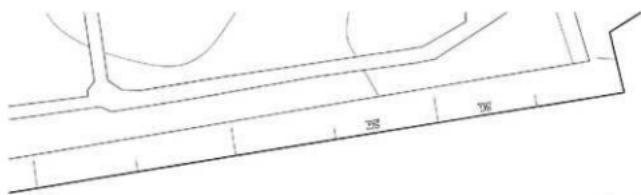
— 55100

+ 8G

— 55110

+ 9G

— 201700



201600 —

—

+ 8H

—

+ 9H

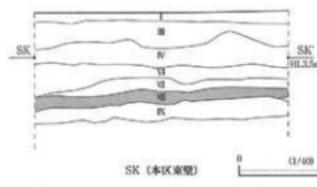
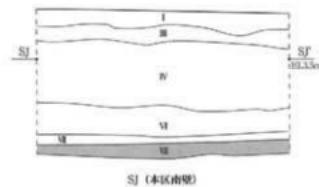
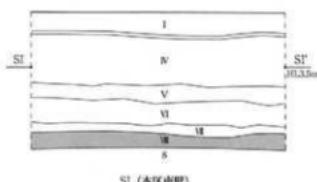
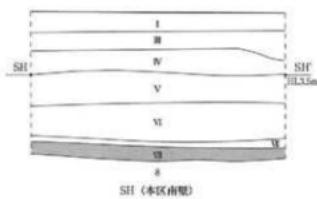
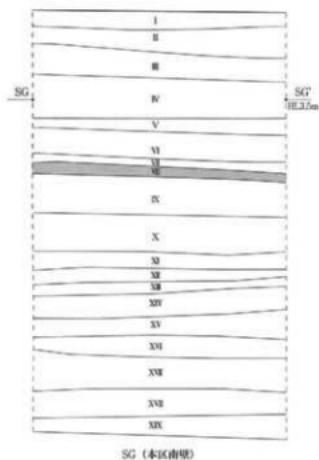
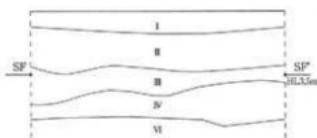
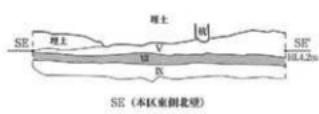
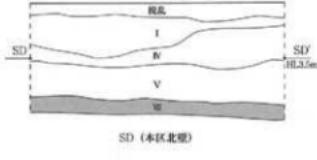
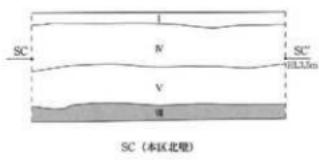
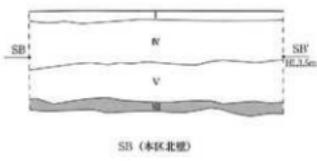
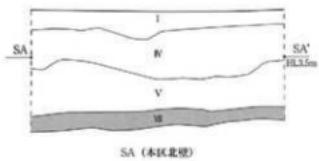
— 55100

10m				
1	2	3	4	5
				10
				15
				20
21	22	23	24	25

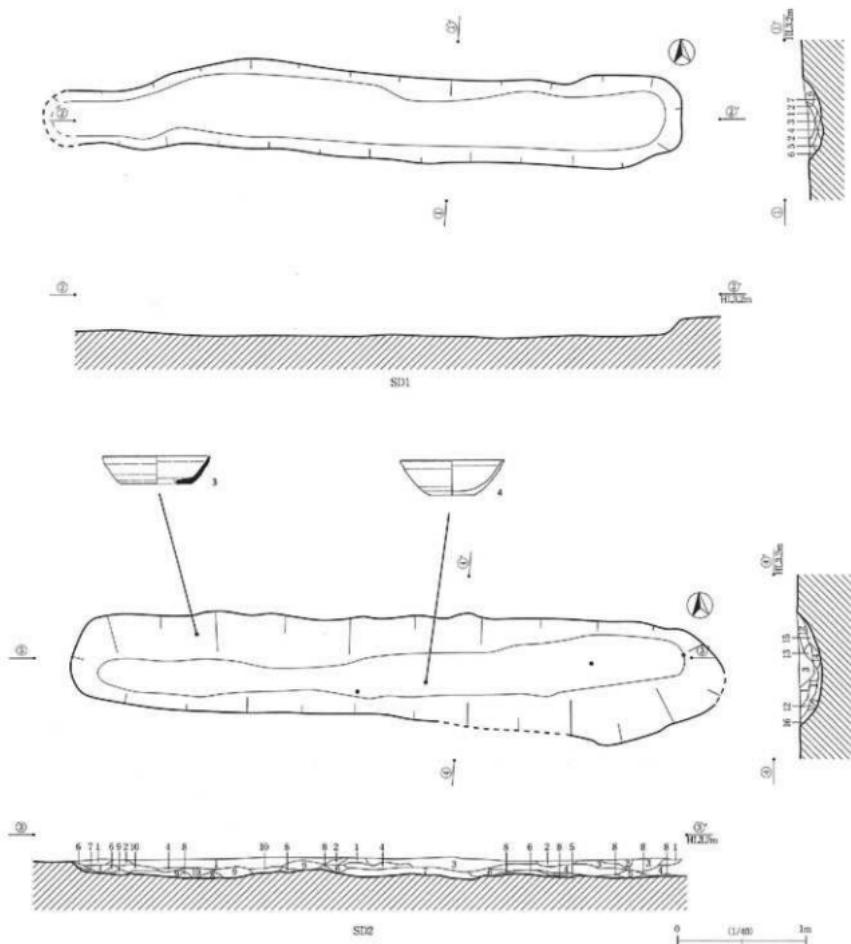
沖ノ羽道路小グリッド設定用模式図

— 55110

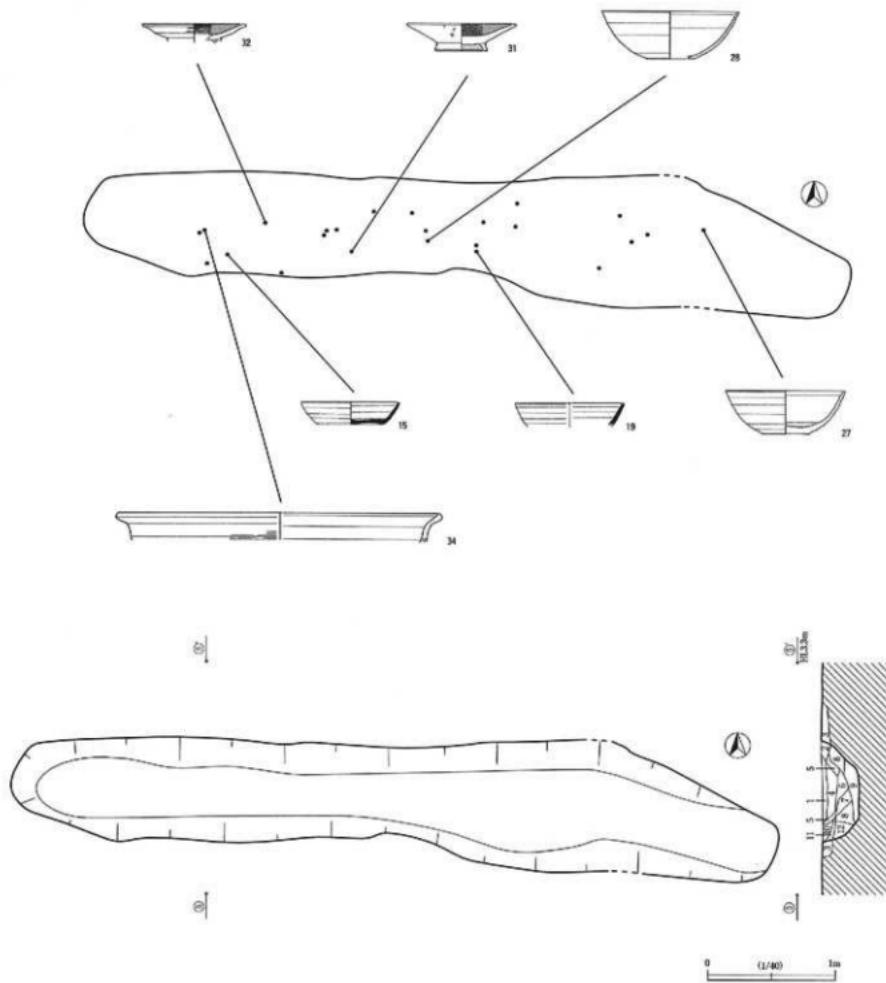
0 (1/100) 5m



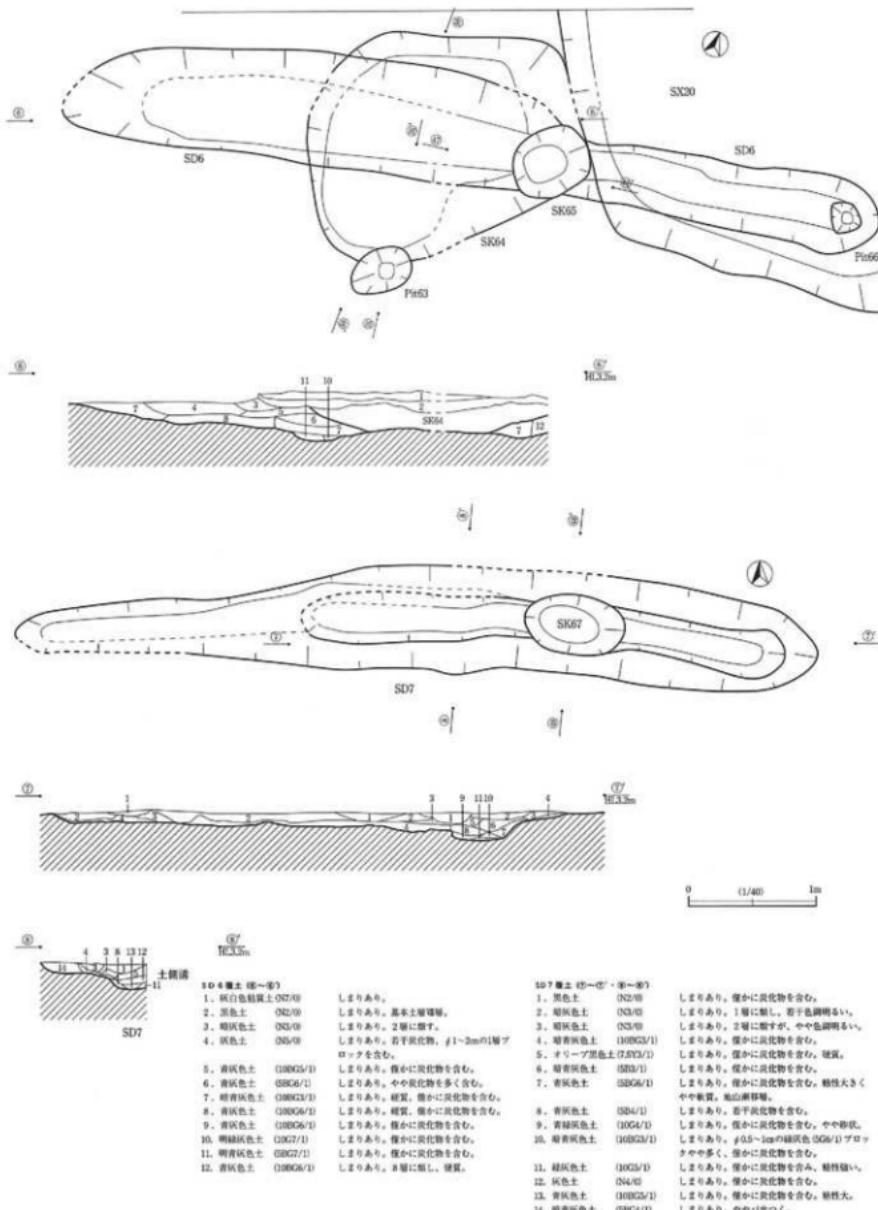
0 1/400 1m

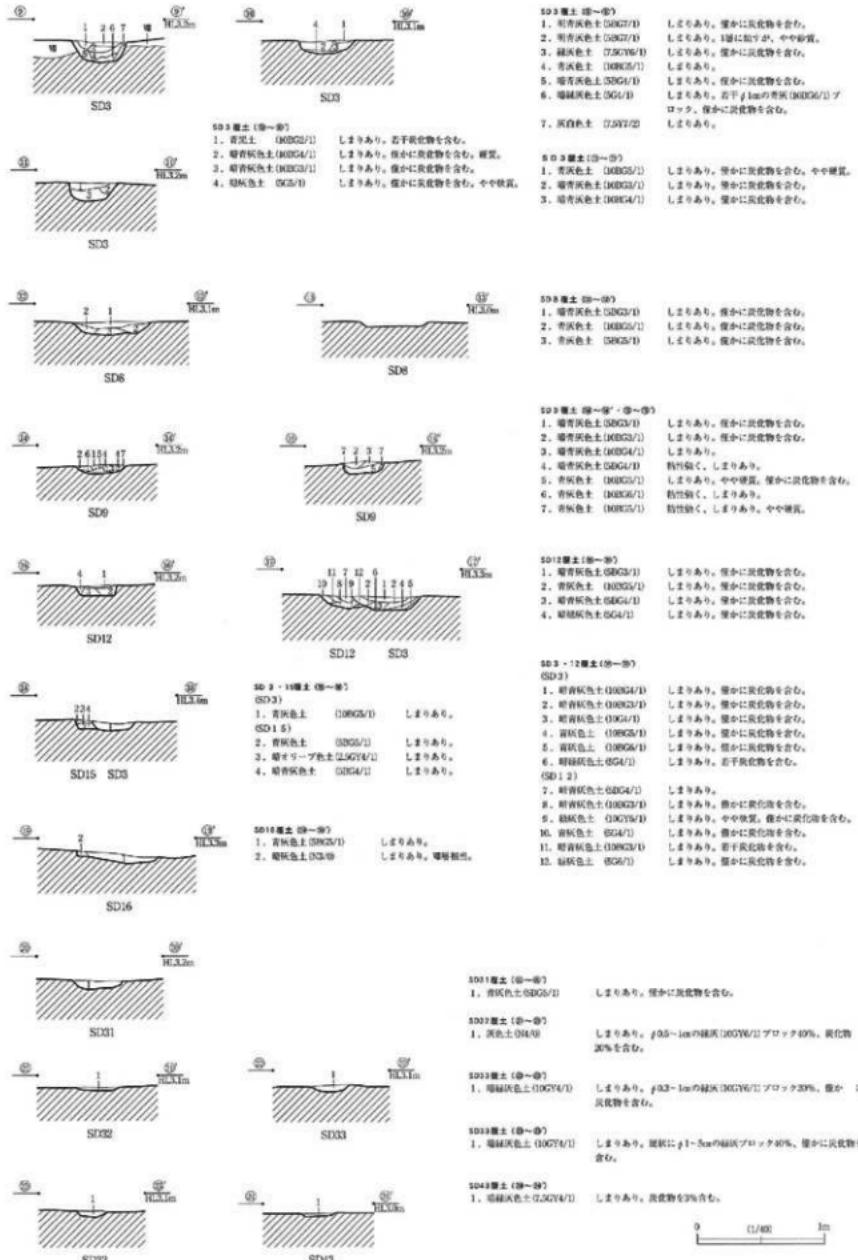


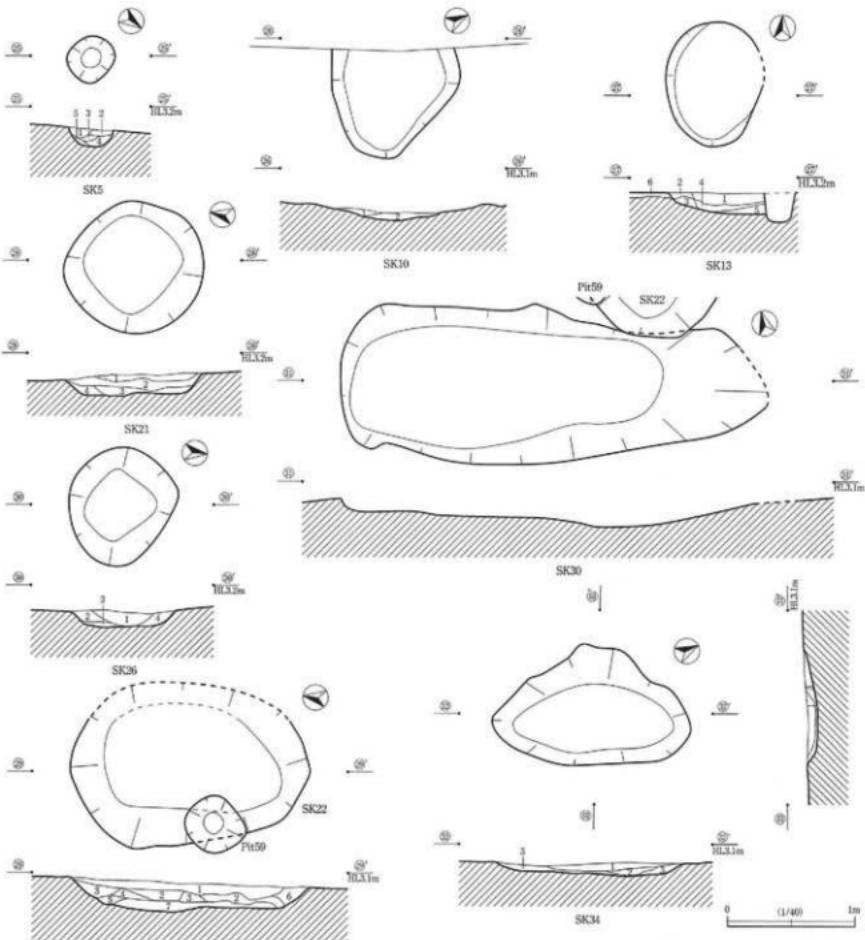
SD 1 地図 (①)~(⑤)	SD 2 地図 (⑥)~(⑩)
1. 黄褐色土 (OQ2.0) 硬質、しまりあり。微かに炭化物を含む。	1. 黄褐色土 (SGS3.0) しまりあり。微かに灰白色土 (SGT7.0) & 1cm)、炭化物を含む。
2. 黑色土 (NS5.0) 硬質、しまりあり。	2. 黄褐色土 (SGS3.0) しまりあり。やや厚い板状に浜灰土 (SGH7.0) やや多く含む。
3. 暗赤灰土 (SGK7.0) やや硬質、しまりあり。辺縁強度。	3. 黑色土 (SGZ3.0) しまりあり。浜灰土 (SGH7.0) ブロック中に若干含む。
4. 黑褐色土 (SGS5.0) 硬質、しまりあり。	4. 黄褐色土 (SGS3.0) しまりあり。若干粘性物、微かに灰化ブロック (SGH7.0) を含む。
5. 黄褐色土 (SGS2.0) 硬質、しまりあり。	5. 黑色土 (SGZ2.0) しまりあり。微かに炭化物を含む。
6. 黑褐色土 (SGS6.0) 硬質、しまりあり。やや粘性強い。	6. 明灰灰化土 (SGHG6.0) しまりあり。やや多 C 青灰ブロック (SGHG6.0 & 0.5cm)。微かに炭化物を含む。
7. 明灰灰化土 (SGG7.0) 硬質、しまりあり。3層+微かに2層土。	7. 黄褐色土 (SGHG6.0) しまりあり。微かに炭化物を含む。
SD 2 地図 (⑪)~(⑯)	SD 2 地図 (⑪)~(⑯)
11. 黑色土 (SGZ8.0) しまりあり。若干灰白色 (SGHG6.0) 有する灰灰ブロック、炭化物を含む。	11. 黑色土 (SGZ8.0) しまりあり。若干灰白色 (SGHG6.0) 有する灰灰ブロック、炭化物を含む。
12. 明灰灰化土 (SGHG8.0) しまりあり。若干粘性 (SGHG6.0) 有する、微かに炭化物を含む。	12. 明灰灰化土 (SGHG8.0) しまりあり。若干粘性 (SGHG6.0) 有する、微かに炭化物を含む。
13. 黑色土 (SGZ8.0) しまりあり。微かに灰化 (SGHG6.0) 板。炭化物を含む。粘性大。色濃く2層に披す。	13. 黑色土 (SGZ8.0) しまりあり。微かに灰化物、微か (SGHG6.0) 板を含む。粘性大。色濃く2層に披す。
14. 明灰灰化土 (SGHG9.0) しまりあり。微かに炭化物、微か (SGHG6.0) 板を含む。粘性大。	14. 明灰灰化土 (SGHG9.0) しまりあり。微かに炭化物、微か (SGHG6.0) 板を含む。粘性大。
15. 黑色土 (SGZ9.0) しまりあり。微かに炭化物、微か (SGHG6.0) 板を含む。	15. 黑色土 (SGZ9.0) しまりあり。微かに炭化物、微か (SGHG6.0) 板を含む。
16. 黑色土 (SGZ10.0) しまりあり。明灰灰化土 (SGHG6.0) やや多く含む。ややハサツく。	16. 黑色土 (SGZ10.0) しまりあり。明灰灰化土 (SGHG6.0) やや多く含む。ややハサツく。



- SD 4 地図 (3号～3号)**
1. 黒谷色土 (NT7/0) しまりあり。若干程度の浜白色 (0.5GY7/1) ブロックを若干含む。
 2. 稲荷浜白色土 (0.5RG4/1) しまりあり。僅かに1~2mmの浜白色 (0.5GY5/1) ブロックを含む。
 3. 黒谷色土 (0.5G5/1) しまりあり。稲糞。地山は砂層。
 4. 黒谷色土 (0.5G2/1) しまりあり。僅かに浜白色ブロック (4~20mm)、薄い帶状2mmを含む。
 5. 黒谷色土 (0.5G6/1) しまりあり。僅かに浜白色、炭化枝を含む。
 6. 黒谷色土 (0.5G5/1) しまりあり。若干炭化枝。僅かに浜白色を含む。
 7. 黒谷色土 (0.5G5/1) しまりあり。若干炭化枝。浜白色を含む。
 8. 黒谷色土 (NT7/0) しまりあり。僅かに炭化枝を含む。
 9. 黒谷色土 (0.5G5/1) しまりあり。若干炭化枝を含む。やや軟弱。
 10. 稲荷浜白色土 (0.5RG4/1) しまりあり。2層に解すが。浜白色ブロック含まない。
 11. 稲荷浜白色土 (0.5G7/1) しまりあり。
 12. 利根浜白色土 (0.5G7/1) しまりあり。僅かに炭化枝を含む。地山は砂層。







SK22 地盤(①~④)

1. 青灰粘土 (0HG5/1) L2.5cmあり。若干黄褐色 (0IVb/0) 有。僅かに炭化物を含む。
2. 黄褐色土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに1cmの薄黄色 (0IVG1/1) ブロック。炭化物を含む。
3. 青褐色土 (0HG5/1) L2.5cmあり。若干黄褐色を含む。やや軟質。
4. 緑褐色土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに黄褐色 (0IVG1/1) 有。やや軟質。
5. 青褐色粘土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに黄褐色 (0IVG1/1) 有。やや軟質。

SK22 地盤(⑤~⑧)

1. 青褐色粘土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに自然乾きを含む。
2. 青褐色粘土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに炭化物を含む。

SK22 地盤(⑨~⑫)

1. 青灰粘土 (0HG5/1) L2.5cmあり。若干黄褐色 (0IVG1/1) ブロッ クを含む。
2. 青灰土 (0HG5/1) L2.5cmあり。約0.5~1cmの青褐色 (0IVG1/1) ブロッ クを含む。
3. 青褐色土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに炭化物を含む。
4. 青褐色土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに炭化物を含む。やや軟質。
5. 青褐色土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに炭化物を含む。やや軟質。
6. 青褐色粘土 (0HG5/1) L2.5cmあり。僅かに炭化物を含む。やや軟質。

SK22 地盤(⑬~⑯)

1. 青褐色粘土 (0HG5/1) L2.5cmあり。炭化物を2%含む。やや軟質。
2. 青灰土 (0HG5/1) L2.5cmあり。炭化物2%。若干1cmの薄黄色 (0IVG1/1) ブロックを含む。
3. 青褐色土 (0HG5/1) L2.5cmあり。炭化物を20%含む。やや軟質。
4. 青灰土 (0HG5/1) L2.5cmあり。炭化物を20%含む。

SK22 地盤(⑭~⑯)

1. 青灰粘土 (0HG5/1)
2. 青褐色粘土 (0HG5/1)

3. 青色リーフ (0HG5/1) ブロック10%

4. 青褐色粘土 (0HG5/1)
5. 青褐色土 (0HG5/1)
6. 青灰粘土 (0HG5/1)
7. 青褐色土 (0HG5/1)

シルト層。しまりあり。緑25%。僅かに炭化物を含む。

しまりあり。炭化物20%。約0.5cmの明礬汚泥 (0HG7/1) ブロックを含む。

しまりあり。炭化物60%。約0.5cmの明礬汚泥 (0HG7/1) ブロック20%含む。

しまりあり。炭化物30%。明礬汚泥 (0HG7/1) ブロック20%含む。

しまりあり。炭化物15%。明礬汚泥 (0HG7/1) ブロック30%含む。

しまりあり。炭化物を10%含む。

しまりあり。炭化物を3%含む。

SK22 地盤(⑭~⑯)

1. 青灰粘土 (0HG5/0)
2. 青褐色粘土 (0HG5/1)

3. 青灰土 (0HG5/1) ブロック10%

4. 青褐色土 (0HG5/1)

しまりあり。炭化物2%含む。

しまりあり。炭化物0%含む。

しまりあり。僅かに炭化物を含む。

しまりあり。僅かに炭化物を含む。

SK22 地盤(⑭~⑯)

1. 青灰土 (0HG5/0)
2. 青褐色リーフ (0HG5/1) ブロック10%

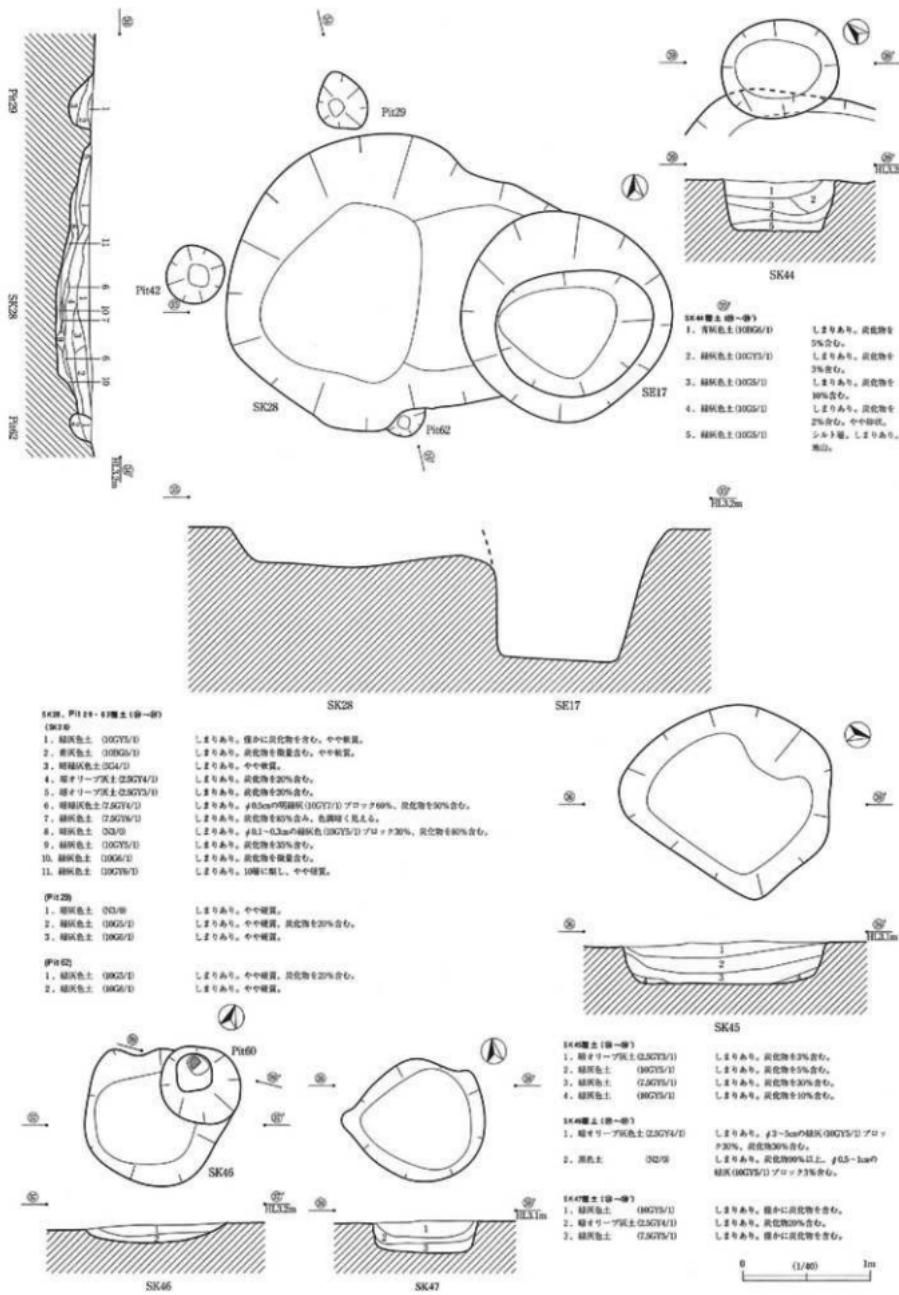
3. 青褐色土 (0HG5/1) ブロック10%

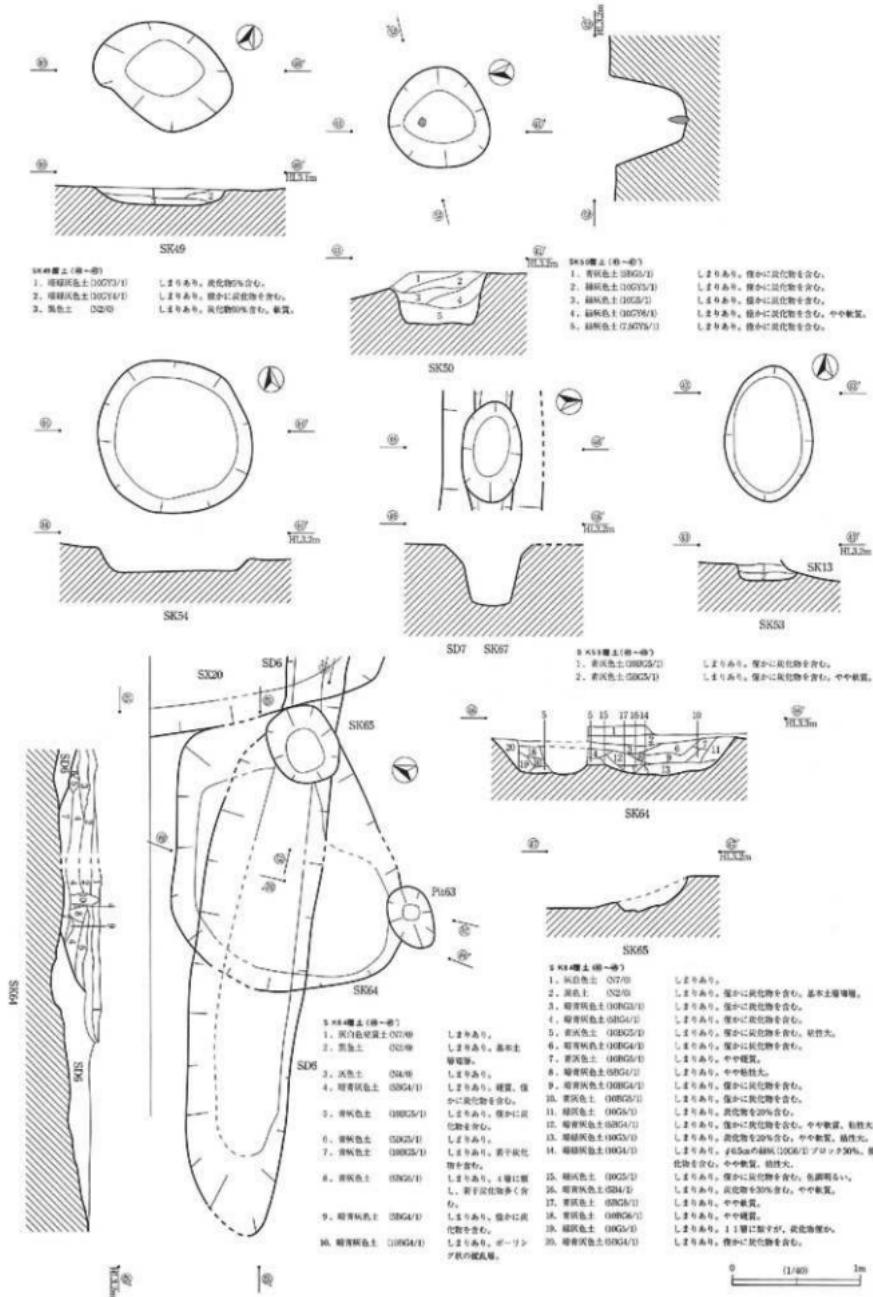
しまりあり。約1~3cmの青褐色リーフ (0HG5/1) ブロック20%。僅かに炭化物を含む。

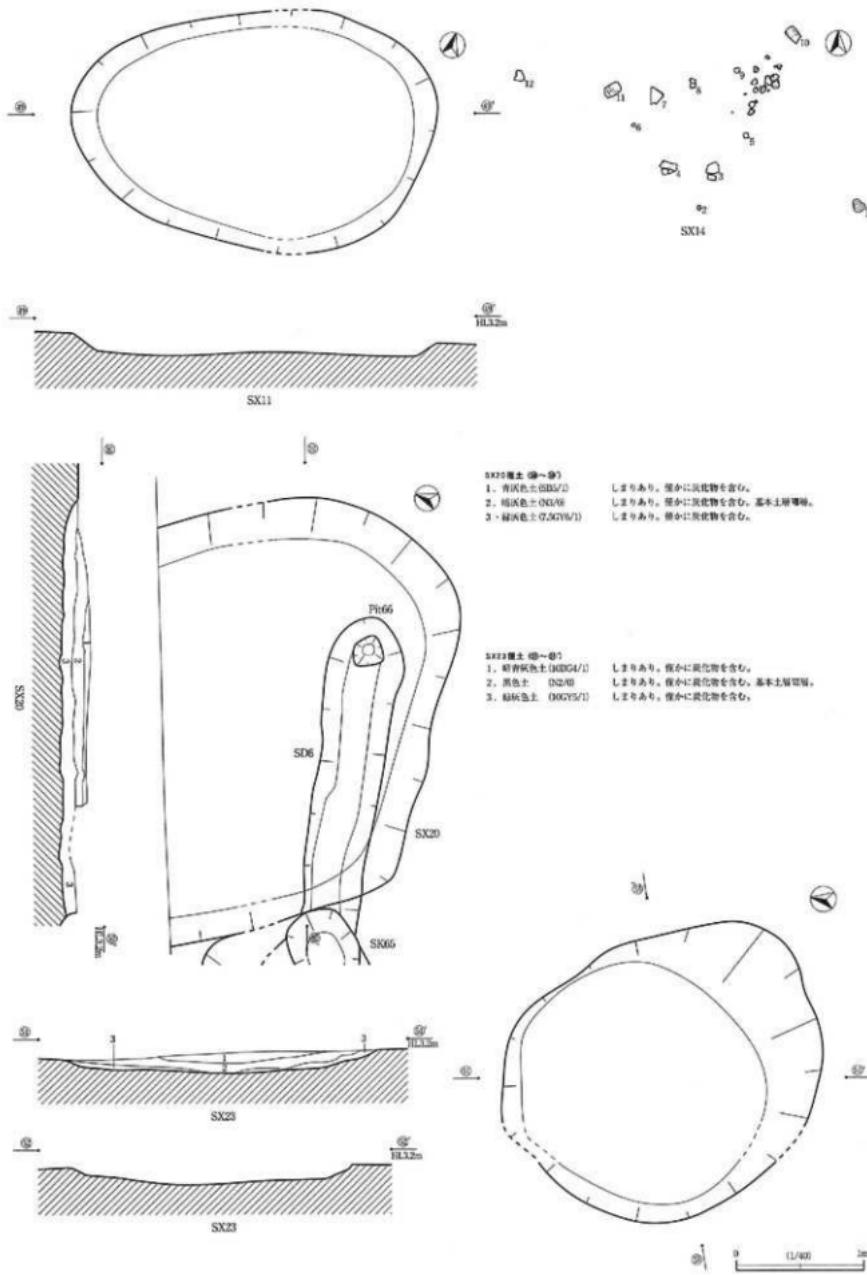
しまりあり。僅かにリーフ (0HG5/1) ブロック10%。僅かに炭化物を含む。

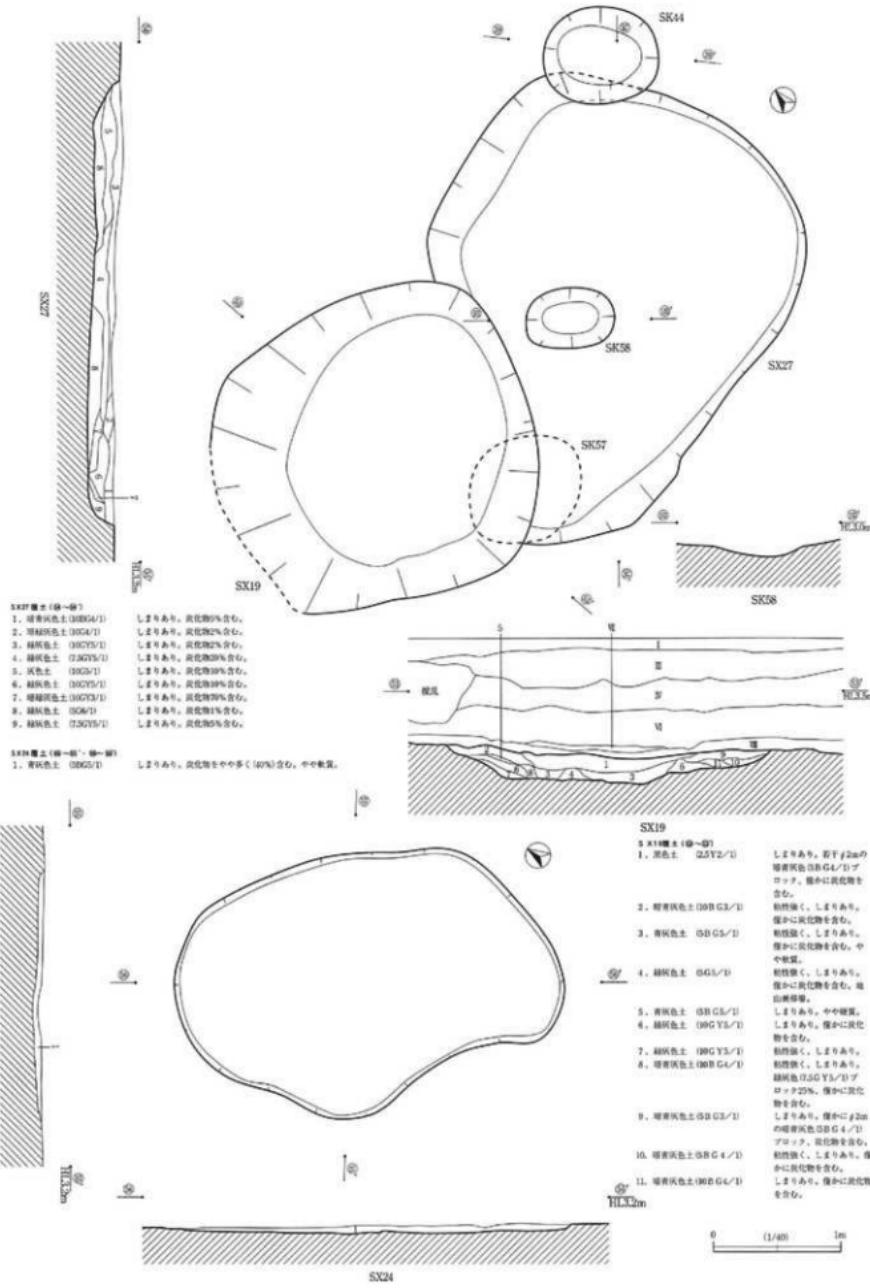
しまりあり。僅かに炭化物を含む。

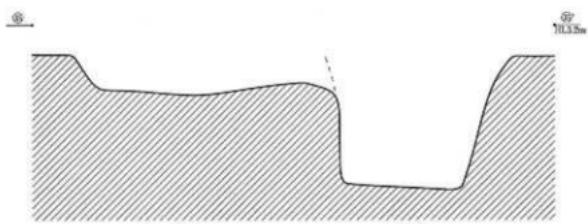
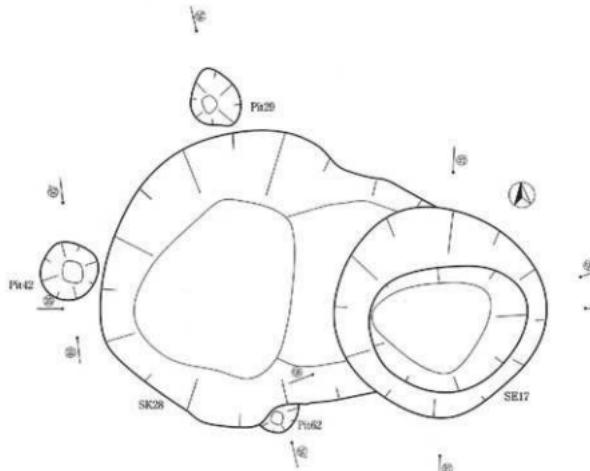
しまりあり。僅かに炭化物を含む。



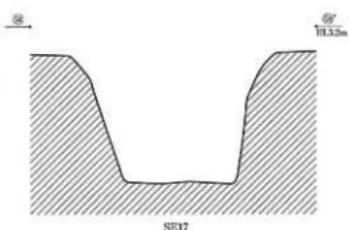
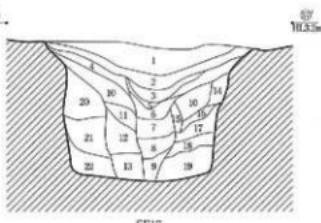


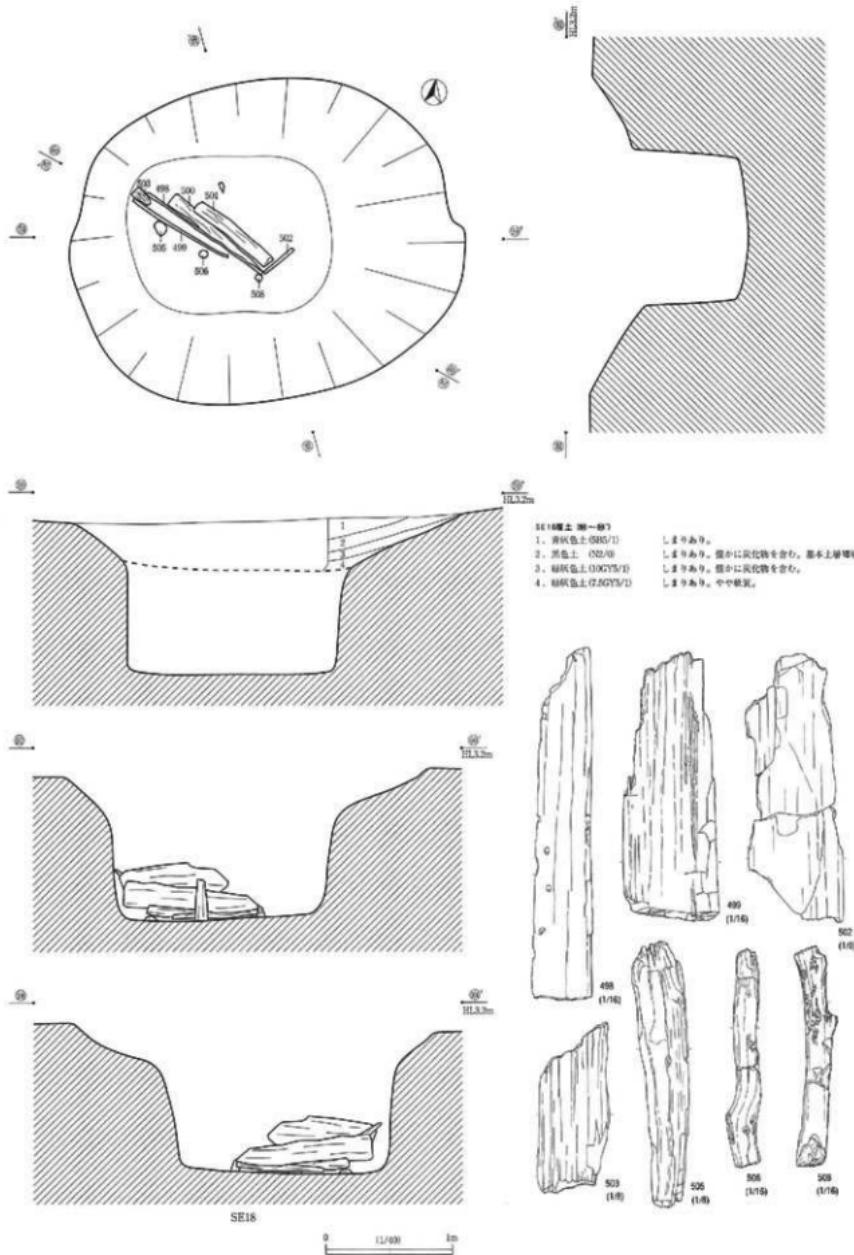


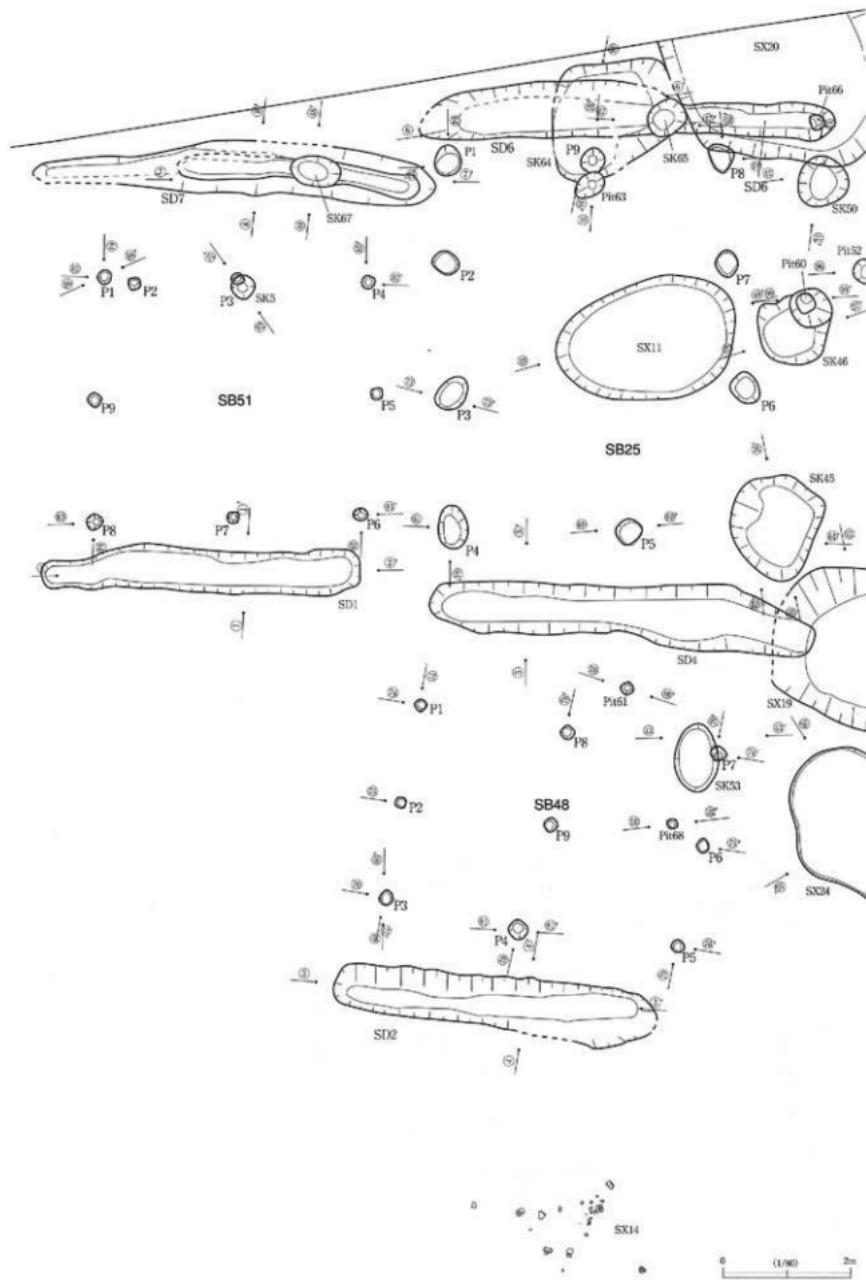


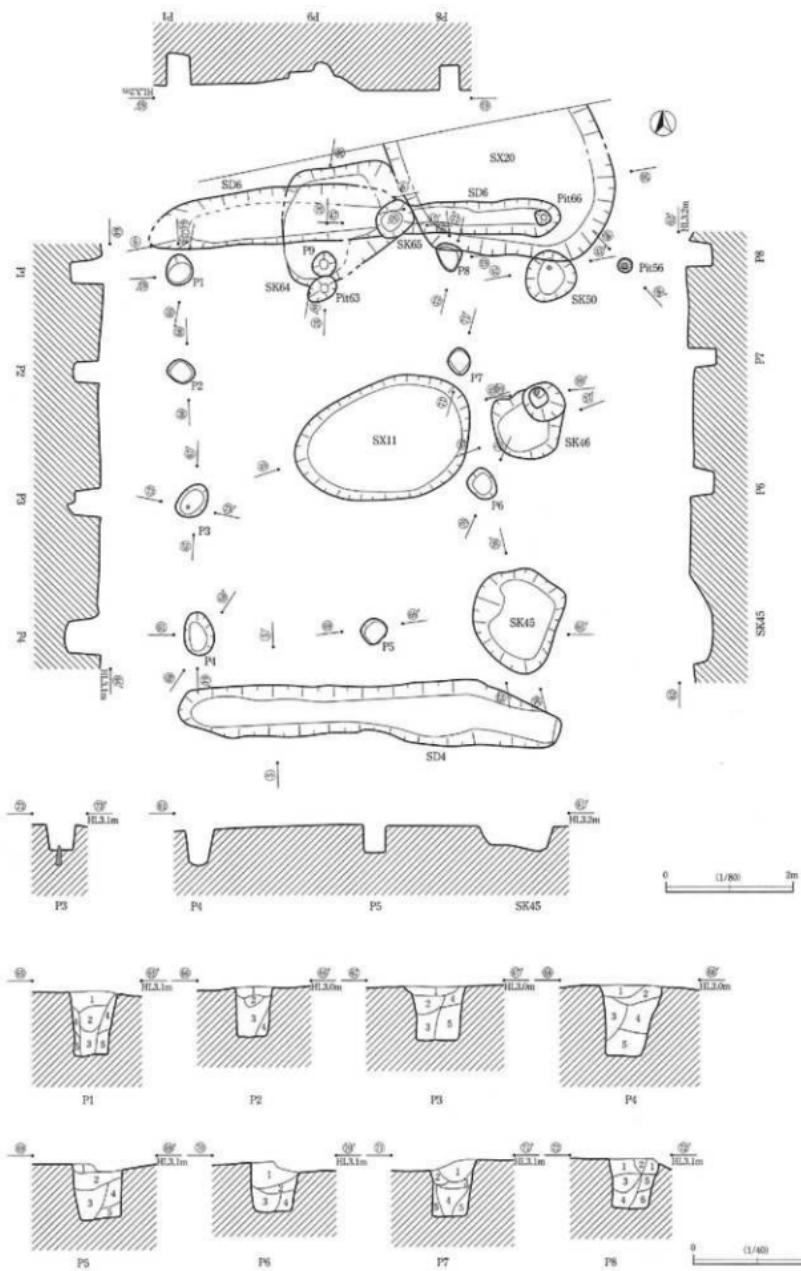


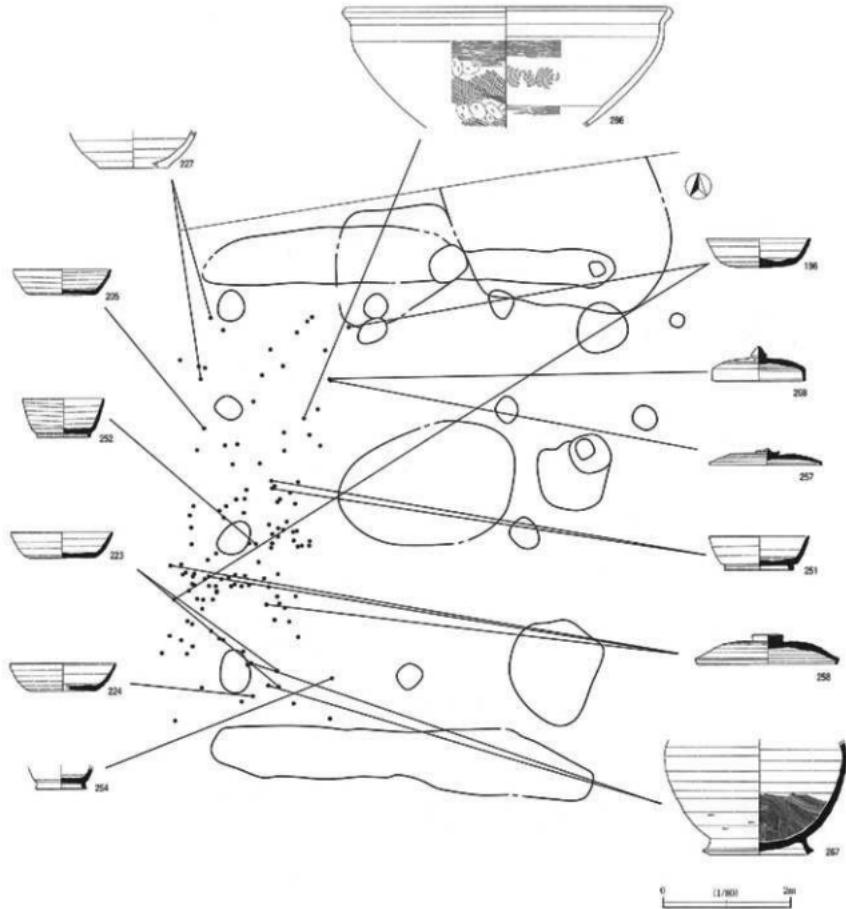
- SE17層土 (0~9m)**
1. 砂質風化土 (0GY1/4)
 2. 黒色土 (NL5/0)
 3. 黒色土 (NL5/0)
 4. 黑色土 (NA4/0)
 5. 緑風化土 (NGY1/5)
 6. 緑色土 (NA4/0)
 7. 緑オリーブ風土 (2SGY1/4)
 8. オリーブ風土 (2SGY1/5)
 9. 緑風化土 (SG1/4)
 10. 緑風化土 (NG1/5)
 11. 緑色土 (NS4/0)
 12. 緑風化土 (NGY1/5)
 13. 青オリーブ風土 (2SGY1/5)
 14. 緑風化土 (NGY1/5)
 15. 緑風化土 (NGY1/5)
 16. 緑風化土 (SG1/4)
 17. 緑風化土 (SG1/5)
 18. 緑風化土 (NGY1/5)
 19. 緑風化土 (SG1/5)
 20. 緑風化土 (NGY1/5)
 21. 緑風化土 (NGY1/5)
 22. 緑風化土 (NG1/5)
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- しまりあり。微かに炭化物のオリーブ風土 (2SGY1/4) ブロックを含む。
- しまりあり。2層に若干炭化物を含む。やや軟質。
- しまりあり。微かに炭化物、砂程を含む。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。やや軟質。
- 微かに炭化物を含む。やや軟質。
- 炭化物30%含む。若干砂程を呈す。
- しまりあり。微かに炭化物、砂程を含む。やや硬質、粘性大。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- しまりあり。若干砂程。微かに炭化物を含む。やや砂粒。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- しまりあり。微かに炭化物、砂程を含む。
- しまりあり。微かに炭化物を含む。
- シルト層。











SB25-P1層土 (Ⅰa-Ⅰb)

- 褐色灰土 (HOY501) しまりあり。炭化物を含む。
- 青灰土 (SB402) しまりあり。若干 (1%) 炭化物を含む。
- 青灰土 (SB403) しまりあり。やや軟質。
- 褐色土 (HOY501) しまりあり。
- 褐色土 (HOY502) しまりあり。若干砂状。
- 褐色土 (HOY503) シルト層。しまりあり。

SB25-P2層土 (Ⅰb-Ⅱb)

- 青灰土 (HOY504) しまりあり。炭化物 5% 含む。
- 青灰土 (SB501) しまりあり。炭化物 3% 含む。
- 褐色土 (HOY505) しまりあり。炭化物 2% 含む。
- 褐色土 (HOY506) シルト層。しまりあり。

SB25-P3層土 (Ⅱb-Ⅲb)

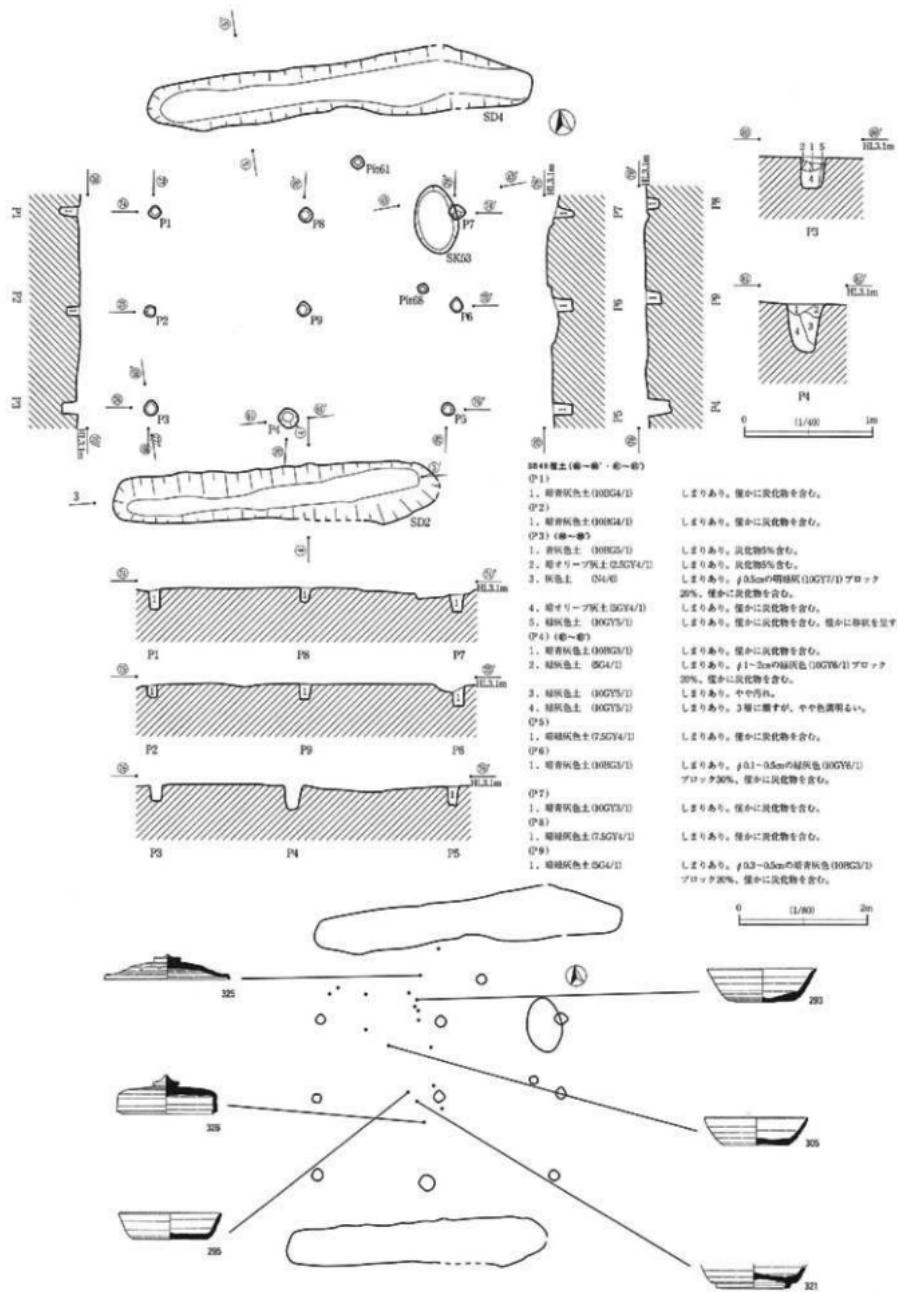
- 青灰土 (HOY507) しまりあり。炭化物 5% 含む。
- 青灰土 (SB502) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 褐色土 (HOY508) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 褐色土 (HOY509) しまりあり。炭化物 3% 含む。
- 青灰土 (HOY510) シルト層。しまりあり。

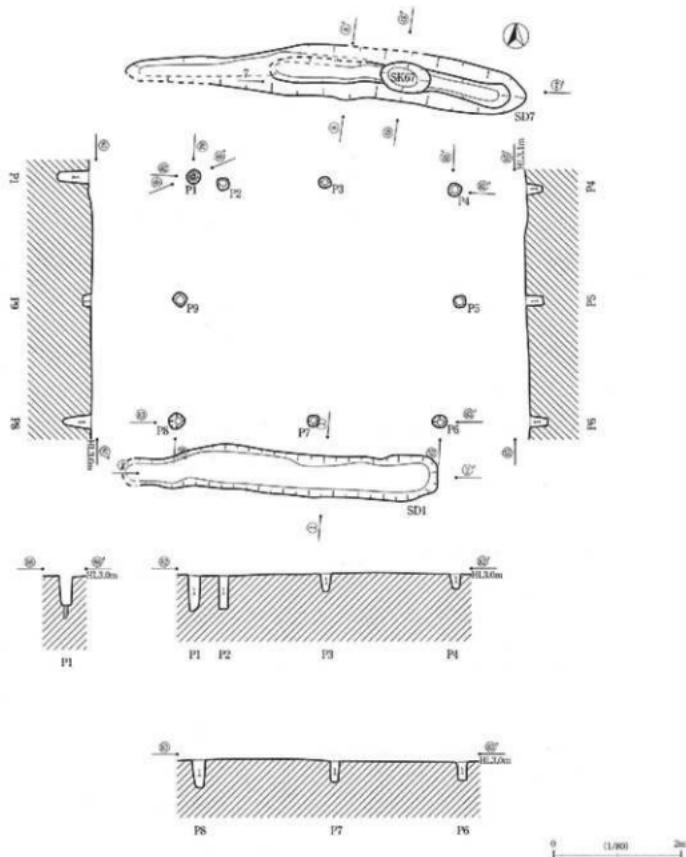
SB25-P4層土 (Ⅲb-Ⅳb)

- 褐色土 (HOY511) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 青灰土 (HOY512) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 褐色土 (HOY513) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 褐色土 (HOY514) しまりあり。炭化物 3% 含む。
- 褐色土 (HOY515) シルト層。しまりあり。

SB25-P5層土 (Ⅳb-Ⅴb)

- 褐色土 (HOY516) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 褐色土 (HOY517) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 褐色土 (HOY518) しまりあり。僅かに炭化物を含む。
- 褐色土 (HOY519) しまりあり。やや軟質。
- 褐色土 (HOY520) しまりあり。やや砂状。
- 褐色土 (HOY521) シルト層。しまりあり。



**SB51 土壌**

(P 1)

1. オリーブ灰土 (0GY5/0) しまりあり。僅かに炭化物を含む。

(P 2)

1. 軽粗灰色土 (0GY5/0) しまりあり。僅かに炭化物を含む。

(P 3)

1. 粗粒灰色土 (0GY5/0) しまりあり。僅かに炭化物を含む。

(P 4)

1. 粗粒灰色土 (0GY5/0) しまりあり。0.3 - 0.5mの細灰土 (0GY5/0) ブロック10%。僅かに炭化物を含む。

(P 5)

1. 細粒灰色土 (0GY5/0) しまりあり。0.5mの細灰土 (0GY5/0) ブロック10%。僅かに炭化物を含む。

(P 6)

1. 粗粒灰色土 (0GY5/0) しまりあり。僅かに炭化物を含む。

(P 7)

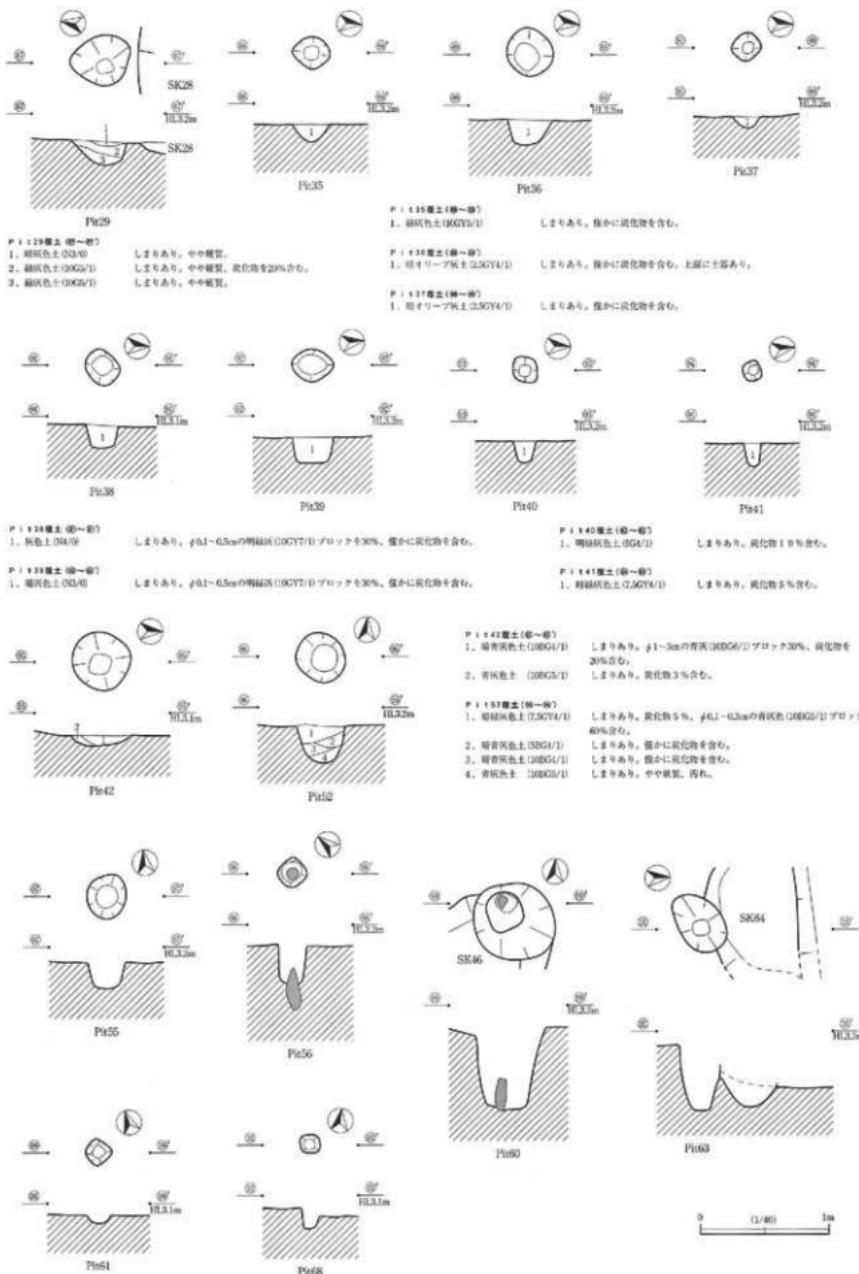
1. オリーブ灰土 (0GY5/0) しまりあり。0.3 - 0.5mの細灰土 (0GY5/0) ブロック10%。僅かに炭化物を含む。

(P 8)

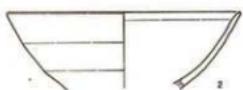
1. 細粒灰色土 (0GY5/0) しまりあり。僅かに炭化物を含む。

(P 9)

1. 細粒灰色土 (0GY5/0) しまりあり。僅かに炭化物を含む。



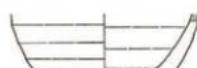
SD1 (1・2)



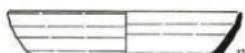
SD2 (3・4・397)



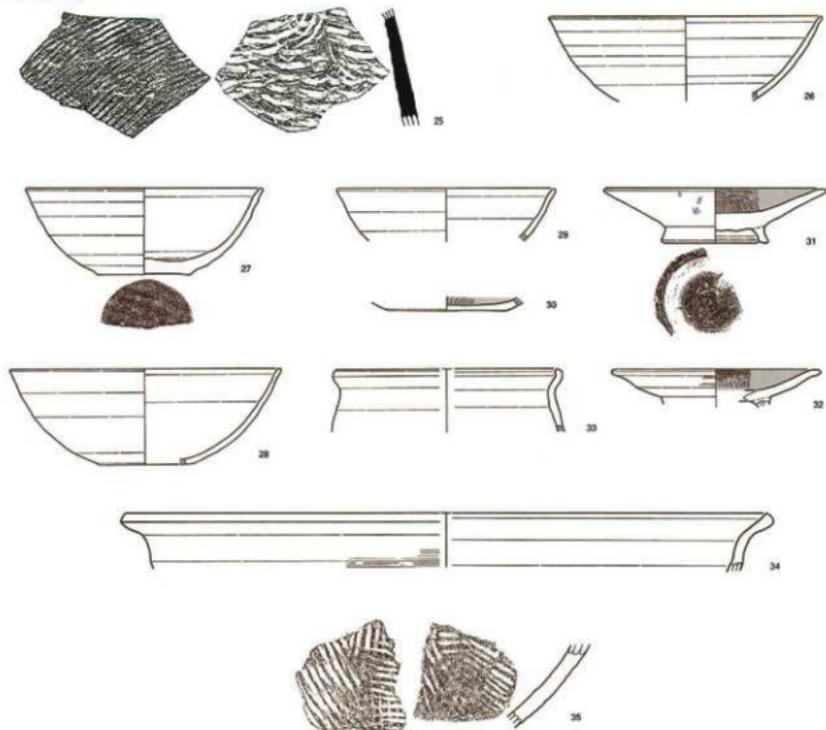
SD3 (5~14)



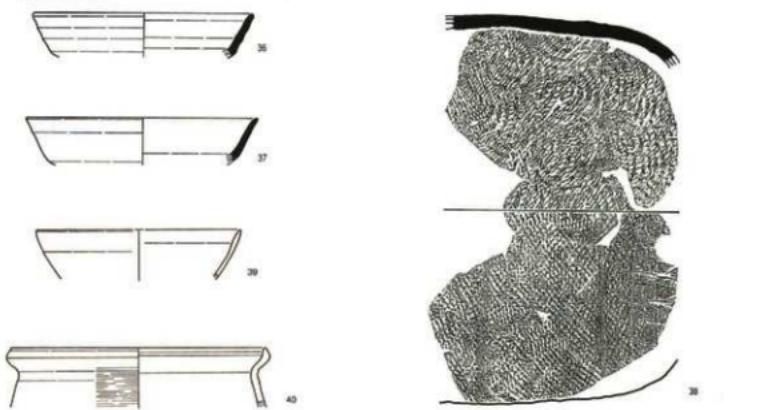
SD4 (15~24)



SD4 (25~35)

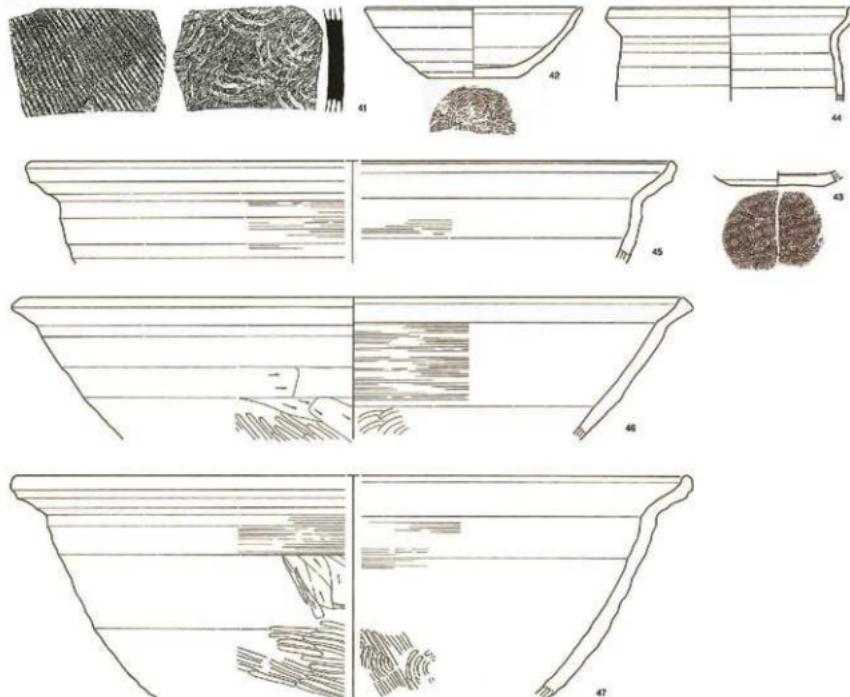


SD6 (36~40)



0 (1/3) 30cm

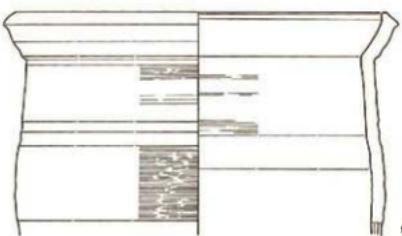
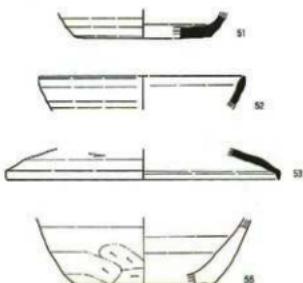
SD7 (41~46)



SD9 (49・50)



SD12 (51~55)



0 1/10 10cm

SD16 (56・57)



SK13 (58~64)



61



62

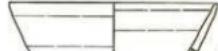
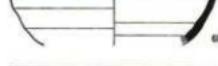
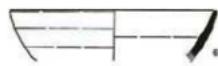


63

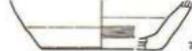
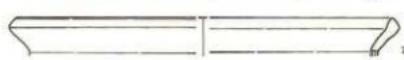


64

SK21 (65~73)



SK26 (74・75)



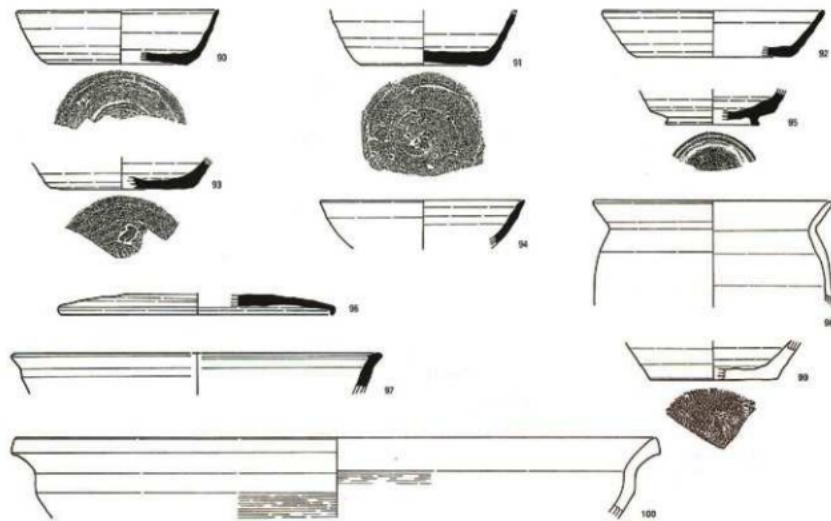
73

0 1/3 10cm

SK28 (76~89)

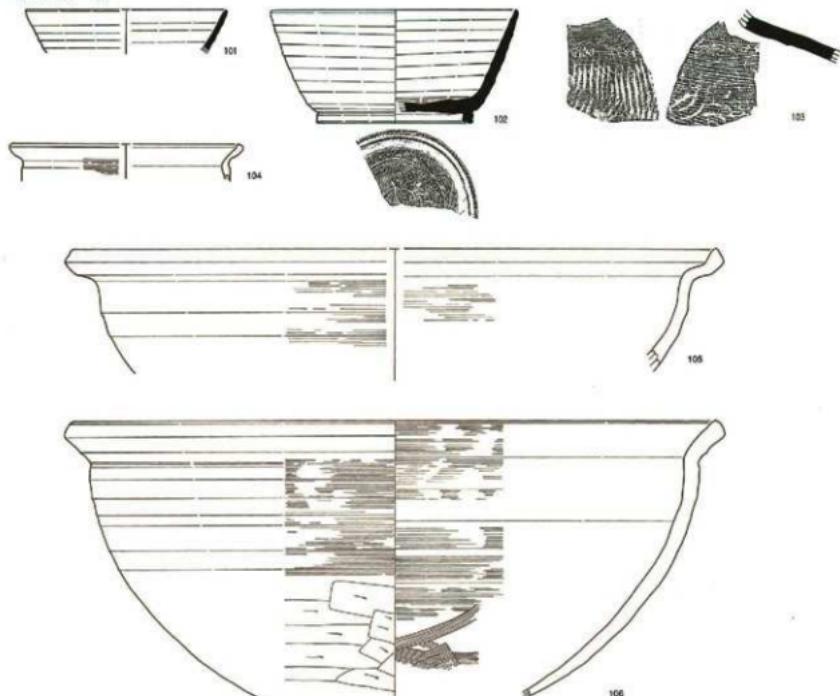


SK30 (90~100)

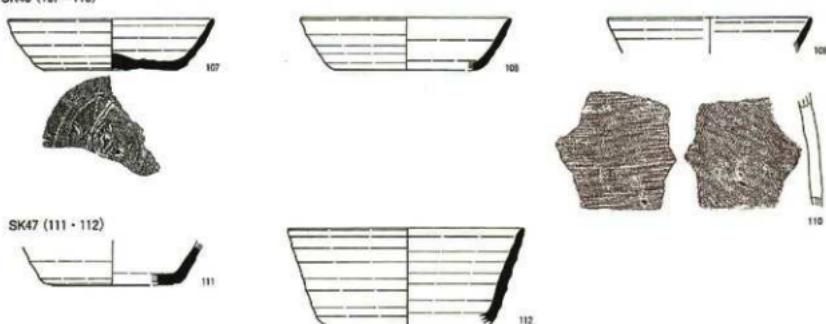


0 (1/3) 10cm

SK45 (101~106)



SK46 (107~110)



SK47 (111・112)

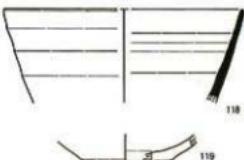
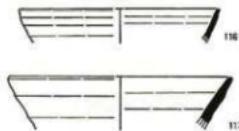


SK53 (113・114)

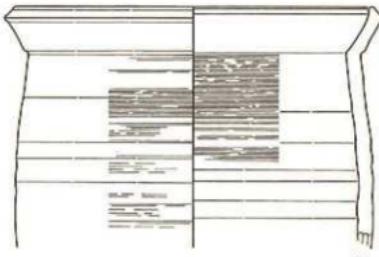
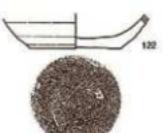


0 10cm
(1/3)

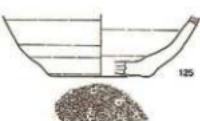
SX11 (115~120)



SX14 (121~125)

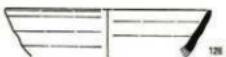
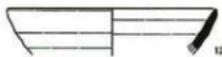


125



129

SX19 (126~129)



128

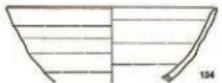


129

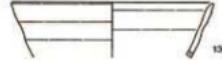
SX20 (130~138)



132



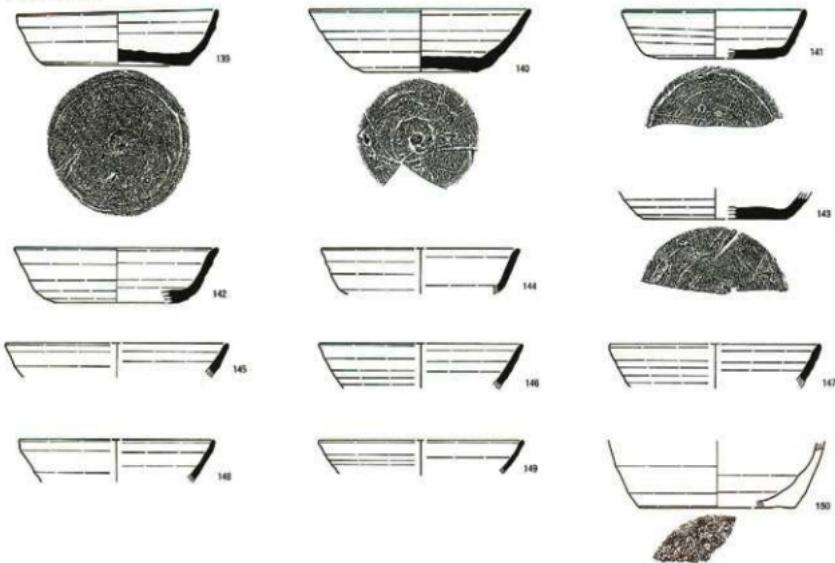
137



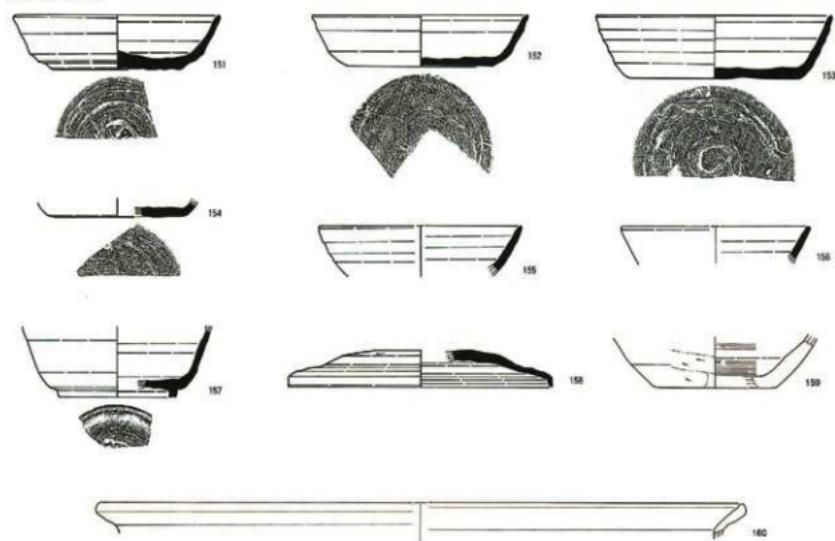
138



SX23 (139~150)



SX24 (151~160)



0 (1/3) 10cm

SX27 (161~189)



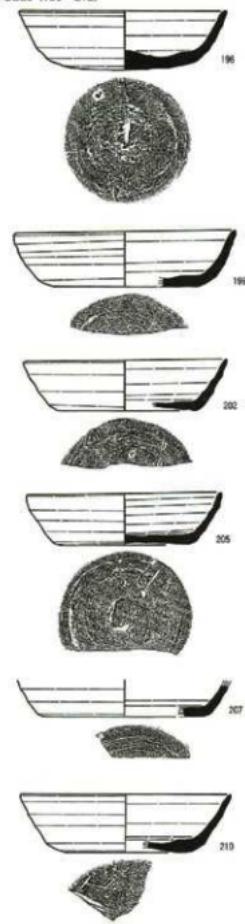
SE17 (190~192)



SE18 (193~195)

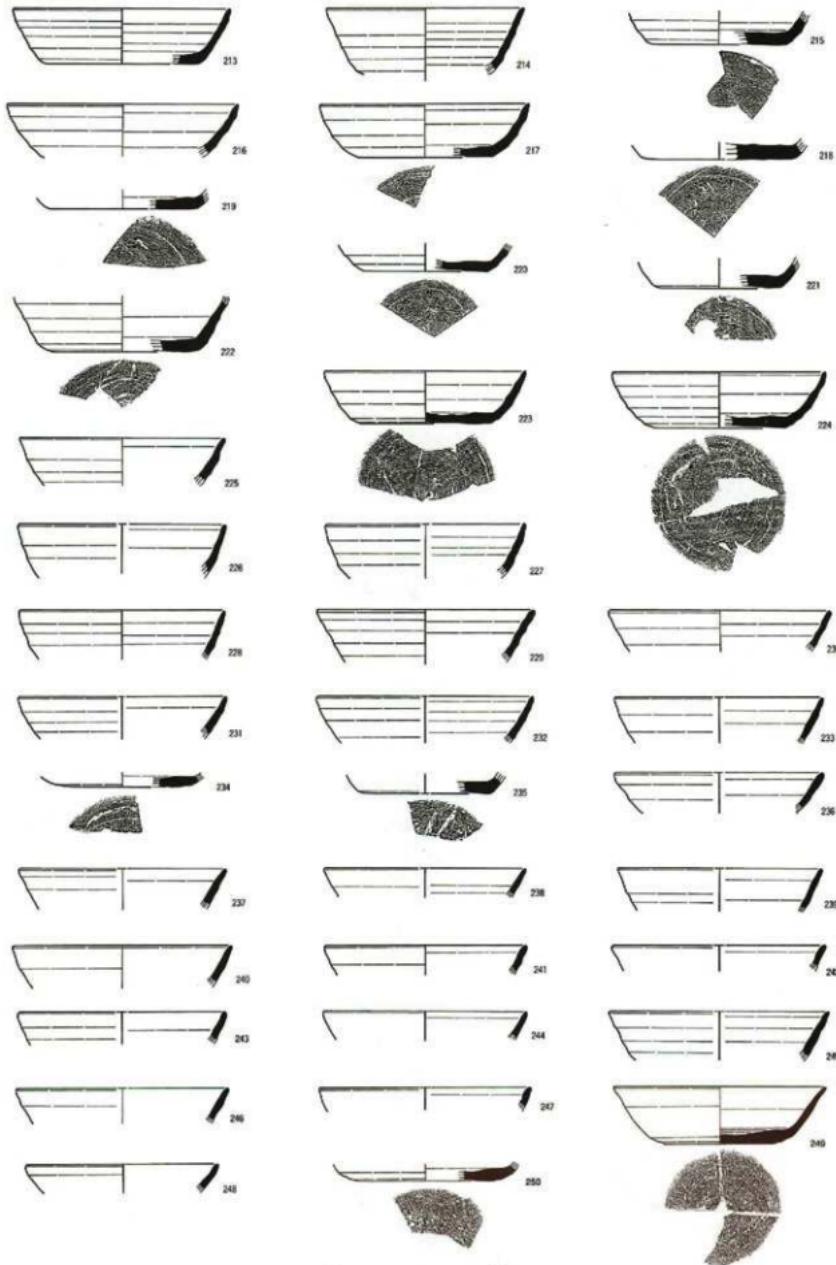


SB25 (196~212)



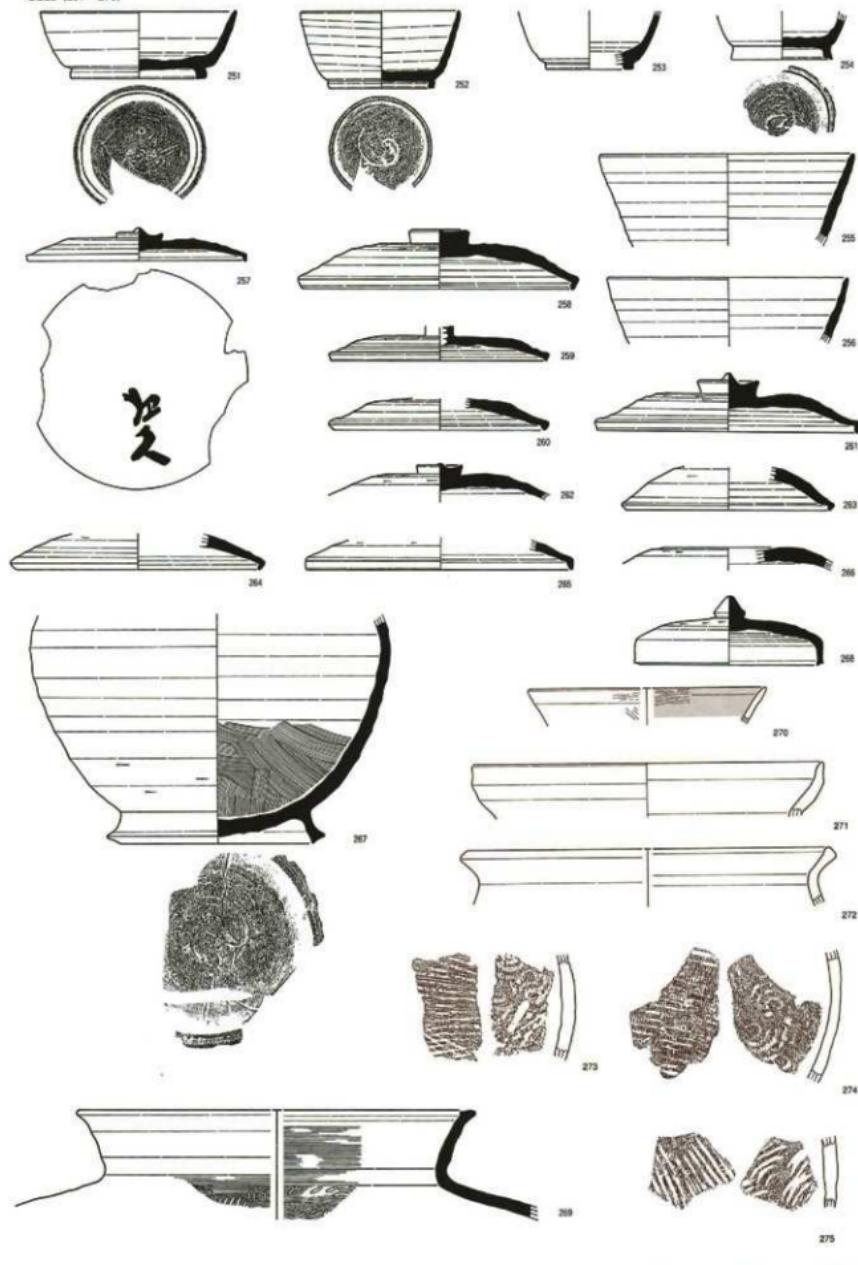
0 (1/2) 10cm

SB25 (213~250)



0 10cm
1/20

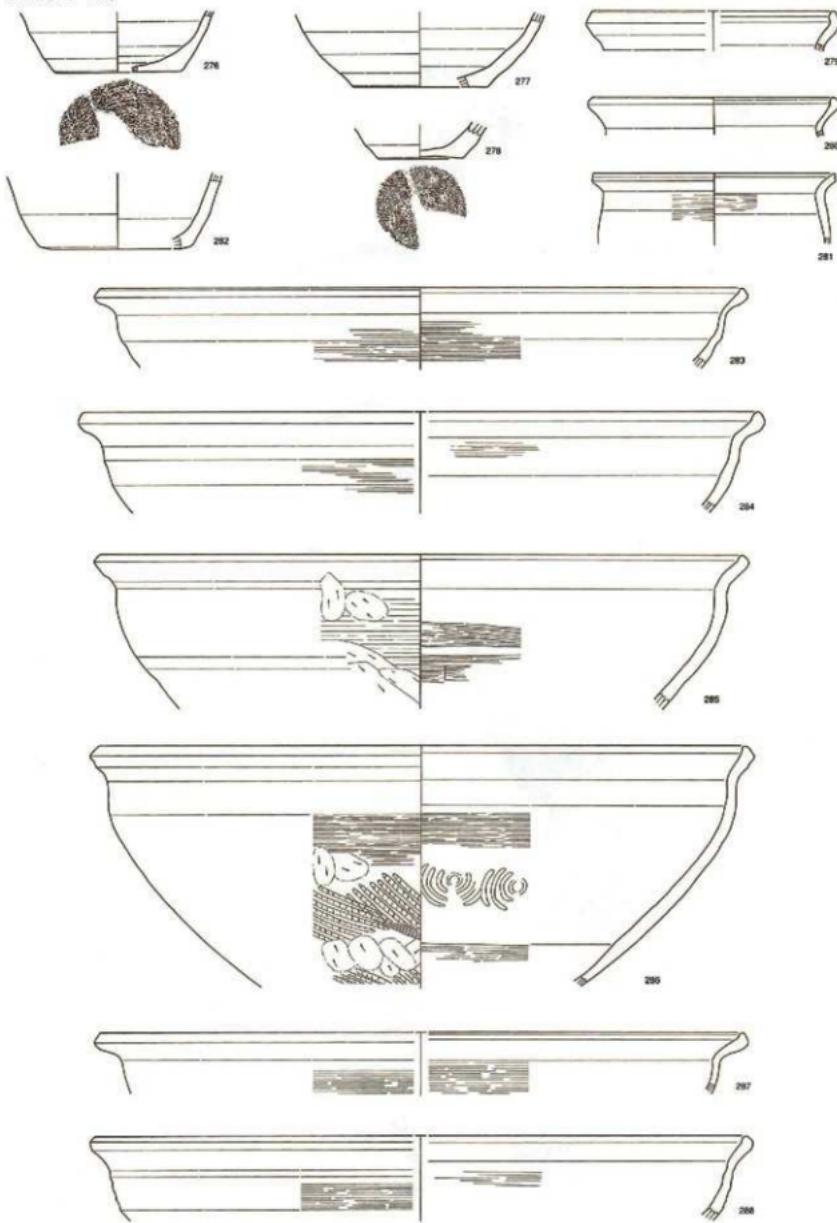
SB25 (251~275)



275

0 (1/3) 10cm

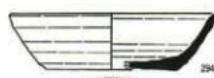
SB25 (276~288)



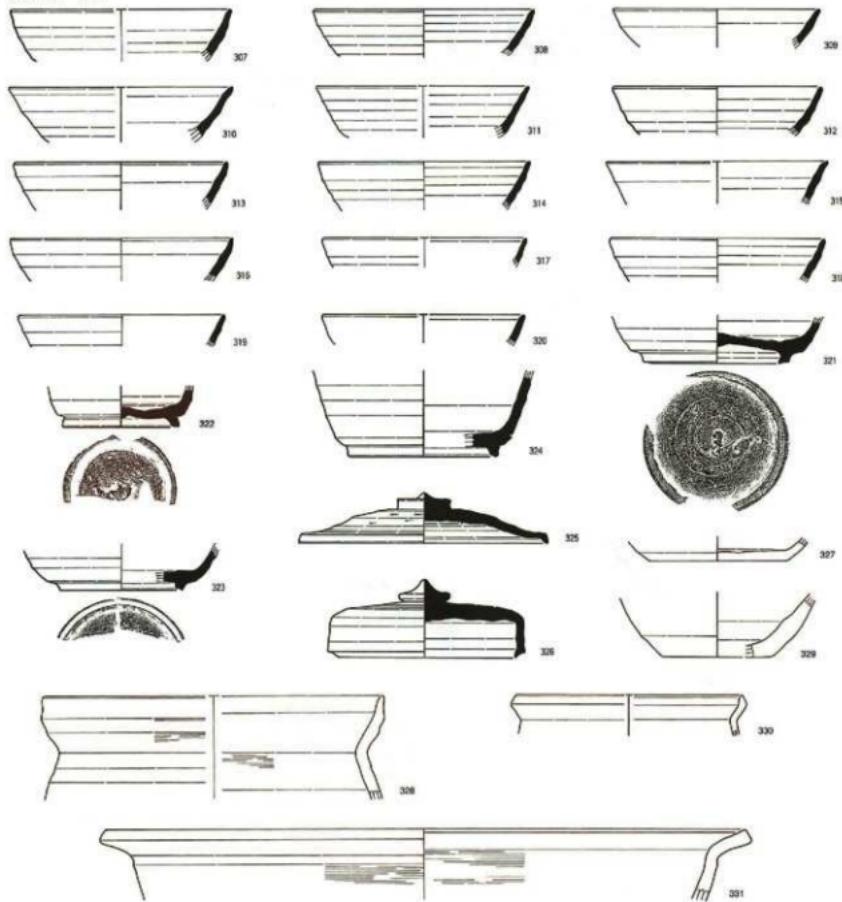
SB25 (289~292)



SB48 (293~306)

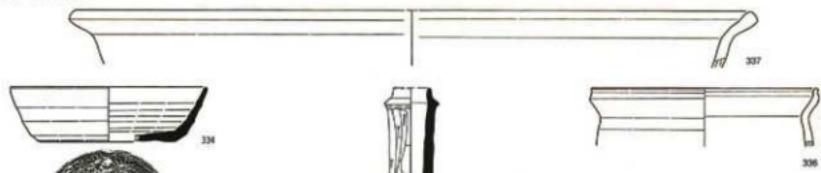


SB48 (307~333)

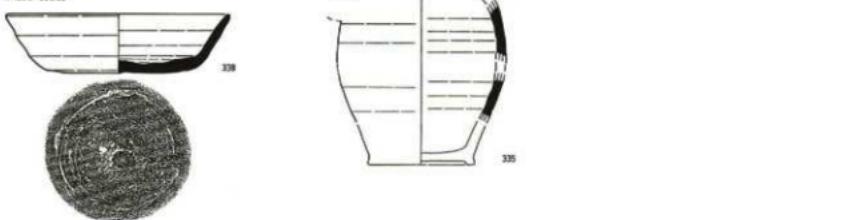


0 (1/3) 10cm

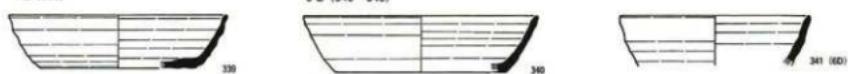
SB51 (334~337)



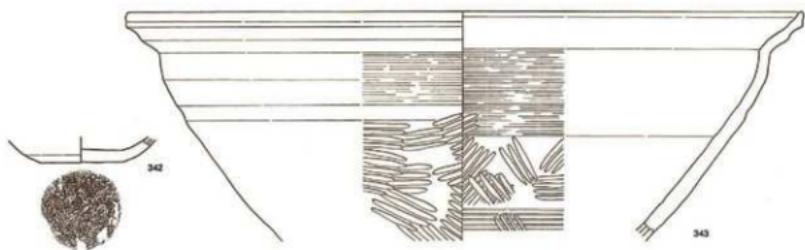
Pi36 (338)



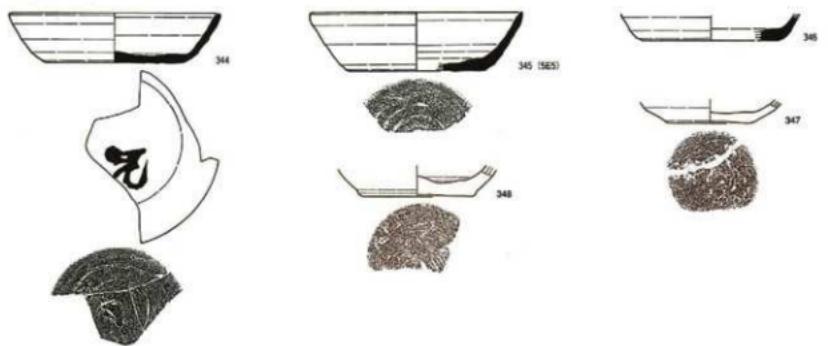
4 E (339)



5 D (340~343)

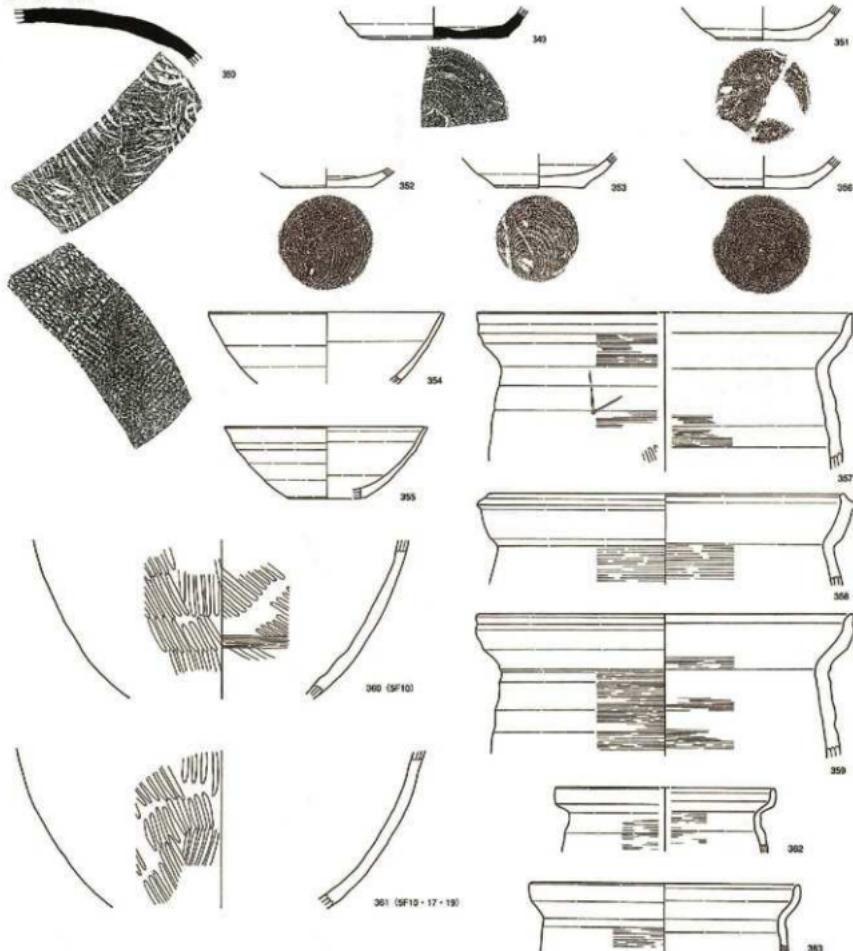


5 E (344~348)



0 (1/30) 10cm

5 F (349~363)

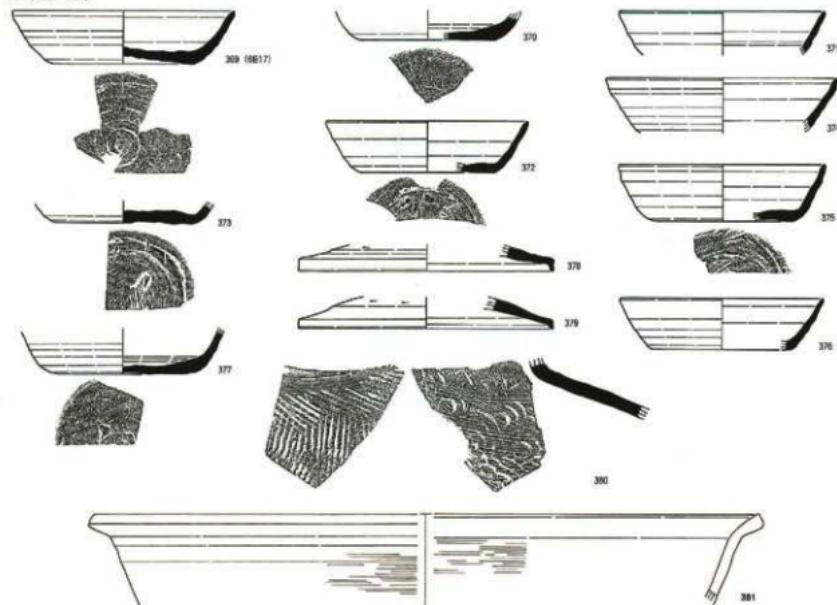


6 D (364~368)

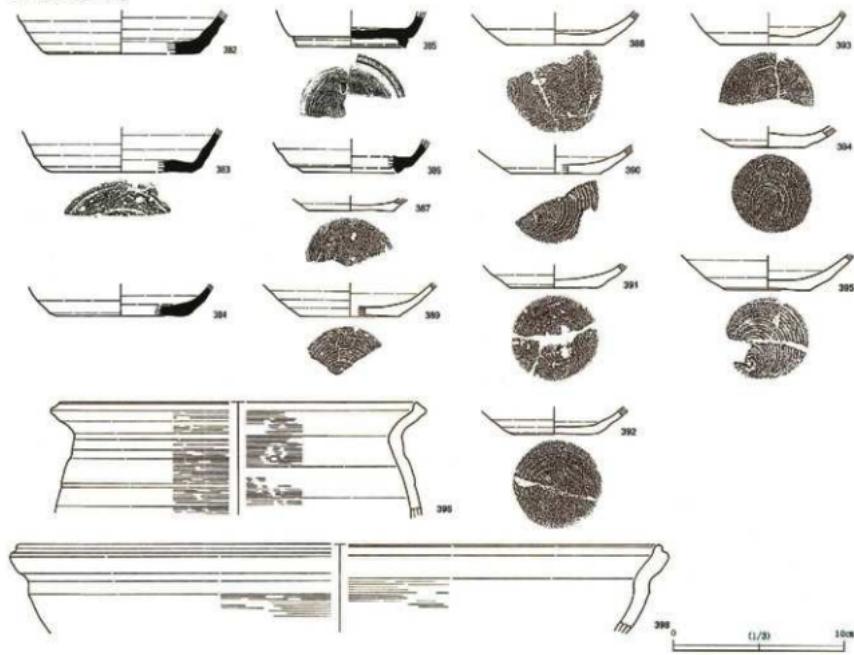


0 (1/3) 10cm

6 E (369~381)



6 F (382~396・398)

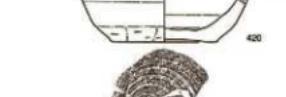
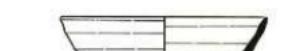
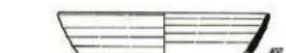
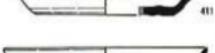
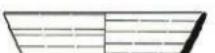


7 D (399~403)



402 (7D19)

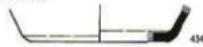
7 E (404~421)



7 F (422~433)



7 G (434)



434



436



437

8 D (435~448)



435



436



437



435



436



437



435



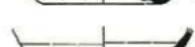
436



437



435



436



437



435



436



437



435



436



437



435



436



437



435



436



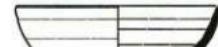
437



435



436



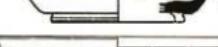
437



435

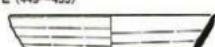


436



437

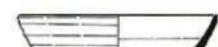
8 E (449~453)



449



450



451



449



450



451



449



450



451



449



450



451

9 D (454)



454

9 E (455)



455

10 F (456~458)



457



456



457



458



456

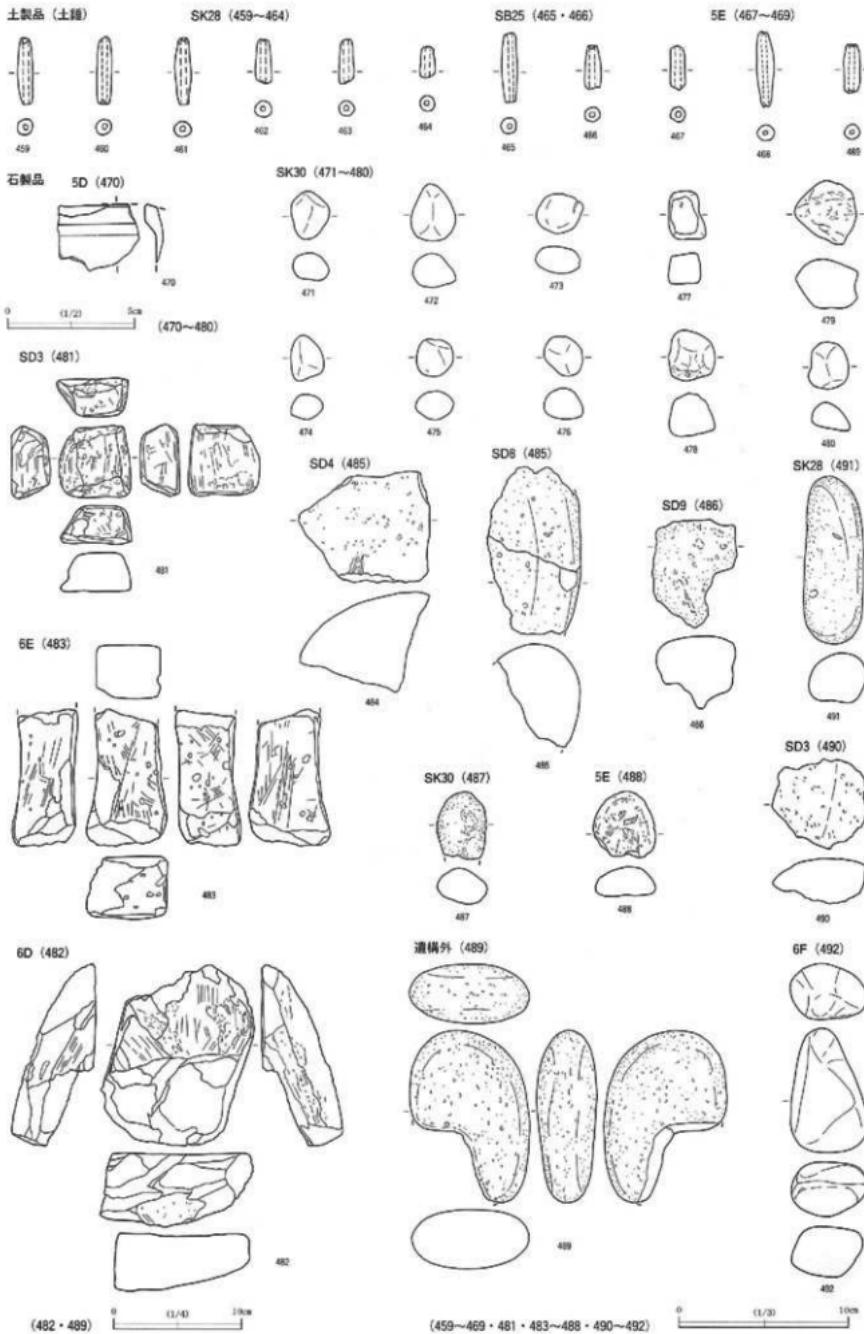


457

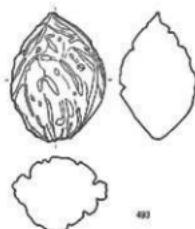


458

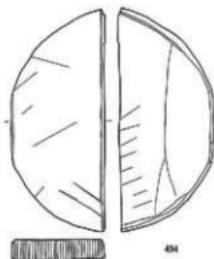
0 (1/3) 10cm



SE18 (493~499)



493



494

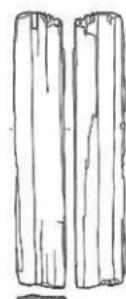


495

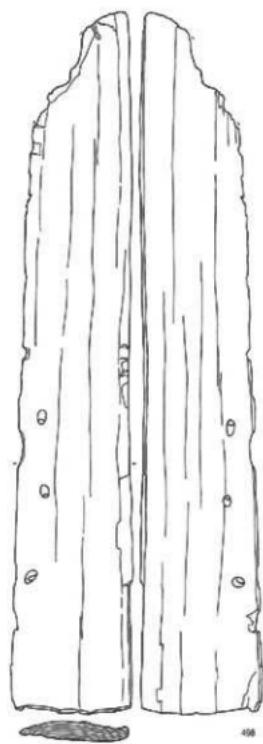
(493) 0 (1/1) 2mm
 (494・496) 0 (1/2) 3mm
 (495・497) 0 (1/2) 10mm



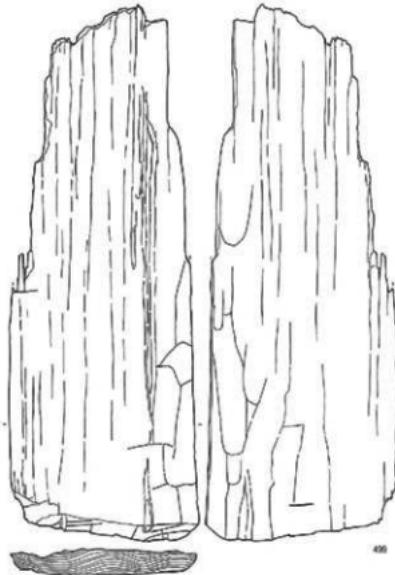
496



497



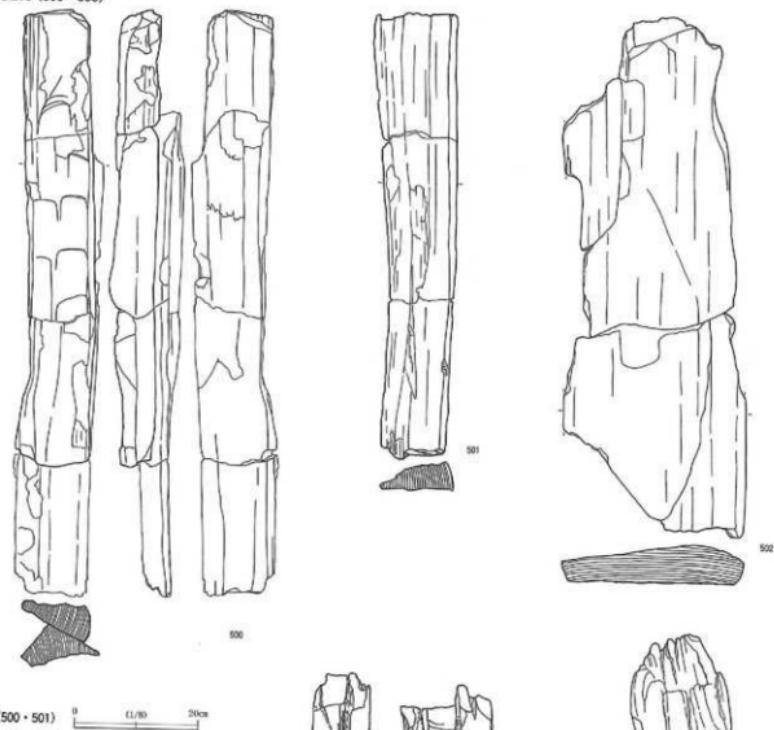
498



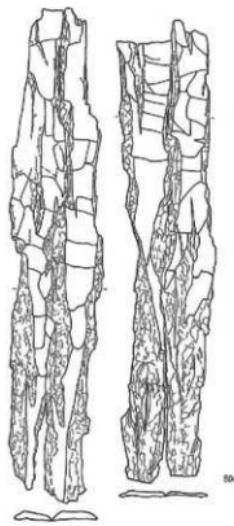
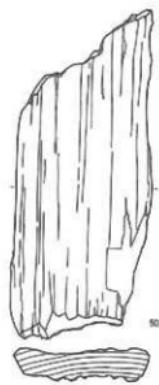
499

(496・499) 0 (1/8) 26mm

SE18 (500~505)

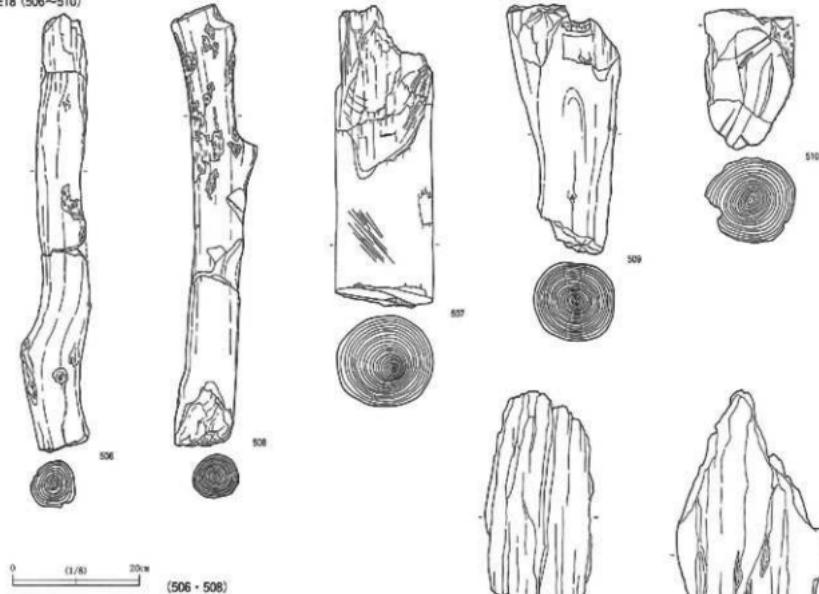
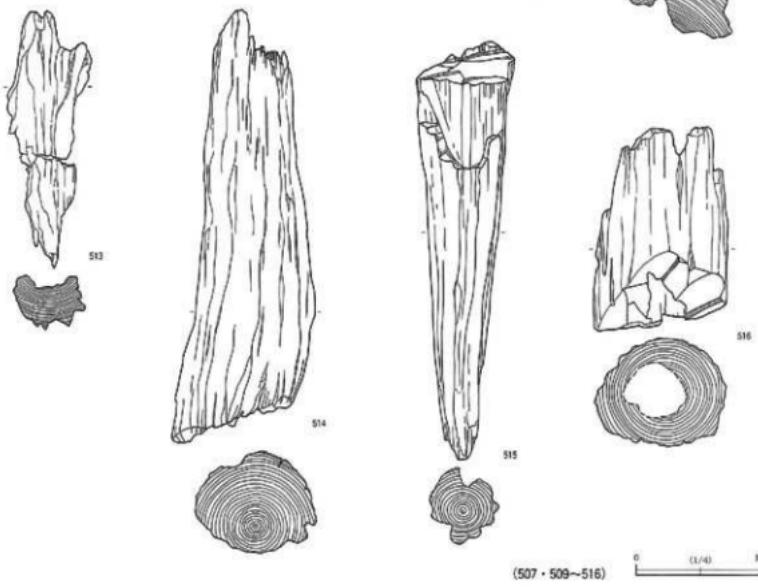


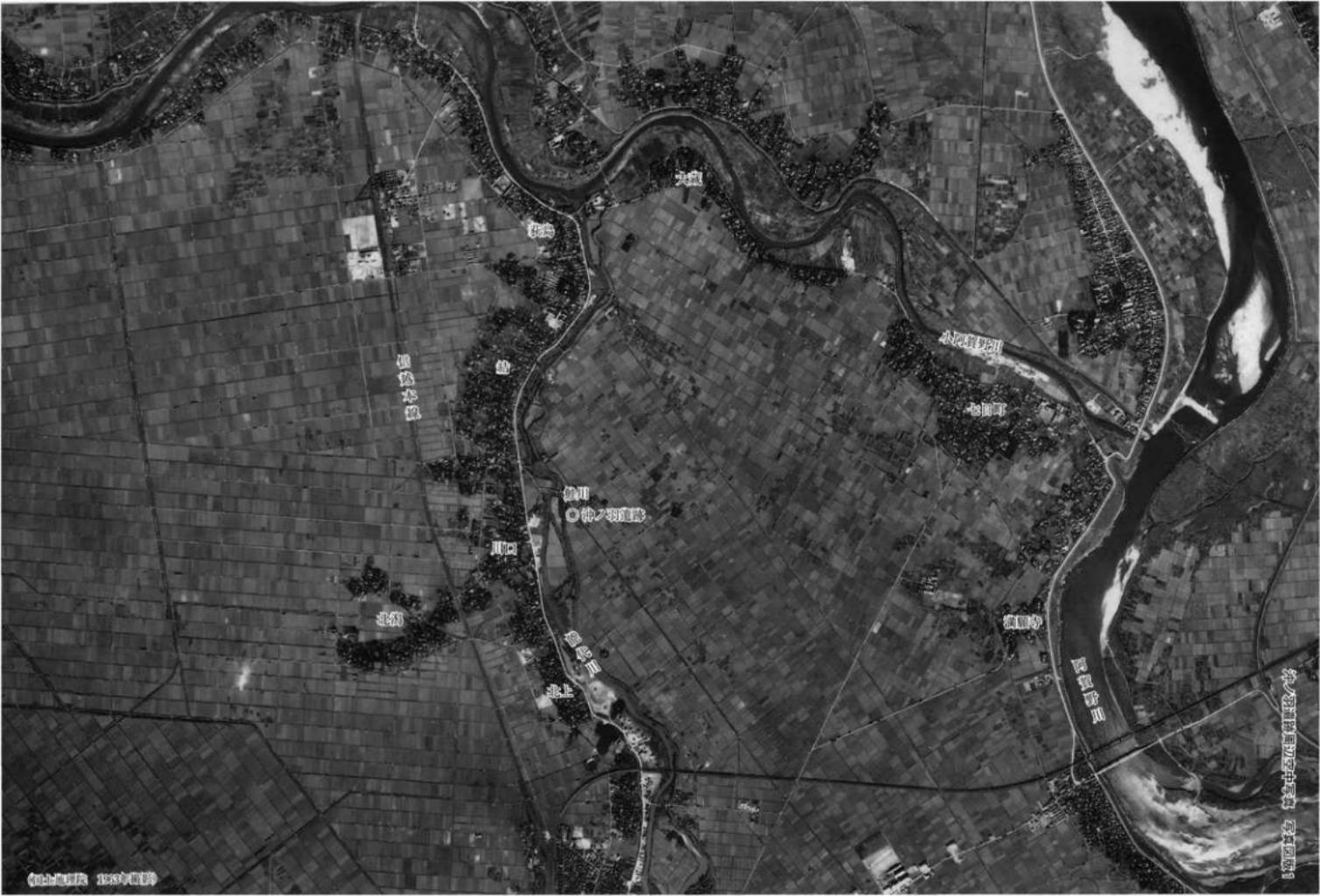
(500・501) 0 1/30 20cm



(502~505) 0 1/4 10cm

SE18 (506~510)

PI60 (511・512)、SK50 (513)、SK55 (514)
SB25 (515)、SB51 (516)









空中写真(北→南)



空中写真(南→北)



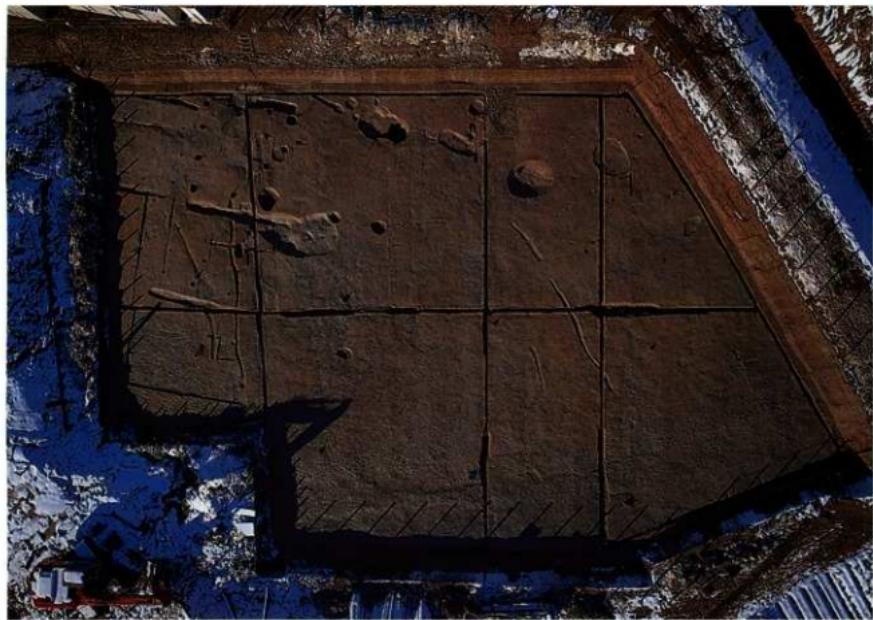
空中写真(西→東)



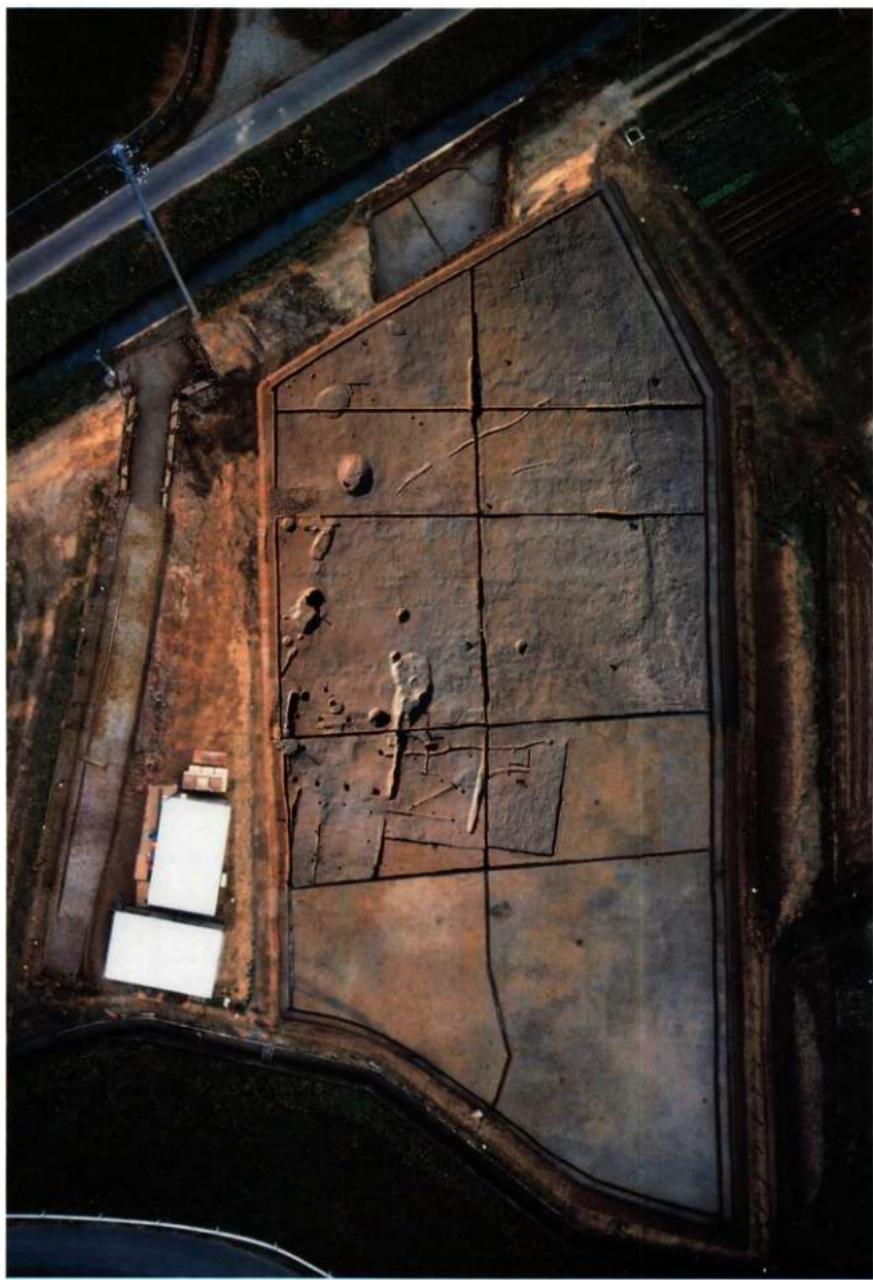
空中写真(東→西)



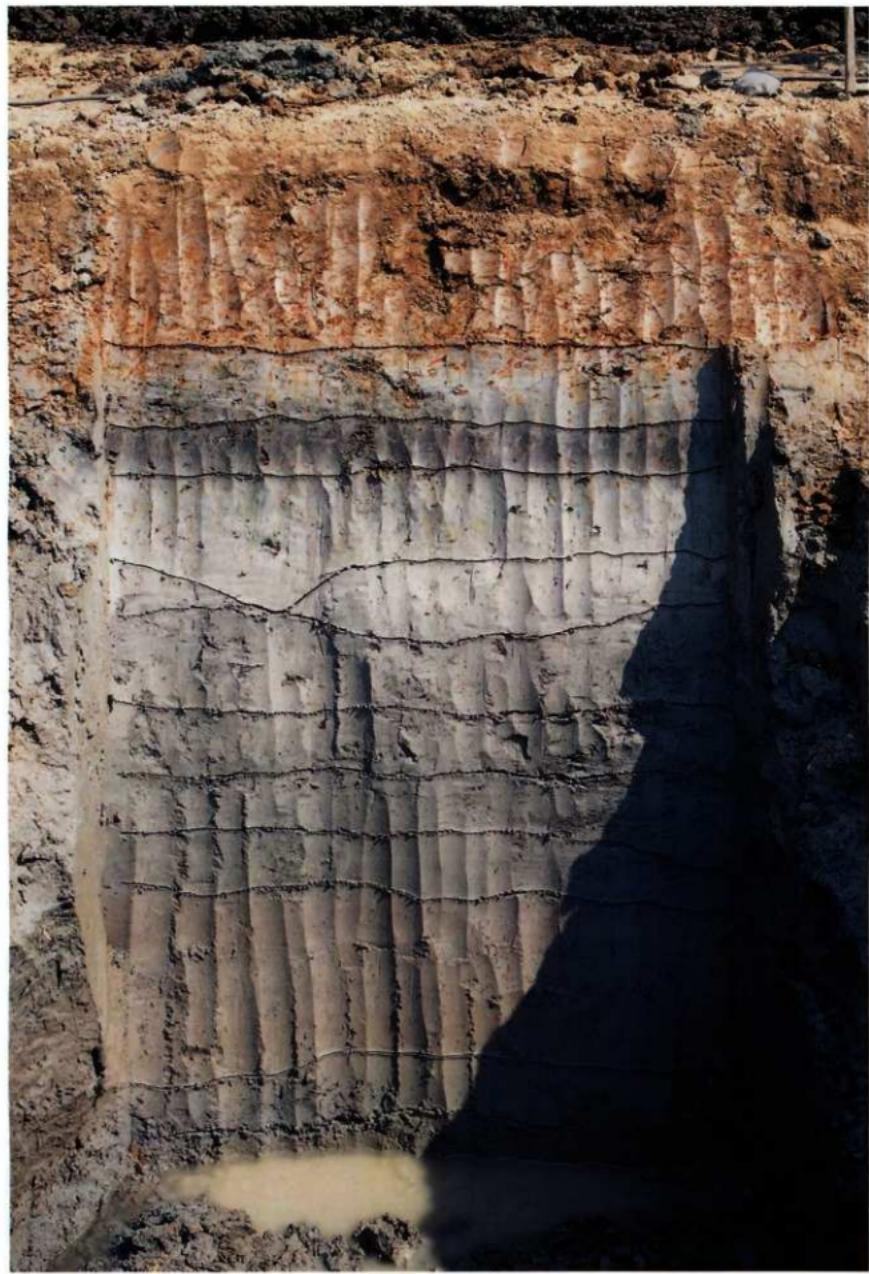
空中写真 1 (調査区西半)



空中写真 2 (調査区東半)



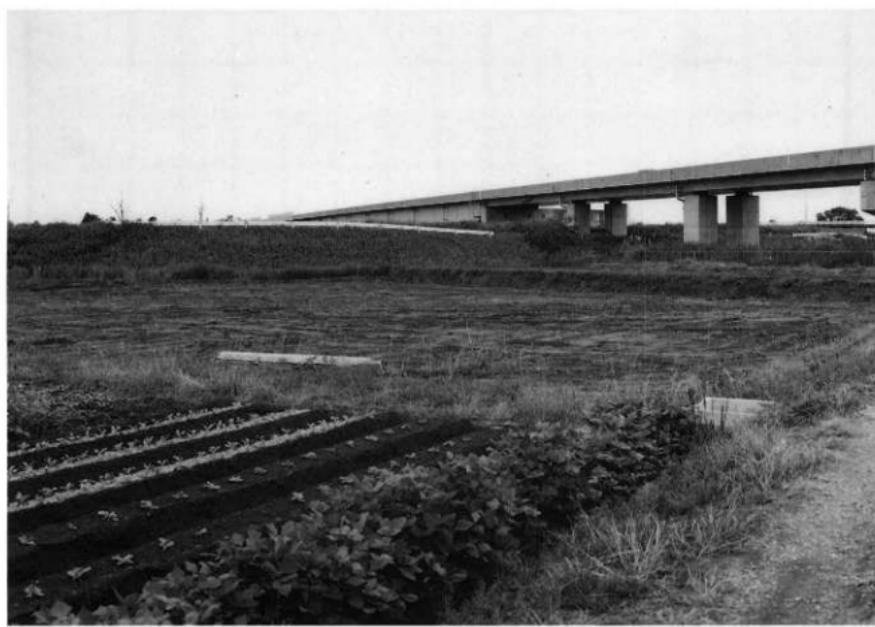
空中写真(遺跡全景)【合成写真】



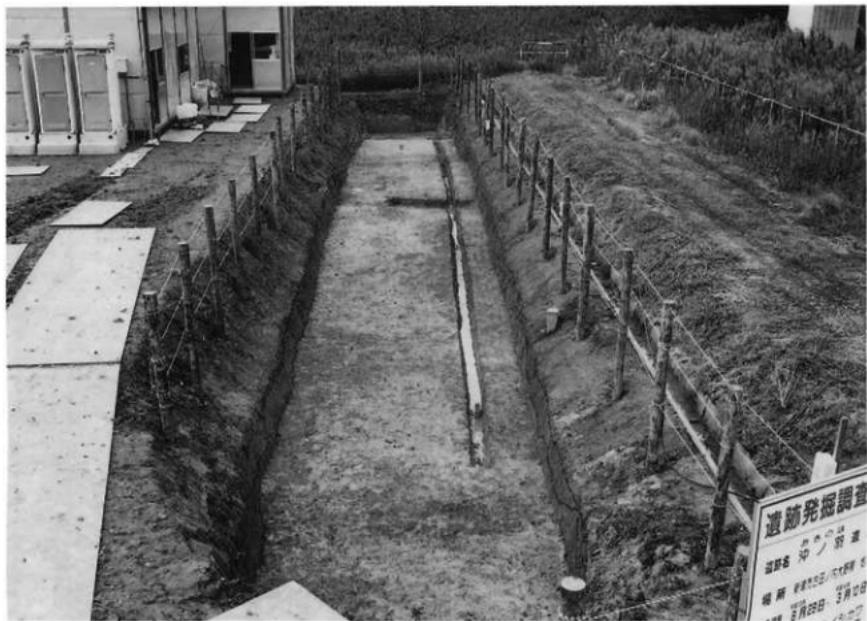
基本層序(4C13グリッド)



調査前現況(北→南)



調査前現況(南西→北東)



北区西半全景(東→西)



北区東半全景(東→西)



調査区東端全景(空中写真)



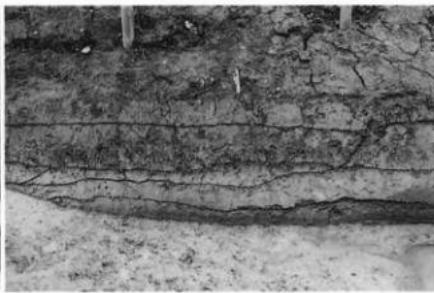
北区北壁土層断面 1 (南→北)



北区北壁土層断面 2 (南→北)



北区北壁土層断面 3 (南→北)



北区南壁土層断面 (北→南)



北壁土層断面(4D24グリッド・南→北)



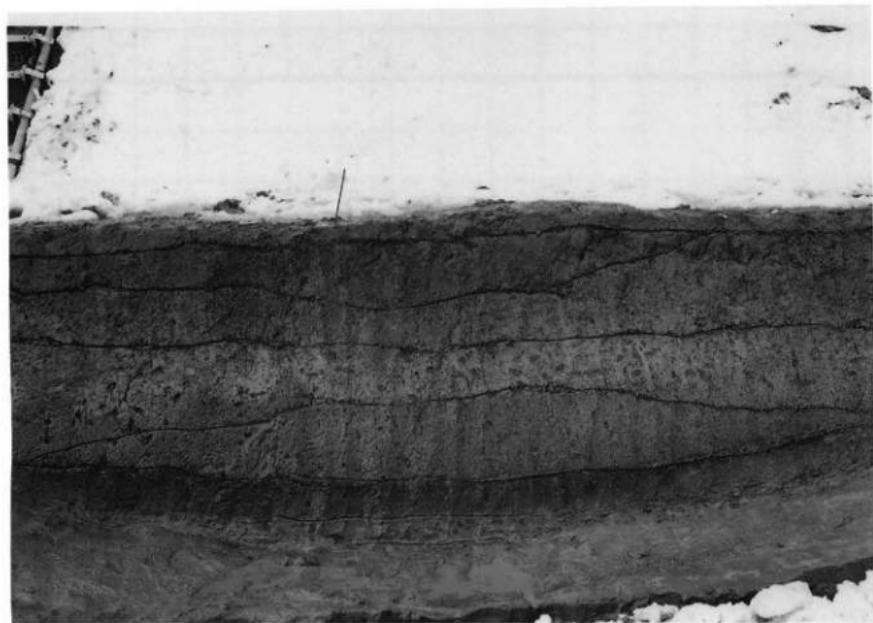
北壁土層断面(4D25グリッド・南→北)



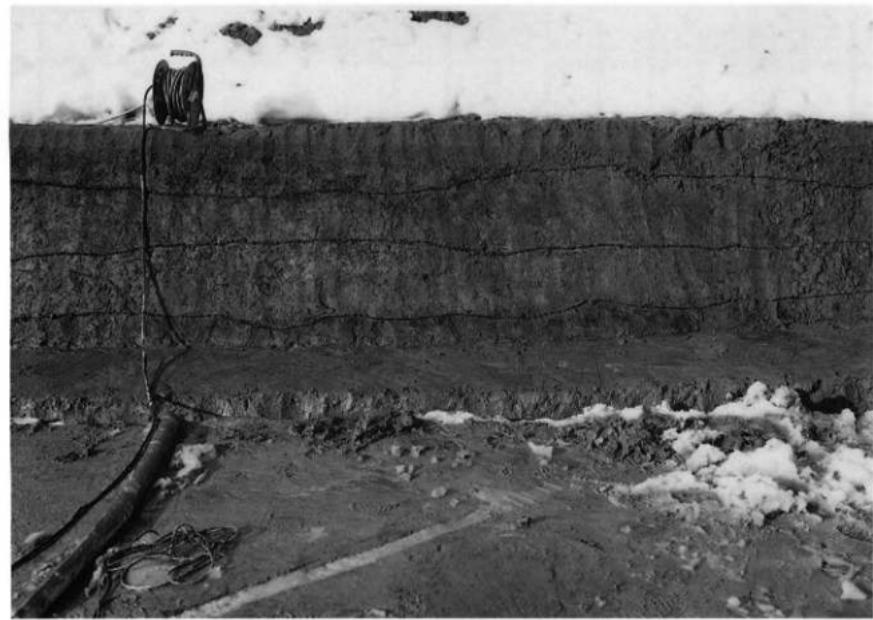
北壁土層断面 (5D19グリッド・南→北)



北壁土層断面 (6D16グリッド・南→北)



北壁土層断面(6D13グリッド・南→北)



北壁土層断面(7D11グリッド・南→北)



南壁土層断面(3H10グリッド・北→南)



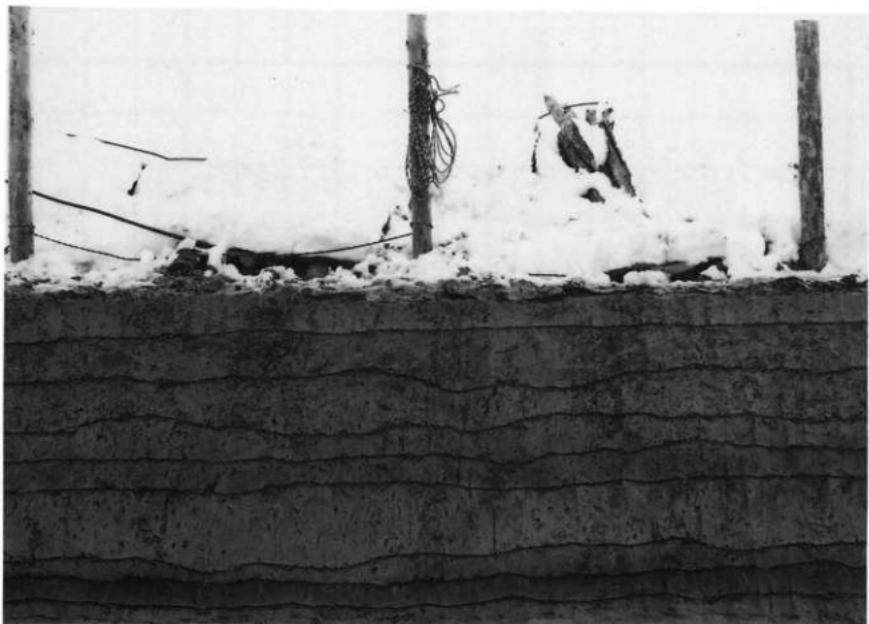
南壁土層断面(4H4グリッド・北→南)



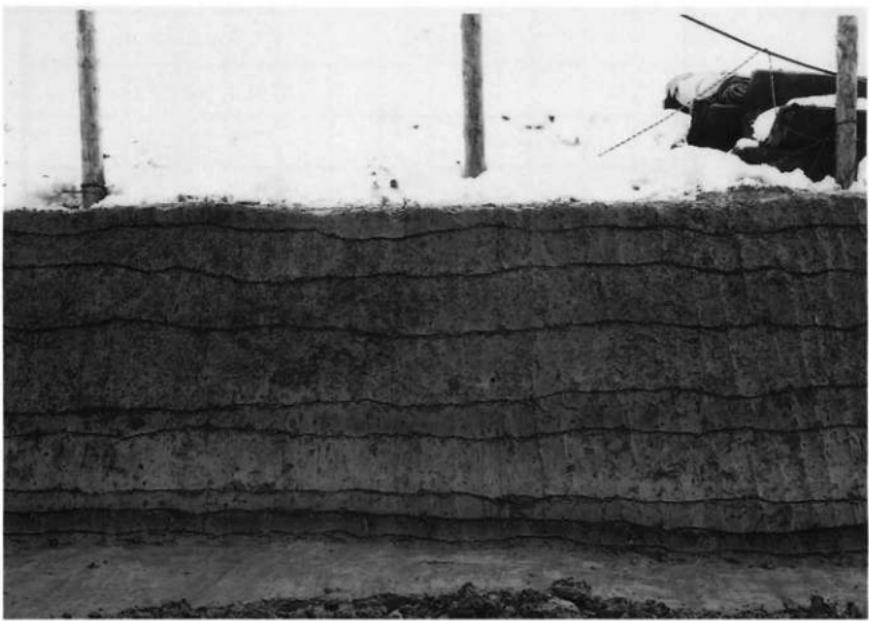
南壁土層断面(5G23グリッド・北→南)



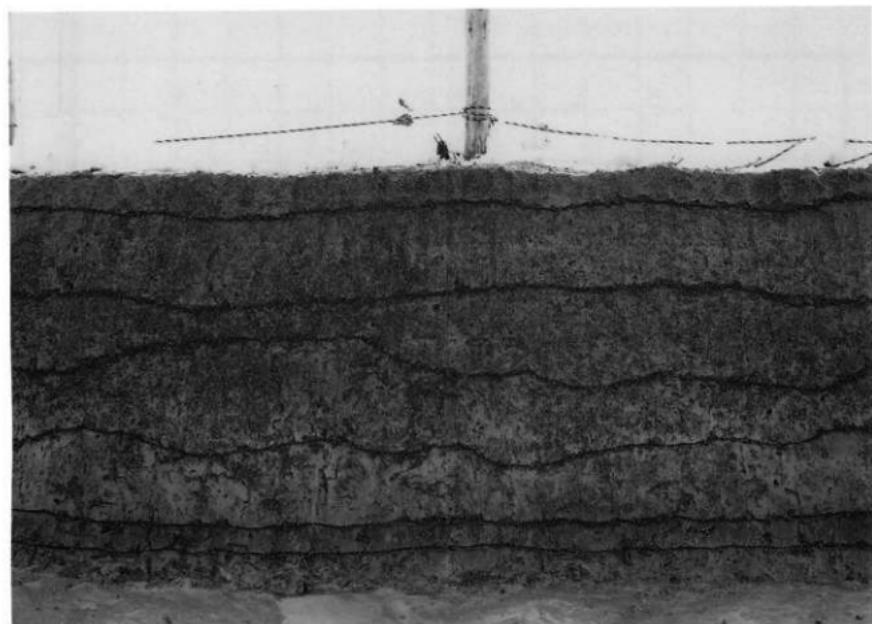
南壁土層断面(6G21グリッド・北→南)



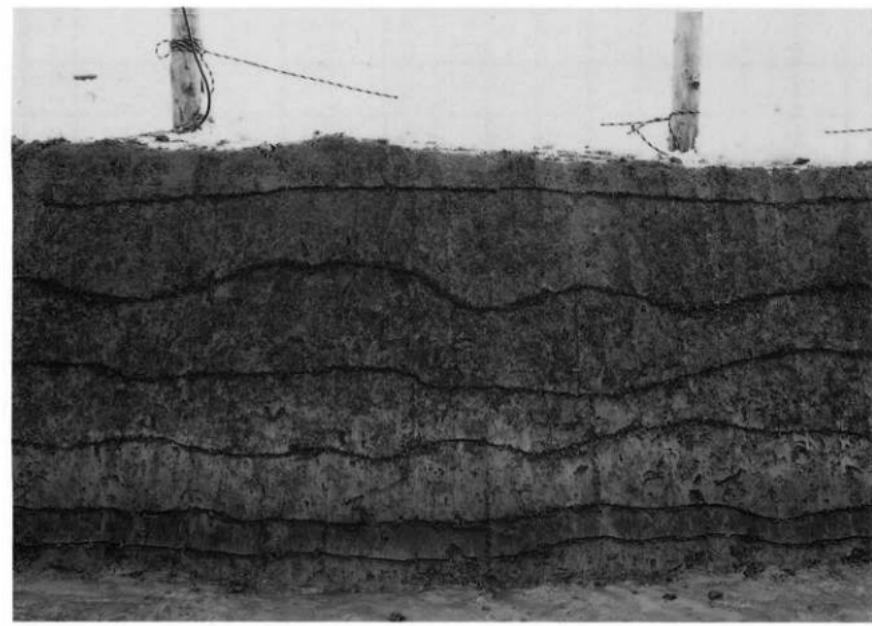
南壁土層断面(7G18グリッド・北→南)



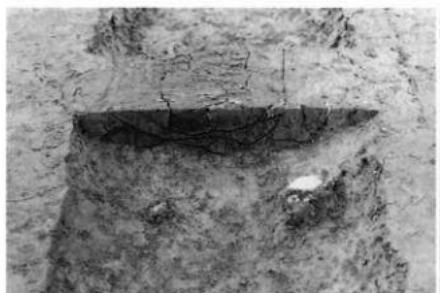
南壁土層断面(8G14グリッド・北→南)



南壁土層断面(9F24グリッド・北→南)



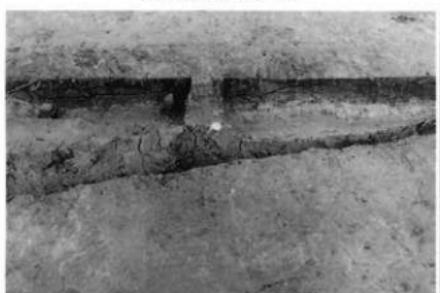
南壁土層断面(10F16グリッド・北→南)



SD1 土層断面(東→西)



SD1(西→東)



SD2 土層断面(南→北)



SD2 土層断面(東→西)



SD2(西→東)





SD3 土層断面 (6F18 グリッド・南→北)



SD3 土層断面 (6E16 グリッド・南→北)



SD3・12 上層断面 (6E16 グリッド・南→北)



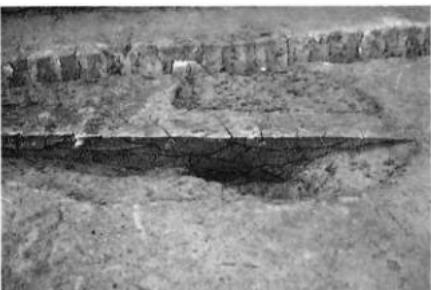
SD3・15 土層断面 (6E3 グリッド・南西→北東)



SD3・12 (北→南)



SD7 土層断面1 (南→北)



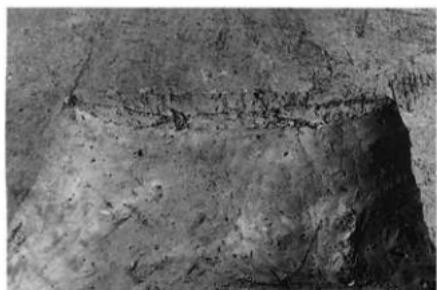
SD7 土層断面2 (南→北)



SD7 土層断面 (東→西)



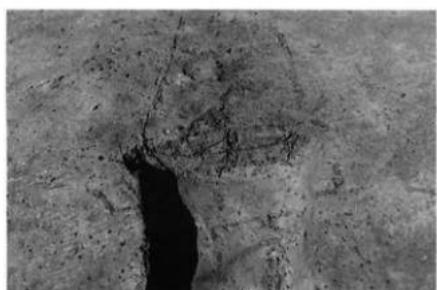
SD7 遺物出土状況



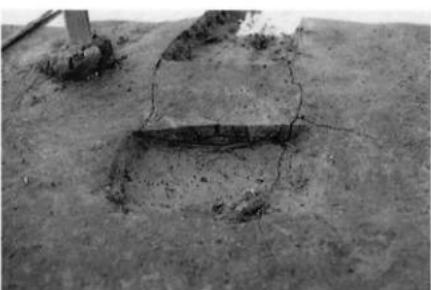
SD8 土層断面 (南→北)



SD8 (北→南)



SD9 土層断面 (5E20グリッド・南東→北西)



SD9 土層断面 (6E21グリッド・南東→北西)



SD9(北西→南東)



SD12土層断面(南→北)



SD3・15(南西→北東)



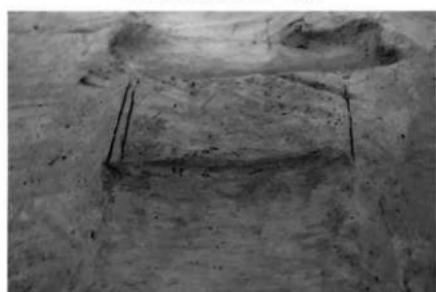
SD16(南西→北東)



SD31土層断面(北西→南東)



SD31(北西→南東)



SD32土層断面(南東→北西)



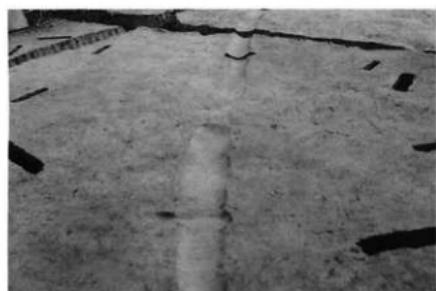
SD32(北西→南東)



SD33 土層断面 (8E23 グリッド・南東→北西)



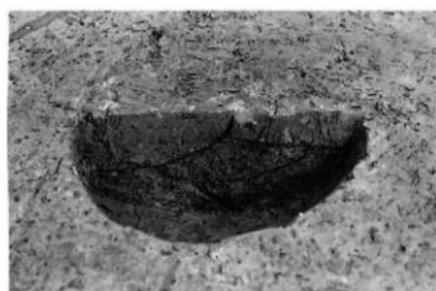
SD33 土層断面 (8E17 グリッド・南東→北西)



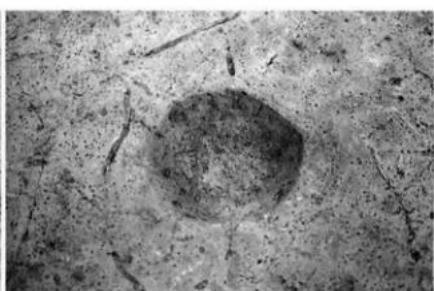
SD33 (北西→南東)



SD43 (北西→南東)



SK5 土層断面 (西→東)



SK5 (西→東)



SK10 土層断面 (東→西)



SK10 (東→西)



SK13土層断面(南→北)



SK13遺物出土状況



SK13遺物出土状況



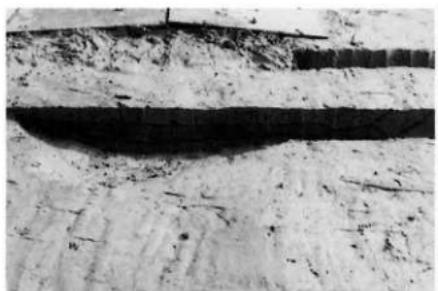
SK13(南東→北西)



SK21土層断面(西→東)



SK21(西→東)



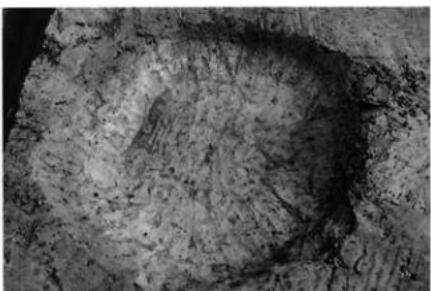
SK22土層断面(西→東)



SK22(東→西)



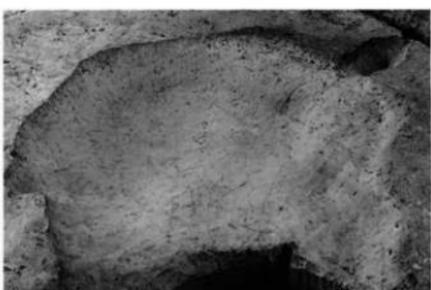
SK26 土層断面 (東→西)



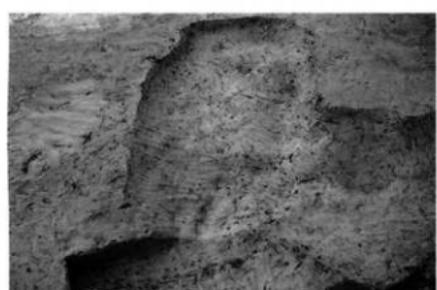
SK26 (西→東)



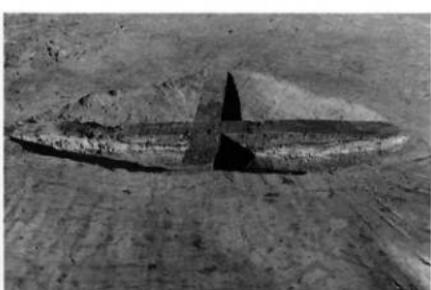
SK28 土層断面 (西→東)



SK28 (東→西)



SK30 (東→西)



SK34 土層断面 (南東→北西)



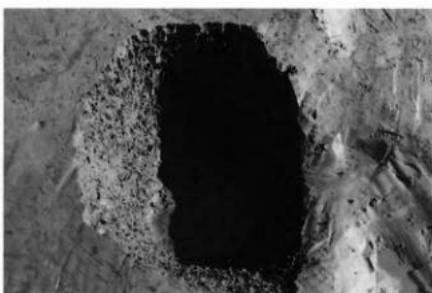
SK34 土層断面 (北東→南西)



SK34 (北西→南東)



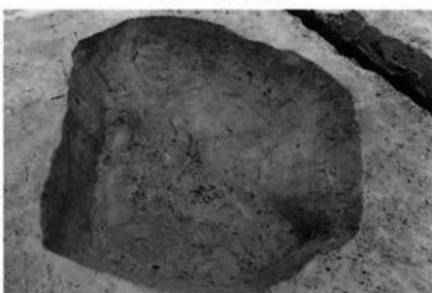
SK44 土層断面 (西→東)



SK44 (北西→南東)



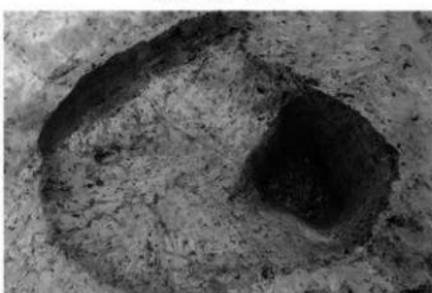
SK45 土層断面 (東→西)



SK45 (北東→南西)



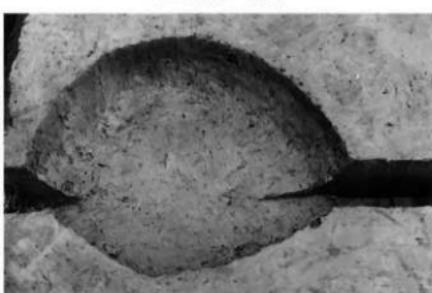
SK46 土層断面 (南東→北西)



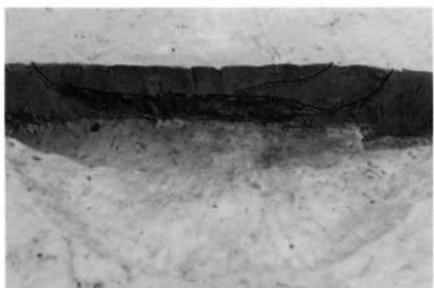
SK46 (南東→北西)



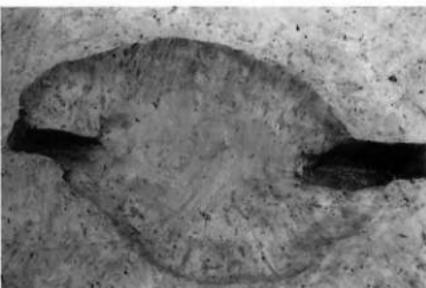
SK47 土層断面 (北→南)



SK47 (北西→南東)



SK49 土層断面(南→北)



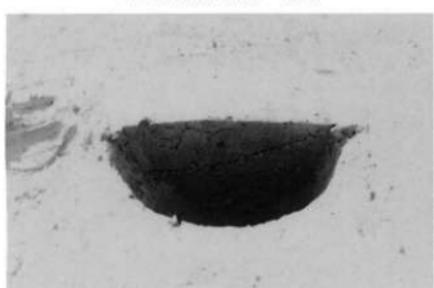
SK49(南→北)



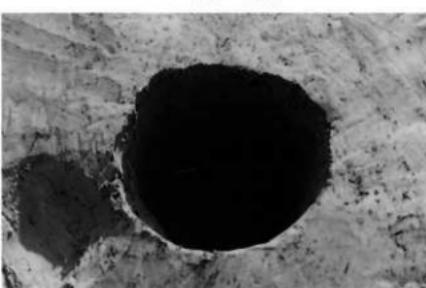
SK50 土層断面(南東→北西)



SK50(南東→北西)



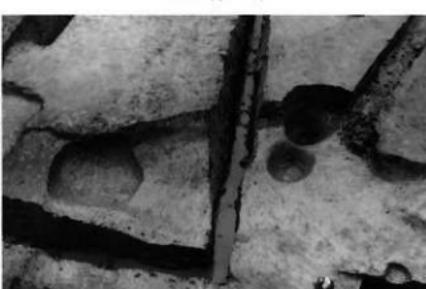
SK52 土層断面(東→西)



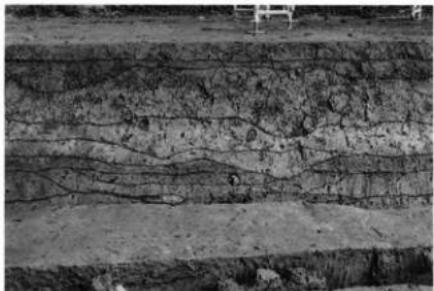
SK52(東→西)



SK64 土層断面(西→東)



SK64(北→南)



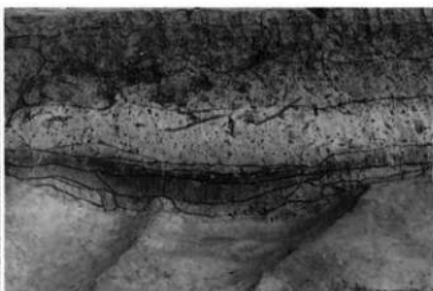
SX11土層断面(西→東)



SX14(北→南)



SX14周辺遺物出土状況



SX19土層断面(西→東)



SD4・SX19(東→西)



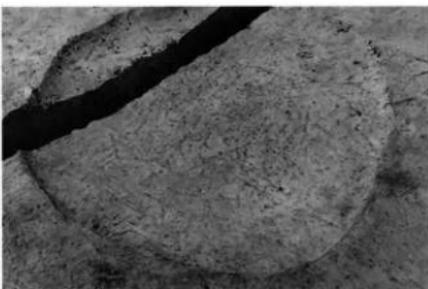
SX20 土層断面(北→南)



SX20(南東→北西)



SX23 土層断面(西→東)



SX23(南東→北西)



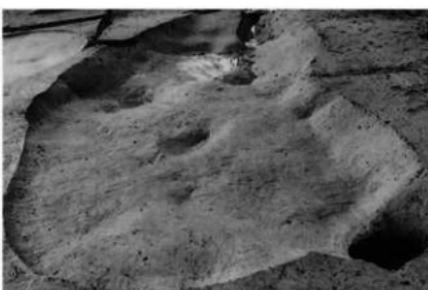
SX24 土層断面(西→東)



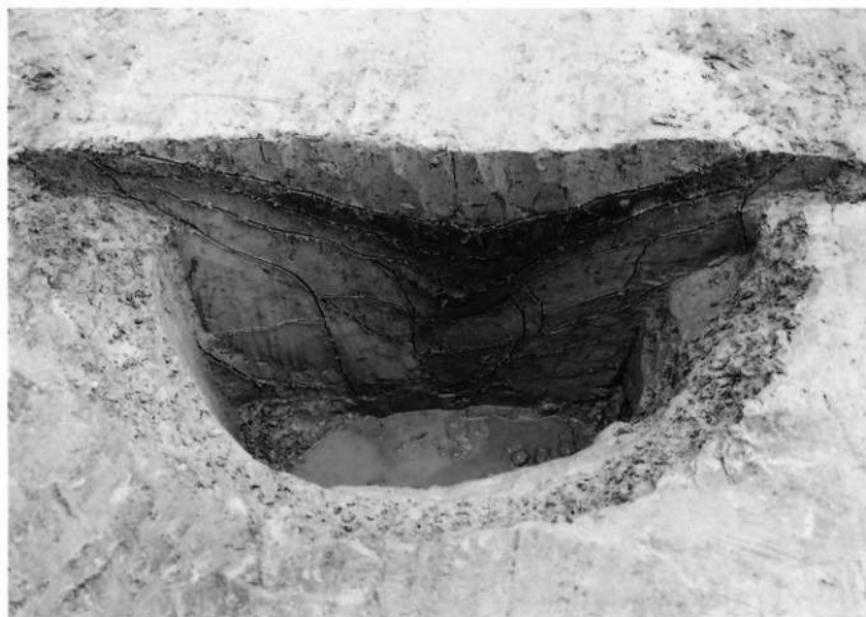
SX24(東→西)



SX27 土層断面(北西→南東)



SX27(東→西)



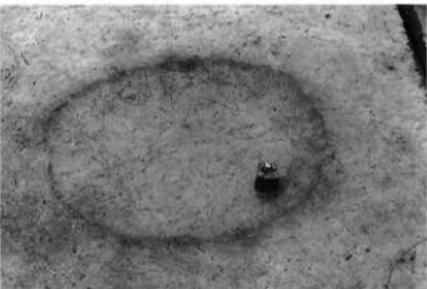
SE17土層断面(西→東)



SE17(北→南)



SE18土層断面(南→北)



SE18確認状況(北→南)



SE18井戸枠出土状況(南→北)



SE18井戸枠出土状況(東→西)



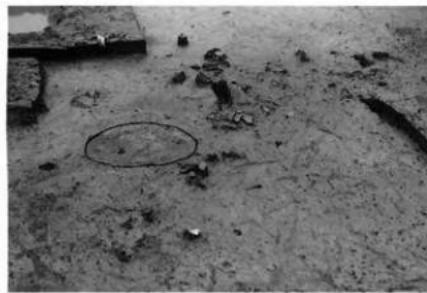
SE18井戸枠出土状況(北→南)



SB25・48・51周辺(空中写真)



SB25(空中写真)



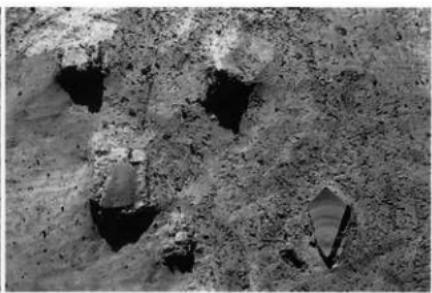
SB25遺物出土状況



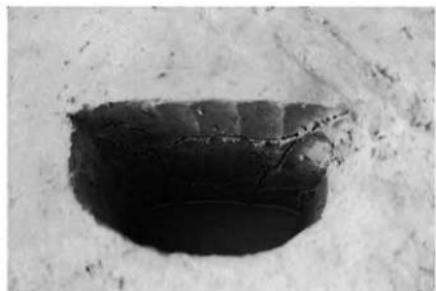
SB25遺物出土状況



SB25遺物出土状況



SB25遺物出土状況



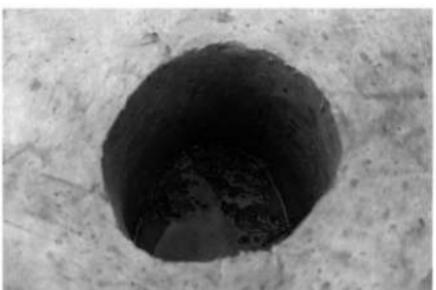
SB25-P1 土層断面 (東→西)



SB25-P1 (東→西)



SB25-P2 土層断面 (東→西)



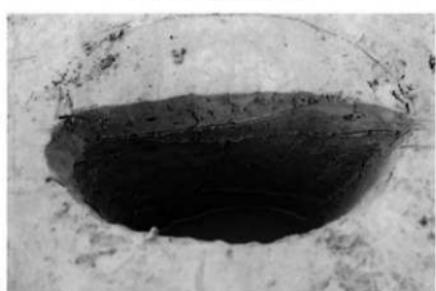
SB25-P2 (東→西)



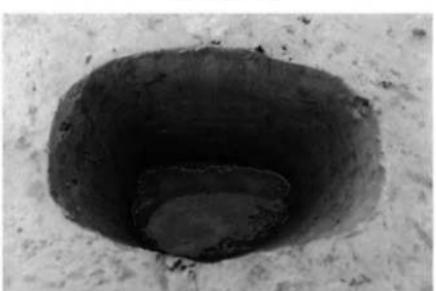
SB25-P3 土層断面 (東→西)



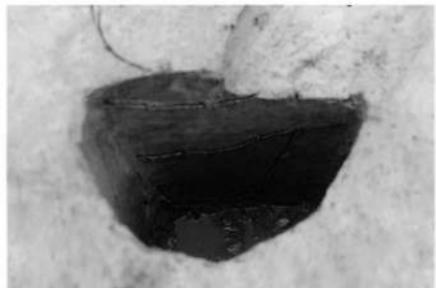
SB25-P3 (東→西)



SB25-P4 土層断面 (東→西)



SB25-P4 (東→西)



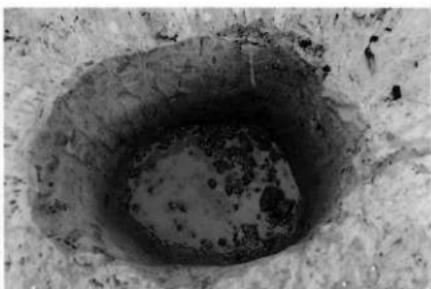
SB25-P5土層断面(南→北)



SB25-P5(東→西)



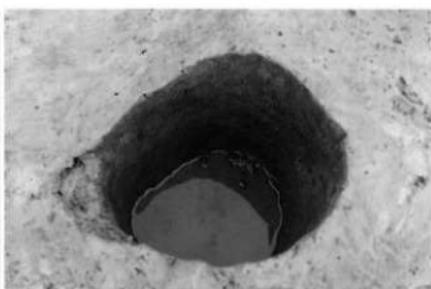
SB25-P6土層断面(東→西)



SB25-P6(東→西)



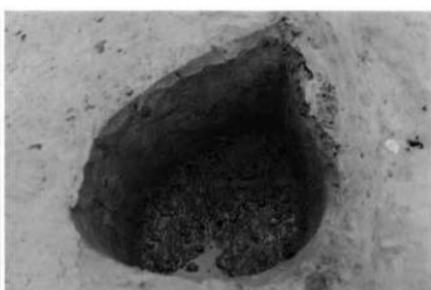
SB25-P7土層断面(東→西)



SB25-P7(東→西)



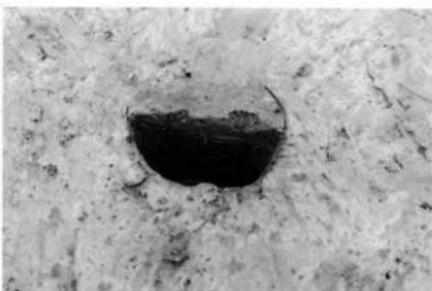
SB25-P8土層断面(東→西)



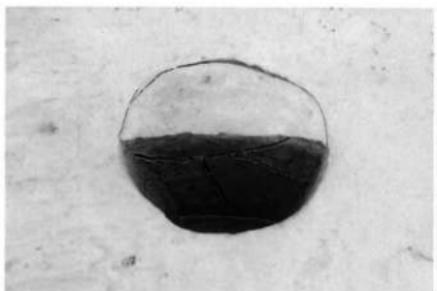
SB25-P8(東→西)



SB25-P3断ち割り(南→北)



SB48-P3土層断面(西→東)



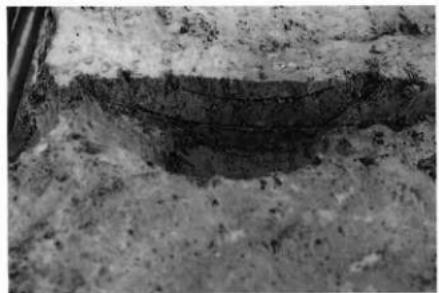
SB48-P4土層断面(南→北)



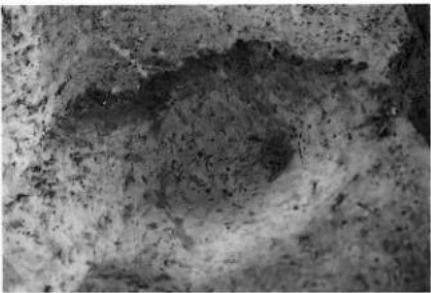
SB51-P1断ち割り(南→北)



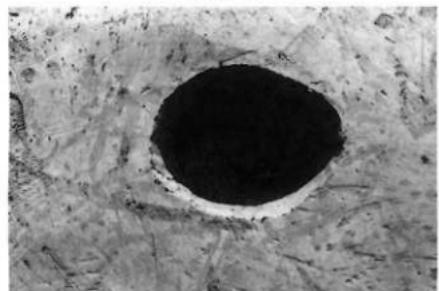
SB48(西→東)



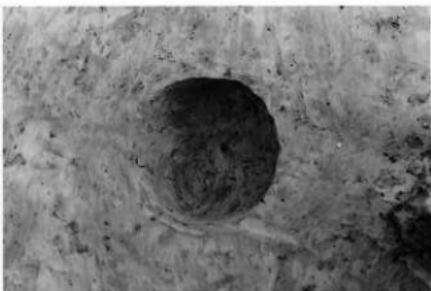
Pit29土層断面(西→東)



Pit29(東→西)



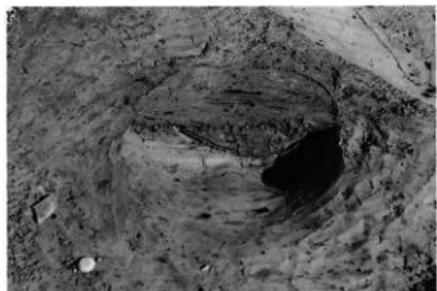
Pit36(北西→南東)



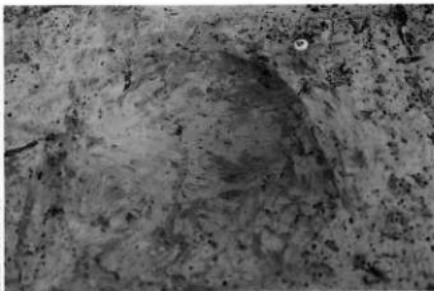
Pit37(北西→南東)



Pit35・40・41(北西→南東)



Pit42土層断面(西→東)



Pit42(東→西)



Pit56断ち割り(南→北)



Pit60(東→西)



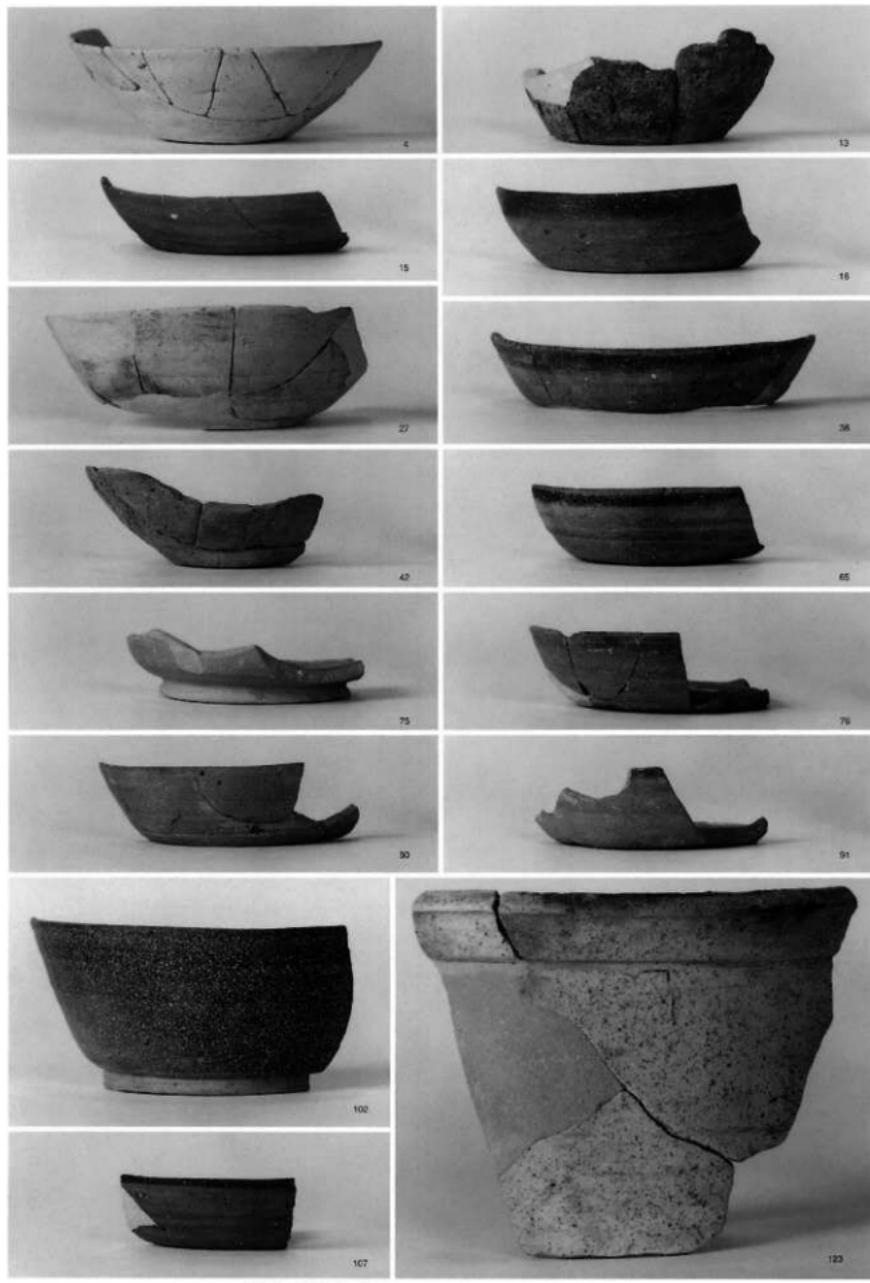
Pit60断ち割り(南→北)



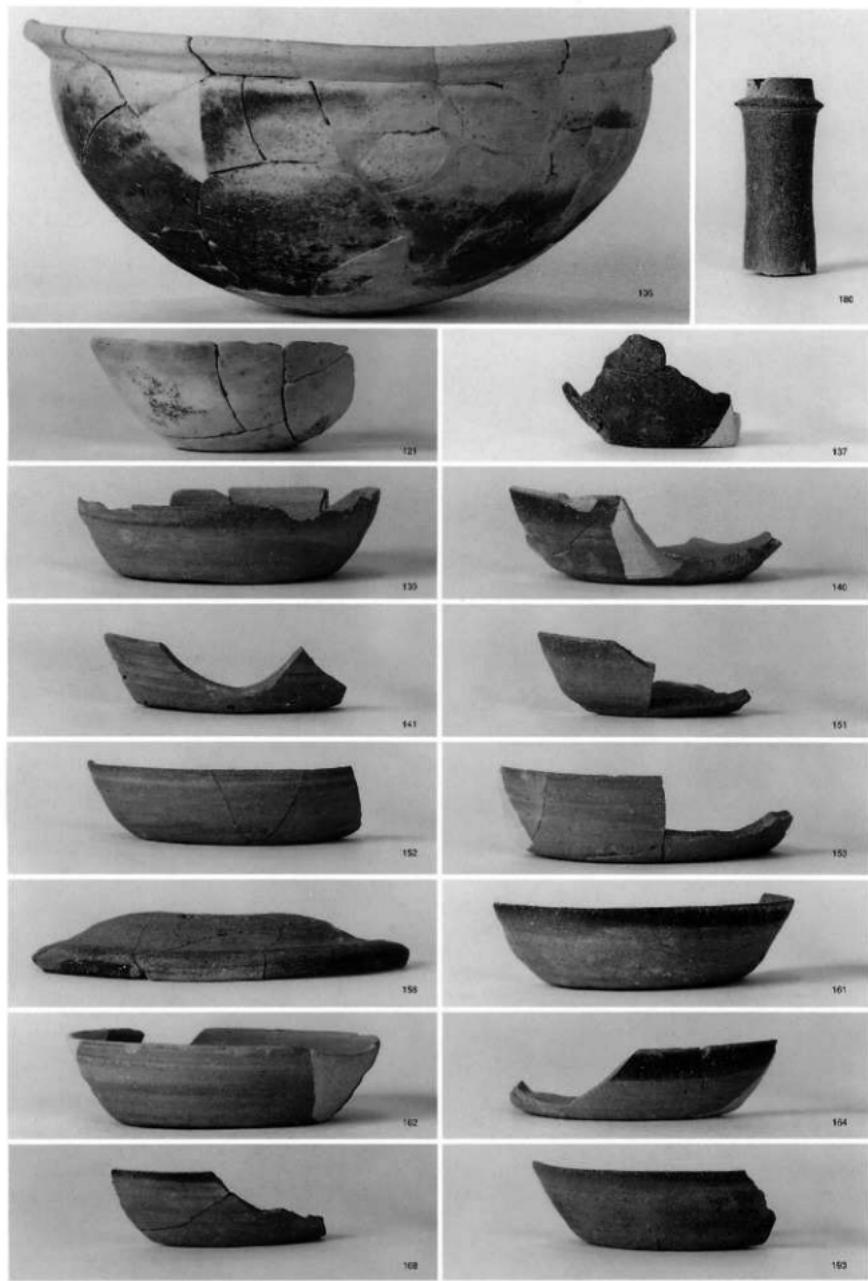
沖ノ羽遺跡出土須恵器



沖ノ羽遺跡出土土師器



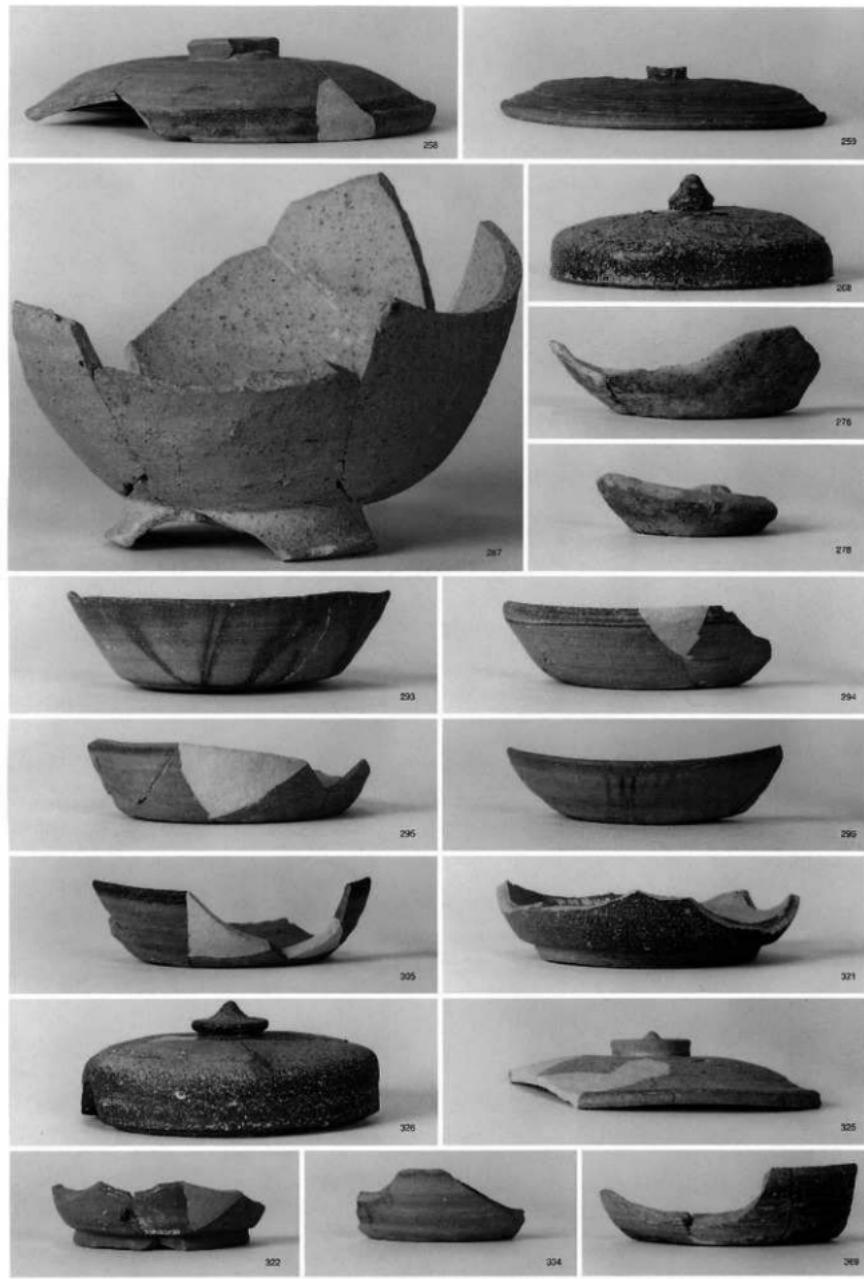
SD2 (4), SD3 (13), SD4 (15 - 16 - 27), SD6 (36), SD7 (42), SK21 (65),
SK26 (75), SK28 (76), SK30 (90 - 91), SK45 (102), SK46 (107), SX14 (123)



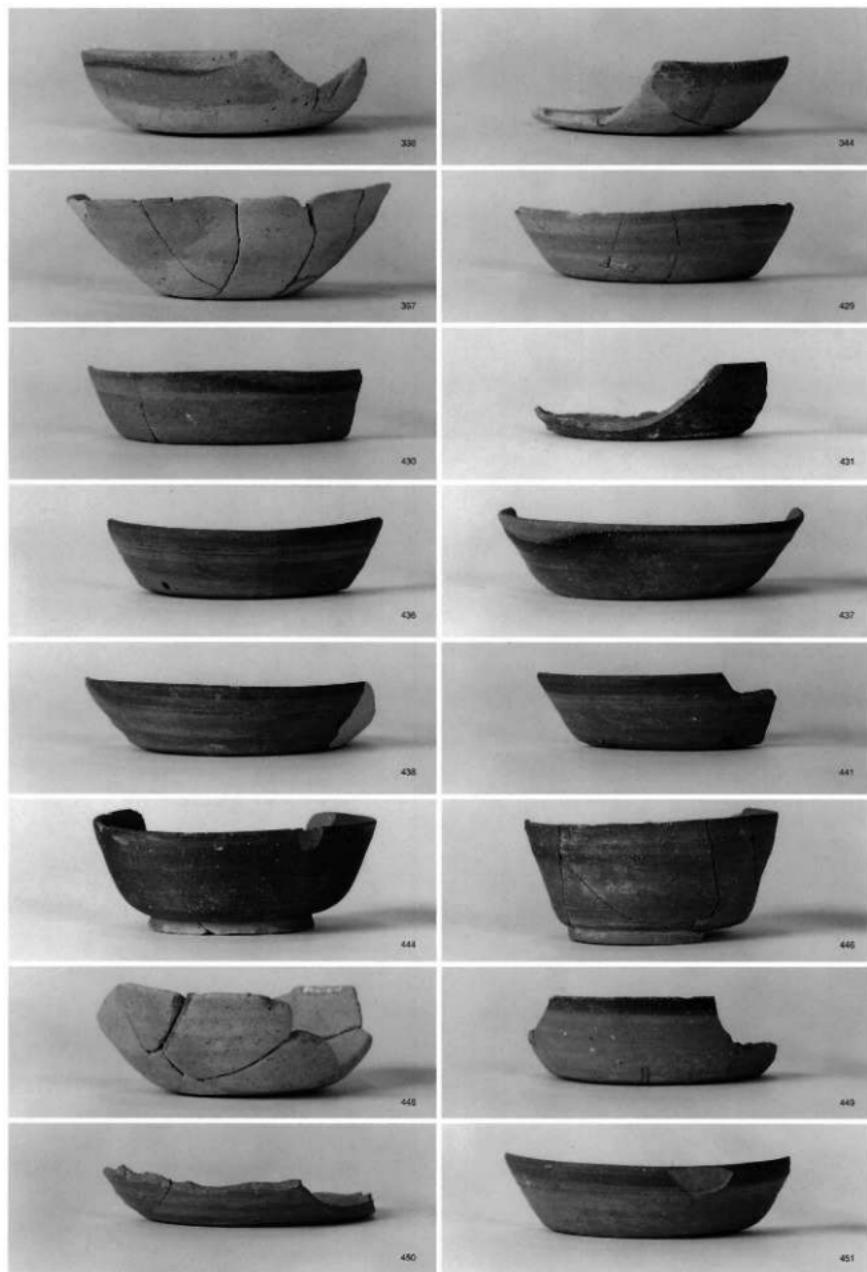
SK45 (106), SX14 (107), SX20 (108), SX23 (109・110), SX24 (111・112・113・114),
SX27 (115・116・117・118・119), SE18 (120)



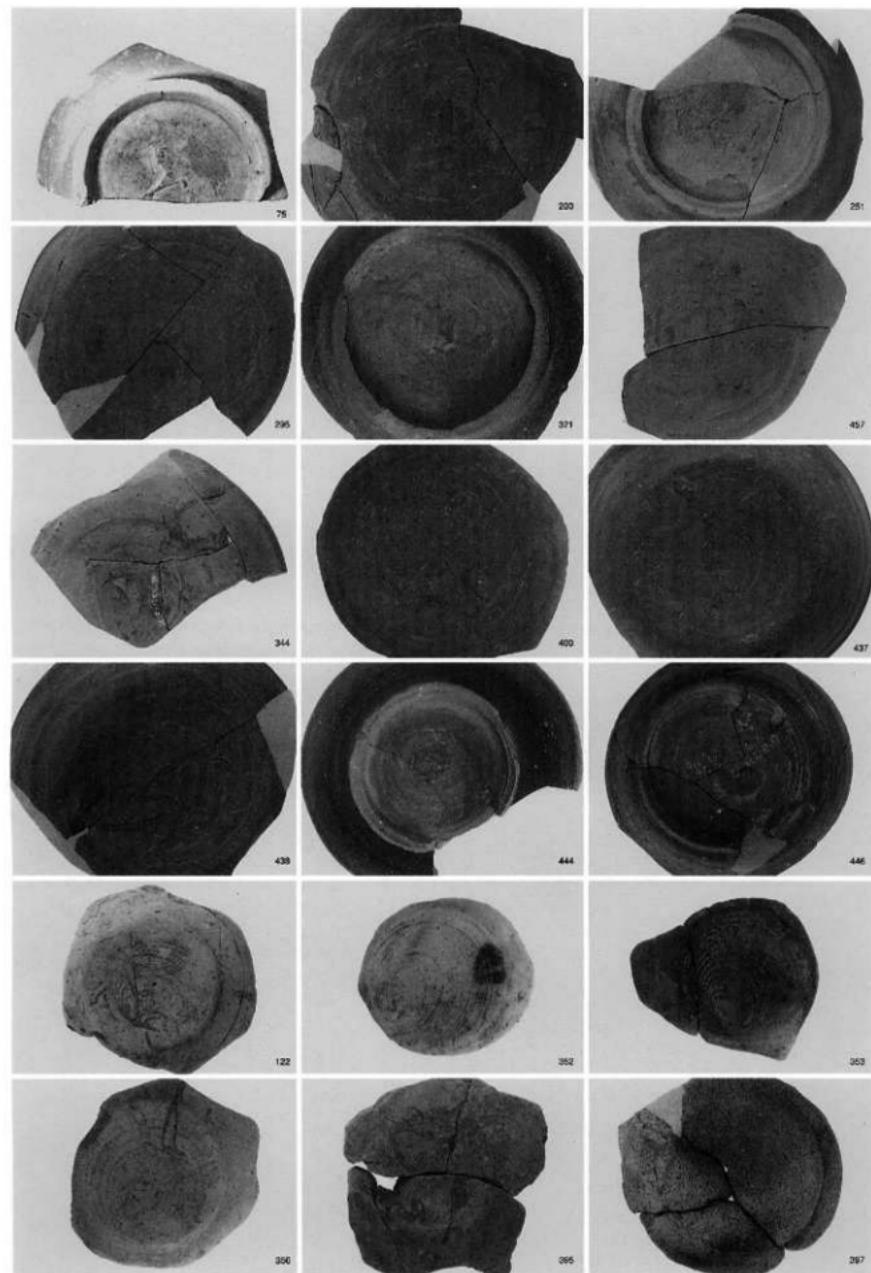
SE17 (192), SE18 (194), SH25 (196-206, 223, 224, 251, 252, 257)



SB25 (258・259・267・268・276・278), SB48 (293～296・305・321・322・325・326), SB51 (334), 6E (369)



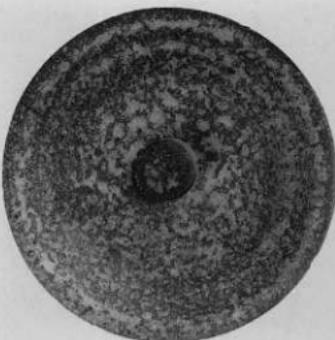
Pit36(338)、SE(344)、6D(367)、7F(429~431)、8D(436~438・441・444・446・448)、8E(449~451)



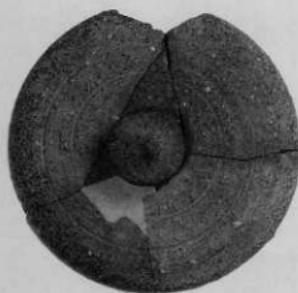
SK26 (75), SXI4 (122), SB25 (200・251), SB48 (295・321), SD2 (397), SE (344), SF (352・353・356),
GP (395), TD (400), RD (437・438・444・446)



268



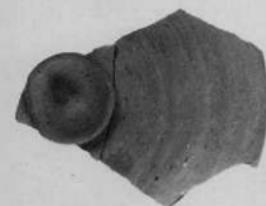
194



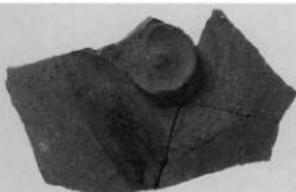
326



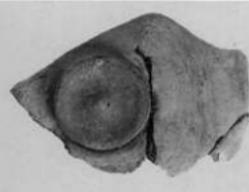
257



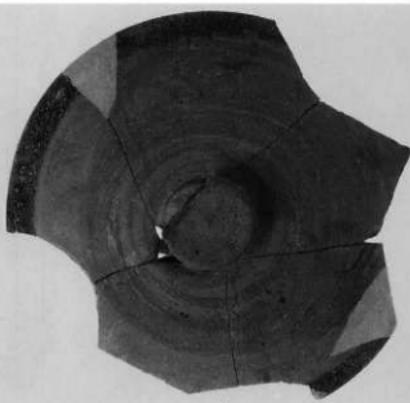
261



262

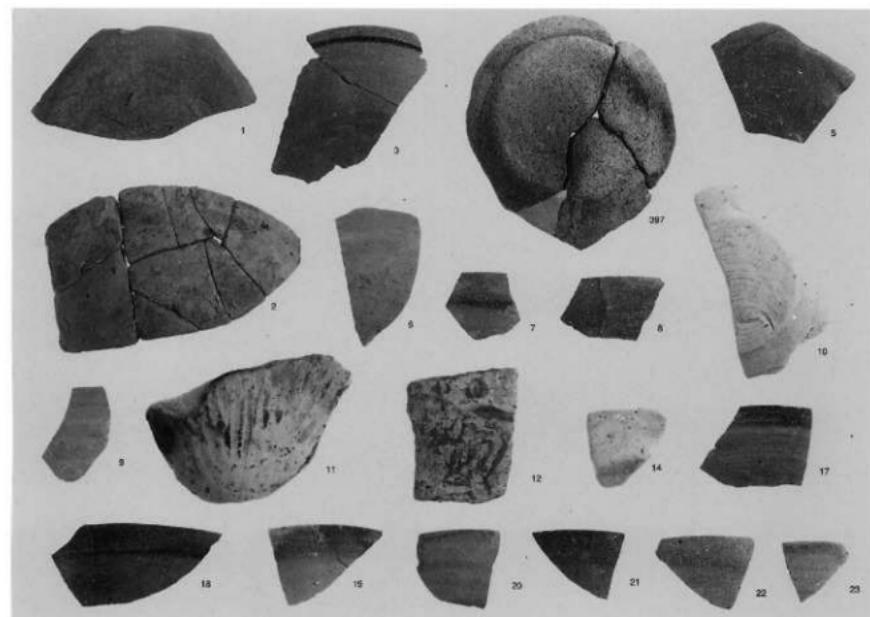


447

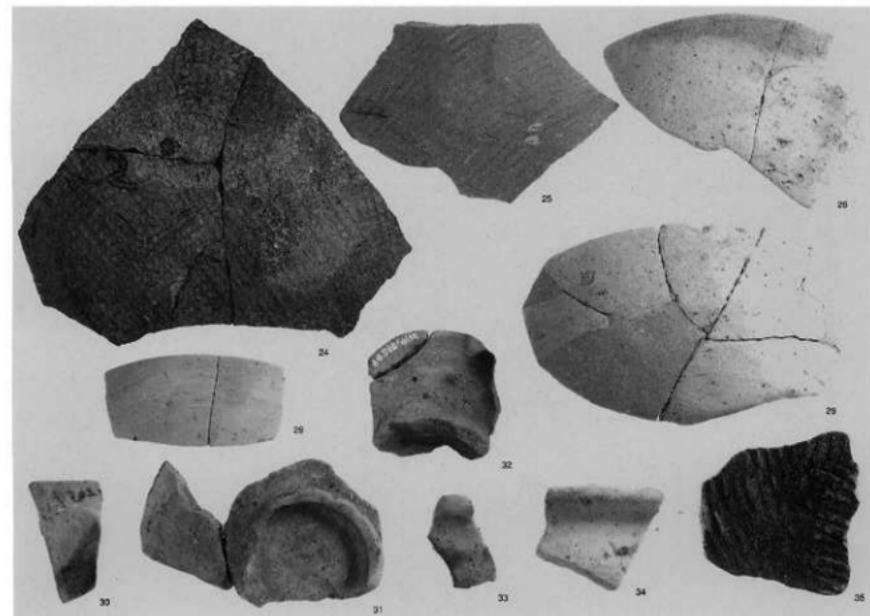


258

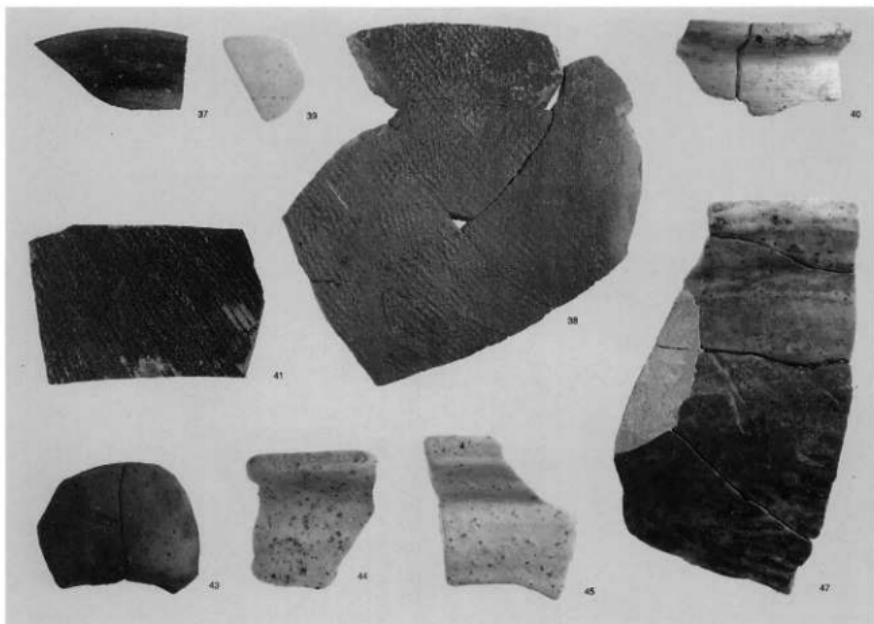
SE18(194), SB25(257・258・251・262・268), SB18(326), SD(447)



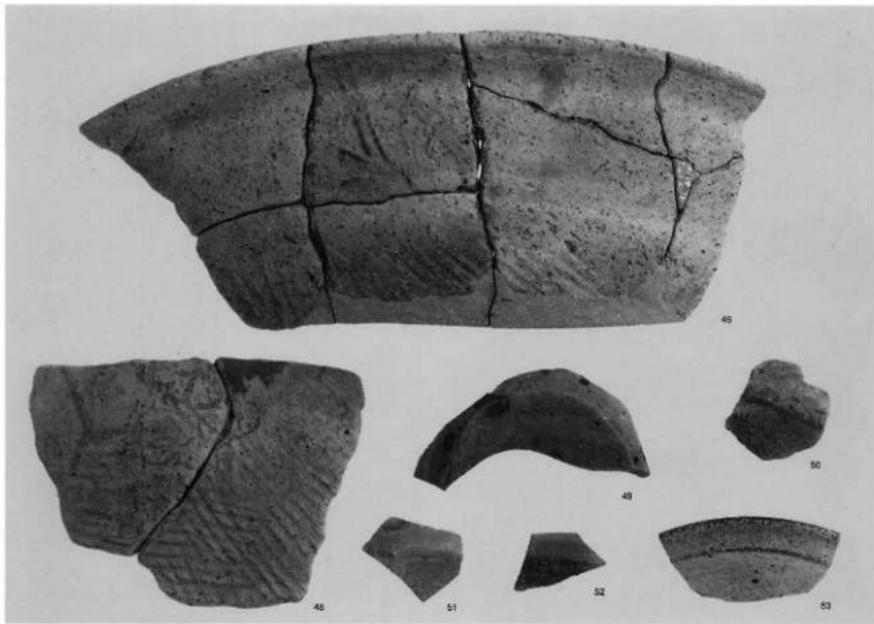
SD1 (1・2), SD2 (3・397), SD3 (5~12・14), SD4 (17~23)



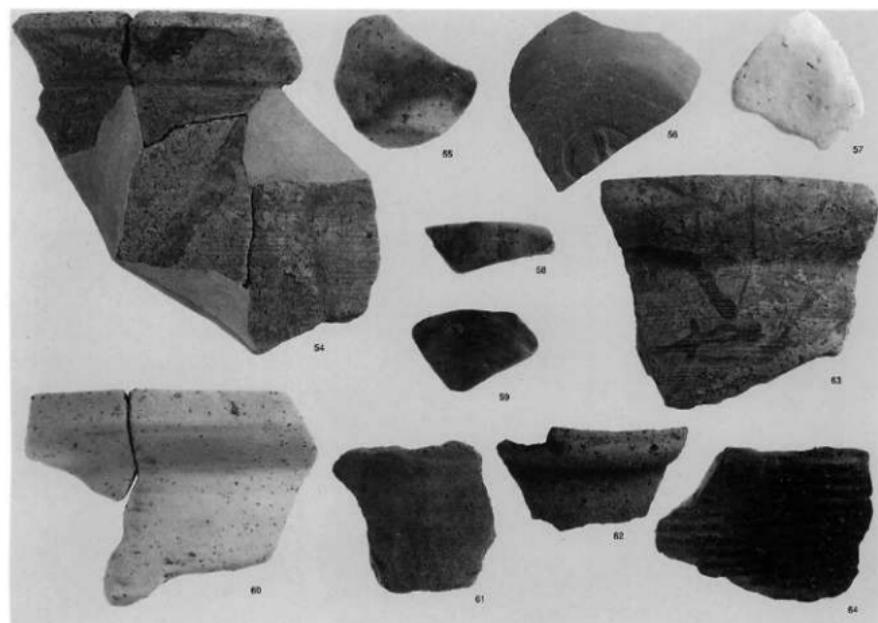
SD4 (24~26・28~35)



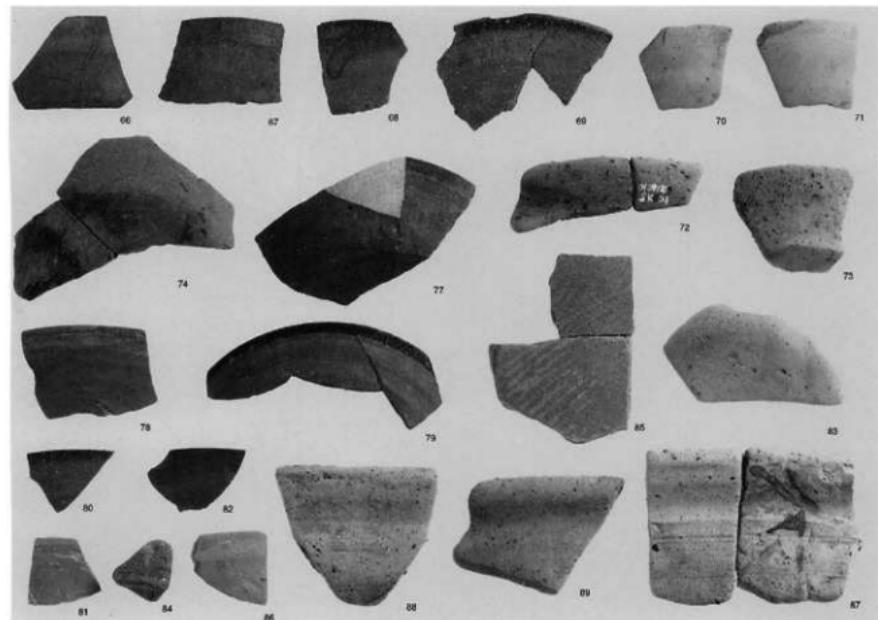
SD6(37~40), SD7(41・43~45・47)



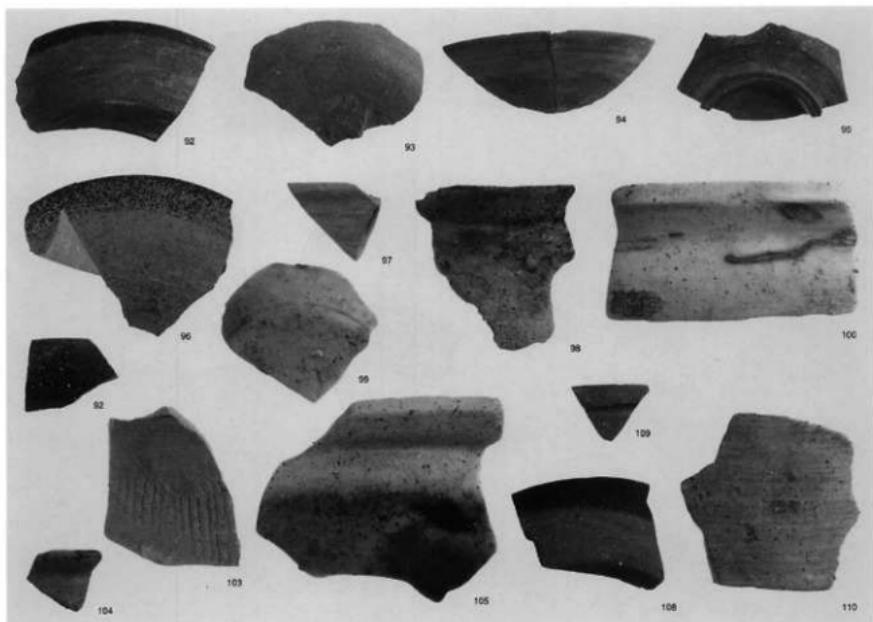
SD7(46・48), SD9(49・50), SD12(51~53)



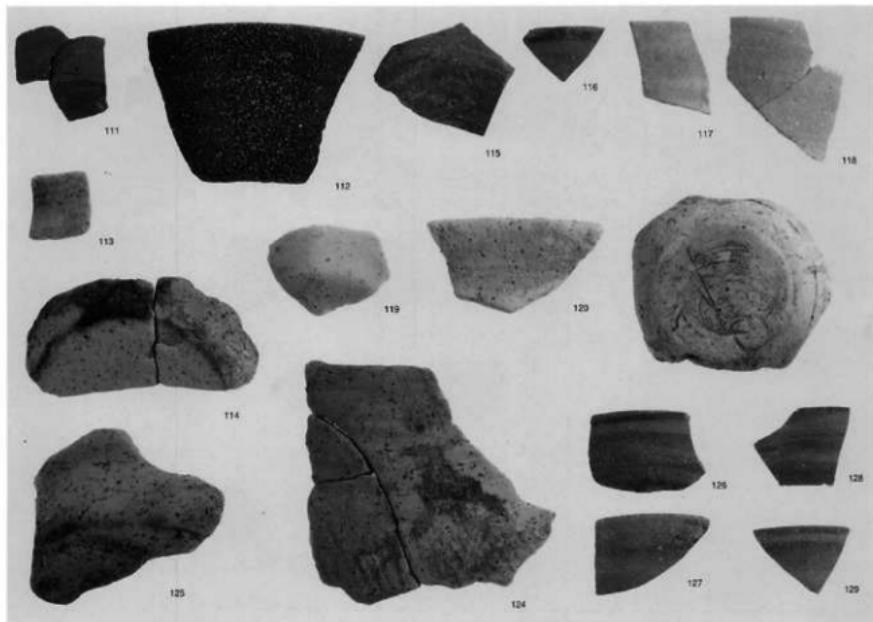
SD12 (54 ~ 55), SD16 (56 ~ 57), SK13 (58 ~ 64)



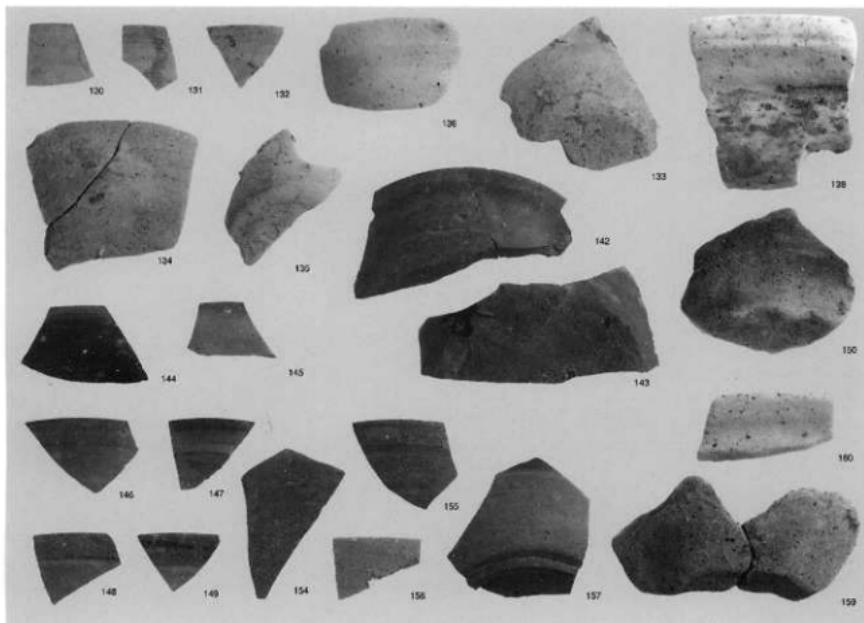
SK21 (66 ~ 73), SK26 (74), SK28 (77 ~ 89)



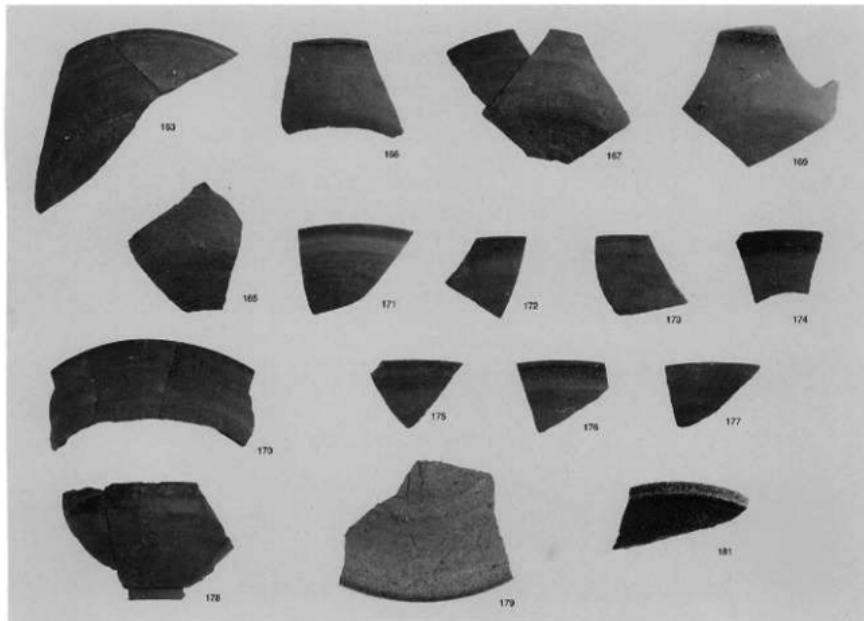
SK30 (92~100), SK45 (101・103~105), SK46 (108~110)



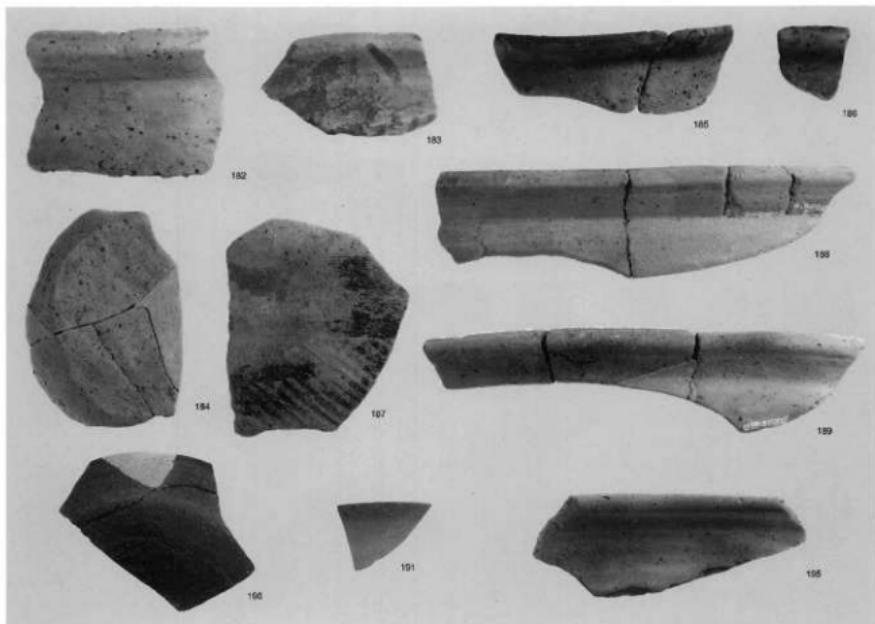
SK47 (111~112), SK53 (113~114), SX11 (115~120), SX14 (122・124・125), SX19 (126~129)



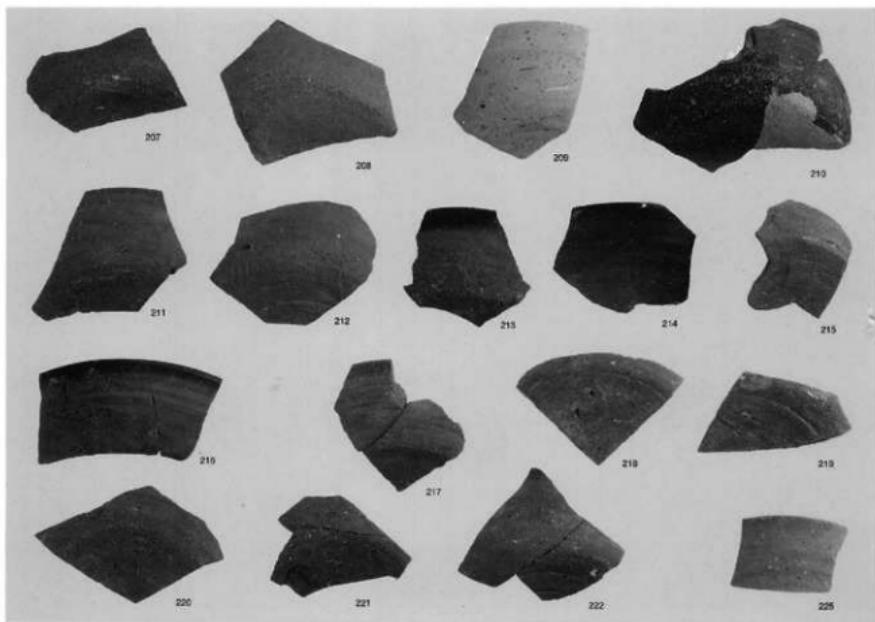
SX20 (130~136・138), SX23 (142~150), SX24 (154~157・159~160)



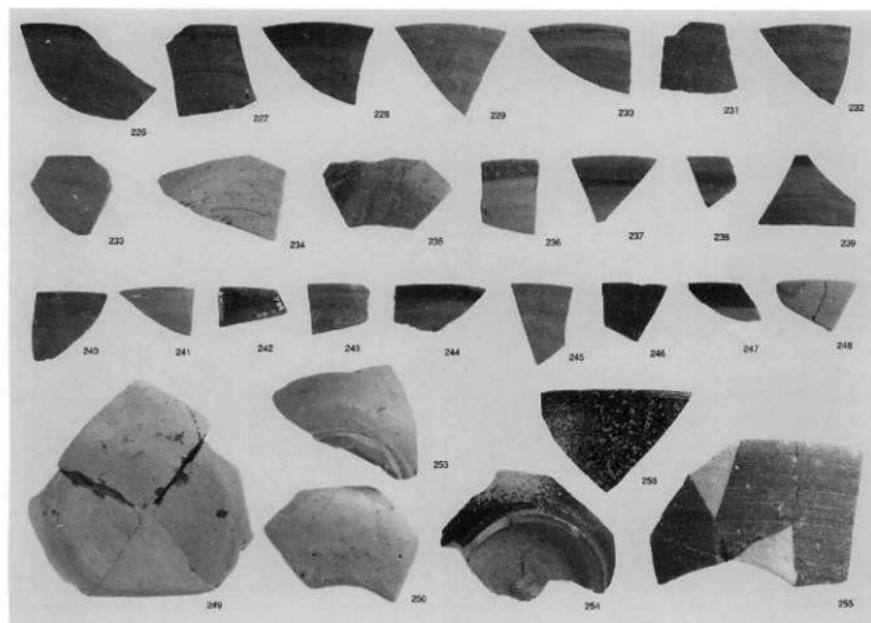
SX27 (163・165~167・169~179・181)



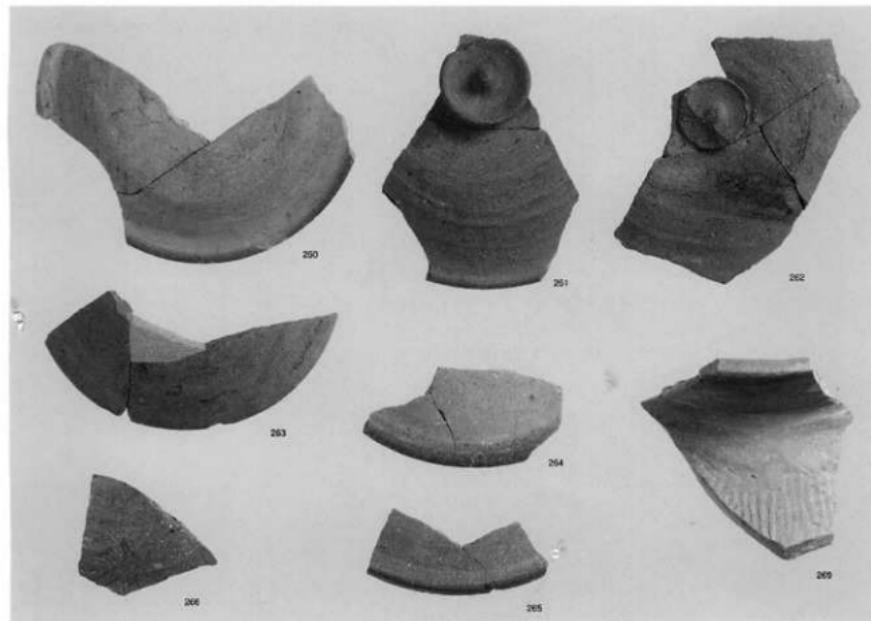
SX27 (182~189), SE17 (190・191), SE18 (195)



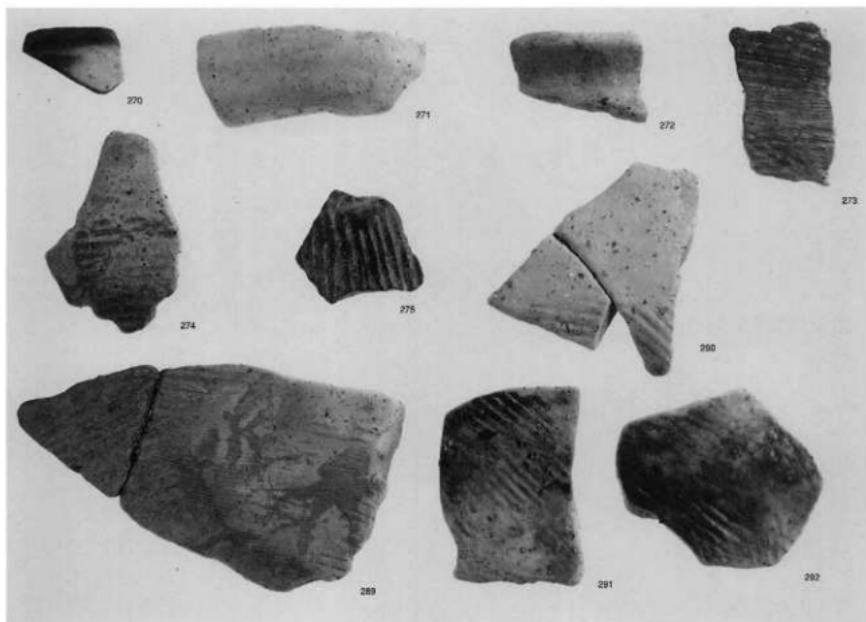
SB25 (207~222・225)



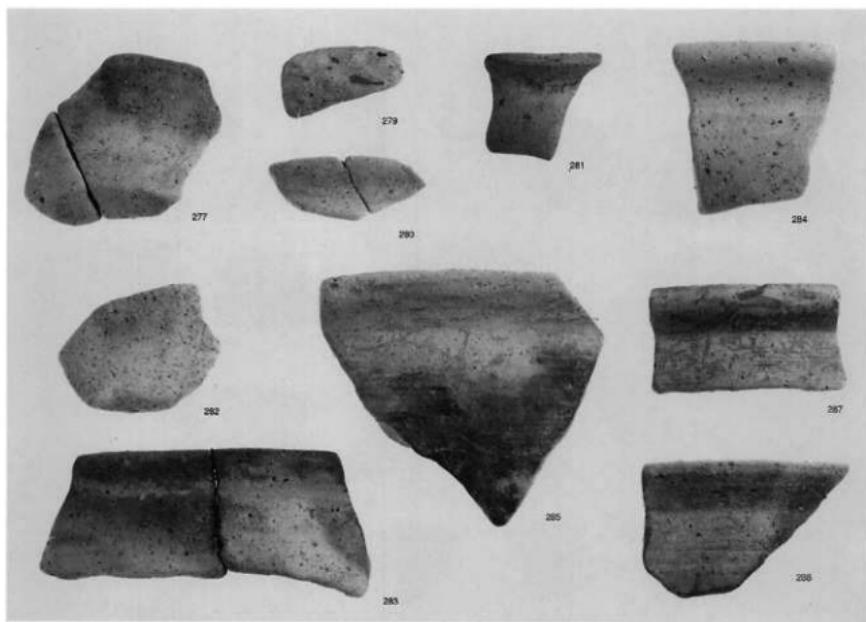
SH25 (226~250・253~256)



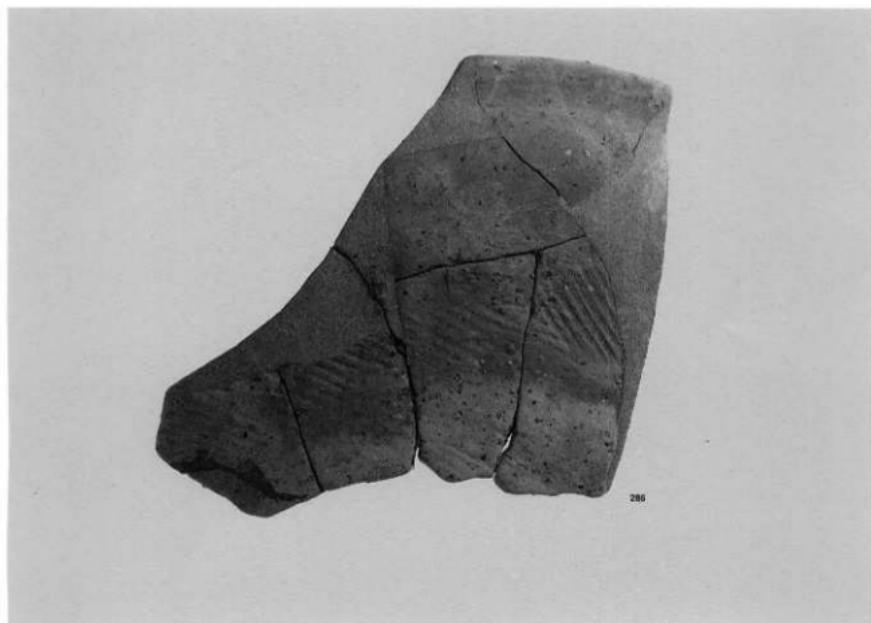
SD25 (250~266・269)



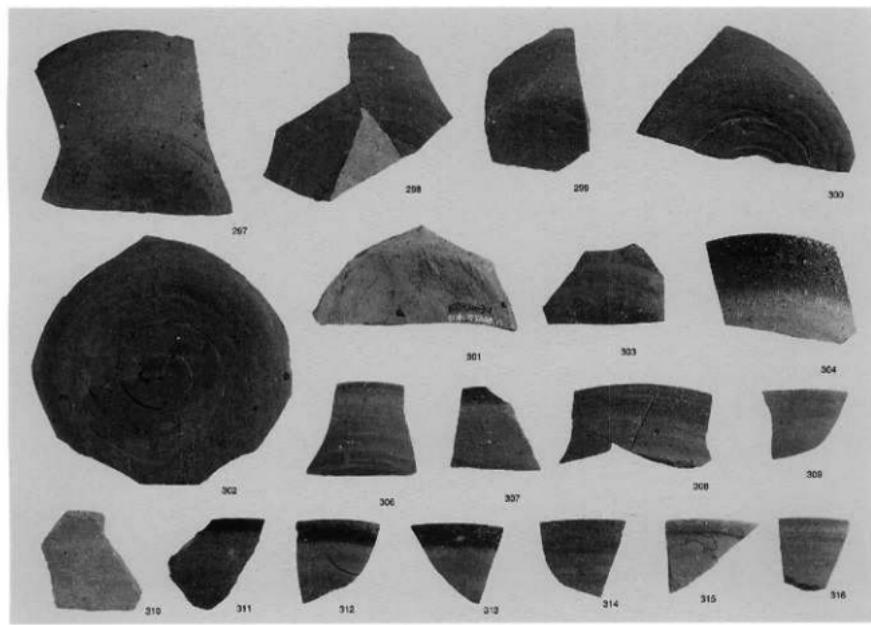
SB25 (270~275・289~292)



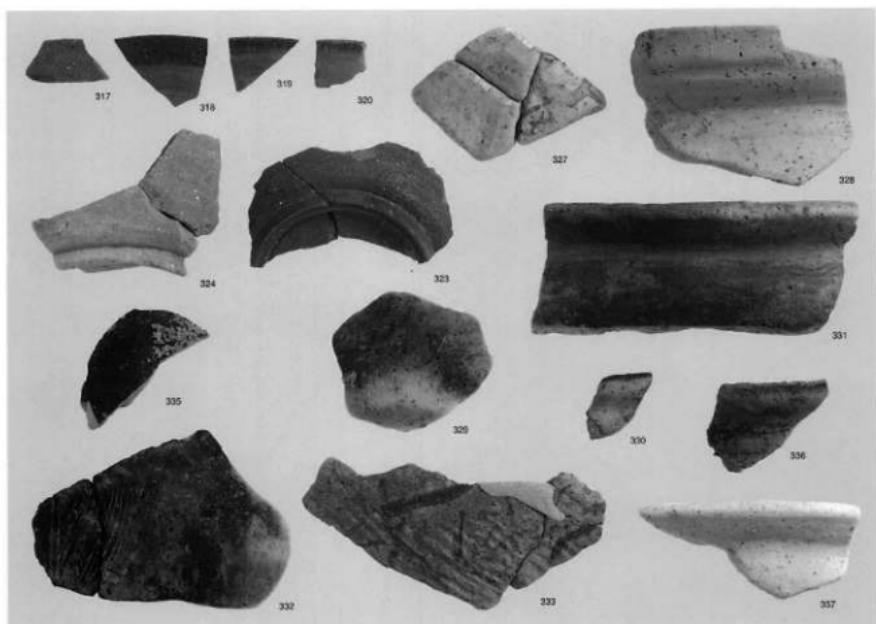
SB25 (277・279~285・287・288)



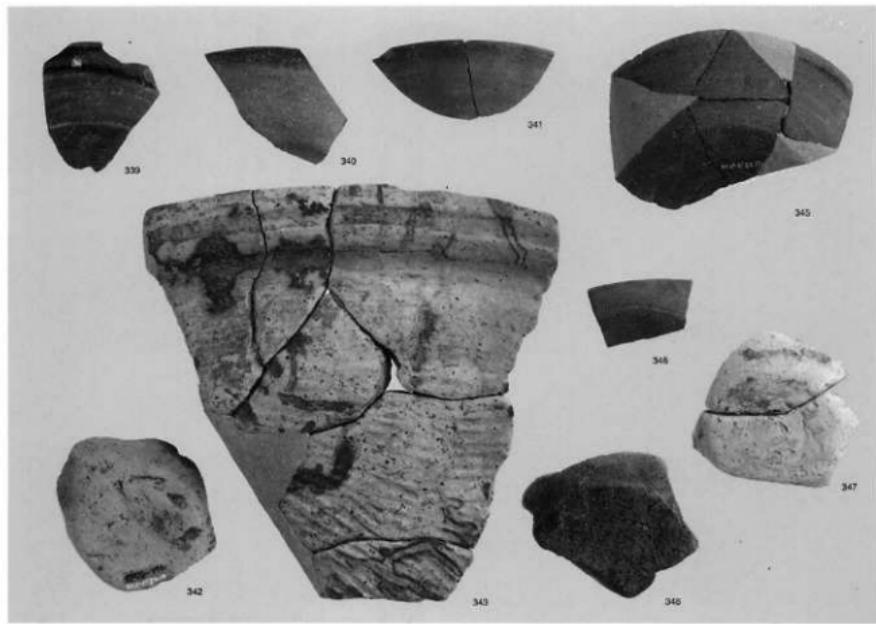
SB25 (286)



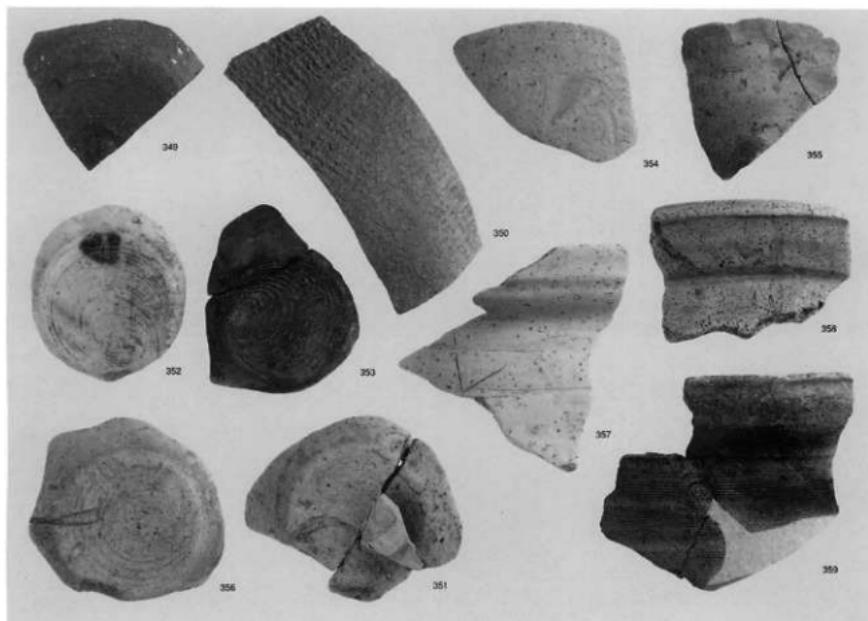
SB48 (297~304・306~316)



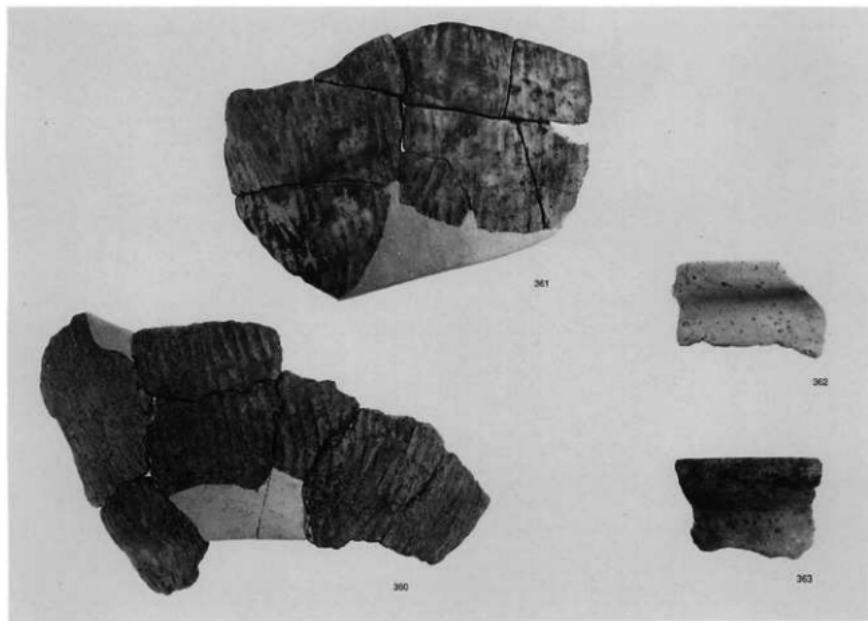
SB48 (317~320・323・324・327~333), SB51 (335~337)



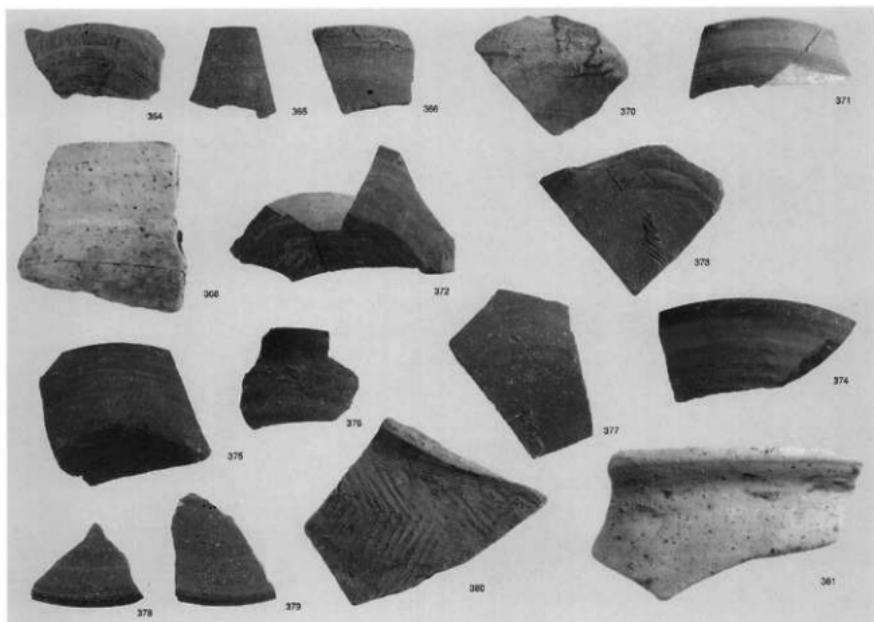
4E (339), 5D (340~343), 5E (345~348)



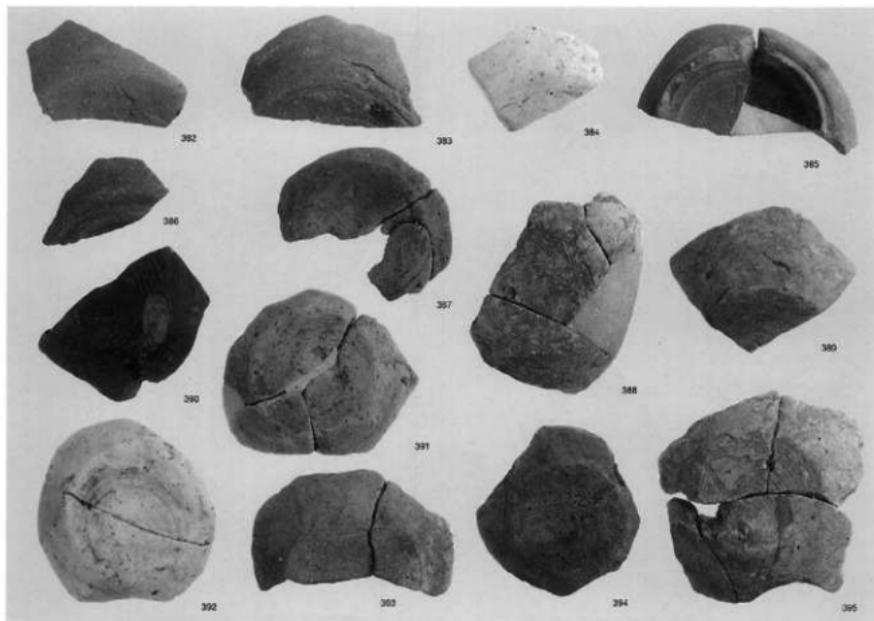
5F (349~359)



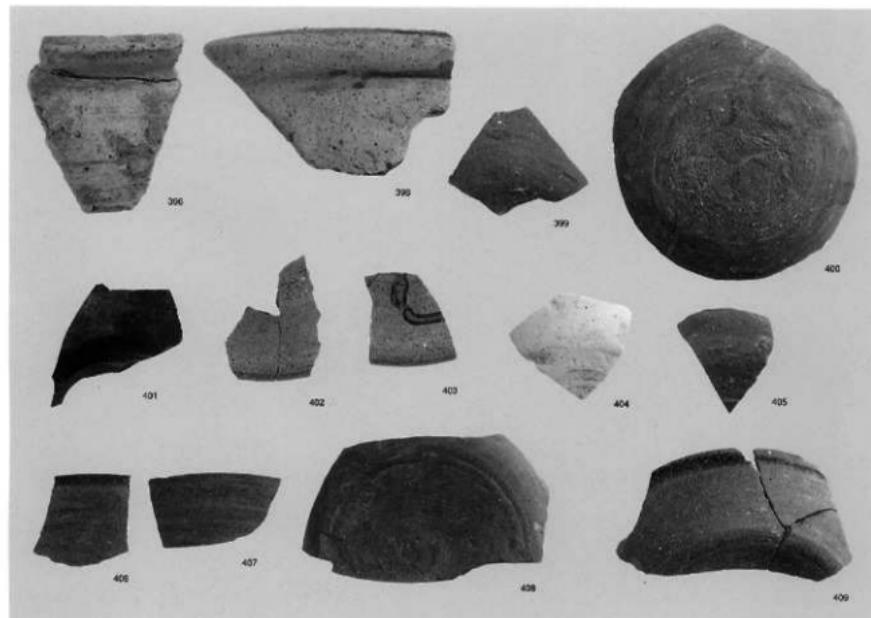
5F (360~363)



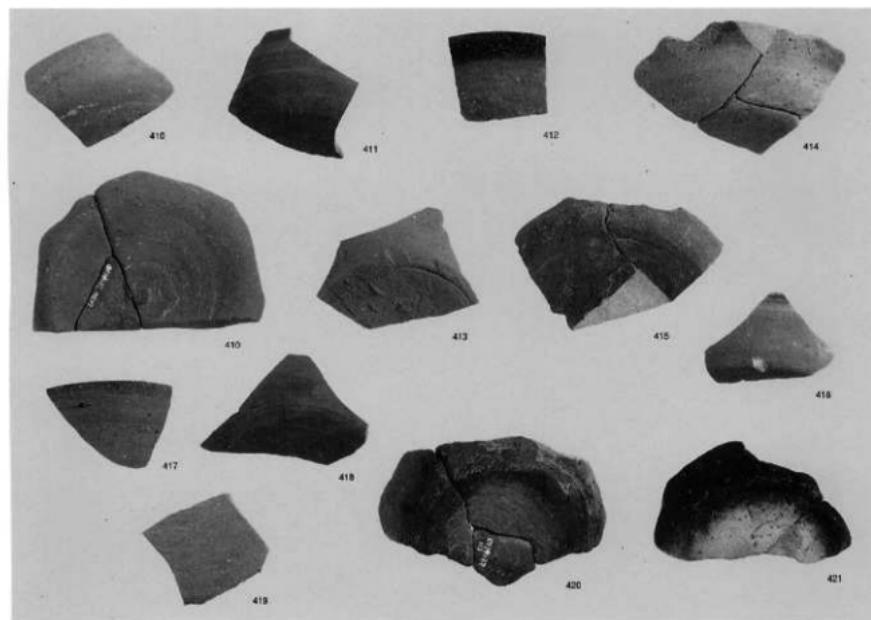
6D (364~366・368), 6E (370~381)



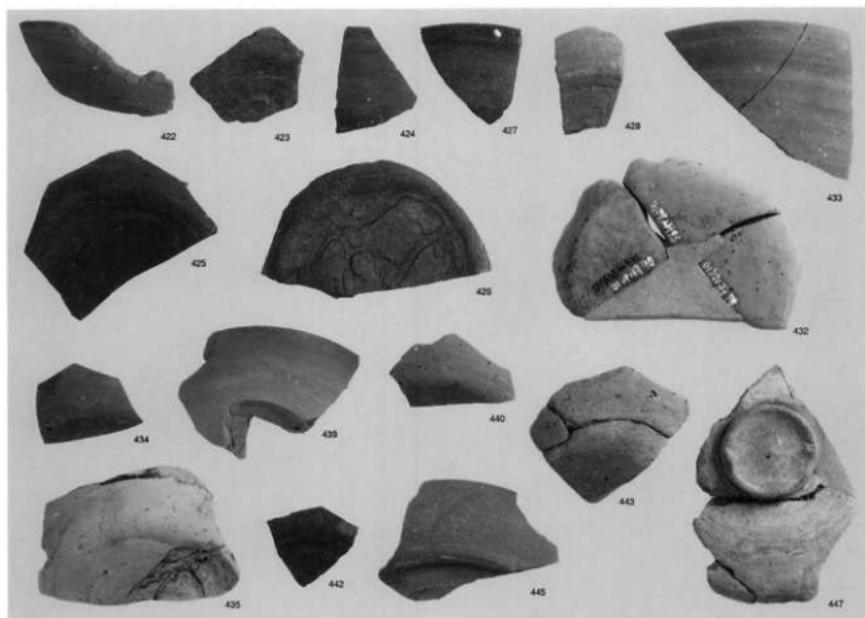
6F (382~395)



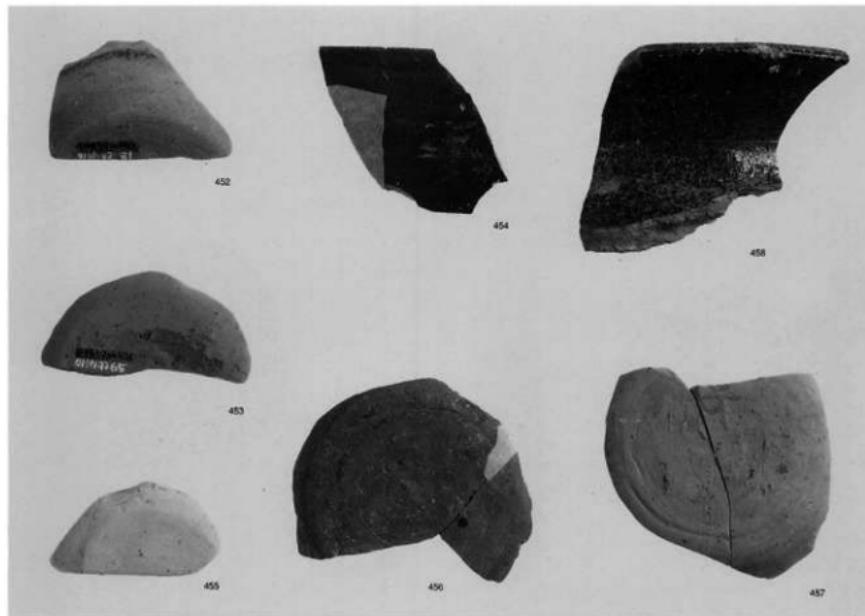
6F (396~398), 7D (399~403), 7E (404~409)



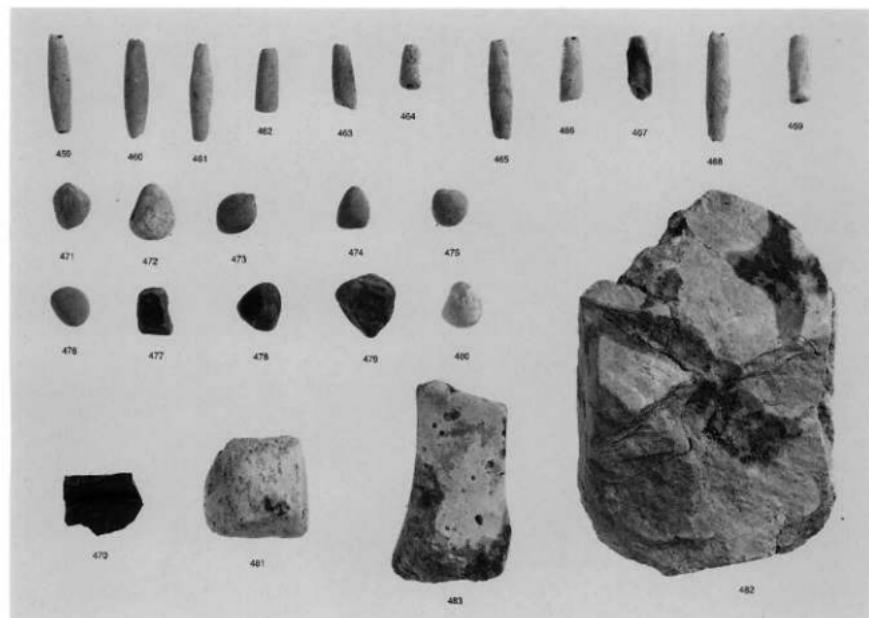
7E (410~421)



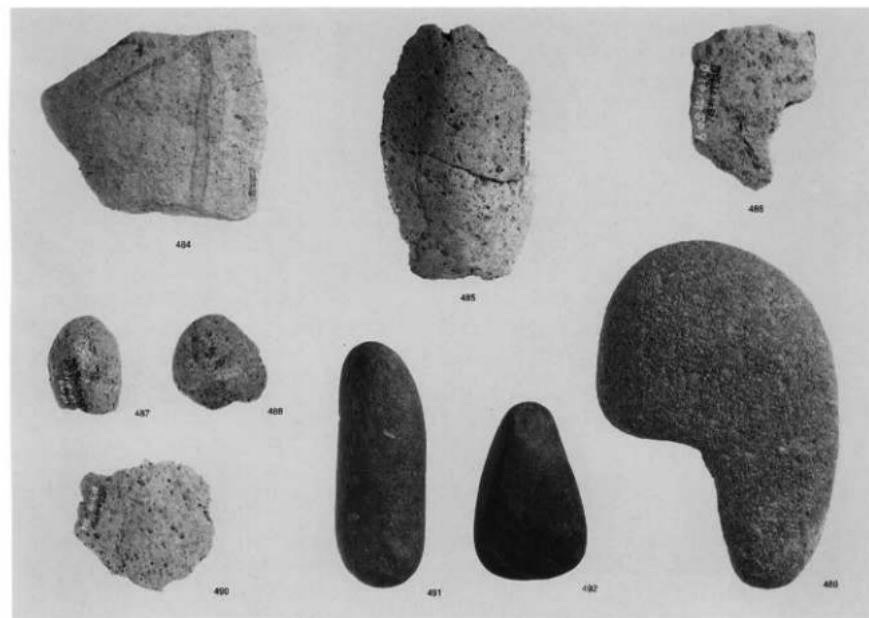
7F (422~428・432・433), TG (434), 8D (435・439・440・442・443・445・447)



8E (452・453), 9D (454), 9E (455), 10F (456~458)



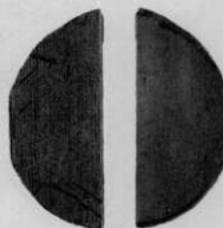
SK28(459~464), SB48(465~466), 5E(467~469), SD(470), SK30(471~480), SD3(481), 6D(482), 6E(483)



SD4(484), SD8(485), SD9(486), SK30(487), 5E(488), 道標外(489), SD3(490), SK28(491), 6F(492)



493 (1/1)



494 (1/2)



495 (1/4)



496 (1/2)



497 (1/4)



498 (1/8)



499 (1/2)



500 (1/8)



501 (1/8)



502 (1/4)



503 (1/4)



503 (1/4)



504 (1/4)





506 (1/8)



507 (1/4)



508 (1/4)



509 (1/4)



510 (1/4)



511 (1/4)



512 (1/4)



513 (1/4)



514 (1/4)



515 (1/4)

報告書抄録

ふりがな	あさのほいせきはつくつちょうきほうこくしょ						
書名	沖ノ羽遺跡発掘調査報告書						
刷書名							
巻次							
シリーズ名	新津市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号							
編著者名	細野高伯・杉山真二・早田勉・金原正子						
編集機関	新津市教育委員会・株式会社シン技術コンサル						
所在地	〒956-0035 新潟県新津市程島2009番地 TEL 0250 24-2111 〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井311-1番地 TEL 0270-65-2777						
発行年月日	西暦 2002年3月8日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
沖ノ羽遺跡	新潟県新津市 大学古田ノ内 大野側字山王 通1108-1 他	207	26	37度 48分 59秒	139度 7分 33秒	19981008 19981027 20010829 20020125	排水機場建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
沖ノ羽遺跡	集落跡	平安時代	獨立住建物跡 溝 土坑 性格不明遺構 井戸 ピット	3棟 15条 22基 7基 2基 19基	土器器・須恵器・土製品・ 石製品・木製品・炭化穀子 須恵器等瓶	区画溝を持つ獨立住建物	

沖ノ羽遺跡発掘調査報告書

2002年3月8日発行

発行 新津市教育委員会
新潟県新津市程島2009番地
〒956-0035 TEL(0250) 24-2111

印刷 細谷印刷有限公司
群馬県伊勢崎市今泉町二丁目939-5
〒372-0031 TEL(0270) 25-0984

『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』正誤表

頁	行	誤	正
2	12行目	・・・、北は小阿賀 ² 野川を境に・・・	² を削除
4	-	遺跡位置 ドット141の重複	137と138に隣接する141を削除
5	-	遺跡名No.141 遺跡名『結七』	遺跡名『結七島』
5	-	遺跡名No.142 遺跡名空白	遺跡名『西島中谷内』
14	11行目	・・・。平成13年1月7日より・・・	平成14年
16	16行目	・・・、Ⅲ・Ⅳ層が・・・	Ⅲ→Ⅳ
図版37	-		3→③
図版38	-		7→⑦

2002年3月8日発行 新潟県新津市教育委員会